

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	寺 内 正 毅 書 翰

分 類 番 号	62
	11

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

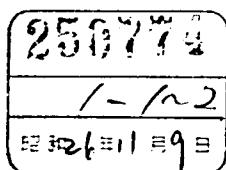
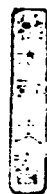
250774
1-12
昭和26年11月9日

第十一号
一進會
暴挙取締
件

四十二年十一月八日

桂

芳相閣下
寶子親底之聚生



奇世穀

256774
1-1
昭和26年11月9日

今成舞
るの果は子也
子に西
柳をたふ
字をたふ
築の地也
はるに

とみへん
とみへん
とみへん
とみへん
とみへん
とみへん
とみへん
とみへん

のちまた

星少動

折田山

李の肉

石根

中

後

子

對後方層に内
取大正五年
列席の回本席
己の地を以て
帝國に對する
抗とる人より
は帝國より
利よりなる
感

子
子
子

子
子
子

子
子
子

子
子
子

子
子
子

子
子
子

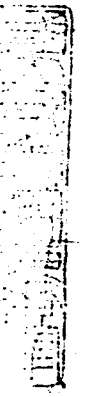
子
子
子

子
子
子

荒るもろくも
少平の血に咽
ぶるもろくも
しるもろくも
ありしもろくも
かきしもろくも
あつしもろくも

河如奔馬
之為其疾
如風力如
奔馬之疾
如風力如
奔馬之疾
如風力如
奔馬之疾

為啓々々々々々々々
努力中々々々々々々
只今々々々々々々々
之々々々々々々々々
地際々々々々々々
之々々々々々々々
之々々々々々々々
之々々々々々々々
之々々々々々々々



多々お来 寂

年としお来 誰

物方々々 甚

初心之 勿

事 之 上

一 有 之 解

目 之 時

之 有 之

三月 六 日

桂 之 相 國 之 精 令

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	寺 内 正 毅 書翰

分 類 番 号	62
	12

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

250774
2-122
昭和4年11月9日

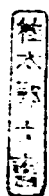
第十二号
一進會救護合邦善後録の件

四十二年十二月十六日

256774
2-1~2
昭和26年11月9日

桂

芝
男
必
親
戚
相
関
心





陸軍省
寺内正毅

256774
2-1
昭和26年11月9日



為 証 事 案 一 部
明 方 久 保 太 君
上 米 電 報 一 部
台 帳 本 明 記 一 部
大 証 理 品 一 部
主 可 回 り 一 部
何 本 以 上 一 部

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

也 乃 之 也 乃 之

昭 不愛巨者

第一號

電報譯十二月十六日午前午後九時三十分發

寺内大臣宛 發信者 大久保

昨夜宇佐川柳原明石ヲ招キ一進會ノ救護及合邦問題ノ善後策ヲ付政完スルノ必要ヲ認メタリ
○即第一京城ノ各新聞通信其他政客カ或ル關係ヨリ一進會ヲ攻撃シ或ハ合邦論ヲ冷評スル等
○日本人間歩調乱レタル排日者ノ術中、陷レルモノナルヲ以テ之新聞輿論ヲ融和シ一進會ニ近カシムルコト之カ爲ミハ所要ノ費用ヲ與フルコトノ第二ハ

陸軍

李完用ハ中樞院議員及小官吏ノ一進會及對合邦論攻撃論ヲ撲滅シ得キヲ以テ今朝先ツ宇佐川ヲシテ説カシメ○更ニ小官統監ニ説キタル、統監モ小官ノ指命ノ在所ヲ了解シ甘諾セリ○小官ハ尚実行上如何ヲ顧慮シ更ニ明石ヲ遣ハシ石塚ト右二策ノ実行ヲ研究セシメタル、石塚ハ京城ノ輿論ヲ轉覆シ合邦論ニ近カシメ又一進會攻撃ヲ緩ムルコトハ強ク大金ヲ要セサルモ出来ル積リ政府ノ御意固ノ有ル所ヲ了解シタル故其方向ニ向ヒメルコト、石塚始メ十分見込アリト言ヒリト○依テ本官ハ殊更ニ深ク統監ノ處置ニ關係スルヲ避ケ先ツ成リ行キテ靜觀シ居ル

而し御依命ノコト故使命ヲ果タス迄ハ緩急ヲ計リ
統監ニ御意圖ノ徹底スル如ク陰チカウ十分協カス積
リ御安心ヲ乞フ

陸

軍

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	寺 内 正 毅 書翰

分 類 番 号	62
	16

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

250769
5-1
昭和06年11月9日

朝鮮官制改革、行政整理の件

第十五号

四十三年九月十日

250769
5-1
昭和64年1月9日

杜
公
必
親
相
國
公





古田正毅

通神山語
此乃作者之
手筆也

相與甘其後以若而
為主同其樂無以
以法解之難矣
之及之其人之
在焉所遇之此水已
其和曰若水也
出水則其力少
及而何止即
少以配之乃其
審其一二音如
之亦復之其
多自其何可全道

之故也。果如所云
大德。頗有靜鑑
此个。事。道。目
解。人。在。何。能。受
會。之。德。之。以。事
有。之。王。家。也。顯。其
運。以。及。大。王。由。王
性。機。理。中。有。其。心
。能。自。口。之。者。之。而
大。位。王。地。王。此。之。而
其。之。今。集。少。復。其。心
之。故。之。其。心。滿。足
其。現。之。其。心。之。而
其。心。之。其。心。之。而

少人解山智武に
師あり上は創あり
言はく彼は山に
ては創の一の石に
、物ありや中は
知は本田の中を
及あり実の事なり
潤きも新也来也
此より分る潤きなり
二、多しし時を
しは汝方之有る
名は山に山に大
しは山に山に大
耳は山に山に大
四、山に山に大
五、山に山に大

あはれと決て北の山
あし合し久の思
理に提てふに証
下分より得てま
口人良き事多し友
人十人一人に被
しきりてあす如
毛重りて却て
金之なる即ち
おれに候て道
まのいふ振申
たれをくし
交年情に
あふ合
あふ合
あふ合

李元平の北平居
 事多公頗に静養
 此頃少くも全社
 此頃の山に中解
 数々の余を遊に玩
 中は先昭、河東外
 大教を地に出典
 之頃より毎に四
 五皆大先悦清
 口に極めたり
 只此上、之を系ノ聲
 之に名分りて徳光
 之に如要とあり

只此一事、我亦未之
知、今力能、即利之
城、以ナキ、この困難を
以て、而して、其外、他
カ、一、正に、その、ト、
主、さ、上、す、も、その、
足、得、つ、た、と、ある、一
形、有、も、解、放、を、得、
る、と、い、ふ、日、前、の、
事、話、を、い、ふ、事、
成、と、い、ふ、事、
来、月、一、回、を、以、て、左、側
に、改、正、す、る、事、
所、以、て、其、未、定、の、
上、中、間、に、
即

高き心王の在
る友割あふ本
まこと立言と極一
如、此種文章を
交はる約毎回
物外といふ所
変と一中一
より重なり
かみ中より
桂号は閑
侍中

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	寺 内 正 毅 書翰

分 類 番 号	62
	2/

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

256774
10-1
昭和26年11月9日

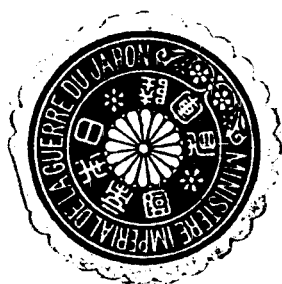
第二十号
朝鮮近状、行賣、關、件

四十四年五月廿四日

256774
10-1
昭和26年1月9日

桂
公
爵
閣
下
執
事





古田三郎

250774
10-1
昭和26年11月9日

相啓此吉祥安
後市道此方安
相向此持此
此之安人魚油
清道此難安
之安此方安
此之安人魚油
此之安人魚油
此之安人魚油
此之安人魚油

山者居之者
 聖王仁文
 德之陽者
 高氏之妻
 以出如生
 此納眉之
 曲之朝
 仁者之
 乃亦者
 信能之

昔能比公家子李
王我太子也王姑
上之文用王姑的
大官身由金垣平
福、有之故上在
親、中、上、地、可、端
今、農、子、解、格
上、格、上、靜、上、多
上、上、只、回、本、人、
中、上、上、上、上、上、上
上、上、上、上、上、上、上
上、上、上、上、上、上、上
上、上、上、上、上、上、上

後予言及
 去者皆事
 之
 有
 能
 入
 者
 西
 皆
 怨
 乃
 為
 有

東子初に云く年々三四
の月増上して師年
之由る所を以て此の冊
に附と號數三卷有
之皆年中之駢儷
他の五冊と板あり
此事彼等未だ事也
力相乗、致高、者、
トコヤウ、意多、揚、
么、甚、甚、理、家、
此、方、之、事、
一、行、貴、上、年、未、
古、經、之、事、未、一、日、

古鑑の事也。一日
此一箇の上の取捨
下路土の事か。西に
山道しし。以て事
甚。ち。有。し。能。為
い。し。者。亦。三。十。三。年
必。未。疎。望。う。以。て。君
干。し。所。征。奪。取。り
中。實。ら。及。ば。ず。証。許
り。証。許。者。一。の。事。也。い
は。許。り。う。り。得。な。か。ら。し
し。要。こ。し。中。年。の。事
生。く。能。得。金。り
也。と。外。の。事。也。証。許

輕之有過一而不知
中為者意細而
情神之者乃助勢
上之修之而為一山
留其心之修而為一
乃相之修而為一
主日之修而為一
天時之修而為一
後以子而為一

二月廿四日 書

桂山書院

下報事

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	渡 邊 千 秋 書 翰

分 類 番 号	69
	19

登 録 番 号	
------------------	--

256780
4-1
昭和26年11月9日

韓國係合後皇族降位歳費の件

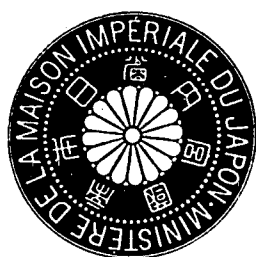
昭和三年八月十五日

4-1

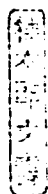
昭和26年11月9日

極内製
外製





天皇御璽
御印



清能而信暗處交
此身是吾身也
如使此身若若若
曲解能得白
廣分多之調書
見府樓而迫生
今之何好者乎
高者讀書者
事之大方

と針線 言上仕
交、皇族阻位件
解り、実旨了あ成り
来、実勢了事、有
因、多、様、何、有
少、諸、所、何、其、有
と、程、何、止、彼、有

以年為一
 時為一
 事為一
 功為一
 名為一
 利為一
 義為一
 德為一
 行為一
 信為一
 忠為一
 孝為一
 友為一
 臣為一
 子為一
 孫為一
 曾為一
 玄為一
 孫為一
 曾為一
 玄為一
 孫為一
 曾為一
 玄為一

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	渡 邊 千 秋 書 翰

分 類 番 号	69
	20

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

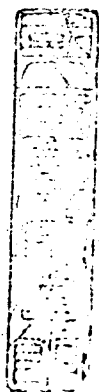
256780
10 (1.2)
昭和26年11月9日

正統院設置案件

四十五年八月十九日

250780
10 (1、2)
昭和7年11月9日

校自出
為國體
其下





淳子

桂太郎文



正親院設置要領

一爵位寮ヲ廢シテ宮内省ニ正親院ヲ置ク

一正親院ノ管掌事務

一皇族ニ關スル事項

一朝鮮王族ニ關スル事項

二爵位ニ關スル事項

三華族ニ關スル事項

一朝鮮貴族ニ關スル事項

四有位者ニ關スル事項

一正親院ノ職員

總裁 親任又ハ勅任

主事 二人勅任又ハ奏任

屬 若干人

一正親院ニ審議會ヲ置ク

一審議會ノ職掌

一皇族ニ関スル重要事項ニ付諮詢ニ應シ
意見ヲ上奏ス

二華族ノ懲戒及禮遇停止ノ解除ヲ審議
シ兼テ華族ニ関スル重要事項ニ付宮
内大臣ノ諮詢ニ應ス

一審議會ハ正親院總裁及正親院審議官ヲ以

テ組織ス

一正親院審議官ハ左ニ掲クル者ニ就キ之ヲ

命ス

一樞密顧問官 三人

二宮内勅任官 四人

三有爵者 五人各一人

一官吏ヨリ命セラレタル審議官ハ本官ノ待遇
ヲ受ケ有爵者ヨリ命セラレタル者ハ勅任官
ノ待遇ヲ受ク

一審議會ノ議長ハ總裁ヲ以テ之ニ充ツ

一正親院總裁ハ皇族附職員ヲ監督ス

一華族懲戒委員會規則及華族懲戒委員

互選規程ヲ廢止ス

250780

10-2

昭和26年11月9日

卷之四

何事勝於此
 此其所以
 此其所以
 此其所以
 此其所以
 此其所以
 此其所以
 此其所以

了此即光緒

事。不問愛否。只願

人知。而不知

不誤也。

待別。然。之。如。此。

內王。能。居。此。之。處。

則。其。上。海。之。特。別。所。

處。亦。保。其。一。最。

實。事。之。上。海。之。上。

時。子。之。特。定。之。處。

時子之歸定為德
 思之何如為德
 之何如為德
 有思之何如為德
 思之何如為德
 思之何如為德
 思之何如為德
 思之何如為德

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	渡 邊 千 秋 書 翰

分 類 番 号	69
	23

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

256780
6-1
昭和26年11月9日

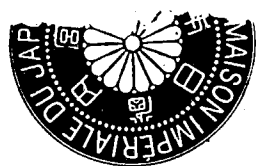
日韓係合_ニ就_キ宮中處置_ス件

四十三年八月廿五日

256780
← - /
昭和26年11月9日

狂肉剝皮
解脫大藥





日
子
名

神は天候万々
 名は女利男利
 白くすまふ人
 境は下し越え
 一車に乗る
 十載ありては
 やり所は知れ
 一見は里
 出はれはるる



言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

言上以言上府廷

古之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今日之學者有

今も此の基に

何れも全国一

等々

山田

一時方々

百廿六

河原

万石

又河原

市河

ル

如

華市家客
之秋。然

恩。目。不。有。在。不。省。

官。封。考。

宗。秩。上。何。家。

宗。秩。上。何。家。

宗。秩。上。何。家。

宗。秩。上。何。家。

宗。秩。上。何。家。

宗。秩。上。何。家。

宗。秩。上。何。家。

[illegible]

中計上程
丁巳年
移遷
中計上程
丁巳年
移遷

丁巳年
移遷

桂
木
閣

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	渡 邊 千 秋 書翰

分 類 番 号	69
	25

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

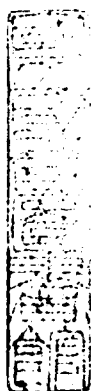
財政整理關件

250781
2-1
昭和26年11月9日

四十三年九月十四日

桂首
相閣下

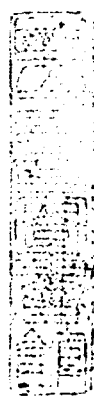
250781
2-1
昭和26年11月9日



能

得教

可憐悲家如月
 吳城山在雲中
 移舟長安送客
 已能由亦為家
 竹園舟上感時
 力能而姑玉上
 煙中江事如事
 有故多之江事



官內官之為國
不立為其待政
也相得相國由諸
外國之國難
相負自則然也
才成蹟明不
閣下之鴻力然
也
也為之者視

尚曰松蘿心調生

其於心以爲名君

初分此心即肉重

此心別有自存

先不取取爲德

王在在爲首

力中 天秋

桂首相

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	山 縣 有 朋 書 齋

分 類 番 号	70
	8

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

253033
8
昭和6年12月 日

第七號

日清開戰決意通知

廿七年七月七日



桂木卯文書

陸軍部
陸軍中將
青島視察
陸軍部

御



東京目白
山崎
用



佐々木啓文

253035
8
昭和6年12月 日

可

東洋 宣統 宣統 宣統



253023
8
昭和6年

生力軍陽生箱橋

張江清緒逢姓金

南片利朝野國內亂

付出長在湖山家清國

政府より重負鎮座由

國、公出撤田、後照

會所、山、年、後所、東

豫黨鎮定事、廣

右明瞭り方々の市況確

定、^{水原}穀々種々を搬

入、移殖との回答、及

其後、其を撤田す。

派遣の方の状況を知る

来、甲、香、活、第、生

清國臨時、招、^{白川}

信、之、拒絶、其、来

重慶國政府佈
新縣政府佈
日之德志撤兵調停
在風之車此到撤
田縣政府佈
五之謝絕之此來
知方形勢推得此
後縣政府佈
大國之官喉舌
機之機此神圖

一、自派主筆王鳳

漸行、知說往新

同、報、自將校交

送、事、自、就、事、由

照、居、任、務、今、願

去、生、事、由、事、作

由、分、任、一、事、日

作、既、作、特、計、畫

空の所、新出師

準備ありの外他未

だの念と取事と確

信強固にたり、到る

所、いかにあるか

論議を續け、いかに

去一落、此所

香：達方也。快勝推

し。賢先生性年

新。生。後。心。心。

生。生。生。生。生。

生。生。生。生。生。

生。生。生。生。生。

其他秘密圖符

此係江中府

江以時下為國家

此自金金金

七月七日軍情

桂溪先

步後

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	山 縣 有 朋 書 翰

分 類 番 号	70
	88

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

253032
昭和 25 年 10 月 10 日

第七十九編

清國談判ニ就_スク
其

廿八年十一月廿八日



桂太郎文庫

任大

任理大臣殿

禮部內



253032
P
昭和26年8月2日

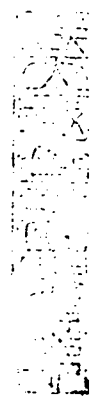
城

鄱 山

山 縣 困

在 平 村 呼 囑 正

重裝相調何憐
之新海山來信
法為法秦感念
舞下而山南稀
國傳知大傳於
一先傳信在感
因書付事以代
初生家門上漸次



相授乃為國全
權歸之權臣所
事行萬古存
之統治之權
或官品取
咸以授之
元事
若以
若以
所行又繁

今之一事，法國

法利之大，皆服於法

解降，力戰，自一

度，時，械，十，卷，到

領，上，下，今日，抄

楊，人，以，國，內，

大，馬，力，決，下，火

老，生，十，月，來，一，將，來

下海看風浪不日

期相晤了時下

所自建政新

會之酒

上月廿八日在

王漢長先生

友

桂老伯閣下

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	山 縣 有 朋 書 翰

分 類 番 号	70
	101

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

253035
10
昭和26年2月3日

第一百十號
日韓協約成立の件

四十一年七月廿八日



拙太郎文庫

253035
10
昭和26年2月3日

第五百十號
日韓協約成立の件

四十一年七月廿八日

桂太郎文庫



桂

竹園家
内家

桂太郎文庫



253035
10
昭和26年12月3日

戒煙石井金剛



雲笈前讀此
當年又未及有
矣越日申
將惜以安年未信
由清仕將然
休暇中十日
刻字之
相口飾物仍甚

表海司法吏坊

引德性
引德性
引德性
引德性
引德性
引德性
引德性
引德性
引德性
引德性

自鋼鐵之土調查

由官門之土物集

之此當作之今日書

世際十有沙之鋼水

咸名實係之引水

物車物估因生家

中華肝臓会
 所より高松へ
 送下す
 統監大書
 宿市
 店所
 市
 所

恒心一生親愛
孝悌率誠見懷世
去心三肝生解心
地地聖后上六只天
海地乃以和天
老心王此後極第
哲時人十思思出
瑞金名得國家
石乃百壽萬壽

何事深懷悟

言之復

七月十八日

明
也

桂
首
相
公

利
氣
君
臣
推
廣

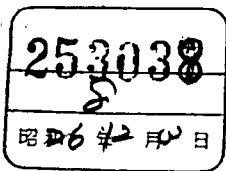
右
行
各
一

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	山 縣 有 朋 書翰

分 類 番 号	70
	125

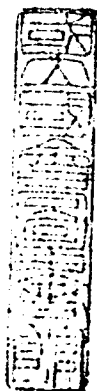
国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--



第百卅八號
財政計畫日韓合併論事

四十三二年六月廿九日



桂

總理

內務

大臣

信

殿

內務

大臣

信



253038
8
昭和6年2月2日

傾

何如

狂

首相閣下



253038
8
昭和26年12月20日

誠

何陋

新然昨日山莊

本訪在庫一驛

清話相承中懷

老百一其年儲

與賊改行盡一

讀信以計盡決

定在成此一賊改



圖書印

基礎生才廣
棟宇千尺造
計藝大統
軍於年
用多
之分
用
又日
一

身法時辰分

替

付回量一止生

舍置一止前憲法

海分下今期所

材箱長、種、海

議者法部各昨

所時自生海人

多見七廿月以

今年海内多事

開禧家令

是年仲夏

陳事讓相

卷之五

六月廿五日

桂

首烟

內出

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	山 縣 有 朋 書 翰

分 類 番 号	70
	127

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

253038
10
昭和26年12月10日

第百四十號

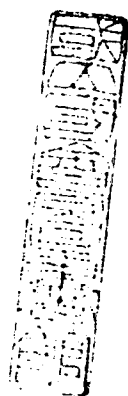
韓國其他内の件につき元光金銭



四ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

任

首相閣下
賀儀



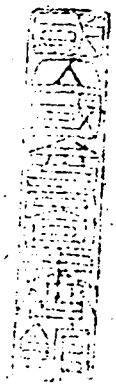
253038

10

昭和6年12月2日

做

做



昨日天山莊山來
訪多事多謝
其弟、韓國其
他由如、作、後、
後、相、取、中、
子、子、以、然、有

由統制之官必教

其基應井上馨

法老片云右振事

物生之目的後

何處以方之

存自助方後

下法之空者

忘道、失金、中

陳武、來、丁、方、為

人、苦、快、餐、何、不

侍、古、咸、香、一、其

前、時、刻、在、事、合

陳、古、咸、香、一、其

在、古、咸、香、一、其

付都见丁巳夏

任事深愧

公之文

七月十日有雨

桂台相公
内然

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	曾 禰 荒 助 書 翰

分 類 番 号	52
	17

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

250797
P-1
昭和6年11月D日

一進大韓要三紙合頁一件

四十二年九月十四日

不
魏
分
廷
永
田
所
丁
國
郡

任
侯
壽
國
公

必
親
展



250797
P-1
昭和6年11月P日

子孫可曾補助

統監府



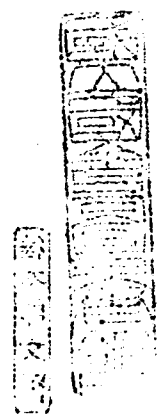
250797
P-1
昭和6年11月0日

为感 卷片 健勝 出

事務 可力 主 子 原 氏 陈

共 本月 主 付 出 元 接

ら 事務 出 氏 寺 中 氏 氏



一、道、大勢、協会、西友会

三、派、分、同、什、之、要、し、早

又、告、名、で、お、成、た、る、要、し

元、陳、竹、々、参、考、我

抑、以上、二、派、カ、位、半、一

追、考、と、対、々、大、様、考、考

サ、リ、し、徳、意、シ、一、要、し、々、面、接

其、必要、シ、生、ス、ン、コ、シ、レ、カ、其、主

又、目的、ハ、々、之、又、通、内、閣

ん 韓人 寺ハヤ 倭
厭ノ心ヲ生シ 何カシテ 既
中 國ヲ破ラ 壞セハ 心ハモ 慙
ハ 王カ 才心ナリテ 離
才 衝ニ 耳ヲ 欲ムル 時ハ
且ク ナリテ 他ニ 術策 出スル
ヲ 看破シ 故ニ 彼策 士等ハ
三 派 会 同、 國 作 力 ヲ 利 用 シ
テ 其 欲 望 ヲ 達 ス ト モ 判
定 セ シ ム 而シテ 彼 等 ア一
時 並 行 スル 会 同 ヲ 敢 テ 行
フ

[illegible]

我道田七口奇也社しつ寄

多寺了て他し飲ス一忘 實

葉之金カウ飲盡るべし穂

洲あしらへ至るん治才とあて

有る此二つぞ、去れや

レテ肉歩成スアア之カ又井と我

ト、因縁生し故事とて社依

物心う記せん信与君が相所

ア由に、迄供はたまも足斗た

まハ我々井に、故累ヲ相疎え道

地一ツ我入君のゆれ

要之、三派合一の條を

案照爲す、標榜之事

實に其之に伴ふ所あり

以て其の可く現象する我

らも、勿論、識得するもの

及し、事實、政治、運動

方々を以て我政策に

従ふべきもの、故に、

散り居る勢力、統一

を以て、出づるべき先

五二出見方可出之先々

近之何事于涉、何事

可也、年直考改

加、安、名、中、上、を、可、能、具、

九月、高、

と、お、お、

桂、侯、吉、園、

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	曾 彌 荒 助 書 翰

分 類 番 号	52
	18

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

250797
10-1
昭和6年11月10日

韓國事情其他の件

四十二年十一月廿一日

日本東京

桂總理大臣閣下

必執展中慶

桂本野文



250797
10-1
昭和6年11月9日

八

城
之
子

國を宣曉し、敵兵を
 申せし、味方外人と思
 ふ者、若くは、疑懼
 し、急にお決り、や、安ん
 ぜ、留まり、方、様、を、
 又、為、同、東、年、度、（二）月、（三）日、
 海、上、と、も、東、月、中、旬、迄、
 決、定、し、安、ん、ぜ、し、や、又、
 同、じ、や、安、ん、ぜ、し、や、
 若、く、は、
 上、の、行、動、と、思、見、の、定、り、
 づ、指、揮、を、受、け、及、び、存、在、

有之、カハミテ、十支ノ油
五ツ安シ、少ナリトモ、二月
迄、ウケルカトモ、若シ、又
戒、度、ノ、後、ノ、支、ノ、并、地、方
ノ、政、年、所、ノ、女、ノ、目、鼻
ノ、方、付、ノ、度、甚、之、シ、東
一、月、来、カ、子、ノ、二、月、初、旬
ノ、日、相、仕、度、ハ、算、智
ノ、旨、何、事、走、止、ノ、事
ヲ、特、禱、ノ、賜、度、有、ナ、リ
又、宜、以、結、婚、ノ、事、付、心
ニ、由、忙、中、ノ、閑、下、ニ、配

慮お懸何とぞ一紙を
こゝろより金布に懸け
又兒玉も地皮も身とせ
タツ申越お家お仕ひ
余り急り急る中にも
無く唯お人にお威
に多難くおる一紙を
お懸り賜へ様へお懸
お懸りお懸りお懸り
お懸りお懸りお懸り

万回お上の懇話を仰ぐ
先にお返す人々年々
多き事多し候る事候

十一月廿二日

お母様

桂 聖子
下

近々ウチ校へ立寄
つて下さる事を心願
して候

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	曾 彌 荒 助 書 翰

分 類 番 号	52
	19

国 立 国 会 図 書 館

登 録 番 号	
------------------	--

250797
11(1.2)
昭和6年11月9日

日韓併合
関スル件

四十三年一月七日

在
省
知
親
用



保太師文

人

250797
// (1.2)
昭和6年1月1日

人

250797

11-2

昭和6年11月10日

相復ツ申越

一糸ニ表スル時

機ヲ見計算ス

：各々セカニハカス

且ツ其時機ニ之

リ作成スル毎

シムサニハカス

レハツ申越スル

又昨日申上通

天上より一書あり

上か上集より一書あり

夫是より一書あり

精押在るなり

官少安心を成るなり

此より心配精より一書あり

夫より一書あり

此より一書あり

丁卯上巳

卷一

桂興下

正國祿

一宜し

故祿

素

子

名 称	桂 太 郎 文 書
標 題	曾 彌 荒 助 書 翰

分 類 番 号	52
	20

登 録 番 号	
------------------	--

250797
12-1
昭和6年11月10日

日韓係合準備要文件

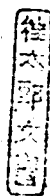
四十三年三月一日

桂
香
如
蘭
下

250797

12-1

昭和6年11月0日



葛

片
粧

高

昭和6年11月9日

有復遇百。移見儀武
 之市。祝。賜。難。
 在。生。父。落。以。
 逐。回。復。付。未。夕
 希。人。多。國。新。物
 人。今。久。得。久。閉。口。死。在
 中。正。理。官。良。以。申
 少。之。趣。大。略。故。家。在
 有。其。此。大。可。件。

伊藤公言稿 卷十

井上馨
287

西之山高橋へ来

諸君之學

公孫龍子使車

[illegible]

天津法租界

筆
記
內
一
改
明
筆

高升 雅时 增

法依教有之思

考之為名者

實為一物也

一應以明為目

教是文存於心

多故一以之

五心使一能為

其

為支那人

不可飲者

言一以東

也

為其用者

亦有

甘文

和好後

相與及至之清輝
以爲沙而可與之
車馬亦復逢之
一泊金澤之泊徑西
嶺三十分之沙
軍中自西天
之故
此是
甲寅
黃
第

省之司馬者中友實
之定限之有之定
之限之有之定
之限之有之定
之限之有之定
之限之有之定
之限之有之定
之限之有之定
之限之有之定
之限之有之定

事に及ぶ所を

口者道なり

之復

聖上のお徳を

三教の如く

事情の偏を

知ずるを

其の如く

七月十二日

抄

左の如く

左の如く

五相山田田田田
知事么山田田田
夜妻祥荷田田
成多年一存田田
空殊更主田田
空主一昨田田
九事防么山田田
夜一旦不得止田田
田田田田田田田

向心肝脈痛

患痛者之氣上

成、痛子元昭代理

とて増え方然症

此等の差は自分不

能知、後述する

大に不考、之を升

上山、山頂より

大勢、之を致す

自尔耽耽投足勸
告手口言之之
达者、不波屈伏
五友成步、差與
上决、决于寧口其
前、及决、决方優
存、迪、迪、迪、迪
甚、極、極、極、極
何、何、何、何、何
先、先、先、先、先

海濱一舍吳松
上、像秋、自、如、如、如
區松、以、日、日、日、日
上、上、上、上、上、上、上、上
高、高、高、高、高、高、高、高
者、者、者、者、者、者、者、者
出、出、出、出、出、出、出、出
海、海、海、海、海、海、海、海
海、海、海、海、海、海、海、海

新山回以朱房 宜見

在尋一受代理 言可

里卜ノ事 言山向之乾

明主之得而明新相

了上之切東言在而

水空合以爲明主也

反以微新水宿知也

上以在尋言言也 知也

朽々取之 言東家

以向之くくくくく

更に重なり、心因り

之故、此等、之福

故、之等、情、之、之

之、之、之、百年、之、之

之、之、之、之、之、之

之、之、之、之、之、之

之、之、之、之、之、之

程子之學

心理之學

即石之學

子之學

無以

之學

十日

其

其

一、福市讀讀處
子多而子之情
明知、車示不
音部、走虎待
了、由、金、衛
明、後、古、法、定
二、或、名、此、文、或

片由分此際特
擇之矣之乃之可
田一憂之者
能之通之至哉
王公叔力之勿一
家復
之有今古
其又
印好度

思殺朝鮮京城
事子孫之陳田地
駐在之打國懷獨
兵清國兵隊上
時國多一事作
四為諸君今能
橫之使下之
酒

爐火仰分及穩
外國文海之標
事休重天
臨前
殊文情事
因隣文
莫忘方留

既り之極に
至しと為た
年事上之
此家より
浮説流言
後述せら
命に執
宗之

獨遠帝心老矣成

中電接之明

高立偉之風流

却成事名曰時

為之義識然

在調之得為

被智法之取止

あまの方々へ

雲が片一過せん

はなはた 雲五面

清々 雲皇執政

五十年紀

所名 雲報

祇名 雲皇

おのれ 雲皇

高名は青年の類

悔いしおやう

體ニテ風方ニテ常分

馬如 高 劉 下 以 格

二 三 四 五 六 七 八 九

一 二 三 四 五 六 七 八 九

一 二 三 四 五 六 七 八 九

一 二 三 四 五 六 七 八 九

之云云

心之物

也

之

之

之

一月

之

年其重又建馬路
定之長和陳
日建長和陳
清桂站官國
全通少玉芳
之博之平
推家少之白歸

中
七
月
三
日

七
月
三
日

七
月
三
日

七
月
三
日

七
月
三
日

七
月
三
日

七
月
三
日

伊藤公素宛

井上馨
301

天津條約之事、
福澤の談話を
方々へと傳へ其の
あ二日來日、新聞
頻りに時事新報
の天津條約廢棄
說攻撃をせる最中



毎々王の萬一を查

命ヲ下シテ攻撃せしむ

ルホト特ヲ抱クモ難湯

日々新聞ノ論旨ハ

至当ナレバ福澤ヲ

指シテ老頑迂僻者

ト罵倒スルニ甚不宣

乃故に朝を伊東ノ

勸化ノ此等者為る

よふておる

十日三々廿

きり名書

かゝるは病氣

ふふふふふ

はあふふ

はあふふふ

はあふふふ

はあふふふ

はあふふふ

はあふふふ

はあふふふ

讀書三格

上內務府散任藤總理

親友至意

馬國高執之時以海

江轉用色多每都

今下知中上子紙如

以物來大阮天、高

之書胸為入

去迎軍書之信

上各異是也

時今大國に在りて

このよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

此のよき時なり

為大漢之昭明之族
院之信託之書也
尸也之眾議院
多少累之書之保也
之書之昭明之族
隱之昭明之族
之昭明之族
之昭明之族
之昭明之族
之昭明之族

一按新年一為年

年五更時分後之實

一按之已之

一按之已之

一按之已之

一按之已之

一按之已之

一按之已之

一按之已之

一按之已之

一按之已之

初解京城

丹上金權公使閣下

親展密啓

紙

十月十六日奉

付腰博文

市著多及勾公架

劇之年送家子也

用王及大阮天公得

用王及右院君時得
見去送_てく_る也所
存_る後_に指_して_は接
宜_に相_解目_下其
勢_の相_事_を安_危
闕_を要_件急_進漏
以_て送_るの_事也_に相
あ_る其_は海_鴨野_火
之_は新_捷川_横大_山

揚陸、都名能也

軍、之、起、年、五、

金州、神、之、按、

下、之、下、

天津、上、海、道、之、報、

志、之、海、軍、山、海、

國、其、他、之、海、軍、

地、之、海、軍、十、萬、兵、

其、之、起、之、海、軍、

有得一金州是為白

領位のり勢

得乞和のり心

有得のり勢

有得のり勢

有得のり勢

有得のり勢

有得のり勢

乃以之幸_{ニシテ}臨_リ海
峇國國際_ノ事_ノ一
且英政府_ハ其_レ後_ニ
大_ニ中_ニ時_ニ採_ル未_レ能_ト
容易_ニ、英國_ノ左_ニ祖_ニ
セサル_ハ命_ヲも_レ下_ニ去_ル
ル_ニナ_リ吾_レ口_ニスベ_キ一_ハ伯_ニ
シ_ニヒールド_ニ於_テ信_ニ從_ル品_ニ
安_ニヤ_ルと_モ英政府_ハ一_ハ先

注寢之安，亦非
多事，方整時為
之面，似有之也
欣特，魯事，一病
氣，昨今元萬，
報，去，昨，方，今，方，達
之，於，一，台，回，醫，看
此，像，報，之，在，心，之，皆，品
教，此，一，月，之，白，結

局と知らぬものト都度
仕度主として多角の
「五成」から

豫めおき進んで解
錢を希施し一俵

分の軍事上へ頻りに

説き及ぶ風湯量

今ハ為政者方得

東去之有此行仙

石枝沙溪屬之卒

汝也何之之解

江舟之入也及典

助力之振高配

新油量之海上

城仁川位之政起工

軍事之終下

萬口一
鑒者

且韓西府之取附之也

プロペラ・ジ・第 6 側

量
必
要
後
到

底畫下寫名

五十年來

第廿八次

半
知
是
子
老
閑

人方寸，
馬王經，
也。

少知接眼

陸奧印扣示天書

廿年大本此七

之接也此不

次第而事在

了之為其

方。女

升上伯國

印就解報聘便
一可也若下年所
用備入抄一金
宏其之命之市
德是己命之市
乙亥年老閏九月
讀之換之可也
陸費之子曰換之
未之知也解國保
之身之先以老妻
尸也之換之可也
及至信之也

鳥居叔之

丹上伯

對卿伊多抄
親片

賦

昨已來訪者

之由之在少也

時少回矣歸者

之刻歸矣歸

沈思為志不

望者之所共

之也者以者合

沈氏曰時也

此等上片之

他之何家

福如如子

子

七月十日

書

世如名何

伊藤正喜翁
大正五

井上馨
302

263883

7年 4月 3日

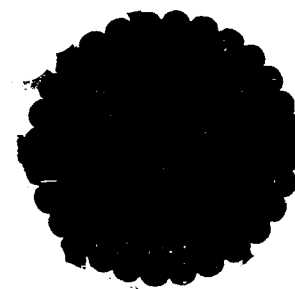
朝鮮京城

井上全權公使閣下

親展 托石塚 奉

廣島

伊藤博之



内



井上全權公使

五月二十日 全稿
今朝夜手時 奉

侯萬福報頃以入京
子之文涉事件為歸
以難事送若中出
大本堂正及奉旨以
府山受收各以休
神——為二軍
我軍——報知于今
為何情況乎更
不表以日相配之

清西返舟之晚和儀
行去起筆一見歐
海諸君仲裁及侯
新之由電接自之
言從如好者披
及有之筆法可
歐海諸君台為西
事日少事之所求

為大統殿之單獨

仲裁之努力

變云一ト事以之

及田者云云

尤第云、歐西連衡

之仲裁者、為日本

不利之、云云

合云云、云云

玉華先生とす 書

和平 錦也之元之五

老之少也越三

山

命吉 溶石台院

本末 帰路 庚子

主家 金定 某

書 爲 求 在

有以爲事老而及

商議其於於回春

書法其已此處

目下外務

大員。其地海軍中

將來之往來分

商議中其已回春

其已回春其已回春

宜其得此样也

應之何時該判開

之至其種之命

狗養。亦立其座

之。一。其。外。海

鴻。了。子。子。耳

有。其

世。其。同。之

實成於中而如空

時下清言而如實

人如忙這般人如大

如夢上下之無志

口降至之山如

大將之如馬南和

從油車一起行

受其車、仁川路會

會、由舟、美編談

會、由舟、美編談

議會、為一書、中七

主、由舟、美編談

、由舟、美編談

、由舟、美編談

、由舟、美編談

陸軍指揮官

少佐秘書官

陸軍少佐

陸軍少佐

陸軍少佐

陸軍少佐

陸軍少佐

陸軍少佐

貴方大府の御意
此の故地を何と
二府生る事と
社解の改革
中央政府の困難
二府生る事と
方東進子
為目の命令
三軍容易

人年之老不返下
龍之其方親也
不得止事情之
靜之進之必金
上之
情之返府之恭親王
軍國之宰地位之
李鴻章之提撫
之百事之負極之起

と付ひせり 神軍に統
果ヨリ 觀おすん時 如
右に 固き 情に
は 我の 中 じ ース
アット エニー プライス 好
ト 事 情に 不 なる あり
得し 唯今 當 未
公 便に 依り 令 控 派
安し 故に 事 然 切

何人ツ撰否ニテ成
了ハ知紳ニ應修
度近至ルニヨリ至
書得下ルヲ福儀ニ
之申合ル
詔順廣教ニ
事ハ各外ニ成
上其五而本ナク角
復ニ費工ナク最

中、もとく挽回、

宣動を敷く女中の聲、

節度はあつた、
本音は

二時初晩、
航便を

石塚の足、
ゆきか

各々、
浮くは

譲り、
あつた

土、
あつた

あつた、
あつた

妻愛我似父母時

下山清道亂雲飛

陳老睡心一付字

明中二未片竹

年一要求

此小金銀一億

萬少減之二億下凡

上
時，我貨部

之
凡三復乃多計數

了，讓地目下

金額——金四萬萬

台灣國政府已

國河諸君，像那

之基礎——通

商保知，可訂統

年之祖下積
見之尤至難
支那西家
國難之次
兵爭未及之地
懷之
力之保之
急之占領之
好

得志下金足之微
都為一客特一掃
中有一道之奇蹟
大陽多割之內心
不曰這去之明也
如少下之子方
年一之英目下
交之合之傍觀
底定之安

是年九月晦日

以是日為

名曰定會日

此柳下名

名曰柳下

名曰

四月廿二日

壬戌年

岩倉公書翰代傳卷四止

井上馨

330

和27年2月4日)

井上 春文

物又此の若く
くはる多ヨシグ氏
事防面使一ト通
持持亦痛、然
明りも極度旅
鈴、尋合可跡
己ラ流りニ生
長、此り、
可然と、
も尋合、
日標、
と

六、四、皆、且、視

井上聲殿

今日朝鮮對スル政畧ハ實ニ重大
ノ件ト云ベシ茲ニ三ヶ條ノ質問ニ答フルカ
如シ

一條約各國政府ト悞議シテ朝鮮國ノ
獨立ヲ認定スルノ條

此ノ策ハ尤モ其ノ宜ヲ得タルモノトス條
約各國果シテ朝鮮ヲ獨立國ト認ムル
於テハ清國ニテ屬邦論ヲ主張スル其ノ
效ナカルベシ或ハ之ニ反シテ各國ヨリ清國ノ
屬邦ト認ムル時ハ獨リ我國ヨリ其ノ非ヲ
争トモ亦其效ナカルベシ故朝鮮ノ獨立ト
屬國ト決ヲ取ルハ各國輿議亦シ我レ
ハ只各國ヲシテ獨立ト認メルノ籌畫
ヲ運ラス可キノミ

一清國ト直接ニ屬不屬ヲ談判ス

此條ハ我々テ清國ト葛藤ヲ結フ所以ニ
シテ策ノ最モ下ナルモノトス、清國ノ衰頽ハ、
甚キヲ極ム雖、地廣ク財多キヲ以テ、往々進
歩ノ見込有ル國ナリ、今日亞細亞全洲ニ在
テ、僅ニ其獨立ノ權ヲ全スルモノ、獨リ我國ト
清國有ルニ、苟モ唇齒相依リ、以テ獨
立ノ隄防ヲ固クスルニ非レハ、西來ノ狂瀾ヲ、
永遠ニ禦クニ難カルベシ、然ルニ區々タル朝
鮮ノ為メ、日清ノ爭端ヲ開クニ於テハ、我ニ在
テ一モ利スル所ナク、徒ニ歐州ノ猾商ヲシテ、

船艦武器ヲ貴售スルノ機ヲ得セシムル
ノミ、目下我海陸軍ヲ擴張スルノ急務タ
ルヤ、論ヲ待タズト雖モ、右ハ萬不得已ノ時
ニ用ユル為メニシテ、我ヨリ求メテ戰端ヲ開
クノ器具トスル主眼ニハ非サルナリ、

一 朝鮮國ノ倚賴ニ應スル條

朝鮮國我ニ倚賴セシ以上、固ヨリ幾分
カ幫助ヲ加ヘ、其ヲシテ恩惠ニ感セシムルノ
方法ヲ為サシム可カラズ、但シ朝鮮ノ内情ヲ
察スルニカタク財ナクシテ、清國ニ倚賴スルノ
念ハ決シテ消滅スルヲ得サルベシ、今度負債ヲ
日清兩國起サントシ、使節ヲ分派シタル即

其ノ明證ナリ故我ヨリ陰ニ保護ヲ與エ
ルモ清國必ス之ヲ探知シテ我ヲ猜疑スル
念益深ク朝鮮ノ内政ニ干涉スルハ更ニ一
層ノ甚レキヲ加フベシ果シテ然ル時ハ日清
ノ交際ハ徹底親睦ニ至ラザルニテラズ彼我
忿怨ヲ挾テ相待チ早晚干戈ニ訴ルヲ
免カレザルベシ不幸ニシテ兵端一タヒ開ケ互ニ
競ヒ交々激シ千百年解ク可カラザルノ仇
敵ト爲リ亞細亞ノ大勢復々收拾ス可カ
ラザルニ至ルベシ故ニ今日ノ策ハ朝鮮ノ倚賴
ニ應スル區域ヲ劃定シ譬ハ銃器農器
類ヲ惠與スルト歟又ハ教師ヲ無給ニ貸ス

トカ、其等ノ件件ヲ判然朝鮮政府明言
シ、清國對シテモ必シモ秘スルヲ用ヒザル、公
明正大ノ所置ニ出ニイラ切望ス、抑朝鮮
事變ノ處置ハ萬國ノ賞賛スル所ナリ、
然ルニ今日ニ至リ、隱ニ之ヲ教唆シ、密ニ之ヲ
保護スル如キ曖昧ノ政畧ヲ用ユル様ノ事
有之ニ於テハ、獨リ清國ノ猜疑ヲ深クスルニ
止マラス、萬國對シテ我レノ光榮ヲ損ス
ルノ憂ナキニ非ラス、此レ予カをモ苦慮スル
所ナリ

十月廿九日

具視

前胎昨今与度渥
善鈴年等乃耳善
谷谷与人制今日
本洲二面會旧萬聖
使此書寺善人候
不和纏逆二大洲
此年二西京言建之相
读可改超申出之由
此二与二至今是如
此古臣矣之誠諸公顏

少能慮詎詒整兼
俄_ラニテ段々西京ニテ双
方_ヲ多數_ノ主合_ヲ爲_ス俾
俾判_ル其_レ只_レ得_ル我意
中_ニ張_リ俄_ニ論_ス之_ヲ上_ニ涉_リ
遂_ニ双方_ヲ大_ニ破裂_ス裂_ス至_ル
へキハ必_ズ並_ニ折_リ角_ヲ就_ス迄
東_ニ西_ニ協_ス和_ス之_ヲ以_テ強_ニ配_ス

臺前御元水泡歸之

不得已訟庭煩之後

祿成行幸事上為

人心配享此上是配

南地三為公之學力

願外無下大洲

中廣之起之信然

屋美之西京奉山切迎

用句有之得共明

此帆延期甚早何卒

大洲主右件結局在

附寺後迄為地之津在

附後探其心尋至急

以家之之程以依教

中長此後一言中矣

也

二月七日

景鏡

井上聲殿

高太洲主明公

歸西之標傳系

其子陳之民

乃以係親方

帶

前經要用五色一章

中人後何レ有三

之內少為一夕續

之內候申成後

一 藝多親撰便書今日

本廻後言略以事知

之事 上 有在場也

以廻之中 今 就多 錫

賜一回清水等之事

至于ハ最 少 水 候 申

初 水 後

一寸 以 候 申 云 在 末 今

一 割 賜 以 前 個 候 別

紙入以覽之修之蓋是

陳述而シテ曰僚タルヲ

以テ元田ハ穉表差

少長少生卒並出會ふ

取敢穉表之知也差

扣其標示候一書の中

無讀之と去就一変

之知定改之右之

之歳心付之歩毎歳之

以中歩之と候

一山岡履歷并内意之

盡在別紙以一覽之

上厚之候中一候

有長

一里田法之指屋敷書

面繪圖等以廻之事、
沙多伊反出立懸、
義和防、杉方、肉
情心配、程子傳、義
何卒、早、少、逆着、
遠、古、處、緊、要、と、有、
寺、嶋、出、帆、事、月、十、二、日、
便、船、之、趣、身、今、日、
三大臣山縣評議之
上、所、取、敢、替、り、延、期、
之、旨、回、入、上、系、
書、通、相、成、意、心、得、
迄、中、入、事、
一、竹、添、機、密、報、告、一、冊、
返、上、以、後、身、に、り、を、
右、件、之、前、書、之、通、

其内以能读事、成
其内以能

平身言 且说

山影多清透
井上多清透

山影多清透

山影多清透

山影多清透

山影多清透

山影多清透

山影多清透

新所

東古第什地事

一以所立處極其

重其系古第第

經新片抵其新第

少生者且其新第

新第其有其一其

六日新第其第

或一其內其第其

其第其元其第其

其第其元其第其

其第其元其第其

其第其元其第其

其第其元其第其

其第其元其第其

一外國才判官ヲ雇フ爲

ニ定期ヲ付スル事

一死刑ヲ交付スルニ定期

ヲ付スル事

以上二件ニ於テ定期ヲ

付スルトキハ外務省提

出案ニ於テ別ニ瑕

瑾也

其他小節自ハ論セズ
レテ可ナリルニ定期以
テ讓予スベキハ因テ
一、從來ノ居留地外人ニ
内事物處分及予權ヲ
与フル事甚々不可ナリ

外務省

年終一條之行
百何と云ふ人
也

十六日及途
少梅并其
所

十五日及途
未余之
函

先日未
先

順切道
所

種中
所

之
所

主中
所

務中
所

十
所

少生
所

十分打ち明く内情中談
之必洞理生来不へ何
分実吃驚之解
た、暴福を金に爲
大損耗に事あり
氣、月、上、三、月、に、初、意
ち、度、い、子、一、初、意
破、く、海、上、何、疑
然、之、難、信、う、惹、出、し
子、明、鏡、而、少、生、も
其、前、是、信、名、時、也、ハ

石叶之成行且大隈
六條程，執縮うり毛
ト何

道多山人情方如也
生也

五月公
是祝

井上聲方殿

山為所親命少名出
未代事方為多事
十有之由希多事
之何能

名 称	井上馨文書
標 題	露清島事件につき、特命全权弁理大臣 黒田清隆に対する訓条

分 類 番 号	672
	1

10

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

訓條

時命全權辦理大臣黑田清隆

一我カ政府ハ專ラ朝鮮國ト舊交ヲ續キ和親

ヲ敦ラビレーシ望ヲ以テ互ニ日トモニ力為ニ朝鮮

ノ我カ書シテ斥ケ我理事官ヲ接ヒサレニ関ラス

仍チ平和ヲ以テ良好ナル結局ヲ得ニテヲ期

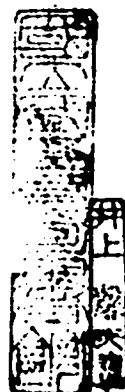
シテ何ソ料シ俄カニ雲揚艦砲撃ノ事

アリニ違ヘノ右ノ暴害ハ當時相當ナル

防戦ヲ為シタリト云々然レモ我國旗



3



受タル汚辱ハ應ニ相當ナル賠償ヲ
求ムヘシ

一 然レモ朝鮮政府ハ未ク顯ニ相絶ツノ
言ヲ吐カス而ノ我々人民ノ釜山ニ在ル者
ヲ待遇スルハ舊時ニ異ナルヲ見又其砲撃
ハ果シテ彼ノ政府ノ命若クハ意ニ出タル歟
或ハ地方官弁ノ擅興ニ出タル歟
知ルヘカラサルヲ以テ我々政府ハ敢テ親交
全ク絶ハシテト看做ガス
一 故ニ我主意ノ注ク所ハ交シ續クニ在

ルヲ以テ今全權使節タル諸和約
結了トシ主トシ彼能我々和交ヲ修メ貿
易ヲ廣ムルノ求ニ順フハ即此以テ
雲揚艦ノ賠償ト看做ル承諾ノ流
使臣ノ委任ニ在リ

一 右兩個ノ成效ハ必ス相連貫ノ結局ニ
而シテ鈐印ハ兩案同時ニ於テスト云々和約
條款ノ文素ヲ求メテ叶議ニ至ルハ必
ス雲揚艦ノ事結案承諾ノ前ニ在ル

ハシ

一 雲揚艦ノ砲撃ハ果シ朝鮮政府ノ意
若クハ命ニ出タル歟我要求ハ尤モ大ニ
且急ナルヘシ或ハ其地方官并ノ擅興
出タル歟朝鮮政府亦其責ニ任セサルヲ
得ザルヘシ

一 雲揚艦ノ事ニ付若シ朝鮮政府其責
ニ任シ我ト舊交ヲ續クノ誠意ヲ表トス
却テ再ニ暴挙ヲ行ヒ我政府ノ榮威ヲ汚
シントスルニ至ラバ臨機ノ處分ニ出ルヲ使臣
ノ委任ニ在リ要クシ朝鮮ノ慣用スル所

ノ依違遷延ノ手段ヲ為ス誤ラシムヲ勿ク
一 和文果ノ成ルニ至テハ德川氏ノ舊例ニ拘
ルヲ無ク更ニ一步ヲ進メ在リ條件ヲ完結
スベシ

一 我日本國ト朝鮮國ト永久ノ親睦ヲ盟約
シ彼我對當 礼儀ヲ交接スベシ

一 兩國臣民ノ兩政府ノ定メタル場所ニ於テ貿
易スルヲ得ベシ

一 朝鮮國政府ハ金山ニ於テ彼我人自
由 商業ヲ營ムベシ且江華府又ハ都

府近方ニ於テ運輸便宜ノ場所ヲ撰ビ日
本臣民居住貿易ノ地ト為スヘシ

一 都府ト金山入ハ他ノ日本臣民貿易場ト
ノ間ニ日本人往来ノ自由ヲ許シ朝鮮政
府相當ノ扶助ヲ加フヘシ

一 日本軍艦ハ商賣船ヲ以テ朝鮮海何
レノ所ニテモ航海測量スルヲ得ヘシ

一 彼我ノ漂民ヲ扶助護還スル方法ヲ設

一 彼此ノ親睦ヲ保存スル為メ兩國ノ都府

ニ互ニ使臣ヲ在留セシメ其使臣ハ礼曹
判書ト對ガノ礼ヲ執ルヘシ

一 彼邦人民ノ紛争ヲ防ク為ニ貿易ノ地
ニ領事官ヲ置キ貿易ノ臣民ヲ管理
ス

以上諸款ノ内時宜ニ應ジ即今必要ナラ
サル件ヲ省略スルヲ得ヘシ

名	
称	井上 馨 文書
標	李裕元、金定果、花房義隆 位後
題	露筋浦条約、第三款 (明治15年)

分	672
類	2
番	
号	

13

国立国会図書館

登録番号	264014
------	--------

朱理公使在日京義勇會所

李裕元、金宏集等

以十五、八、三十、

和入曹勳等月見郭輝
政務(陽)金宏集等

覆者接來書所訂貴國給與日本員弁遭
害者遺族並負傷者之贍卹銀即時支二萬
圓四個月後一萬圓再四個月後二萬圓均交
自駐金山日本領事官以便頒給等由本官當
允從也肅此泐復

明治十五年八月三十日 辦理公使花房義質

全權大臣李裕元閣下
全權副官金宏集閣下

名 称	井上 馨 文書
標 題	明治十五年八月五日附「 シヤ パンサ料 明治十五年八月五日附「 シヤ パンサ料」 新聞抄録

分 類 番 号	672
	3

9

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

明治十五年八月十五日附「ヂヤッパン」
ガゼット 新聞抄訳

余輩ハ清国政府カ海陸兩軍ヲ
朝鮮ニ差向ケ得ニ事ニ從ハント
スルニ充分ナル準備ヲ為ス
汲々タリトノ一大點ニ要ナル電
報ヲ得タリ而シテ電報ヲハヤ
余輩カ信ヲ置テ毫モ疑ハサル
出所ヨリ得タルモノナレハ
シ 確實ノモノナルベシ果シテ

本山正久譯



1



然ラハ此報タルヤ日本政府
ハ大ニ満足スハ所ナル一
何トナレハ清国政府カ其属
国タル丁ラ自認シタル朝鮮
ニ向テ上国タルノ権理ヲ施行
シ之ヲシテ日本ニ對シテ其化
シタル罪ヲ謝シ且相当ノ償
金ヲ支辨セシムル儀ヲ務ム
ル丁ラ推知シ得シハナリ
左報ノ如キハ余輩カ日本政

府ノ為ニ欣喜シテ止マサル
事ナリ然ルヲ曰本諸新紙
ノ傳フル所ニ依レハ通日清
廷ヨリ日廷ニ對シテ其属国
ナル朝鮮、他レタル罪ヲ謝
シ且其上国タルノ義務ヲ尽
シ將サニ日廷ニ對シテ満足
ヲ与フベキ何分ノ措置ヲ行
フヘシト報告セシ時ニ當テ
日廷ハ之ヲ拒絶シテ答フル

二ハ抑モ我國ハ当初ヨリ朝
鮮ヲ清國ノ屬國ト認メス
全ク一箇ノ獨立國トシテ
脩交ノ條約ヲ締結シタル
モノナレハ今ニ臻テ之ヲ
認メテ清國ノ屬國トナシ
難ク然ルヲ強テ日韓間
ノ紛議ニ立入ラントスレハ
我國ハ清廷ノ誤所爲ヲ以
テ局外中立國ノ干預ナリト

認定ス一レト、以上ノ如キハ
新紙ノ傳フル所ニシテ固ヨ
リ充分ノ信用ヲ附シ辨ヤモ
ナリト愚氏若シ不幸ニシ
テ其傳マハ所実ナラシメハ
是レ余輩カ曰本政府ノ為
ノニ大ニ取ラサル所ナリ其
故ハ若シ果シテ朝鮮カ
清國ノ属國ナル以上ハ設
イ日廷カ其事実ヲ知ルト

否トニ関セシ。清國カ今回ノ事件ニ干涉スルハ列國公法上最モ至當至理ハ干預ニシテ清廷カ其屬國タル朝鮮ニ向テ相當ハ措置ヲ行フ一干旨ヲ曰廷ニ告知スルモ曰廷之ヲ拒絕シテ敢テ軍隊ヲ朝鮮ニ派遣シテ嚴重ノ談判ヲ遂ケニトセハ曰廷ハ取テ直カス

清廷

二
向
テ

戰端

三

桃
二

モ
ノ
ハ
エ
ア
ラ
ズ
シ
テ
何
ッ
ヤ
然
リ
而
シ

日
廷
カ
朝
鮮
ヲ
退
ル
ヲ
清

国
 属
 国
 ト
 ナ
 サ
 ズ
 一
 箇
 一
 箇

立國ト爲スト云フ
口筆實ハ
甚

微弱モナリ何トナレ

ハ清田、金力、
ト兵力

以テスレハ
キツカク
強大ナルヤ一挙

朝鮮ヲ保存シテ國ヲ以

テ自國ノ一部ナリト云

言スル丁ノ最モ容易ニシ
テ且如^レ此謀畧ノ之^レナキ
ヲ保^レ難^ケレハナリ夫^レ然
リ而^シ余輩^カ獨^リ訝
ル所以^ノモ^ノハ若^シ不幸
ニ^シテ右^ノ如^キ場^カ合^ニ立
至^ルニ於^テハ曰^ク本^ニ
^{キ事^ハ諦^ハ果^シテ何^レ益^ニヤ}
其^ハ外^ニ極^ク者^モカ^リん^一カ
ラ^カん^ナリ

八月十五日がゼット新聞抄記

日本政府が朝鮮ニ向テ嚴
重ノ談判ヲ遂リルニ必要ナ
ル海陸兩軍ノ出兵ノ準備
ヲ急ムルヲ為スニ決メラルニモ
拘ラス輕卒ニ兵ヲ動サス先
韓國ノ實情ヲ探知シ而シテ
後ハ成心ニテ事ヲ平和ニ
結局セシムルヲ余ハ車
カ其措置ニ感服スル所
ナリ而シテ日本ハ
非常ノ海軍ヲ蒙リタル
長官ニ便

ハ前ニ早ク既ニ自ラ進キ曰
本ニ向テ辨僮ノ手續ヲ施
行スルヲ切望スルナリ

名称	井上 馨 文書
標題	朝鮮事件に對する意見書 ホアソナード 朝鮮事件に對するホアソナードの意見書

分類 番号	672
	4
	25 26

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

朝鮮事件に付意見書

朝鮮ノ紛糾現ニ平穩ナシ結局ニ至ルベキ
 形状ヲ顯出スト萬氏力一難事ニ至ラザルコ
 保スベカラザルニ付之ヲ預防スルノ策又難事ニ
 至ルノ場合ニ方リ之ヲ處ルノ方法及ヒザル者
 法ヲ実行スルニ臨ミ必スヘキ照會書ノ定式
 等ニ付鄙見ヲ下問相成タリ即チ其問題ハ
 左ノ如シ

(一) 若シ朝鮮ニ於テ(或ハ清國ニ於テ)朝鮮ハ名ヲ
 假ラ日本政府ノ要求ニ応答シ又ハ之ヲ滿
 足セシムルコトヲ遷延スル時ニ當リ日本政府ハ
 如何ナル処置ヲサレテ可ナルヤ

(ヲ二) 若シ又日本政府ハ要求ヲ朝鮮ニテ拒絶
スルニ至ラハ (蓋シテ拒絶タル清國ノ内令ヲ受ルカ
又其勸告ニ依リテ為シタル時) 且取後ノ照會
書ヲ波レニ送付スベキヤ然ルハ其書ノ目的ハ
如何又其書式ハ如何

但シ余カヲ一ヲ二ノ疑問ヲ轉倒シテ
茲ニ記スルモハ其順序ヲ正確ニシ且程

論ニ者 (セシタルヲナリ)

(ヲ三) 前述 且取後^{後ニテ}照會書ヲ送付スル場合ニ至ラハ
日本政府及在朝鮮ノ日本艦隊長ハ如
何ナル公告ヲナシノ可ナルヤ而シテ其公告ハ誰
對シテ為スベキヤ及其書式ハ如何

(ヲ四) 若シ清國艦隊長ヨリ日本軍隊ノ上陸

ヲ主張スルハ余ヲ受ケザルト主張スルニ於テハ
日本軍隊ノ長官ヨリノ四答振リ及ビ其
處ハ如何

(五) 日本紙幣ヲ彼我貿易ノ為ニ出ツハ
内地ニ流通セシメテ朝鮮政府ハ容
受スルニ適スルノ時機ハ如何

余ハ末段ニ於テオ一ニ位スベキ程ノ事件
ヲ指示論ニ窮セテ欲ス蓋シ他ノ疑問ニ
答ヘタル後之ヲ論スルニ或ハ明解セラル
ベシ

第一疑問ニ答

此問題ニ付 (即日本政府ノ要求ニ應答ノ件ヲ云フ)
四答ト満足シラハルハ件ニハ太シ相違アリ之ヲ

區分シテ論セサル可ラス

日本政府ニ於テ彼レノ回答ノ爲メニ許入所ノ
期限ハ最も短キヲ要求シテ可ナルベシト云レ日本
政府ノ要求ニ満足シ与ヘシムル期限ノ如キハ
之ニ許入ト十分長キ時日ヲ以テセム可ラス

實ニ一片ノ答書ヲ作ルニ臨ミ朝鮮政府ニ於テ日本
人民ニ對シタル暴行ハ重大ノ件ナルヲ認メ而シテ
相当ノ賠償ヲ爲スベキヤ否ノ事ヲ商量スルニ
長キ日子ヲ要ミサナリ然レモ日本ノ要求ニ満
足シ与フルノ件ノ最も長キ期限ヲ要求セムヲ得ル
假令ハ若レ朝鮮政府ニ於テ使節ヲ日本ニ送ル
遣シ失敬ノ罪ヲ謝シ悔テ後來兩國ノ貿易
ヲ実行スルヲ望ムルヲ以テ未ダ決シタルト假相心セヨ

然ルキ、女使等ノ一行ヲ組成スヘキ人物ヲ選擇
シ、及ビ其用意ノ為メ要求スル處ノ費用等件ニ付
五分ノ時ヨリ要サルヲ得ス。又被害ニ逢ヒタル
日本人ノ親族ハ、拂ハベキ金額又ハ公使館再送及ビ
日本艦隊出張費等ノ為メニ彼レ若シ若干ノ
償金ヲ拂フコトヲ承諾スル場合ニ於テハ、之ノ人ノ長キ
期限ヲ要セザルヲ得ズ。

然レモ日本政府ニ於テハ被害者親族ニ与ル償金主
支拂フ直ニ要求スルヲ得ベシト、奥氏ハ公使館
再送費ノ償金ヲ要求スルニ若干ノ期限ヲ
許スヘシ、而シテ艦隊出張費ノ如キハ尚一層猶豫
ヲ許スベシ。

但シ前記ノ公使館其他ニ様ハ償金ニ對シ許スベキ

ミ段ノ相限ト云々若シ朝鮮政府ニ於テ其種ノ
要點ニ付自ラ其責ヲ任スルヲ承認シ且其大
行ヲ確定ト約束シタルノ時ニ非ニ許可セラレサル
ヘシ

オニ疑問ノ答

此ニ種ノ問題ニ关フルニ際シ彼レノ拒絶ハ一原因ニ
關係スルニ及ハサルヲ指示セサルヲ得ズ蓋シ

其拒絶タル朝鮮一箇ノ意思思ヒ出ルモ又他ノ勸

言ニ依ルモ或ハ清國ノ命令ニ根據スルトモ清國ニ

於テ公然之レニ關係スルノ舉動アルニ非ニ日本政

府ハ之ヲ認知セサルベシ蓋シハ私ノ事件ヲ論

ヤム各人好ハ所ノ者ノ勸言ヲ用スルヲアリト

雖モ他人ヨリ之ヲ聞知ヤラレサルモノトナスモ其旨

法あり故ニ清國ノ勸言ニ依リ朝鮮ニ日本ノ要
求ヲ拒絶シタリトテ其義ヲ公然清國へ訴へ又
使シ日本ノ請求ヲ許シ答シタリトテ清國ノ意
趣ニ出テタルサルベシトノ言ニ拒シ其実行ヲ朝鮮
ニ乞ハスニテ清國ニ要求スルノ旨アリサキナリ
今チニ疑問ノミ点ニ答フルヲ尤ノ如シ
チ一最後照會書ヲ送ルヤ否ノ論ニ至テハ固ヨリ
送ルヘシト答ヘサルヲ得ス

確然タル拒絶ノ後ニ至リ一但シ我請求ニ應答セザ
ルハ尚ホ拒絶シタルト同様ノ場合ト見做サレリ
得ズ其義ニ疑問中ニ假令チキモ余ハ之ヲ挿入ス
若シ日本艦隊長ヨリ最後照會書ヲ送一致セザ
レバ其後固ノ名義ニ對スルモノトス故ニ之ヲ分ナレ

兵艦朝鮮ノ近海ニ集屯スルニ於テハ必ス其力ヲ
送付スヘキモノトス

此ニ最後照會書ノ目的如何ノ問題ニ入レトス
鄙見ヲ以テ之ヲ考フルニ其趣旨ハ戦争ヲ威
迫シ又ハ砲撃ヲナスベキ事等ヲ以テスヘカラス

蓋シモ其ハ亦守衛ナキト是ハ亦六問題同様保
全思付タルニ依リ論及ス

万一兵艦ヲ開リニ至ラハ日本ニ取リテハ退守ノ門ニ非ス

ニテ砲撃手ノ戦ナルカ故ニ其目的タル彼ノ国ヲ累々取

スルニ外ナラサルベシ然リ而シテ鄙見ヲ以テ之ヲ察スルニ

万一兩國ノ間ニ戦端ヲ開キ日本ヨリ朝鮮ヲ

砲撃スルニ於テハ清國ハ直ニ彼ヲ援撃シテ日大ニ

向ハム然レバ戦對セシハ必然ナラシ加之而シテ兩國ハ戦争

ヲ見テ必ス妒心ヲ起スベリ命モ他ノ谷國ニ至テハ日本ト
同感相憐^{イナカル}ベシ而シテ日本ハ獨リ勇氣ナリト
自負セルモノナリ視做サルハナレシ

又砲撃ヲ以テ目的トナスルキニ至テハ不可^{トナリ}論ヲ
缺タス余之ニ當同スル^{トナリ}能ハザリナリ蓋シ砲撃手
ヲ行フノ殘虐ニナル報仇中ノ最モ甚キモノナリ即チ
暴^{イハル}ヲ以テ暴^{イハル}ニ報スルモノニシテ賠償ヲ要求スルノ道
ニ非ス然ラ報スルノ手段ナリ

然リトモ其若シ砲撃ヲ行フテ其有罪者ヲ討スルコト
得ハ亦タ然スルベキモノナリ譬^{イハレ}ハ暴動者ヲ亦チヤニ
焼^{イハレ}シタル大院君ノ宮殿及モ暴民ノ家屋ニシテ
焼^{イハレ}リ^{トナリ}得^{イハレ}耳ナキ罪ヲ懲^{イハレ}討スル^{トナリ}當^{イハレ}リナリ
モ論^{イハレ}モ之ヲ許^{イハレ}ス^{トナリ}ト其^{イハレ}一^{イハレ}人^{イハレ}モ^{イハレ}砲^{イハレ}撃^{イハレ}手^{イハレ}スル^{トナリ}ナリ

テハ多ク暴動ノ關係ヲ有セザル人民ヲ害シ而シテ
悲シム一人ノ有罪者ヲモ四村スル一能ハスミテ其害
ノ民ヲ殺シ其家屋ヲ破ルノ惨情ヲ呈出スルに至リ
加之彼レ日本ヲ怨ム念ヲ惹起シ後日ニ至ラモ
永リ之ヲ忘レサルに至リ其人を交換スト英氏其國ハ尚
ホ曰怨ヲ記念シ終ニ解ルノ日ヤナラントス御力如キハ
朝鮮人數百一十年前ノ征韓事件ヲ記念シ
日本人ヲ嫌忌スルノ念尚ホ四能ラ「ナシト鑑ミスルハ
アルハカラス

或ハ歐州ニシテ行ヒタル砲殺手殊ニ近頃美國ノ提及
アレキヤレドハ止港ヲ砲撃手シタムヲ引込ム者アリシ
カレ氏余ハ歐州ニテ行フ所ノモノ必ス公正ナリト保証
スル能ハス而シテ日大十ノ限今行フハ規矩トナル

ベシト公言スル能ハザンヤリ

然レモ此ニ於テハ示スベキ事ハ作モ「アレキヤ」ルリノ砲
殺手タル既ニ行ヒタル暴挙ニ對シ其怨ヲ報シタルノミ
ナラズ蘇士埠リヲ妨阻シ且人民ヲ煽動シテ歐人ニ
抗セシソニガ爲ニアラヒハヤ「ノ」設メタル武備及砲臺
建築等ヲ停止セシメソノ手續ナリキ

最後ノ照會書ニ於テ戦争ヲ以テ威迫スルヲ及ヒ
港リ砲殺手スルヲ目的トスモノハ良策ニ非ザンヤリ
論ニ来リテ今尚ホ前ニ記載セルヲ手續アリ得テ
日本政府ノ要求スル処ノ賠償ヲ保シ且ソ
及ヒ朝鮮ニ駐在スル日本人ノ平安ヲ保持セシ
メノ開港場等ニ於テハ其ノ要処ヲ一時占有スルヲ
強迫スルヲ及ビ其他右ノ目的ヲ達セシカメノ所

第三編 附ノ卷

(一) 主朝鮮日本軍艦長(甲)及日本政

府(乙)ハ如何ナルヲ生シテ人可ナルヤ

(二) 其ハ告書ニ准レテ向ツテ必死スベキヤ

(甲) 艦隊ヲシテ
(乙) 日本政府ヲシテ

(三) 其ハ告書式ハ如何

(一) 此問題ニ付最モ重要ナルハ日本が全面出兵

ノ性質ヲ局外ノ各國ニ確報シ其目的外ノ事ヲ

想像セシサルヲ是レナリ故ニ若モ出兵自的タル

現時及ビ将来ノ本國ヲシテハ在テ他意アルニ非

サレバ清國ヲシテ日本ニ開戦ノ意思ナキヲ明知

スレバ且之ヲ備用セラルヲ要ス然ルハ清國

必ス主權ニ對シテ如何ナルヲ主張スルニ

一 大 概

此ニルベシ去レ民之ニ及シ朝鮮ニ對シ發生宣戰

ハ奉ニ及ハ清國ハ必ス朝鮮ニ對シ宣戰スヘシ鄰

邦ヲ以テ之ヲ牽スルニ盡シ清國ハ日本ヲ最後ノ

照會ヲ書リ投タル前ニ投テ早ク既ニ日本政府將來

ノ意思ヲ預知スルナリ之ヲ日本政府ノ目的ヲ果テ

安寧ヲ計ルニ在ルヲ知ラ清國ハ日本ノ要求ヲ

承諾スルナリ朝鮮ニ對シ警告スヘシト英日若シ日本ノ

目的ハ朝鮮ニ對シ侵略ヲ為スルニ在ルベシト察知スルニ於テハ

清國ハ直ニ日本ニ抗議スルニ至ルヘシ

又最後ノ照會ヲ投スルノ際ニ於テ若シ朝鮮ノ

港内ニ英日米露佛等ノ軍艦ノ碇泊スルナリハ

其書ノ趣意ヲ通知スルナリ要求スナリ之ヲ

通知スルニ必スモ朝鮮ト條約ヲ締結スル國ニ限ル

ニ非ズ但シ英米兩國ハ一カニ通知スルヲ要ス
又各國ニ通知スルニ「日本艦隊ハ若シ万ノ事
ニ及ラズモ他國ヲ損害セザラシム」ニ注意シ尤分
其用意ヲナシタルト見ツ他國軍艦ニ於テモ
可成危險ノ場所ヲ避クヘキト注意アリ度ナリ
以テスベシ

(甲) 右公告書ハ日本艦隊長ヨリ他國ノ軍艦
長ヘ宛送附スベシ而シテ清國軍艦長ヘ送ル
モノハ日本文ヲ用ヒ他國軍艦長ハ英文亦ハ
併文ヲ以テスベシ

(乙) 又日本政府ニ於テ未タ最後ノ照會書ヲ送ル
サルニ當リ到底其處分ニ出テサル一ツカラサル
ノリ
預定ニタル時ハ先ヨリ東京駐劄スル各國公使

内ニテ廿國ノ軍艦既ニ朝鮮ノ海港ニ在ルモノ又
朝鮮一軍艦ヲ送達スヘキ國ノ公使ハ半公使ハ
書簡ヲ以テ日本政府ノ決意及ヒ其目的ハ決シテ
朝鮮ヲ侵襲セシムルニ非ズ唯モ果シテ一賠償
ヲ要求スルニ外ナラサルヲ通報スベシ
愚按ニ此レ今日ヨリ日本政府ニ於テ行フテ
可ナルヘキ一策アリ而シテ時ニ之ヲ実行スルニ於テハ
實ニ好果ヲ生スヘキ政略ニシテ現今日本ノ舉
動ヲ窺フ処ノ政略諸國ヲテ日本ノ爲メニ
同感相憐ノ情ヲ發起セシムルニ足ルヘシ蓋シ
日本政府ニ於テ或ハ既ニ此件ニ注目セズバカ
知ラズモ愚按ハ策略トハ昂テ日本政府ヨリ
其追外公使ト一ノ覺書ヲ送致シ之ヲ

英駐劄スル此ノ政府へ通知セシタルニ在ルナリ
而シテ其書中ニ曰韓条約締結以來西國ノ
間ニ起リタル事情及ヒ在韓日本公使館ニ
對シテ行フタル暴行等並ニ清國政府ヨリ日本
政府ヘ送りタル苛怪ナル照會及ヒ之ニ對シタル
日本政府ノ回答、日本ノ國旗ニ對シテ為シタル
失敬ノ賠償、殺害ニ逢ヒタル日本人民ノ家族へ
交付スベキ償金、及ヒ其地ノ費用ヲ要求
スルノ目的ヲ陳述シ而シテ日本ニテハ彼地ヲ侵
犯シタル畧取スル意ナシト云々若シ彼レ日本ノ要
求ヲ承諾セザル場合ニ於テハ現時及ヒ將來日本
人民ノ安寧ヲ保護スル為メニ相當ノ處分ニ
及ハサルヲ得サルベリ且ツ要求ノ諸件ヲ実行セシ

カゾサ保証ヲ彼ニ要スル事トハシ等ノ事ヲ
モ併テ報知スル可トス而シテ^下右知事^上者^下ヲ郵
送スルニ在リ六週間ヲ要ハルカ故ニ先ツ電信ヲ
以テ其大意ヲ達外公使ノ一名^(即チ左巴里公使)
ニ通知シ而シテ其公使等他國僚へ報知セシ
ムハシ是レ一通ノ電信ニ事足り大ニ費用ヲ減
省スルノ良策ナルハシ

但シ日本公使ノ駐在スル各國政府 其覺書ノ与リ
与ラベキヲテ公使中ニ記載スルヲ勿論ト知ルベシ
(中三)日本艦隊長ヨリノ公告書及日本政府ヨリ
東京在留各國公使ニ報知ノ書式ハ乃々
C号附録ニ譲ル

叶四疑問ノ答

但シ清國艦隊長若シ日本兵士ノ上陸ヲ
拒絕シタルハ日本艦隊長ヲ以テ書
及ヒ其處置振ノ件

右ノ問題ハ尤、通り交換スモ不都合ナカルヘシ
日本政府ハ万一ノ事ニ備ヘカメシテヨリ
預メ艦隊長一人シテ通りヘキヨリ返
及ヒ其處分方ハ如何

但シ艦隊長ハ政府ヨリ受ル所ノ命令及ヒ

内達書ニ從ヒ事ヲ處スヘキハ無キナリトス

今茲ニ論スル場合ノ点ニ達スルハ日本政府ハ其
名義ニ利益ニ對シ最早ヤ其ヲ退クテ能ハサル
ハ疑フ容ニサルヤリ之ヲ換言スルハ清國ノ抗
ニ拘ラス勢ヒ斷行セザルヲ得タルベシ然レバ

場合ニ備ヘンガ為ノニ致ソ艦長ト与ヲヘキ命令ニハ
清日艦隊將ニ戦端ヲ開カサルヲ得サル勢ニ至ル
モ日本軍艦ヲ突砲ヲ初メサル機堅ク注意
スベキ上ラ以テスルニ在リ是レ事ノ破ルモ其本質ヲ
清國ニ歸セシムル良策ナリ

假ハ韓地一兵士ヲ上陸セシメント決議シ日本軍
艦ヲ兵士ヲ上陸セシメント上陸セシメントスルニ
際シ若シ清國ノ軍艦ヲ上陸シタル日本ノ兵士又ハ
軍艦ハ對シテ突砲ニ及フガ或ハ爆撃物ヲ投スルニ
於テハ朝鮮港内ニ海軍ノ戦場ヲ現出スルニ至ル
ニシ

若シ斯ノ如クニシテ戦端ヲ開クニ於テ後ノ報知ヲ
得タル外國ノ軍艦ハ容易ニ其時ノ実情ヲ察

彼レ且ツ之ヲ傍觀ニテ關係スルヲナカルヘシ加之
肉戰ノ始末ヲ目撃シテ必ス日本ノ爲メニ同感
相憐ノ情ヲ起スヘキハ疑シ容レズ

思フニ日本艦隊長ハ清國ノ抗拒ニ拘ラス上陸
スヘキ嚴命ヲ受ケレトハアルサルヘシ然ルモハ假
令セテ清國ノ抗拒ニ逢フモ輕率ヲ謹ミサ不
當ヲ責メノ所レテ結局ノ處分ヲ本國政府ニ
トセウヘキ丁ラレテ時日ヲ延遷スヘシ是レ矢士ト
軍艦ノ援勢ヲ本國ヨリ得ルハ好手也ヤリ
今一步ヲ進ソテ云ハシ假令之ハ艦長ハ預ソ上陸ノ
嚴命ヲ受ケリトスルモ若シ其命ハ下リレ後ニ
至リ清國ノ艦隊來着シ其勢頗ル盛ニシテ
兵ヲ交スモ勝ヲ制スルノ見込ナキ時ハ當ホ前

同様嚴正其處置ハ不正ヲ非難シタル後本國
政府ハ指令ミラントヒ上陸ヲ見合スラヲ嚴モ良
策トス日本政府ハ危峻ノ場ヲモ侵シ其兵ガ
試ミシムルノ權ヲ艦長ヘ与フルカ如キ有ラ
又艦長ヲシテ門ハサレハ政府ノ命ニ背キ門ヘハ
必ス敗ルカ如キ危難ノ場合ニ遇ササルハ予ハ信
疑ハサルナリ

余ハ今茲ニ前ニ指示シタル件ニシテ且ツ疑問中ニ
挿入ナキ論題即チ如何ナル場合ニ當リ最後
照會書ヲ送ルヘキヤノ事ヲ論セントス鄰界ヲ
以テ之ヲ考フルニ其時機ハ是日午ヨリ充分ナル
軍艦ヲ韓海ニ屯集セシメ直チニ兵士ヲ上陸
セシメテ照會書ヲ実行ヲ要求スルヲ得ヘキ時ニ

アルハレハ是處置シ取ルニハ尚キ數週間ヲ待ツモ
未タ晚コトセザルナリ至無シ其間ハ彼ノ政府トノ
談判及ヒ各國政府ヘ送付スヘキ覺書ヲ編
成ニ用ユルヲ得ヘキナリ

名称	井上馨文書
標題	朝鮮政略三ヶ条答復書 小川平吉文書

分類 番号	67 ² ₁₈
	4'

(330-2) 複製

登録 番号	
----------	--

名称	井上 馨 文書
標題	朝鮮使節ト在上海澳國総領事館解送(解送11月) 朝鮮不氏 不接筆略 朝鮮使節ト澳國上海領事ハース氏ト不接筆略

分類番号	672
	5

24

登録番号	264014
------	--------

264014

28

昭和29年 9月3日

明治十五年十二月七日朝鮮使節ト

王上海陸軍總領事代理ハリス氏

接筆書

双方礼了り

ハリス氏 近日競馬見物ノ為ノ演ニ行キノ草一馬同

一車亦本拙者名利ノ上置キ

使然リ其草一馬面會中多事一も覚え

其後ハ尚無事ニ

ハリス氏 難有ニ 至下ニ其草一馬見リ謹賀ノ

ト各

至り此由拙者所航以來日本人ノ厚遇シ

受ケ満足ノ思ヒ也而今日ハ斗カラスモ亦

吾下ヲ振スルヲ得幸栄ノ至リナリ

使 拙者ニ於テモ亦悦ビシ

ハリス氏 當久ノ日本ノ事情ノ當ノ所積リナリヤ

使 吾用事滿洲牙本月中ニ歸ル致ス

心得ナリ

ハリス氏 此度貴國ハ俄國ト交セラルベシ

諸國ト牽引ヲ締結セシ實ニ祝賀ノ至リ
ナリ尚ホ諸外國トノ交際ヲ更ニ擴メ
ベキハ勿論ノ事ト思考シ且然ラセテ
拙者、於テモ希冀致シタリ

使難有シ英國ニ於テモ其積リタル

ハース氏然ラハ鄰國ニ於テモ同盟國トモ本交

際ヲ親密ニ致シ度ク在モ牽引ヲ尊ハ

直捷貴政府ト密判申上度キ

使

尤様ノ都合、多分、藥國ハ勿論拙者ニ

於テモ實ニ幸、栄、存、尤モ此度莫キ

虫ト強、強、強、其、我政府未タ外交、

馴レサルが故、清國ノ紹介、依ッテ強

強、強、強、今時ハ外交、存、多、少、強

強、強、強、付、直接、金、強、強、強、

一、コソ、我カ希望、強、強、強、

ハース

如貴説米英、清より紹興より貴國へ
猶好う猶ヒサリナレバ獨乙國ハ其公使
より直ちに貴國へ送り直接ニ条約ヲ
締結サレシニモシヤ

使

否、英半ノ提督樊玉ハ未リニ清王

官吏ノ紹興より強迫致シ其後独公使ノ

樊國へ派航ノ事ハ清王ノ友久居

リシカ故同友久ノ事居御停ニ条約ヲ

取結シテ、少々去後來、直接、致方
リ殊、貴王ト猶好ヲ辨リ、節ハ貴官
女全權ヲ掌ヒテ、所来、配アリハ幸甚

ハリス氏、時言葉ノ程、難有シト去、拙者ハ元来

微友ノ者、言上、悔、強、領事代理致

度、府中々貴王ト強、御ノ節ハ全權ヲ

有ス、位置、多ク、何レ、女、節ハ全權ノ大

官ヲ、我、以、府、司、派、出、ス、事、ハ、ト、存、ス

尤モ其附屬左トシテ貴王ニ系リ交存ス

使
去ハ何ノ事役ニテモ未航アリテ再會ノ

榮ヲ得新翼也致也

ハリス氏拙著ハ今日上悔ノ任処ニ歸航致ス付

君下若シ上悔ハ思出テノ草ハ諸方更誘

道寸ヲサ尤モ上悔ハ横濱ト云リ英半

佛著居留地ヲ区分シ自ラ独立ノ次ナリ

現ニ其市街モ清人ノ市区ト全ク別物ナリ

二
歐洲諸國獨立ノ一証ヲ見ルニ足ルベクト存ス

使
上海ノ方ニハ安ホ強ノ機會有ラズ

且
少シノ行クヲ希セサル場所ニサレ

歐洲ノ一証ニ其政体凡交又執著ラ目録

致フコソ
安ホ切生ス所ニサ

其他雜アレ
凡署ス

名 称	井上 馨 文書
標 題	朝鮮=関心意見書 朝鮮=関心意見書

分 類 番 号	672
	6

28

国立国会図書館

登録番号	264014
------	--------

韓文 山井

62
12
128

朝鮮 = 関ス 意見 書目

明治十三年
壬午軍乱當時のもの

一九二一年二月

山井 記

從來日本の朝鮮ニ在リル關係及ニ朝鮮ノ支那
 ニ在リル關係ハ如何ト并ニ第四ノ事變ニ付キ
 日本政府ハ朝鮮ニ對シテ指解シタル處置及ニ
 支那政府ノ舉作如何ハ既ニ昭然セリ所ヲ以テ
 十分判識スルニ至ルヘシト信スルヲ以テ我軍
 ハ茲ニ聊カ我軍ハ所見ヲ論述シ以テ亦尤モ果
 然ト當路者ノ參閱ニ供カント欲スルナリ
 抑モ日本ハ千八百七十六年ニ於テ朝鮮ト交際
 條約ヲ締結シ以テ自主ノ邦ヲ得テ推テ以テ

シテ後互ニ公使ヲ派遣シ以テ交際事務ヲ辦理
セリ公法ニ依テ振スルニ自主獨立國ニアラサ
レハ他國ト和親條約ヲ結フハ權ナク一般ニ半
主半屬國ト稱セテ此ノハ概テ列國ニ對
シテ和親條約ヲ結フハ權ヲ有セサルナリ故ニ
公法ニ於テハ苟モ外國交際此種國ト條約ヲ結
ビ往來事ヲ行フハ全權ヲ有スルモノ當之ヲ
自主獨立國ト認ムルナリ而シテ日本ノ朝鮮
ニ和親條約ヲ締結スルニ當テヤ日本政府ハ特
ニ北京駐紮ノ公使ニ節シ清政府ニ告ルニ明カ

ニ其趣意ヲ以テセシメタルニ清政府ハ朝鮮ノ
自主全權ニ涉シ一モ之ニ干渉シ之ヲ沮リ言
行アラサリシ清国政府若シ朝鮮ヲ十分ハ屬国
トナシ其外交ハ推シ管制スルハ意アラハ其間
必ス異議ヲ挿シ或ハ其和親條約締結ノ事ニ干
渉スルハ其意ヲ以テ清政府ハ其朝鮮ヲ屬国ト稱
スルニ拘カス事此ニ出テ其意ヲ即チ其屬国
ト虚名ヲ進貢封冊ニ繫維シ其外交ノ事ハ至ク朝
鮮ノ自主全權ニ任スルハ本意ナルヤ明ナリ故
ニ朝鮮政府ハ日清ト交際條約ヲ締結スルニ於

テ毫毛其土國ヲ欺瞞シ其權域ヲ犯シテ擅恣ノ
挙作ヲ為シタルニ非サルナリ況ハヤ清政府が
朝鮮ノ内治外交ヲ以テ至ク其自主ニ強スルコ
ト他ノ事實ニ依テ歴々之ヲ証スルニ足ルヤ
詭者ハ既ニ知領セシナラシ本年東國ノ新ニ朝
鮮ト條約ヲ締結シタルハ至ク清政府ノ紹介ニ
出テ其條約草案ノ如キモ清政府ノ手ニ成リシ
モノナリト稱セラル、者ナリ然ルニ其最初ハ
東京ニ在リ内治外交ハ其自主ニ歸スルコトヲ明
セリ即チ其文面ハ凡ノ如シ

朝鮮為中國所屬之邦、而內治外交歸其自主、予
大朝鮮、美國彼此明允定議、大朝鮮國主允此條
約內各款、極自主、公認必要語、真照韓、大美國主
允照明朝鮮國為中國屬邦、嗣後永遠不相干預、
而レヲ求國ニ施テハ此條款ニ異議アリ既ニ丹
波外交ヲ自主全權ヲ有スルハ國ニモテ他國ノ
屬邦ツルヲ條約書ニ揭記スル可ノ不可ヲ論
レ遂ニ之ヲ剖琛シタルハ因リ朝鮮國王ハ乃テ
舊韓ヲ米國大總統ニ贈リ特ニ朝鮮ハ清國ノ屬
邦ナルヲ明言スルヲ知ル、一歟ヲ補フハ期

望シタリト云ハ然レニ書翰ト約條ト條款トハ
大ニ其性質及効力ヲ異ニシ同日ニ而立スヘカ
ラサルハ言テ誤クサルナリ

茲ニ一ノ問題ハ内治外交ニモナリ主權ヲ保
有スル國ニシテ其眞實ノ事アリ且ツ自ラ屬
國ナリト公認スル者公法上ニ從テ之ヲ何等ノ
國ト認ムヘキヤト云フ然レトモ是ハ誠ニ
見易キノ疑問ニシテ苟モ公法ニ通スルモノハ
容易ニ之ヲ説明スルヲ得ハキナリ

他國ノ保護ヲ受テ及他國ニ進貢スル國ニシテ

其並國ニ對スル關係ハ大別シテ凡ソ二種トス

第一 一國若クハ數國ノ保護ヲ受ケ又ハ他國ニ進貢ストモ或モ國際上一國ノ待遇ヲ保存スル者

第二 他國ノ保護ヲ受ケ國際上一國ノ待遇ヲ失フサル者

今朝鮮ノ清國ニ於ケル者ニ種ノ中衆シテ何種ノ國ニ屬ストスルカハ外交其自主ニ歸ス國際上一國ノ待遇ヲ保存スル者ニ屬スシテ何カヤ

ヒリモ、ル氏公法第六十五章ニ曰ク、所謂ル他
国ノ保護ヲ受クル者モ、公法上一国タル体面ヲ
存有スル国トシ、其保護者ノ意思ニ拘ハラス、專
ラ他国ト談判ヲ開キ、兵ヲ交ヘ和ヲ議スルノ權
アル者ヲ云フ。故ニ他国ノ保護ヲ受クル國ニ
於テ苟モ此權ヲ保存スル中ハ其保護者ノ勢力
如何ニ拘ラス、必ズ之ヲ歐洲列國中一ノ獨立國
ト視認セサルハカラズ。

若レ夫レ第二種ノ國ハ其保護者ノ承認ヲ得ル
ニ非サレバ他國間交渉談判ヲナシ又ハ宣戰媾

和ヲ為スヲ得サレモノニシテ朝鮮、如クハ治
外交、自主、全權ヲ保有スル者、類列スヘキ者ニ
アラサルナリ

且、其進貢ノ事、如キ主權ヲ保有スルニ施テ毫
モ妨グナキモ、ナリ。但シテル氏公法第一章第
七節、未段ニ云ヘルアリ曰ク進貢ノ事、往時
在テハ殆ト一般ニ行ハタリ弱國ハ之ニ依テ
隣強ノ壓制ヲ避ケ又ハ其保護ヲ受ケタルナリ
然レトモ其進貢セルカ為メニ毫モ自主國クル
ニ損スルヲナレト朝鮮、清國ニ進貢スルヤ為

ノ其自王國タルノ列位ヲ獲スルニ足ラサル
ヲ知ルハナリ

茲ニ世人ノ最モ難スル所ノ疑問ハ朝鮮ノ内治
外交ノ事全ク其自主ニ歸シ自善全權ヲ以テ他

國ト條約ヲ締盟スルニ關セス一方ニ旅支ハ自
ラ清國ノ屬國ナリト明言スルハ然ニ在ルガ如

ク此疑問ヲ解セシムハ自主ト隷屬トハ抑モ兩
立スルナキ性質ノ者ナルヲ考究スヘシナリ

シト氏云ヘルナリ國ニ平等^性實アリ即チ自主
獨立平等是ナリ此三者ハ必ス相待テ成立スル

列ノニテ名別箇ニ存立スル能ハサルモノナリ
其故ニ既ニ自主ト云フハ一國獨立ニ他ノ
國ニ隸屬セサルヲ要ス然ラハ朝鮮ハ一方ニ獨
立ニ自主獨立平等ヲ推テ以テ他ノ獨立國ト交
際條約ヲ以テテ分ク自主權ヲ保有スルト同時
ニ又一方ニ於テ清國ノ屬國ナリト稱スルヲ得
ルヤ蓋シ朝鮮ハ朝鮮ニテ稱スルハ蓋シテ然
レ也此ハ公法ノ總意セザル所ナリ且レ承國
條約條約原案第一款ヲ前條ニ出所スル可

也

一

六

文

七

唯夫ノ進貢国ハ其主權ヲ有シテ他国ト條約締
盟ヲ為スル通ズルモノナリ但シ其進貢国ニシ
テ何故ニ他国ト條約締盟ヲ為スニ通ズル果シ
理由ニ進貢ノ為ニ其主權ヲ損セザル限りハ縱
令ニ貢ヲ他国ニ進ムト雖モ公法上ニ於テハ其
主權ヲ認メ締盟者国ハ他国ヲ自主国トシテ属
国視セズ以テ條約締盟ヲ為スヲ得ルニ在ルナ
リ

朝鮮ノ地位ハ美ニ進貢国ニシテ屬国ニ非ズ
ナリ其清国ニ於ケルハ關係ニ乏シ事實ニ照シ

及諸國政府、又自、言明、也、所、之、攝、也、毛、漠、然、只、
進、真、一、虛、私、人、下、一、屬、國、一、軍、如、可、存、大、以、其、過、十、
久、也、一、所、指、外、交、率、以、其、自、主、權、立、在、一、丁、一、昭、
明、有、其、所、故、也、日、本、政、府、力、與、回、小、事、例、之、於、
諸、國、既、存、一、以、韓、一、卒、際、半、若、曝、也、一、其、許、サ、ス、專、
步、而、國、間、立、有、一、以、條、約、三、批、一、其、接、也、朝、鮮、政、
府、上、誤、判、一、以、一、而、國、一、交、際、一、維、持、一、其、以、一、之、
一、公、法、一、照、一、事、理、一、問、一、一、是、一、至、高、一、處、置、一、
謂、一、サ、ル、一、得、一、其、一、一、
然、一、一、清、國、政、府、力、與、回、朝、鮮、事、變、一、何、一、一、所、為、

然則清國政府力令回朝鮮事安有付之於人所為

小美ニ前倭逆律ヤク曰家擅着ノ事多シ夫ハ清
政府ハ朝鮮ニ施サレ其内治外交至ク自主独立
ニ任スルハ一朝ノ事ニ非ズ(第一)千八百七十六
年米國汽船及ヒ乗組人ハ朝鮮人ノ爲ニ被害セ
ラレタル事ニ関シ千八百七十一年五月廿八日
清國総理衙門ハ北京駐米ノ米國公使ニ対シ朝
鮮ハ我屬国ナリト宣ヒ其政教禁令ハ至ク自主
独立ナルニ依リ清國ハ関係スル所ニアラスト
善ヘクルニアラズ(第二)千八百七十六年日本
ハ朝鮮ト修好條約ヲ締結スルニ當テ日本政府

ハ將ニ北京駐紮ノ公使ニ命レテ此事ヲ清政府
ニ通知セラル。清政府ハ日本政府ノ朝鮮政府
ト直接相對ノ間ニ條約ヲ締結スルヲ默認シ曾
テ之ニ異議ヲ容レタルヲナキニ非スヤ(第三)亦
年清政府ノ周旋ニ因リテ訂立セタル朝鮮ト英
米独三国トノ條約ハ曾テ批准ヲ清国政府ニ請
フコトアラヌ專ラ朝鮮ノ自主ニ歸セタルニ非
スヤ然ルニ今回朝鮮事變ノ発スルヤ清政府ハ
直チニ兵船ヲ裝メテ道臺島建忠ヲ派遣シ次ヲ
大營ノ兵ヲ調撥シ且ツ總理衙門ハ電報ヲ以テ

日本駐紮ノ公使ニ節シ特ニ日本政府ニ告ケテ
曰ク日本ノ為ニ調停セシト擬ス曰ク朝鮮ニ在
ル日本使臣ヲ護持スヘシト何ヲ一朝其挙動ノ
前日ニ異ナル此ニ至ルヤ

且觀索馬氏ノ兵ヲ提テ京城ニ入り国王ノ父事
是忘ヲ誘獲シテ天津ニ解送シ其罪ヲ訊究シ永
ク之ヲ直隸保定府地方ニ幽閉シ歸国ヲ准サ、
ハ藩分ノ如キハ行政ニ干渉スルハ太甚シキモ
ハナリ何リ其所為ハ定律ナク自家撞着ヲ爲ス
此ノ如クナルヤ

井上
し
間割愛
有

然レトモ我輩が清政府今回ノ挙動ニ付テ怪訝
スル所ハ寧ニ此ニ止マラサルナリ夫レ清政府
ノ優遊緩慢ニモテ事ニ臨ンテ敏捷果敢ナラサ
ルハ世人ノ能ク知ル所ナリ然ルニ今回清政府
ノ挙動ハ其平生ノ優遊緩慢ナルニ似ス要報ノ
達スルヤ直ヤ兵船ヲ裝フテ馬觀察ヲ朝鮮ニ
差遣レ又旬日ヲ出テサレニ六營ノ兵ヲ調遣シ
タルカ如キ其所為、敏捷果敢ナル或ハ発狂ノ
所為ニヤササル無キヤノ觀想ヲ作サセムルノ
狀ハ能ハス是レ最モ怪シムヘキ事情ナリ

蓋レ清政府ノ挙作如此不可思議ニ出テ隨テ自
家撞着ヲ免レサル所以ノモハ亦タ具故ナキニ
非カルナリ清政府一日華人ノ敏捷勇健ニ
果敢ノ気象ニ富ムヲ知ル殊ニ先年臺灣出師
ノ挙ノ如キ及ヒ琉球ヲ屬分シタル事ノ如キ
ニ清政府ヲシテ日本人ノ敏捷果敢ナルニ驚愕
セシナルノミナラス亦幾分カ清政府ヲシテ
或ハ日本人ノ優畧兼併ハ大志ヲ蓄ケルヲ疑惑
セシナルモノナキ非ラス蓋レ清國ノ日歩ヲ
猜疑スルヤ一朝一夕ノ事ニアラス明ク世ニ當

リ日オノ流民五那ノ邊境ヲ侵レ大ニ明政府ヲ
苦シノルカ如キ及ヒ豊臣秀吉ノ朝鮮ヲ征レ
ハ道ヲ蹂躪セ遂ニ進テ五那ヲ征伐セント正テ
クルカ如キ即テ五那人ヲシテ今日ニ至テ仍ホ
日本ノ疑懼ニテ止マサルハ原因ヲ爲セシモ
ナリ故ニ五那人ハ動モスレハ日本ノ猜忌
シ事々疑懼ノ念ヲ揮ハセ至ル是ヲ以テ今回朝
鮮ノ事憂アルヤ清政府蓋シ謂ハラク日本政府
ハ此時ニ乘レ君嚙ノ志ヲ逞テ朝鮮ヲ畧取ス
ル機モ測リ難レ宜ク機ニ先テ着手レ日本ヲシ

其志ヲ達スルヲ得サラシムルノ策ヲ施サ
一、以前カラスト是ニ於テ馬道臺ヲレテ倉皇兵
船ニ坐乗シ朝鮮ニ前送セシメタルモノナリ夫
レ然リ事疑懼ニ充テテ倉皇此國ニ處ス何ゾ前
後ヲ顧ミルニ違フラスヤ而レテ馬氏ニ花房公
儀等ニ仁川港ニ遣電シテ往來面晤スルヲ漸ク
日本政府ノ趣意至ク平和ニ在ルヲ知領シ馬
氏等ノ意向稍々定着スル所アリ其期望スル所
ハ内々朝鮮政府ニ忠告致テ速ニ和平ノ局ヲ結
ハスルニ在リシヤ明ナリ而レテ事疑懼ニ充
テ

か、如キハ、驕虎、勢ハ、究竟止ムヲ、得サルハ、出
テ、其ハ、ハルヲ、知ルナリ、此、如ク、觀察スル中
ハ、予、回ノ、計ニ、関シ、清政府、所為、前後、是、律ナク
性々、自家、撞着ヲ、免レサリシモ、亦、少、慚ク、怪ムニ

至ラサルナリ、果シテ、然ラハ、清國、朝鮮ニ、劣スル、以、易ニ、當テ、平
昔ト、異ナルナリ、其ハ、此ヲ、スル、一、時、其、後、其、力、ニ、ナリ、ト、決シ、勢、ハ、遂
清政府、内情、ヲ、知ル、ナリ、其ハ、果シテ、一、時、其、後、其、力、ニ、ナリ、ト、決シ、勢、ハ、遂
此ニ、至リ、タルニ、過キサルナリ、其ハ、果シテ、一、時、其、後、其、力、ニ、ナリ、ト、決シ、勢、ハ、遂
如ク、ハ、サ、ルナリ、其ハ、果シテ、一、時、其、後、其、力、ニ、ナリ、ト、決シ、勢、ハ、遂
清政府、ハ、敢テ、朝鮮、ノ、内

若ニ、干渉シ、此、舉ニ、乘ンテ、其、属邦、タル、ノ、美ヲ、爭

ゲント、欲スルカ、如キ、趣意ニ、アラサルナリ

然レ、此、清政府、ハ、意ハ、俄ニ、朝鮮ニ、對スル、政畧ヲ

変更シテ同ノ事案ヲ好機ニシテ其属邦タル
 實ヲ争ヒント欲スルニ在リトスルヲ我輩ハ清
 國ノ爲ニ取ラサル所ナリ予ヤ朝鮮ノ情况ヲ察
 スルニ米英独ノ如キ國ハト既ニ新ニ海條約ヲ
 訂立シ此等諸國ノ人民カ朝鮮ニ入込ルノ日ハ
 將ニ近キニ在ルヘシ而シテ予ハ軍民ノ開國
 ヲ喜ハス外國人ヲ敵視シテ動モスレハ之ニ無
 礼ヲ加ヘントスル者ナリ朝鮮政府或ハ將ニ是
 ヲリ多事ナラントス然レニ清國ハ仍ホ其属國
 タルノ名義ヲ以テ一々之ニ關係シ朝鮮ハ爲メ

謝罪ノ處分ヲ行ハシメントスルカ且ツヤ若
シ一朝事意外ニ出テ兵カヲ以テ朝鮮ヲ護持セ
サルヲ得サルニ至ラハ清國ハ全國ノ力ヲ擧テ
十分ノ保護ヲ加ヘ以テ其屬邦タルノ實ヲ保タ
ントスルカ是レ寔ニ清國ノ爲ニ危害ノ策ニシ
テ到底國難ヲ招クモノナリ故ニ今日清國ノ爲
ニ計レハ巨ト東洋ノ大局ニ着眼シ猜忌ノ心ヲ
去リテ日本ト段同シ臣等處邦ノ要名ニ着意セ
スニテ斷然朝鮮ヲ自主權立ノ國ト爲シカテ我
等身其權益ヲ保護スルノ點ニ出テサルヘカラ

不、是、上、清、国、ノ、安、寧、ヲ、保、チ、東、洋、ノ、大、勢、ヲ、維、持、ス、
ル、ニ、施、テ、第、一、緊、要、ノ、方、策、ヲ、ル、ヲ、信、ス、コ、ト、ナ、リ、

名 称	井上 馨 文書
標 題	朝鮮國憲法三訂本 朝鮮國憲法草案 朝鮮國憲法草案 朝鮮國憲法草案 朝鮮國憲法草案 金 哲 圭 見書

分 類 番 号	672
	7

国立国会図書館

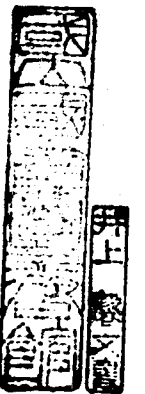
登録番号	264014 264012
------	-----------------------------

264014

昭和27年 9月3日

朝鮮國異変仍
リ今般清國ヨリ属
國云々照會ヲ蒙見

今般朝鮮國異変ニ付
清國政府ノ所主ニ總テ
迅速ニ出テ使節ヲ派ス
ヤ軍艦ヲ發スルヤ陸
軍兵ヲ出スヤ實ニ思
想ノ外ニ出タリ其意ヲ
推測スルニ朝鮮國ヲシ
テ清國附庸國ト宇内
ニ明称スルニアルハレ



此表報前或人當時清
國公使黎庶昌ト筆談
ニ及公使云フ「若朝鮮
外國ノ事アルキハ我國必
ス之ヲ赴援スヘシ成敗利
鈍ハ豫メ計ル所ニアラス云々」
專ラ露國ヲ
以テ憂フル由ト朝鮮國ハ清
國咽喉ノ要地確認スルトコ
ナルヘシ

一若清國前件推測、如
キ意有之ニ於テハ我國
之ニ應スルニ結局干戈ヲ
動スヲ以テ目的トシ豫メ
今ヨリ戰備ヲ整フヲ急
務トス

一石日清國政府ヨリ必ズ朝
鮮ハ我國屬國云々ヲ以

答フルニ案外ノ俊ク愕
然ルニ抑貴國ハ朝
鮮國國初ヨリ今日ニ至
リ如何ノ關係ナリレヤ詳
ニ承知致シ度ト云彼
返答素ヨリ豫言スヘ
カラス雖トモ同國同ノ関
係詳密ニ弁解スル
ヘシ我之ニ答フ貴國ト
朝鮮ト如北盟約アリ
シモ今始テ聞知セリ
然レトモ明治某年我
政府ト朝鮮政府ト盟
約シナレタル故彼必獨立
シ以テ稱セリ然ル時ハ

朝鮮政府。我政府ヲ
誑欺スルモノト云ヘシ其曲
直我ヨリ朝鮮政府ニ
糾問シ遂ケタル上ナラデハ
貴國へ一言答辨スル
道ナレ且我國朝鮮ト
約ヲ結テヨリ既ニ何年
ノキヲ経ル此年同朝
鮮政府ヨリ我ト盟約
セシメテ貴國政府ニ通
知セサルヤ貴政府今始
ニ聞ク所ニ歟ル不審ナリ
又コニ戸主ナル父アリ
ソノ子言フ吾父ナレ吾今
戸主ナリト稱シ他人ヲ欺
キテリ

彼國孔孟ノ教ヲ以テ成リ立
タル國ナレハ先ツノ問ヲ爲シ

其答弁
ヲ聞ク

此場合ニ於テ貴

國何等ノ對シ以テスルヤ

今朝鮮國貴國ニ對シ

如此所主ナリ仍テ貴國

ヨリ朝鮮ヲ處スルニ何等

ノ所分シナスヤ若聞得ッ

トシ許サハ幸甚

清國政府我國ニ詰問スル

ヨリモ先以テ朝鮮國父ヲ

棄タルノ罪ヲ問ハスニバアル

ベカラサル理アルカ如レコレ

等ハ譬云ニレテ佗ニ事ヲ托

シ清國政府ト即今直接

談判ニ涉ラサル方得策

タラシカ甚故ハ近比新ニ

朝鮮ト條約取結ヒタル

米英佛獨四ヶ國愈獨立
シ以テ朝鮮ヲ認ムルニ決
スルトキハ我清國ト兵ヲ
交ヘサルニナラス怨ヲ買
ハズレテ大勝ヲ得シリト云ヘ
シ剩ヘテ朝鮮屬不属
ノ論點帰スル所ヨリ院
陳ノ事件モ併テ不言ノ
中ニ消滅スヘシ仍テ各國
政府ノ意見見探知スルヲ
急務ニシテ外務省ノ盡力
最緊要ナルヘシ

佗日清國政府ト

談判ノ旨用意

一談判ニ付ソノ條件ヲ理
由百端アレモ先以テ取
調置ヘキ箇條尤ニ

一台湾ノ役談判ノ節清
國政府答辯

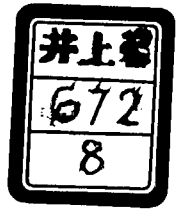
一雲揚艦江華湾ニ於テ
砲撃ヲ受セル節清國
答辯

一先年佛國船朝鮮海ニ
於テ砲撃ヲ受セル節
佛國ヨリ談判清國答
弁 公使ノモノナルヤ否

一先年米國船朝鮮海ニ
於テ砲撃ヲ受セル節米國
ヨリ談判清國答弁

一安南佛蘭西兩國之間
於之清國より屬國たる者
佛國へ談判したる類は并
如何相成しや
此等其偽承
知不致

又先年琉球國と米佛兩
國共ニ琉球國獨立を以テ
盟約せり其後我兩國へ
談判琉球ハ我附庸國たる
を以テ久彼承諾せり此件
ノ始末



39. 1. 29

63319

械室第四節

馬氏帰郷之事、及至他數件、韓人より傳
す。傳、是、報、付、呈、多、交、布。中、四、部、義、法、堂
より、表、世、凱、より、寸、取、無、交、より、テ、馬、氏、の、友、に
功、より、以、テ、海、軍、道、を、升、轉、改、し、(是、迄、に、避、選、道、
ナリ) 吳、長、慶、に、輕、車、都、尉、を、叙、し、丁、汝、昌、に、吏
馬、補、より、お、領、し、其、他、數、名、一、回、叙、爵、賞、統、治、の、
之、無、ヨ、シ、と、付、過、し、便、申、進、め、馬、氏、放、職、の、義、に、
傳、ト、存、矣、

又、借、債、の、事、に、急、宜、切、ニ、シ、テ、乃、今、十、二、年、賦、年
ハ、鉄、の、利、子、より、五、十、萬、テ、一、ル、ヲ、清、國、より、貸、與、改、
答、し、已、シ、(日本、の、債、金、を、是、より、返、へ、サ、ス、清、廷、に、見、
込、ノ、ヨ、シ、)

又清廷より命ヲ異擄解フニ下シ勒解兵を千
人ヲ選定ス其方今五千人已ニ成立其由右
兵ハ清師ヲ襲ノ帽服ヲ着用為改修ヲ清ノ
士官ヲ以テ訓練改修尤モ右彼ハ清政府ヨリ
贈リ與ヘシ明治世一日上海行ノ船便ニテ服ヲ没文
改修無趣ナリ將全國ニ服制ヲ改ム云々ノ件
ハ未ダ確説ヲ不為特ニ探索改シ是報存候
也

明治十七年十月三十日 臨時代理ニ任近藤正典

外務卿井上馨殿

逕テ此レヨリ中々貴清政府進物ノ大砲二十門
銃ハマルテニ一千挺ニ付事候

心

岩倉

○

○

馬

集

朝鮮ニ向テノ政畧ニ付テハ度々閣議ヲ經珠

聖上ヨリ東洋全句ノ平和ヲ目的トシ時機ヲ料度シテ

國家ノ害ヲ招カザル文ケノ幫助ヲ與エルトノ 趣旨ニ

有リ因テ熟考スル朝鮮ノ獨立ヲ幫助セント欲セバ彼レ

ノ心ヲ收攬セザル可カラズ彼レノ心ヲ收攬スルハ數分カ彼レ

ノ倚賴ニ應セザル可カラズ然ラザバ彼レハ我カ幫助ノ心有

ルヲ認明スルニ由ナク倚賴ノ念ハ隨テ消滅ニ付シ已トテ得

ズ清國ノ鼻息ヲ仰キ終ニ其ノ獨立ノ志願ヲ達スルヲ能ハ

ザルベシ但シ其ノ幫助ノ方法ニ至テハ勢ヲ料リ機ニ應シテ

之ヲ施スベキモノニ付今日預決ス可カラズト雖此之ニ當ツルノ

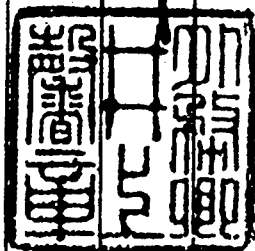
費用ハ預メ其ノ限量ヲ定メザルヲ得ズ今度ノ填補軍費

金ハ頗ル過重ニ似タルトノ物議モ有之ヲ付其内二十萬圓ヲ

彼レニ惠與スルノ目的ヲ以テ之ヲ補助ノ金額ニ相當ナル方
ニ於テ右ノ目的相立テ及上ニ其ノ施行ヲ拙官ニ仰付任
命スルハ此ノ時機ヲ見計ヒ或ハ金ヲ以テ或ハ器械等ヲ
以テ補助ノ使用ニ供給シ可及丈クニ籌畫ヲ試スル也
右ハ要件ニ付速ニ所内決ヲ仰付也

明治十五年十一月七日

井上外務卿



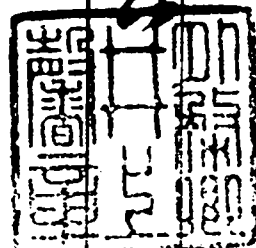
三條太政大臣殿

親展

在金山南面田餘畝之被地之性情堪供
為耕之田數畝其地之白如雪之田為田
者上中地也

以金山南面田餘畝之被地之性情堪供
為耕之田數畝其地之白如雪之田為田

太政大臣之墓



八月初五日諭音

傳曰。維我東方。僻在海隅。未曾與外國交涉。故見聞未廣。謹約自守。五百年。挽近以來。宇內大勢。迥異前古。歐美諸國。如英。如法。如美。如俄。創其精利之器。極其富強之業。舟車通于地毬。條約聯于萬國。以兵力相衡。以公法相持。有似乎春秋列國之世。故以中華之。獨尊天下。而猶然平等立約。以日本之。嚴於外洋。而終亦交好通商。是豈無自而然哉。誠以勢不得已也。肆我國。亦於丙子之春。重講日本之好。許開三處之港。今又與美英德諸國。新定和約。事係創有。無恠乎爾士民之疑且謗也。然交際之禮。均係平等。則揆以義理。無所碍也。留駐之意。本在護商。則泰以事勢。亦

無虞也。交隣有道，揭在經傳。而迂津之儒，徒見宋朝和意之誤國，妄為援譬，輒付作和之論。一何不思，人以和而來，而我以戰而待，則天下其將謂何如國也。孤立無援，生繁國鮮萬國，致衆鏃之交集，自分敗亡，而不小悔恨於義果，何捷議者。又以聯好西國，謂將漸染邪教，此固為斯文為世教深長慮也。然聯好自禁教，自禁教立，約通商，只據公法而已。禮不許傳教內地，則甬等素習孔孟之訓，久沐禮義之俗，豈或一朝捨正而趨邪乎。設有愚夫蚩氓，潛相傳習，則邦有常憲，誅強不赦，何憂宗廟之無其術也。且見器械製造之稍效西法，則輒以染邪目之，此又不諒之甚也。其教則邪，當如淫教、美色而遠之，其器則利，苟可以利用，厚生則農桑，蠶織、禁甲兵舟車之制，何憚而不為也。作其

教而效其器固可以比行而不悖也。况強弱之形既相懸絕，苟不效彼之器，何以禦彼之侮，而防其覬覦乎？誠能內修政教，外結隣好，守我邦之禮義，效各國之富強，與爾士民共享昇平，則豈不休哉？乃者習見難化，民志靡定，遂有六月之變，失信隣國，貽笑天下。國勢日以岌岌，賠款至於鉅萬，寧不寒心？日人之入我國，何曾虐我侮我，有乖和好，而特以軍民之妄生疑阻，積懷憤怒，有此無故而先犯。爾等思之，其失在誰？今幸辦理粗定，舊好更伸，而英美諸國又將踵至，立約通商。此乃萬國通例，非創行於我國，則決非可驚可愕之事。爾等其各帖然，士勤工課，民安稼穡，勿復以曰洋曰倭，胥動騷訛也。各港近地雖有外國人間行，宜各恬然為常，無或先犯。倘如彼有凌虐，自當按約懲辦，決不寬貸。

屈我民而護外人也。嗚呼。愚而自用。聖人攸成在下。訕上。王法當誅。不教而刑。是為罔民。故茲以臚述洞諭。且既興西國。修好則京外所立介洋之碑閣。時措有異。故并行拔去。爾等士民。各悉此意事。令議政府。揭示。行會于八道四都。一同日御營中軍。吳夏泳。一傳曰。宗廟令俞達濬司候。李洛應。相換。一傳曰。招輯軍民之意。有所榜諭。而近聞亂魁。尚有漏網。餘黨懷惑。追逃者。未歸。流者。未集。何可以。若干人之罪。俾無辜軍民罹此苦也。今諭爾眾。如有捕納亂魁者。每人賞賚百金。而別有褒獎之典。其餘脅從之輩。決無追究之理。勿復危疑。速還集之意。令政府。揭示。一傳曰。御營都提調。有闕代。宋判府事。為之一答。龍宮邑名幼學李尚斗。疏曰。此是布章言事之時。而虛佇多日。寥々無聞。今

見爾疏、可採者多、甚庸嘉尚、疏辭、下議政府、條列以
聞、一傳曰、修撰趙尚學、幼學、俞萬植、并持平除授、以
司謁口傳下教曰、城內巫瞽、令刑漢兩司、左右捕廳逐出
部外、

初六日

一傳曰、自今為始、凡於動駕時、侍衛諸臣、式服典筒箇、除
之以黑團領佩釵、兵判別雲釵、以軍服磨鍊、一傳曰、丁
提督明日、當於便殿接見、東宮亦為接見、談房知悉、
一禮曹修信使起程、今月初八日、乘艦、同月初九日、推
擇事、一議政府草記、副正字徐光範、修信從事官、差
下事、傳曰、一黃海水使書目、安岳兼任、載寧郡守趙
爽、永殷異艦、自本郡移頭、轉向鉄島、而都不報來、黃州
牧使尹滋祿、殷異艦、留碇、初不報來、問情辭緣、亦為

外 務
闕呈、并為罷黜、其罪狀、令攸司、稟處事、一禮曹、行大
護軍、李根弼、今月初六日卒逝、

初七日

一迎接官草記、今此陳賀時、上國領官、河曾珠、牽跟役
二名、隨班行禮事、傳曰知道、立於正二品班、一伴接官
草記、日本辦理公使、花房義實、率隨員十六名、今日
午時、雄發、而書記官一人、隨貢四人、巡查四名、兵隊三百名、
留館所事、傳曰允、

初八日

一傳曰、陳賀時、差備官、長加資、一傳曰、修信副使、以全推辭
官、兼修信副使、更為下批、一平安監司、狀啓、無公文下未
上國人、去訖、如何、今廟堂稟處事、傳曰、依其所願、護送
越境、此後、亦依此、舉行、狀聞、一迎接官草記、上國使臣、

丁汝昌率隨員跟役六人、英國葛雷森、准蒞事。傳曰：允一政府草記、今番中宮殿奉迎時、忠州牧使趙秉浩、營將李秉洙、初不來待、事跡道理、萬、駭忽、并罷黜、其罪狀、令駭府、稟處事。傳曰：允一傳曰：直閣、會圖、一傳曰：黃統領、袁舍人、明日、當於便殿接見、東宮、亦為接見、該房知悉。一傳曰：忠州牧使之代、右承旨、金學洙、除授、一奉迎大臣以下別單。傳曰：領議政洪、○、鞍具馬一匹、面給、子婿弟侄、瓜近初仕、作窠擬入、閣臣金炳始、熟馬一匹、面給、吏判鄭範朝、內醫提調、閔泳穆、副提調尹用九、都摠管李明應、弼善李重七、魚察摠戎使金箕錫、兼奏吳夏泳、并加資、都摠都事鄭暢鉉、兵佐白時洽、司僕愈正、趙端錫、武魚具宅性、李靖奎、宣傳官李有夏、趙環顯、并陞叙、玉堂

李道寧準職除授史官金昇均注書金中植并陞六
別軍職李鍾建鄭騏澤并許用兵使履歷桂坊金炳
肅徐光穆并守令待窠擬入兼輔德金寅壽大鹿皮
一令賜給都承旨尹用九加資左承旨左副承旨金
學洙內下大鹿皮一令賜給直閣會圖七點魚允中
徐相祖鄭寅學一同日政事承傳校書校理兼直閣
魚允中

初九日

一弼善金天洙落點右副承旨金明鎮左副承旨鄭
允夏落點一傳曰右副承旨許遼沈相薰落點一禮
曹草記景福宮移御日字今月十六日推擇事傳曰
允

初十日

一傳曰、明日當往接吳欽差矣、諛房知悉、一以司謁口傳下教曰、今番動駕時、道路假家、鍾街市屋也勿為毀撤事、分付、一以司謁口傳下教曰、向日教鍊所、教長兵隊、屬之揔戎廳、依前認真鍊習於平倉、揔戎使從便往來、一以司謁口傳下教曰、別抄軍自來、有上向之忠、自今以後、屬之揔戎廳、使之教鍊節制、一傳曰、慶科別試、初試取千人、一仁川防禦使狀啓、修信使一行、與日本公使花房義質、今月初九日、離叢入去日本艦、出往外洋事、一傳曰、當此經用窘絀之日、不可不惜費、景福宮移御傳教、還收事、

十一日

一以司謁口傳下教曰、禁衛營旗手朴性祿、戰捕凶徒、効勞甚多、令該曹帖加銀一百兩、自戶曹出給、

十二日

一迎接官草記上國吳提督率幕府二人差官二十員兵隊五十名發向漢江事傳曰允

跟隨定式

大臣錄事一人跟隨七人推頭隨廳書吏共八人驅從二名

輔國錄事一人跟隨五人推頭隨廳書吏共八人驅從二名

宗祿宗政共一人跟隨四人隨廳書吏共八人驅從二名

正憲嘉善共一人跟隨三人驅從二名

通政一人跟隨二人隨廳書吏共八人驅從一名

曾經三司漢注及時帶春桂坊依通政例

堂下至叅下跟隨一人驅從一名

宗祿以下入闕門不得扶掖只跟隨年七十以上勾論闕門外乘輅

及四人轎者驅從不限原數

各營都提調巡軍八名、四名前排、兵判將臣同

摠戎大將、京畿監司、四都留守、巡軍六名、二名前排、

朝會時、跟隨、不得入仁政門、大臣則、錄事一人、書吏二人、驅從一名、許入、

輔國則、書吏二、驅從一名、許入、宗祿、京監、從一名、許入、或代跟隨一人、

詣闕時、跟隨、不得入閣門、大臣錄事一人、書吏二人、院吏二人、院隸四人、許入、

藥房、內閣、書等處、書吏二人、使令三名、許入、餘外問安時、其同、

私行則、跟隨亦同、此式、不得有越、

機務處節目

一機務處、以中朝軍機處設置

一出納公事、皆自本處、出公事、下于本處、諸臣署名、出給政院、

一出納政令、有不便者、本處得以爭執、務臻妥當、納公事、自政院、來呈于本處、以為入啓、

一凡係機務、自本處預為對商、必得會議、協同、後往議于大

臣、而稟裁、

一有關於公事者本處得以知委於京外各處

一印信以機務處印鑄成

一閒員非公事不得擅入閒雜吏隸左為嚴禁

一未會諸臣逐日共進商退一員輪回入直

一未會諸臣有宗職者闕內則兼直閣外則免直而

問安從陞等公故共置之

一各司契規如行下禮本契屏筆債直因牌等事是勿

舉諭

一書吏六人皂隸十人為定

一經用取給於管稅廳

慶科擇日

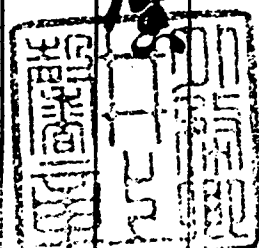
中宮殿奉迎慶科文武科別試初試十一月初十日

殿試同月二十二日

機密

朝鮮京城駐副防時代理人又近接京師分
清韓梁係事件報告已所日為市矣多考
左寫封入以所及之申所也

以於壬午年十月廿二日 分發之并之部



多以此五三條官及殿

今般朝鮮國王ノ内命ヲ奉シ同國使節ヨリ幫助ノ儀
懇シ倚頼ト友多ク清國ノ干涉日々増深ス御使ノ旨
実易ニ倚頼ト應ジ務ク多ク武裝請求ノ一件ニ至テハ
彼ノ國ト於テ内亂鎮壓ノ實力ヲ養成スル為メ一日も緩ス
可カラザル切迫ノ情勢ニ付多クあり小銃五万挺發我
天皇陛下ヨリ朝鮮國王ニ御指進お成りたり就左ニ
別後清國ノ感觸ヲ思スル御念ニ付又我幫助ノ
厚意ヲ表スル一端トモお成向後以界上ニ於テ都合ヲ得
ト存スル旨御評決シ上ニ陸軍省水師提督ニお成り也

明治十五年十一月三日

外務省井上馨

太政大臣三條實美殿

朝鮮政府より請求スル國債ノ件、台西人ノ意見ヲ左ニ
陳述仕ス

我政府以テ請求ニ應スルハ内情或ハ不可ナクモ有ルベシト雖モ
朝鮮ヲレテ我レニ倚賴スルノ念ヲ固クセシムルハ最必要ノ件ナリ
今確實ナル抵當ヲ定メ以テ約ヲ結フ時ハ萬一違約ノ事有ル
モ我レ其ノ抵當ヲ占有スル權アリ又後日縱令清ノ屬
國ニ歸スルモ清政府ハ代テ之ヲ還完スルノ義務ヲ受ルノ理
有ルヲ以テ我レ於テ損耗ノ憂ナカルベシ

且ツ朝鮮政府ノ獨之ヲ謀ルノ點より論スル片ハ獨リ兵力ヲ
補助スルニ止ムズ兼テ財政ノ保護ヲ與ヘサル可カズ抑朝
鮮ノ清國ヲ專信シ我レヲ嫌惡スルハ一日ノ事ニ非ス然レモ本
年七月ノ變動より頗ル清ノ干涉ヲ厭ヒ稍ヤ我レニ倚賴スルノ
念ヲ萌生スリ此ノ機ヲ失ヒ我レノ原意ヲ表セザルハ於テハ彼レガ獨

之ノ精神萎靡ニ付スルニ至ラズ日本過重ノ軍費金ヲ骨取
平生ノ貪慾主義ヲ遂ゲタルモノト認定シテ作和ノ黨其ノ
勢力ヲ得嫌惡ノ念益深キ故ニ向後我ヲ幫助ノ策ヲ施
道ナリ清政府ヲシテ容易ニ萬國タルノ實政ヲ舉行スルヲ得セ
シ無事ノ日ハ貿易上ニ多少ノ碍害ヲ生シ有事ノ日ハ清國ノ
耳目トナリ我レヲ害スルノ憂無シトセズ故ニ目下ノ籌畫ハ世評ニ
過重トスル所ノ填補金ノ内凡二十萬圓ヲ以テ鉋銃或ハ礦務農
事ニ關スル器械ニ換ヘ彼レニ惠贈シテ富強ノ道ヲ誘導シ以テ
彼レノ歡心ヲ買フヲ必用トス併シ右ハ機ヲ量リ勢ヲ觀シ漸次ニ
着手スルモノナリ未タ即效ヲ奏スル足ラザルヲ以テ今度彼レノ
請求ニ應ジ新ニ銀貨十萬圓紙幣十萬圓ヲ貸与シテ朝鮮
ノ國債トナシ時ニ鞭策ヲ加ヘテ獨立ノ精神ヲ鼓動スル今日ニ
在テ實ニ願フ可カラザル要件ト存ス

又清國ノ干涉日ニ深キヲ加ヘ雖其ノ内情ハ專ラ日本ノ
專横ヲ防禦スルノ點ニ在ルモノ、如シ今我々朝鮮ニ向テ填
補金ノ幾分、當レ器具ヲ惠贈シ又國債ヲ承諾シテ厚
意ヲ表スルハ朝鮮政府ハ之ヲ名トシテ清ノ干涉ヲ避ク
ルヲ得清政府我レヲ忌憚猜疑スルノ念或ハ減少スルニ至ルモ
亦知ル可カラズ果シテ然ルハ東洋全局ノ和平ヲ保持スルノ
目的ヲ達スルヲ得ルニ近カラシキト我々以為ス
也仰知所存也

明治三十五年十二月下

竹添進一郎 (竹添)

花房義賢 (花房)

井上外務卿

名称	井上 馨 文書
標題	朝鮮政略一関の意見, 紙書藤田茂吉其地文 伊藤参議宛朝鮮政略一関の意見, 私書

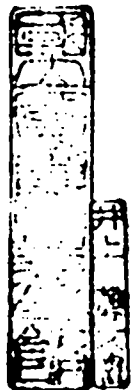
分類 番号	672
	9
	8

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

朝鮮政略ニ関スル意見ノ私書

某等謹テ再拜伊藤參議閣下ニ申上候某等閣下ニ在ケル國
 ヨリ平日ノ天誦昔ノ親アルニアラズ私書ヲ以テ尊聽ヲ冒
 スハ甚タ唐突失敬ノトト存候工共事局モ同家ノ大計ニ関
 シ一時ノ得失即チ永遠ノ利害トナルノトニ至テハ敢テ燕言
 ナ進テ高考ノ資ニ供セサルヲ得ス是レ愛同ノ微衷蓋々ノ
 末禮ヲ顧ルニ違アラセラルカ故ニ僕目下朝鮮ノ及ハ誠ニ我
 同至大至重ノ事ニシテ今日如置ノ得失ハ即チ後來大利大
 害ノ因ヲ爲ル、所之ヲ姑息ノ爲ニ爲ス可ラズ某等竊ニ按
 スルニ我邦ノ地形タル東方ハ渺然太平洋ヲ控ヘ一旦有事
 ノ日敵艦ノ此ヨリ來寇セント欲スルアルモ懸軍萬里傍
 近ニ歩ヲ休息スベキノ処ナケレバ敵艦必シモ斯近道ヲ取
 ラズ縱ヒ此ヨリ來寇スルモ不久シキヲ持シ誰レ保ク恐ル
 ハニ足ラサル也惟深ク恐ルベキ所ハ西カ日本海一帯
 ノ水路ニアリ日本海ハ朝鮮ノ沿岸モ左涯トシ我邦ノ半面
 ヲ右涯トシ其間島々接近セリ若シ外國ヲシテ一夕ヒ左涯形



勝ノ地ニ拠リ居常ニ兵艦ヲ此ニ屯駐スルノ便宜ヲ得セシ
メハ日本海ノ死守ハ必ズ其同ノ制スル所トナリ苟モ我ニ
隙アルトキハ彼レ必ズ其兵力ヲ悉ニシテ来リ迫リ我ハ
毎ニ其侵擾ヲ被ラザルヲ得ズ侵擾ノ極マル所ハ又夕必ス
同家ノ独立ニ関係スルノ禍ヲ致シ而シテ日本近海ノ頭腦
ト稱スヘキ者内外ノ二門ナリ曰ク台湾曰ク朝鮮ト台湾ハ
輒々遠フシテ手ヲ下ス一容易ナラズ且ツ既ニ佛國ノ為メ
ニ先鞭ヲ着ケラル後來ノ如何ハ姑ク置キ之ヲ今日ニ裁ス
ルハ必シモ急務ナルヲ見ス朝鮮ノ如キハ是ニ異ナリ其斗
出ノ端ハ正ニ我同ノ情尾ト相對シテ門ノ兩扇ヲナレ俱
ニ日本海最緊ノ関口ナリ故ニ我朝鮮ト相合同シテ孰頭腦
ヲ望守セバ以テ外艦ヲシテ一步モ明ヲ日本海ニ宕ル一
能ハザラシムルヲ得ヘレ苟モ然ラズ朝鮮ヲ以テ外艦屯駐
スルト為サシムルノ不幸アラハ我邦ハ決テ後夕日本海ノ安
寧ヲ保持ス可ラズジテ患害ノ由テ起ル蓋シ測ラレサル者
アラシク是ヲ以テ朝鮮ヲ補テ其独立ヲ全フシ彼我ノ情誼ヲ孚

フハルハ即チ我邦自ラ已レノ独立ヲ守ル所以ノ至謀也前
載以來彼レノ我ニ無禮ヲ加ヘ損害ヲ蒙ラセシ者一ニシテ
是ラサレニ我政府ハ毎ニ寛典ヲ以テ之ヲ待チ頃日ハ又々其
填補金四十万兩ヲ免シクルガ如キ其後導扶助ノ懇篤ヲ極
メラレシハ乃チ彼レヲ愛重シテ我輔車唇齒ト爲スカ故ニ
シテ其意此ニ在ルヘシト信候
然レモ其等熱ラ彼國ノ情形ヲ觀ルニ同王頗ル進取ノ志ア
リト雖モ其勢孤弱ニシテ之ヲ遂行スルノ器ニ非ラズ臣下
若手ノ士尙爾同化黨ナル者稍々有焉ノ材氣アリテ同王
ヲ輔翼賛成スルト雖モ又門閥資望較々増クシテ且ツ其教
極メテ勇シ其他ハ所謂ル事大亮ナル者朝廷ニ充滿シ極要
權力ノ地ハ皆チ事大亮ノ占ムル所トナリ社習ノ実柄摩テ
叱責ノ手ニ係レリ加フルニ彼國財用大ニ窮竭シ動モスレ
ハ救フ可ラサルニ至ラントス故ニ總ヒ同王及同化黨ノ使
進テ支那ノ干涉ヲ排絶シ文明ノ治ヲ布キ同威ヲ振起スル
ヲ務メ能フバキノ地位ニ達スルトスルモ財用窮竭ノ病

アリテ後ヨリ之ヲ單附ナルトキハ蓋シ十分其國ヲ展ヘ誰
キ者アラシ流ニヤ事大党即チ支那ヲ御戴スルヲ好ムノ輩
社會ノ実柄ヲ制シ同王及ヒ同化党ニ力竟ニ之ニ勝ツ可ラ
ガルノ勢ナルヲヤ夫レ事大党既ニ勝ツ可ラガレハ支那ノ
干涉決シテ免ル可ラス支那ノ干涉決シテ免カル可ラサレ
ハ朝鮮ノ独立ハ後々維持スベキ莫キ也何ヲ以テ之ヲ謂フ
支那ノ政令敗壞シテ武力腐朽セル自家ノ独立ヲ維持スル
ヲサヘ之ニ苦マントス豈他人ヲ保護シ杆禦スルノ力アラ
ンヤ与ヤ歐洲諸國莫ト云ヒ他ト云ヒ佛ト云ヒ露ト云ヒ苟
モ些少ノ無禮ト損害ヲ見レニ加ヘラル、トアラハ其鬻隙
ニ投シテ以テ其内事ニ干涉シ若カハ其要港ヲ占取スル如
キハ其尤モ欲スル所也此時ニ及テ支那ノ之ヲ措置拒斥ス
ルヲ能ハサルハ勿論支那ノ朝鮮ニ干涉レ居ルトハ即チ毎
子ニ斯高縣ヲ遣出スルノ存トナルヘキナリ之ヲ要スルニ
朝鮮ニシテ支那ノ干涉ヲ免ルハカラリル以上ハ我邦之ヲ
補テ其独立ヲ全フセシメ我輔車唇齒トナスヘキノ望ナ

朝鮮ノ獨立全スヘキノ望ナキ以上ハ我邦ノ安寧危フム
可クシテ獨立亦憂フ可シト存儀

是故ニ果等ノ見ル所ヲ以テスレバ宜リ今回ノ憂ニ乘レ彼
レノ我ニ加エタル無禮ト損害トヲ責メ進ラ彼レノ内事ニ
干渉レ以テ之ヲ伺察スルヲ務ムベシ何トヤレハ彼レノ
我レニ加エタル無禮ト損害トハ從來一ニシテ之ラス而カ
モ我レハ毎ニ寛典ヲ以テ之ヲ待タタレハ今回ノ憂ニ及ラ
武力ヲ以テ之ニ応ムモ天下列國ニ對シテ我レハ陳說明ノ
辞有ル一也我レ先鞭ヲ着ケテ朝鮮ノ保護ヲ司ルトキハ
自餘者同之ヲ模倣食シ若クハ鯨吞ヒント欲スルモ勢爲ス能
ハザルヲニ也既ニ之ヲ伺察シテ我々上ニ置クトキハ日本
由リ鎮鑢ハ悉ク我レニ歸シ我邦ノ安寧ト獨立トハ甚ク其
差ヲ鞏固ニスルヲ得ルヲ三也且ツ朝鮮ヲ放テ今日ノ情形ヲ
遞傳承統セシムルトキハ骨肉相殺ハ慘天モ其内ニ起リ外
同之ヲ虐待酷遇スルノ悲モ亦相結テ至ラントス故ニ我々
早ク之ヲ保護シテ其悲慘ノ途ヲ杜キ以テ其同家ヲ安徳ニ

セシノハ同親相愛ノ云義全フシテ使国ノ文明必ス大ニ榮
達ノ方ニ向フヤキ一四也苟モ然ラズ与面亦タ堪息ノ局ヲ
結フキハ終ニ條約ノ面銭汚辱ヲ受テニ足ルヘキ賠償ヲ取
ルモ彼レノ財用窮竭ヲ以テ迎モ之レヲ完納スル能ハス其
非策タル一也有金無実ノ賠償ヲ取テ自ラ満足スル中ニ天
下列国我レノ大度ヲ仰セスレテ又テ我レノ怯弱為スナキ
ヲ侮リ大ニ輕蔑ノ念ヲ長セシ其非策ハ二也且ツ我レ從
来數度ノ汚辱ヲ忍ビ彼レノ無礼ト損害トヲ放ルシタルニ
猶今回ノ憂ヤリ若シ今ニ及テ棄所果決ノ為ニ出テ、痛
ク之ヲ懲ラスニアラズシハ後来ノ事亦タ豫料ス可ラサル
者アリ一時出師ノ費用ヲ憚リ遠慮無期ノ損害ヲ拓クハ
財政權貽而ナカラ宜キヲ得ヤル者其非策タル三也況ン
マ我レ手ヲ束テ自餘各同ノ蠶食鯨吞ニ任スハ我邦ノ安寧
ト独立トヲ危フスル実ニ測ミレリル者アルヲヤ其非策タ
ル四也夫レ今回ノ憂ニ乘シテ朝鮮ヲ併略スルノ利タル斯
四理由アリ之ヲ併略セリルノ害タル斯四理由アリ四害ヲ

去テ四利ニ就ク孩提ノ童子ト虽モ其去就ヲ決ムルヲ得ヘ
キ也是ヲ以テ今固ノ交ニ即イテ平和姑息ノ局ヲ結フハ其
等斷々予トシテ不可ナルヲ深慮セント存候
然レ氏今日ニ於テ我カヲ用テ朝鮮ニ臨マント欲セハ先ツ
支那トノ高麗ヲ期得セザル可ラス支那トノ高麗ハ其等カ
同家ノ爲メ尤モ希圖スル所也然レ支那ハ其備ノ憤々ト
シテ振ハサルハ凡ツ彼國ニ游テ實際ヲ親睹セル者ノ熟知
スル所且ツ近者佛國トノ高麗ニ於テ其利益々吾人ノ耳目
ニ果白シ彼レノ兵士百萬アリト虽モ唯タ敵ヲ望テ遁走シ
良家ニ入テ挾持スルヲ知ル身彼レノ兵艦百艘アリト虽モ
唯タ陣ニ臨テハ其望艦利砲ヲ棄テ逃レ平素無事ノ日ニ在
テハ聊カ以テ得夜晝寢ノ所ト爲スヲ知ル耳高麗ノ極マ
所我レ支那ト戦ヲ開カハ我十餘隻ノ兵艦ト一二萬ノ兵士
トハ以テ支那左同ノ兵艦兵士ヲ奪取スルニ餘アラシ是レ
其等將負ノ空言ニ非ス苟モ支那ノ事情ニ通曉セル者ノ常
ニ洞察セル所也我苟モ支那ト戦ヒ克クハ天下列國未ク日

おのゝるヲ知ラサル者及ヒ知ルヲ知ルト云々日本ハ纔カ
支那ノ属邦タルニ過キスト志想セル者忽ニシテ日本ノ実
ヲ知リテ其輕ス可ラサル者タルヲ思ハシ其同威ヲ耀揚シ
同位ヲ進升スル蓋シ歟ハニ非ル也且ツ我レ既ニ支那ト戰
ヲ同カハ片日支那ニ向ツテ及對ノ同位ヲ有セル佛國ヲ涉
ヒ直々ニ我ト攻守同盟ノ約ヲ結ハシムルヲ得ヘシ既ニ佛
國ト攻守同盟ノ約ヲ結ハシ我レハ則チ歐洲文明國ト對等
ノ地位ニ立ツ者ニシテ其後來ノ利益ノ多且大ナル量ル可
ラザル者アル也是ヲ以テ我朝鮮ヲ併略スルニ因テ紐キ起
ル所ノ支那トノ舊藩ハ同家ノ為メモ廢スヘキト存存
以上陳ル所ノ面見閣下苟モ以テ取決ヘシト爲カハ請フ之
ヲ朝ニ主張シ國家シ大計ヲ御謀被下度様來等ノ銳意誠志
以テ閣下ニ望ム所ニ御坐候何分書辞草々ニシテ未ダ十分
中懷ヲ詳尽スルニ及ラズ閣下公退ノ餘若シ來等ニ面晤ヲ
賜ハ、來等草ニ繕述悉陳シテ高問ニ對フルヲ得ニ然レモ
閣下ノ聰明ナル必ス尊慮ノ既ニ此ニ及ヘル者アラレ果テ

然ラハ果等ノ孝俊ヲ何ヲ以テカ是ニ加エテ清ノ重鑑ヲ賜エ

明治十七年十二月廿四日

天	枝	森	尾	犬	其	藤
竺	元	田	崎	養	浦	田
眞	長	文	行	勝	茂	吉
雄	辰	藏	雄	毅	人	

名 称	井上 馨 文書
標 題	視宴記事 井上大使朝鮮到歸國二付視宴記事(18年)

分 類 番 号	672
	10

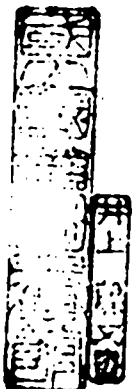
12

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

祝宴記事

井上大使朝鮮ニ特派セラレ日韓談判モ首尾
 克シ俎豆ノ間ニ甘結シテ我國威ヲ萬里萬世ニ
 輝ス嘉連偉功ヲ祝賀賞賛シ奉ラシガ爲メ本
 月廿七日秋堀内村公園内指月山神社ニ務町
 ノ以テ會場ニ充テ盛ニ祝賀宴ヲ開キテ事草
 率ニ起リ時恰モ雪天ニ際スニモ拘ラズ之ヲ賛成シ
 テ相會スルモノ境元島根縣令及ニ半井並六位ヲ始
 メ裁判所員電信分局員警察署員郡役所員
 各所長等同日午後二時乃至三時ヨリ續々會場
 ニ集ルモノスベテ八十八名儀止レテ座定マリ首唱
 者元口羽郡長唐貞純代ノ心得ヲ以テ祝詞ヲ
 朗讀シ尋テ滿堂ノ請求ヨリ之ヲ井上大使ニ呈



進ム手續ヲ協議シ畢テ祝杯ヲ饗セ祝酒ヲ
 飲ミ献酬逸ミ互ニ胸襟ヲ開キ目クルニ絲竹ヲ以
 テシ養ニ雄壯活潑ノ吟誦ヲ以テス皆云フ嘆乎
 是レ此地未嘗有盛會ナリト相祝シ相賀シテ悉
 ニ退散セシハ正、午後十一時ナリ其會員有志ノ
 氏右ニ左ノ如シ

從五位	境	二郎
從六位	半井	成賢
從七位	日明	良介
勸業課員	中村	雪樹
士族上集主管	乃美	宜
裁判所員		

原田 豊

電信分局員

清水友藏
奥村恒藏
井原右左助
弘永良作

警察署員

勝津豊亮

郡役所員

神村龍三
平岩銳藏
山縣東一
市村成義

中山修三

重有松安齋萬中波村小中松松
松木井藤藤村山多野上林村原田
貞雅賢策哲直生唯毅山潭雅
魁三介槌三一限一介淳藏三

重見良枝
木村勝介
中村時亮
山本永一
鬼村滿作
金子藏多
池田敏介
田中藤吉
堀美輔
山本慎尾
伊藤義光
山本與次
平田里見

河邊將輔
前田 怨
三浦 次郎
有富 長吉
竹内 七三郎
岡田 與三
中村 長輔
和田 敏一
板垣 忠三郎
村田 喜三郎
田坂 佑亮
佐藤 卯一
森田 豊吉

伊藤梅伍

志道常助

小川正壽

谷町村長役場員

中村二民

小縣貫一

桂 小市

橋寄吾輔

口羽良純

坂田朝輔

乃義良多

木村田猪助

河北浚水

松原純平
福原刑輔
宇田川弥九郎
野田文輔
三浦志彌
居田弥左郎
柳部徹介
大田孝介
松尾大助
小田賢輔
茂利三郎
原真市
益田潜

大谷守衛
古屋芳介
二階四郎
中原雄祐
平野鉄造
中村豊吉郎
立野辰吉
津守東一郎

以上八十八名

明治十八年一月廿七日

名 称	井上 馨 文書
標 題	吉岡謹花 建之書 井上馨亮 吉岡謹藏。意見書(明治18年)

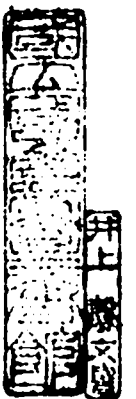
分 類 番 号	672
	911
	7.5

29

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

草莽ノ一書生 吉岡謹藏 謹テ書テ井上外務卿閣下ニ上ル
 閣下首尾克ク韓地ノ使命ヲ全ウシ頃日恙ナク帰朝セラ
 ル喜人ノ欣躍何ノ限ラニ為請フ閣下能ク休逸シ國家ノ
 為ニ自養セヨ然リ而シテ草莽ノ野生聊力鄙衷ヲ閣下
 ニ上リ以テ閣下ノ英裁ヲ萬一セシト欲スルモノアリ閣
 下幸ニ齒莽ノ罪ヲ咎ムル莫シ夫レ容臆一タヒ韓地ヨリ
 變警ノ報ヲ得ルヤ内國ノ物情頓ニ恟々然トシテ朝士
 少野トナク到ル處慷慨念激ノ聲宛モ鼎ノ沸クカ如キモ
 ノアリ蓋ヒ韓奴ノ無禮ヲ我ニ加フルヤ一朝一夕ノ
 アラス既ニ今ヲ距ル丁三四年前ニ在テ大院君ノ我ニ無
 狀ヲ加ヘタルカ如キ甚惡ム可ヒト雖モ我元來固有ノ公
 明義依ノ心ヲ以テ平生隣邦ノ交誼ヲ思ヒ怒ヲ忍ヒ怨ヲ



吞手僅々五十五萬圓ノ償金ト數ヶ條ノ條約トヲ以テ其
罪ヲ恕セし爾已ナラス既ニ客年十月~~十一~~月上旬ヲ以テ特別
ノ友情ヲ表し目下内國財政困難ノ際ニモ拘ハラズ右償
金未済分四十萬圓ヲ彼ニ返付セし力如キハ實ニ寛大ノ
處置ニアラスヤ然ルニ彼猶其德ヲモ思ハスしテ又モヤ
今回ノ舉動ニ及フ實ニ惡ム可キノ極ト謂フ可し蓋ニ惟
ミルニ寛仁聖德ナル我 天皇陛下ハ固ヨリ境ノ内外ヲ
問ハス普ク蒼生ヲ怜ミ給フノ聖旨ニエテ又我廟堂諸公
モ能ク此聖旨ヲ遵體セラルヲ以テ今回ノ事件ト雖モ
彼若し速ニ謝罪ノ意ヲ表し十分ニ我要求ヲ満足セしム
ルニ至ラハ可成危山ノ干戈ヲ動カサズ可惜貴重ノ生靈
ヲ殺サハランヲ欲セラル、丁々固ヨリ喋々ヲ俟タサ

ルナリ然レ氏彼若シ執拗ニシテ飽クヤテ其非ヲ文リ其
曲ヲ遂ケニトスルカ如キハ不國威兵縱令最微少手
段ニ訴フルモ以テ断然膺懲ノ典ヲ舉ガシテ可力辨ス殊
トニ今固ハ事件ハ獨リ韓國而已天非不請國モ亦陽ヲ關
係スルコトハ天下ノ認メテ疑フ容レナリ所ニテ事少シ
ク大事ニ且ルヲ以テ尋常使節ノ以テ辨スハ誠ニ非ナリ
モノアリ是レ我 天皇陛下特ニ大權ヲ閣下ニ委ニテ韓
地ニ派遣シ給ヒテ所以ナリ而シテ一タニ閣下ノ使命ヲ
受クルヲ聞クヤ吾人々民衆皆使臣其人ヲ得タルヲ喜
ビ得意ノ聲ハ殆ブト萬口一聲ニ出テタルモノハ如シ是
レ誠ニ故アルナリ閣下風ニ大才卓智ノ名アル而已ナリ
入其著テ外交ニ巧熟活潑ナルコトハ天下ノ普ク知ル所ニ

エテ況ニヤ目今現ニ其當局者タレハ此重要ノ使命ニ任
フル者閣下ヲ措テ將タ難カアラシ故ニ吾人ハ信セリ閣
下ニエテ既ニ此使命ヲ受リル上ハ我國ノ安危ハ最早應
ルニ足ルモノアラスト果セ止哉閣下希代ノ大才絶世人
卓智ヲ以テ首尾克ク使命ヲ全ウシ十分我國辱ヲ雪キ我
國威ヲ輝カシ以テ恙ナク復命セウシハ實ニ閣下ノ榮
吾人ノ幸國家ノ為メニ賀シテ已マサレナリ却說前陳ノ
如ク今回ノ事件ハ其起ルヤ韓地ニ於テシ而シテ其暴動
モ外形上ハ重ニ韓奴ノ所為ニ屬スルモ其内實ハ清兵之
カ煽動者タリ主働者タリヲ以テ故ニ曩日閣下ノ韓地ニ
赴クヤ吾人竊ニ信シテ以テ為ク閣下必ク先以一應韓廷ノ
談判ヲ為シ次ニ請使由テ十分以聽合ヲ為サレタリ

可_レ看ヨ清虜今固コソハ愈ヨ我日本男子ノ氣象ヲ驚ク
ナラメ者ヨ韓奴今固コソハ愈ヨ我日本ノ國威ヲ恐ルハ
ナラメト日夜片嚙ヲ吞ミ領ヲ撫テ以テ閣下談判ノ局報
ヲ待テリ而シテ客月~~末~~旬ニ於テ早クモ韓廷トハ談判我
ニ十分ノ満足ヲ以テ相整フタリトノ吉報ヲ聞クヤ吾人
ノ喜ヒ實ニ意表ニ出テタリ然リ而レモ拘ハラス此喜
ト同時ニ吾人ノ失望且最モ忿激ニ勝テキルモソアルヲ
奈何也ニ聞ク所ニ據レハ清使吳大澂ハ我ト談判ス可キ
ノ權ヲ任セラレキリ云々ヲ以テ我談判ヲ受クルヲ防
キ_レ而已ナラス刺ヘ我大日本國ノ全權大使タル閣下成
韓使ト内談ノ席ヘ會釋モナク入来リテ無禮無作法ノ舉
動ヲ為セト云フニ非ス耶夫レ堂堂タル獨立國ニ對ス

ルニハ自ラ夫々ノ禮儀アリ作法アリ然ルヲ彼無禮ニモ
斯ノ如キ挙動ヲ為ス今其韓使ニ對スル舉動何如ハ我
スヘキ所ニ非ストスルモ苟モ我大日本國ノ全權大使即
チ取りモ直サス我天皇陛下ニ對シ斯ル無禮ヲ加ヘ我
國民ニ向テ斯ル侮辱ヲ与ヘタルカ如キ實ニ吾人日本國
民タル者誰カ忿懣慨激ニ堪フヘキ嗚呼咄清虜何ソ我
皇威ヲ蔑如スルノ此ノ如ク其甚シキヤ嗚呼咄豚尾奴何
ソ我國權ヲ侮辱スルノ此ノ如ク其極シルヤ吾人一タヒ
右ノ報ヲ聞クヤ竊ニ以為ク斯ル上ハ閣下必ス節ヲ北京
ニ移シ以テ直ニ清廷ニ向テ談判ヲ遂ケラルヘカ然ラヌ
ニハ必ス一旦歸朝ニ再ヒ北京ニ向テ出發セラル然カ孰
レニシテモ外文ニ巧熟活潑ナル閣下ナラハ固ヨリ因循

猶豫期ヲ誤ラル、カ如キコハ萬々之アルマシト其後閣
下將オニ歸朝セラレニトスルノ報ヲ聞クヤ吾人又以為
ク扱テユソ一旦歸朝セラレテ廟議精熟ノ上再ヒ北京ニ
赴カレ断然堂々タル談判ヲ開カル、コニ決セラレシ
ラニト是ニ於テ偏ヘニ閣下ノ歸朝ヲ待テ而シテ閣下歸
朝後ハ且夕清國ニ對スル談判ノ期ヲ待テ實ニ一日千秋
ノ思アリ然レモ又謹藏熟々以為ク我廟堂賢明諸公自ラ
神妙機密ノ畫策アリ不日必ス明断英敏ノ處置アルナル
可シ吾人草莽野生ノ深ク憂トスル所ニアラスト然ルニ
閣下歸朝以來既ニ殆ニト十有餘日ヲ出ルト雖モ右談判
ノコニ付未^タ何等ノ挙アルヲ聞カス是ニ於テ世間慷慨ノ
志士ハ九仞ノ廟議窺ヒ知ルニ由ナキヲ以テ偏ヘニ隔靴

ノ感ヲ抱キ隨テ種々ノ想像ヲ爲シ或ハ以爲ク政府ハ我
兵力ノ未完備セサルヲ省テ躊躇スル所アルニハ非サル
カト而シテ從軍ヲ出願スル者東西ニ踵ヲ衝テ起リ或ハ
以爲ク政府ハ我財政ノ正サニ困難ナルヲ慮リテ猶豫セ
ラルハニハ非サルカト而シテ献金又ハ軍資負擔ヲ出願
スル者南北ヨリ次ヲ逐フテ出テ文士ハ筆ヲ秃シテ而シ
テ軍費ノ調否ヲ論シ辯士ハ舌ヲ焦シテ以テ兵略ノ得失
ヲ講シ其他或ハ何ト云ヒ或ハ何ト云ヒ只管以テ清國ノ
無礼ヲ詰責シ以テ我日本ノ國威ヲ擴輝セント熱心奮起
スル者日一日ヨリ多キモノアリ況ニヤ又陸海軍人ハ齒
ヲ搦シ腕ヲ扼シ釵ヲ拭ヒ銃ヲ企テ日以練磨ノ銳氣ヲ顯
ハシ以テ天晴日本軍士ノ氣象ヲ知ラシメントスルノ勢

アリ實ニ今固我士氣ノ勇與奮起セシメ之ヲ彼ノ十年前
征韓論ノ時或ハ其後台灣征伐ノ時又或ハ近年大院君ノ
亂ノ時等ニ比スルニ其優ル蓋シ幾倍ソヤ亦熾ナリト云
フヘシ然リ而シテ坎頃風ニ聞ク所ニヨシハ閣下大命ヲ
全ウシテ歸朝セラシメテ以テ貴體保養ノ為メ近日將サ
ニ熱海ニ赴カレントスト是レ固ヨリ世間ノ風説ニシテ
未ダスシモ信スルニ足ラスト雖モ誠ニ當サニ左モ之アル
ルヘキナリナリ人勤ムレハ必ス休シ勞スレハ必ス逸ス
ルハ固ヨリ當然ノ事夫レ尋常一人一個ノ事猶且然リ況
ニヤ國家非常ノ秋ニ方テ其一舉一動即チ國家ノ安危ニ
關スル局ニ當ル者其勤其勞豈ニ尋常以テ之ヲ論ス可ケ
ニヤ故ニ閣下今固ノ勤勞ノ如キハ固ヨリ當サニ能ク休

逸自養セラレサル可カラヌ又吾人カ国家ノ為メニ其之
アラニテ希望スル所ナリ然レ民權藏今退テ熟々朝野
ノ物情ヲ顧視シ以テ将来ヲ推測スルニ實ニ杞憂ニ堪ハ
サルモノアリ諸フ試ミニ之ヲ言ハニ夫レ前ニモ陳シタ
ルカ如ク實ニ今日内国ノ物情ハ日々ニ恟々然トシテ農
ハ鋤鋤ヲ耘テ田圃ニ清國ノ母禮ヲ罵リ工ハ鑿槌ヲ棄テ
工場ニ我國ノ蒙辱ヲ嘆シ其他婦女小兒ニ至ルマテ到ル
處戸トシテ人トシテ其談ノ日清談判ノ事ニ及ハサルモ
ノナク就中最モ慷慨ノ志士ハ殆ニト寢食ヲ安セス日夜
只領ヲ延テ我政府カ清國ニ向テ開カル、所ノ談判何如
ノ策ニ出ルカヲ窺ヒ其思實ニ一日千秋モ當ナラサルモ
ノアリ然リ而シテ其最も注目スル所ノモノハ閣下ニ在

リ何トナレハ閣下ハ現ニ要衝ノ局ニ在リ而シテ其外交
ニ熟達英敏ナルハ天下ノ共ニ信スル所ナリ故ニ
今日閣下ノ一舉一動ハ其内國ノ物情ニ影響ヲ及ボス
蓋ニ鮮少ニ非サレハ閣下今日ノ責任實ニ重シト云フ
可シ其因テ謹蔵固ク信ス是レ但無根ノ風説ニ過キサル
耳ト然レ氏假シ萬一此風説ヲシテ真ナラレハ閣下ニシ
テ今世ノ如キ物情ニモ拍ハラス飄然行樂ノ途ニ着カル
ルカ如キアラハ將來天下ノ信用ヲ奈何ニ且但之ノミ
ナラス既ニ前陳ノ如ク十分ニ勇興奮起シタル所ノ志士
軍人ハ之カ爲メ大ニ失望ノ情ヲ起シ恐ラク或ハ忿激不
平ノ聲ヲ當路ニ向テ發セスハ必ス落膽委靡シテ再ヒ
振ハサルニ至ラニテ是レ謹蔵カ我政府ノ爲メ即チ我

國民ノ為メニ深ク憂ヘテ己マサル所ナリ是レ蓋シ或ハ
杞憂ニ屬スルノ謗ヲ免レサル可シ而シテ若シ杞憂ニ止
マラハ吾人ノ幸何カ過キニ爲然レ氏古今萬國ノ史上往
往此實例ニ乏シカラサルモノアルヲ以テ苟モ熱心愛國
ノ士ハ豈ニ一概ニ之ヲ杞憂トノミ謗過ス可ケンヤ況ニ
ヤ今日彼普佛魯英等ノ如キ其外面ハ禮法道義ヲ假飾ス
ト雖氏內心各虎狼噬齧クコトヲ辨ラサルノ諸邦ニ接シ
而シテ東洋勢力猶依然トシテ振ハサル而已ナラス既ニ
英ノ印度或ハ香港國ニ於ル佛ノ東京國ニ於ケル魯ノ我
樺太千島交換ニ於ケル又埃及ナリ土耳其ナリ亞非利加
ナリ其他東洋諸邦ノ彼白哲碧眼奴ノ為メニ跋扈蹂躪セ
ラル者枚舉ニ勝フ可カラズ殊ニ現在佛國ハ福州國清ヲ

蹂躪シ或ハ台灣清領ヲ攻掠セニトシ又近報ニ據レハ獨逸
ハ最モ我ニ接近スル所ノ韓國ニ於テ漸ク將ニ其勢力ヲ
逞セニトスルノ萌芽ヲ見ハセリト云フ嗚呼實ニ今日ノ
實況ヲ以テ將來ヲ推慮スル所ハ悲ラク或ハ今日ノ支那
ハ明日支那ノ名ヲ裸タス今年ノ印度ハ明年英國ノ名ヲ
帶ヒルカ如キ了之ト断言シ難キモノアラントス既
ニ此ノ如ク殆ント將ニ落日孤城ナラントスル臨洺履冰
ノ東洋ニ立テ永ク獨立國ノ實ヲ保チ終ニ安泰ノ域ニ坐
セニト欲スルニハ道德信義ヲ守ルノ須要ナルハ固ヨリ
言ヲ竢タスト雖モ亦宜シク機ニ臨テ我十分ノ國力ヲ天
下ニ示シ以テ豫シメ外患侮侮ヲ防禦スルノ計ヲ為サ
ルヘカラサルナリ而シテ我十分ノ國力ヲ天下ニ示ス所

以ノモノハ何ソヤ即チ上政府ハ能ク國民ノ信用ヲ保チ
而シテ外交ノ樞機ヲ誤ラス下國民ハ能ク政府ノ命令ニ
背カス而シテ帝ニ其身ヲ國家ノ犧牲ニ供スルノ氣象ヲ
守ルニ在ル耳若シ既ニ上下能ク此ノ如クナラハ兵力財
政亦何ソ深ク慮ルニ足ルモノアラニヤ夫レ然リ而ルニ
今若シ廟議ノ深奥ヲ窺知スルニ由ナキ力為メニ不幸ニ
シ邊既ニ前陳ノ如ク清國ニ向テ勇興奮起シタル處ノ我
士氣一朝変シテ内國ノ不平ト爲リ若シハ委靡振ハナ
ルカ如キニ立至ル丁アラハ我國將來ノ命脉實ニ杞憂ニ
勝ッ可ケンヤ故ニ謹獻カ今閣下ノ勤勞ヲ謝シ先セテ國
家ノ爲メニ其能ク休逸自養セラレニ丁ヲ希望スルニモ
拘ハラス猶又國家ノ爲メニ尊位ヲ冒瀆シテ更ニ閣下ニ

向テ希望ニ堪ヘサルモノハ何卒前陳縷々ノ鄙衷ヲ棄テ
ス少しモ早ク清國ニ向テ明断ノ談判ヲ開カルゝカ若シ
又急ニ開テ不利ナルノ理モアラハ早ク之ヲ天下ニ示シ
以テ志士ヲシテ愈激シ或ハ委靡セシメス農工商ヲシテ
各其職ニ安セシメ国家ヲ泰山ノ安キニ置カレシメ是レ
十リ謹蔵固ヨリ草莽ノ一書生未敢テ廟議ノ深奥ヲ窺フ
ニ足ラス夫レ唯然リ故ニ其杞憂慷慨モ亦随テ深キモノ
ナキ能ハス杞憂慷慨愈深ケレハ愈之ヲ黙スルヲ能ハス
是レ不肖自ラ揣ラス敢テ區々ノ鄙衷ヲ上陳スル所以ナ
リ閣下幸ニ之ヲ諒セヨ謹蔵頓首而拝

明治十八年二月三日

外務卿

井上馨
香白殿

名 称	井上 馨 文書
標 題	伊藤孝次諸国特派ニ付皮前書 伊藤全権大使派遣ニ付 三条の内諭書

分 類 番 号	672
	12

2

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

又

外務卿伯爵井上馨

昨年十二月朝鮮漢城ノ變ニ於テ清國ト
交渉ノ事件ニ付今度伊藤恭議ヲ特派
全權大使トシテ清國ニ派遣セラレ辦理ノ全權ヲ
御委任有之候抑外國交渉ノ件タルヤ事體
重大ニ付各國現在ノ形勢ト將來ノ結果ヲ觀
察シ國家永遠ノ大計ヲ誤ラス隣好ヲ全シ善
後ノ方嚮ヲ取ルヘシトノ

叡慮ニ有之候條各官宜ク朝意ヲ體認ス

太政官

ヘシ此旨内諭候事

明治十八年二月二十七日

太政大臣、公爵三條實美



名称	井上 馨 文書
標題	大隈重信氏日韓談判和議,大意 大隈重信氏日韓談判和議,大意

分類 番号	672
	13

27

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

大隈重信氏日韓談判和議ノ大意

本月十七八日ノ頃（日韓事件平和ニ見エタル趣）及條約文或人大隈氏ヲ

訪ヒ語朝鮮ノ事ニ及フ大隈氏其思想ヲ述フ大要ニ曰ク今日韓ノ事

朝野共ニ患ヒ内外均ク議ス而シテ戰議ヲ張ル者ハ輕躁ニ失ヒ媾和ヲ

談スル者ハ姑息ニ流レホク中庸ニシテ機宜ニ應スルノ策ヲ講スル者

アルヲ聞カス然リ而レテ吾政ハ廟議既ニ決シ參議井上君ヲ全權大使

ト為シ朝鮮ハ派遣シ以テ葛藤ヲ措辦セシム是レ拙者ノ大ニ悦フ所ナ

リ其悦ハ私議ノ或ハ相合フヲ悦フニ非ス國家ノ為メニ悦フナリ按ス

ルニ吾政府臨機應變ノ計策ニ富ムノ君子ニ乏シカラスト虽モ這ノ日

韓談判ノ局面ニ當ルハキ者ハ伊藤井上ノ二參議ヲ措テ其レ誰ソヤ而

モ變事ニ驚カス果斷ニ富ノル下ハ井上君ヲ優レリトス故ニ井上君之

カ撰ニ當ルハ實ニ其人ヲ得タリト謂フヘシ去レハ君カ今回使命ヲ奉



ノニ甚タ宜シカラサル譯アリ	尚ホ平均ナリト謂フヲ能ハサル	置縣日未タ久シカラス人心猶封建制度ヲ羨ムノ痕跡ヲ除カス政權モ	安否是ナリ今ヤ旗鼓ヲ整ヘ三軍ヲ發シ大ニ外征ヲ試ミニカ吾邦廢藩	三大主要ヲ觀察スト謂フ曰ク政治ノ方向曰ク財政ノ整否曰ク安治ノ	スル主義ヲ結構スルニ三大主要ヲ觀察シタルニ由ルナルヘシ何ヲカ	ヲ得カレヘシ且ツ又二君ノ平生ニ由リテ之ヲ推スニ此平和ヲ必要ト	ヲ把持シテ確然動カサルハ伊藤井上二君ノ外ニハ内閣ニ於テモ數人	又曰ク此度ノ事ヲ處スル須ヲク平和ノ主義ヲ執ルヘシ而シテ此主義	ルハ日ヲ期シテ之ヲ待ツヘシ云々	及フヘカラサルハ勿論想像ノ外ニ出ツルモノアラシ其結局良果ヲ得	スルヤ其胸中画ク所ノ談判ノ趣向ト措辦ノ方途トハ蓋シ他人ノ企テ
---------------	----------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------------	--------------------------------	--------------------------------

如ク處ニ大聴意味アリカ又財政ヲ謂ハシカ

維新日淺ノ會計總カニ緒ニ着クヤ十年西南ノ役アリ為メニ大ニ茶レ

上下之ニ苦シム其後七年ヲ經ルモ創痍未タ全ク癒ヘス此時ニ当テ一

タヒ戰端ヲ開カハ瓦崩潰裂復タ整理ノ途無キニ至ルハ智者ヲ待タス

シテ知ルヘキナリ又タ内治ヲ顧ミシカ常禄ニ離レシ不平士族ハ煖衣

飽食ノ旧ヲ慕ヒ政論ニ鼓動サレシ疎暴論者ハ我レ取テ代ルヘシト氣

込ミ内訌外患トヲ問ハス苟モ釁ヲ以テ乘スヘキアラハ機ニ臨ミ以テ

我意ヲ逞マシウセント欲スル者甚タ多シ加之ニ近來金融凶慌ノ際窮

乏ニシテ無事ニ困シムノ徒動モスレハ席旗竹攄ヲ掲ケテ亂暴ヲ演セ

ントス是時ニ於テ力ヲ外征ニ用ヰハ内鎮自ラ輕シ無謀ノ徒一夕ヒ手

ニ嚙セハ内海ノ安固復タ保シ難シ是其日韓葛藤ニ付テハ飽マテモ平

和ノ主義ヲ執ルノ止ムヘカラサル所以ナリ某信ス參議井上君ノ方寸

亦爰ニ在ルヲ然リ而シテ頃日新聞紙ノ報スル所ニ因レハ日韓ノ談判

局ヲ結ビ條約印ヲ鈴シタリト而シテ其箇条ノ如キハ悉ク信スヘカラ	スト虽モ蓋シ大同小異ナラン其第一条ニ朝鮮國々書ヲ呈シ謝意ヲ表	スル丁而シテ此國局ハ謝禮カ謝罪カ未タ知ルヘカラスト虽モ其草按	ノ如キハ蓋シ韓人ノ手ニ寄テスシテ井上君ノ手ヨリ出テシトナラン	果シテ然ラハ其文中竹添公使國王ノ救命ニ依テ兵ヲ率テ入内護衛セ	シトヲ謝スルノ意ヲ確カムルノ語アルト疑ヒヲ容レサルナリ何トナ	レハ此語以テ他日支那ニ向テ談判ヲ開クノ基ヒタルハナリ第二條日	本國遭難人氏ノ損害ヲ償ヒ及ヒ其遺族救恤ノ爲ノ拾壹万圓ノ朝鮮國	ヨリ差出ス丁世ノ論者ハ此拾壹万圓ヲ以テ過少ナリト謂ト虽モ其ハ	甚タ適當ナリト信ス蓋シ朝鮮ハ貧弱ノ國ナリ拾壹万圓ハ眞ニ應分ノ	償ト謂フヘシ若シ之ニ向テ巨額ノ償金ヲ要求セハ決シテ調達シ能ハ	サルヘキナリ假令之ニ應スルモ名ノミニシテ其實ナキヲハ彼ノ十五
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

年、償金ノ事以テ鑒スヘシ若シ此上ニ巨額ノ償金ヲ要求スヘカラス
トセハ其レ將タ地ヲ割カントスルカ地ヲ取ルヲ以テ國家ノ利益ニ非
サルナリ地ハ以テ内訌外侮ニ備ヘサルヘカラス況ニヤ海外万里ノ遠
キニ在テ境域強大ノ國ニ接スルオヤ又況ニヤ歐米諸國ノ注目ヲ惹ク
ニ於テオヤ是レ其拾遺萬口ヲ以テ適當ト為ス所以ナリ論者又曰ク此
条ハ被害者遺族ノ救恤ト商民貨物ノ損害ヲ償フニ止リテ致害者ヲ問
ハサルハ甚ク訝カシト某曰ク否十致害者ハ朝鮮政府ニ非ス他問フヘ
キノ致害者即チ政府アリ抑々朝鮮國王ハ吾公使ニ王宮護衛ヲ救托セ
リ而シテ之カ急ニ應セシ者ハ吾竹添公使ニシテ其舉マ正ナリ而シテ
之ヲ攻メシ者ハ即チ支那兵ニシテ真事ヤ曲曲者以テ不問ニ付スヘカ
ラス之ヲ問フハ戰訟ニ依ルヘシ又之ヲ問フニ其道アリ第一条朝鮮國
謝狀中救命入内云々ノ數語是ニ至テ根基タリ是其朝鮮國ニ向テ致害

シテ	ト	要	難	一	ニ	今	ナ	何	害	曰	者
テ	泛	求	人	此	足	回	リ	如	亦	ク	ヲ
軍	称	ヲ	民	條	ラ	ノ	然	ト	致	朝	問
旅	シ	為	ト	ノ	サ	禍	ル	曰	害	鮮	ハ
ノ	タル	セ	泛	如	ル	患	=	ク	者	既	ス
事	ハ	シ	称	キ	ナ	ヲ	談	朝	タル	=	シ
ハ	戰	ヲ	シ	モ	リ	惹	政	鮮	支	害	テ
非	乱	怪	此	亦	第	起	府	國	那	者	他
常	ノ	ハ	=	措	三	ス	政	内	政	=	日
ニ	際	ト	磯	辦	條	ル	綱	=	府	非	大
シ	=	虽	林	其	=	=	紊	居	=	ス	=
テ	シ	モ	大	法	磯	至	シ	留	要	ト	支
刑	テ	是	尉	=	林	ル	テ	セ	求	セ	那
汰	其	亦	ヲ	適	大	遺	治	外	ス	ハ	政
ノ	致	夕	特	者	尉	族	御	國	ヘ	被	府
問	害	怪	書	ト	ヲ	救	其	人	シ	害	=
フ	者	シ	シ	謂	殺	恤	術	ヲ	然	者	問
ヘ	ハ	カ	且	フ	害	損	ヲ	保	ル	遺	ハ
キ	既	ル	ツ	ヘ	シ	害	失	護	ニ	族	ン
限	=	一	致	キ	タ	却	レ	ス	之	ノ	ト
=	敵	非	害	モ	ル	亦	保	ル	ヲ	救	欲
非	タル	ス	者	論	兇	其	護	ハ	朝	恤	ス
ス	一	前	ヲ	者	徒	任	ノ	朝	鮮	ト	ル
軍	明	条	重	ハ	ヲ	=	責	鮮	=	商	所
汰	カ	=	刑	又	重	シ	ヲ	政	要	民	以
ノ	ナ	遭	=	前	刑	テ	怠	府	求	貨	ナ
範	リ	難	處	条	=	怪	リ	ノ	ス	物	リ
圍	而	人	ス	=	處	シ	以	責	ル	ノ	論
内		民	ル	遭	ス	ム	テ	任	ハ	損	者
ナ			ノ								又

不良ノ種子モ含ミ居レリ余カ懇意ナル人ノ中尾崎行雄杯ハ狂セル方	ノ緩和ナルニ不平ヲ懷キテ躁キ立ツルハ甚夕患フヘシ其中ニハ往々	又早苗田専門學校其他各所學校ノ生徒輩ノ此問題ニ付キ政府ノ處分	至テハ他日詳細ノ公報ヲ竣テ比照スヘシ云々	良果ヲ得ヘカラサルナリ某國家ノ爲ノニ之ヲ賀ス其意見ノ合不合ニ	全シテ更ニ間然スヘキモノナシ參議井上君其人ニ非サルヨリハ亦此	煩ハスヲ要セス故ニ爰ニ贅セス要スルニ今回日韓談判ノ事ハ首尾相	ル所以ナリ而シテ他ノ条々ノ如キハ措辦皆其當ヲ得特ニ復夕考察ヲ	書シテ其被告人タル下手者ヲ重刑ニ處スルノ一ヲ朝鮮政府ニ要求ス	問フヘキモノニ非スシテ刑訟ノ行ハルノ日ナリ是其磯林大尉ヲ特	リ其致害者ハ敵ニ非スシテ兇徒ナリ然リ則チ治平ノ日ハ復夕軍法ノ	リ然レハ則チ之ヲ問フ其道アリ磯林大尉殺害ノ一ハ乱後治平ノ日ナ
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

如シ其モ之ヲ箱制スルニ因シメリ又横濱商人中大株ノ者ハ此度ノ事
ニ由リテ敗衄ヲ取リ小商人ハ益ト思ヒタルカ大損ニ歸レタル杯ヨリ
不平雅リニテ躁キ立ツル趣キナリ又九州邊ノ人士ノ尋來リテ不平ヲ
訴何カ機ニ應シテ事ヲ企テント圖ル色ヲ以テ相談スル者少ナカラス
國家ノ為メ患フヘキ事ナリ云々

名 称	井上 馨 文書
標 題	穿井上大使在朝鮮 他 穿井上大使在朝鮮詩 (明治18年)

分 類 番 号	672
	14
	7

11 17

国立国会図書館

登録 番号	264014
----------	--------

寄井上大使在朝鮮

少介



北溟仗節涉狂濤想殺漢城
大使勞當國要權弛張力古
今史上幾人高

和兒玉奎海韻

孫七郎

百尺艤艫絕海濤挺身奉
勅見勲勞韓王城下結盟去
文祿以來名更高

同

孫七郎

一夜雞林雪捲濤全權任重
豈辭勞結盟不用干戈力竊

喜 聖朝文德高

同

佐衡

輕裝小隊涉狂濤不用千軍
萬馬勞預識韓王城下事
旭旗颺處頌聲高

同

哲

鼇背火輪翻怒濤欽差使
節獨賢勞壯懷何處增奇
想猛虎聲中山月高

同

正人

一從韓海起風濤慷慨人皆
撫孟勞公也立談收百勝
櫓槍無影日光高

同

正人

萬里宣威涉海濤歸朝
足答聖躬勞願公更奉
燕京使四百餘州仰德高

同

龍之

雄氣堂堂凌海濤丹心許國
不辭勞一言直正背盟罪
仰見偉勲千古高

同

嘉陳

撞破西瀛万里濤片帆持節
不辭勞料知寸舌收勲績
能使竿頭一步高

姓作汗
姓名于白

名作功何如

寄井上大使在朝鮮

少介原作

北溟伏節涉狂濤。想殺漢城大使勞。當國要權弛張力。古今史上幾人高。

和兒王奎海韵

聽雨作家不詳

百尺鰲臙絕海濤。挺身奉勅見勲勞。韓王城下結盟去。文祿以來名更高。

同

一夜雞林雪捲濤。全權任重豈辭勞。結盟不用干戈力。竊喜聖朝文德高。

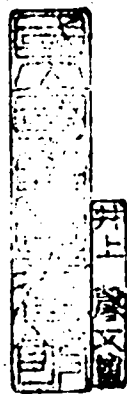
同

中島佐衡

輕裝小隊涉狂濤。不用千軍萬馬勞。預識韓王城下事。旭旗颺處頌聲高。

同

楫取素彦



正作數何

鼇背火輪翻怒濤。欽差使節獨賢勞。壯懷何處增奇想。猛
虎聲中山月高。

同

大島正人

一從韓海起風濤。慷慨人皆撫孟勞。公也立談收百勝。撓
槍無影日光高。

同

同

萬里宣威涉海濤。歸朝足答聖躬勞。願公更奉燕京
使。四百餘州仰德高。

同

雄氣堂堂凌海濤。丹心許國不辭勞。一言直正背盟罪。仰
見偉勲千古高。

同

服部楠谷

撞破西瀛萬里濤。片帆持節不辭勞。料知寸舌收勲績。能

使竿頭一步高

使竿頭一步高

使韓一事為無前大勳宜汝君頃贊不已

乙酉一月廿日煇下也神以桓安

賡奎海兒玉詞宗送奎權大使并上后役于朝鮮

國詩韻二首

村上倫

鵬翼遙迢蹴怒濤誓甘苦節敢辭芳樽俎果識折衝日
不墜皇威高愈高

同

同

雞林一夜海收濤雄辨何須汗馬勞得隴如今還望蜀
燕山孰日旭旗高

同

岡義亮

一夜韓城陸起濤
果看大使奏勲勞
北溟風定歸帆穩
萬里長天鵬影高

名称	井上 馨 文書
標題	明治十五年以來朝鮮國情書 明治十五年以來朝鮮國情書

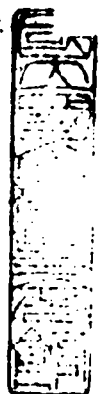
分類 番 号	672
	145 止
	7

8

国立国会図書館

登録 番号	264623
----------	--------

明治十五年京城慶親時大院君亂機、乘シ政柄ヲ執リテハ
 曩時ハ君ク勢力ヲ失ヒシ以來國政ハ平素シタル者何レモ震懼
 シテ措カサリテ此時清兵ハ王室ヲ保護スル口實ヲ以テ京城ニ屯駐
 シテ趙寧夏金允植魚允中等ハ清將吳長榮及水師吳大澂
 ト謀リテ大院君ヲ軍艦誘致シ直チ清國ニ向テ投錨テ大院君ハ
 憤然絶叫シテ強キ桎梏奈領ト云々能ク義道ニ保定府、幽州セシ
 生リ當時日本人其他各國人ト共ニ李鴻章ノ事ニ臨ミテ旁
 視スルヲ極メ然レモ亦何シ能ク其實ハ李鴻章ノ事ヲ知ラサル所ナ
 當時李鴻章母喪ニ下リ解任ニ被シ歸リ居タルニ初メヨリ
 此事ハ余ハ之ヲ知ラズ及ヒテ書ヲ吳長榮ニ送リテ云ハテ
 曰余ハ此事快捷神知賞ニ被シ警善ヲ被レテ欲ス云ハテ李鴻
 章初メヨリ于係セサレシヲ以テ知ル



状ヲ叙シ因テ閔姓カ大院君ヲ傳付スルヲ詰責レ併セテ國王カ
其父ノ不孝ナルヲ論シ且今日勅命ヲ奉レテ大院君ヲ本國ニ
還御セシムル上ハ國政ノ重事ニ決ラ大院君ノ責レテ以テ處決ス
レ閔姓ノ外戚ノ勢ヲ藉リテ跋扈スル者ニ此ハ皆罪ヲ聲レテ
退去セシムヘシ云ト面諭レタル閔泳祖ハ唯ニ奉承セリ因テ李
滸章ハ更ニ閔泳祖ニ命シ既ニ命ヲ承リタル上ハ證書ヲ手書シ
テ責ニ為スヘシト迫リテ閔泳祖可テ大懼シ辭シテ曰ク吾レ
實ニ年少未ダ權力ヲ有セス此勅命ハ固ヨリ國王及ビ王妃ニ報
シ當サニ善後策ヲ圖ヘシ證書ヲ以テ責ニ為スニ至リトハ敢テ
當ラザレ所サレキ以テ更ニ權力アル大臣ヲ以テは任ニ當ラズヘシ即
チ是任ニ當ルモノハ金允植ハ外ニ有ル可ラスト李滸章乃チ軍艦
ヲ派遣シ金允植ヲ招致シ諭スニ前狀ヲ以テス金允植奉命ヲ奉

証書ヲ手書シテ以テ貢ト爲ス李鴻章又命リ袁世凱

傳ヘテ毎コト大院君ト相議サシムルコト爲セリ大院君及閔金

俱ニ國ニ拘リ袁世凱ト計議シ今王ノ懦弱閔氏ノ跋扈奈何

トセスヘカウツルニ由リ國王ヲ廢シ大院君ノ孫滿子李載ヲ立ルニ計

議哉ニト熱シ將サ、日ヲ期シテ事ヲ舉ゲルニ及ビ閔泳弼急

ニ事成リレ後、利害ヲ慮リ之ヲ國王及王妃ニ密告シ即夜遁

亡レテ香港ニ至リ國王及王妃大ニ驚キ大ニ怒リ因テ大院君骨

制シ又袁世凱ヲ責ム袁一言、對フヘキナレ乃チ金允植ヲ以テ罪

魁ト爲シ將サ、死刑ニ處セシトス袁乃チ之ヲ李鴻章ニ告リ李

出ヲ國王ニ送りテ解諭シ因テ一等ヲ減シ遠キ所ニ流配ス閔泳弼

ハ香港ニ遁亡シタル以來勢國ニ侮ル能ハスレテハ今ニ至リ是

ト實ニ明十八年九年ノ事ナリ

大院君國_ハ由_リ以_テ件_ヲ生_シタル_ヲ以來益々時々齟齬_シ
テ一向隱居_シテ憤懣_ヲ貯_メ昨_ノ年月_ヲ遂_ニ棄_リ哀世凱_モ亦
王室及_ニ反族_ト對_シテ面目_ヲ模_シテ不_レ忍喝_ヲ以_テ之_ヲ脅迫_ス
ミナリ左_ニ王室及_ニ反族_カ哀_ニ對_スル_ニ情_及清國_ニ對_スル_ニ情_ハ比
ヲ推_シテ以_テ知_レハ_レ是_ニ於_テ乎魯_ニ附_リ清_ヲ抑_シテ論_密カ_ニ反
族間_ニ行_ハ種々事情_ヲ魯國公使_新ナル_ヲ屬_スル_ニ魯公使_ハ
之_ヲ奇_ニ見_シテ頻_ニ之_ヲ籠絡_シテ以_テ反族_ニ勿_レ論_當今_ニ韓廷_ニ
之_ニ助力_ヲ有_ス徒_ハ大抵魯公使_ハ趨_リ付_キ反族_ニ魯國_ニ密
約_シテ具_ニ保_護國_ヲシ_テ止_テ正_ニ韓國_ニ之_ニ同意_シテ兩國_ニ軍
決_シテ之_ニ從_フリ_テ魯_ニ反族_ト魯公使_ハ關係_ハ以_テ知_レ可_レ
大院君_ハ哀世凱_ト交情_ハ甚_ニ親密_{ナル}只_シ時_ニ來_レ以_テ
往_ハ之_ニ過_スキ_ニ哀_ニ謂_フ大院君_ハ其_ノ地位_ヲ望_ミ以_テ國政_ヲ

矯革セシト欲セハ嘗ク反スルハ容易ナク此は老ヒテ爲メ能
ハコトナク之ヲ識リ大院君ハ謂フ袁世凱清國機カヲ倚仗シテ
閔族ヲ脅禁スレト彼年少シキ爲メ能ハコトナク之ヲ輕シキ未
以年ハ間ホ互ニ輕視スルハ以テ顯_レ本年五月至リ李鴻章
書ヲ國王ニ上リ國政ハ非_レアルヲ極論シ又上國對_シテ禮ヲ答
グルヲ責メ若シ改圖セム_レ於テハ王位ヲ廢置ス_レト説_クリ國
王大ニ怒_リ且ツ大ニ怒_リタリ閔族其機_ニ乘_レテ年老ナル太監等
ト謀_リ王位ヲ世子_ニ讓_ルヲ儀決セリ國王又大ニ怒_リ名_ニは懦弱
シテ閔族及大臣等ヲ罪ス_レ能ハス又王妃_ハ仲ヨリ之ヲ調解ス_レ
アリテ遂ニ其事ヲ停止セリ然_レモ世子南面受賀_ノ事ハ即チ_ハ閔國
以來初有_ルモノナルヲ以テ參判李容光_ハ其非_{ナル}ヲ極力抗辯_シテ
ルカ爲メニ竊_ニ醜_ニ罪_ニ處_セラレタリ

本年七月初旬、香港、威海衛、一、密電ヲ告シ来リ、電ニ
曰、清廷ハ將サ、朝鮮ニ向テ廢年ニ付、實情セントス云、ト王及
妃皆驚懼、サ矢ス是ニ於テ韓生高ハ威海衛、威海衛
詔、詔号ト密カニ傳リ王ヲ脅カシテ魯國ニ結約シ、朝鮮ヲ奉
ケテ魯國ニ保護ノ下ニ置、具報酬トシテ威鏡一道ヲ以テ魯
國ニ獻ル、任ス、イ、議決セリ、詔、王又悠々不斷、情アリ大
院君、隱居シテ乎ヲ歛、レ、モ掖廷ニ入ル、都ヘテ大院君ノ
耳目トナリ居ル、故ニ此賣國ノ事ヲ聞知シ憤慨ノ餘、遂ニ病
ヲ成セリ

魯ニ便章具ハ本年三月期滿、テ更代スル、告ナリレカ、暫ク
京城ニ留リ、閔族ト計議スル所アリ、先月中、至リテ姑ノテ、由國
ヤリ其間、何号、密約陰謀、ナリレヤ、實ニ測ル可ナカルヤリ

今日朝鮮ノ情況ヲ概観スルハ右ニ記スルハ頃決シテ訛誤ナキコトヲ
信ス閩姓ノ清國及大院君ヲ畏ル即チ勢ヲ能ハル所ナリ大院
君ノ憂國憤懣即チ勢ハ巨ム能ハル所ナリ其傾軋逼迫ノ
勢見ルヘレ状スヘレ閩族輩ノ國ヲ賣ルヲ以テ兒戯ニムルヲ決シ
テ疑ヲ容セス其微細陰密ナル局外者ノ測知ス可カラサル所
ナリ

名 称	井上 馨 文書
標 題	防穀事件覚書 防穀事件覚書

分 類 番 号	673
	/

6

国立国会図書館

登録 番号	264023
----------	--------

秘

防
穀
事
件
覺
書

井上内務大臣



井上 啓

264023
6
昭和27年4月3日

防穀事件覺書

明治十六年七月二十五日訂結日韓通商條約第三十七條ニ依レハ朝鮮
國政府ニ於テ若シ水旱或ハ兵擾等ノ事故アリ境內缺食ヲ致スヲ恐レ
暫ク米穀ノ輸出ヲ禁セント欲セハ其期ニ先タツ一ヶ月前ニ於テ地方
官ヨリ日本領事館ニ照知シ而ル後之ヲ決行セサル可ラズ(別紙第一號
明治十六年
七月廿五日訂結日
韓條約第三十七條)然ルニ明治二十二年中朝鮮ノ官吏ハ穀類ノ豐作ナ
ルニモ拘ハラス且ツ條約上ノ手續ヲ履マズ漫リニ防穀令ヲ發シ或ハ
穀類ノ發賣ヲ嚴禁シ或ハ其輸出ヲ禁止シタルヲ以テ我商民ハ之レカ
爲メ非常ノ損害ヲ被リタリ依テ帝國政府ハ朝鮮政府ガ條約ニ違反シ
我商民ニ大ナル損害ヲ被ラシメタル理由ニ依リ在京城帝國公使ヲシ
テ朝鮮政府ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲サシメタリ朝鮮政府ハ其行爲
ノ條約違反タルト其行爲ヨリ生シタル損害ヲ賠償セサル可カラサル
ノ責務アルコトハ之レヲ自認スト雖モ今日ニ至ルマテ未タ其義務ヲ

履行スルニ至ラス依テ左ニ本件ノ顛末ヲ略述シ以テ帝國政府ガ朝鮮政府ニ對シ損害賠償ヲ請求スルノ理由アル所以ト朝鮮政府ガ未タ其義務ヲ履行セサル事實トヲ證明セム

蓋シ帝國政府ヲシテ朝鮮政府ニ對シ損害賠償ヲ請求スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタル所以ノモノハ左ノ事實ニ基因スルモノトス

○第一咸鏡道防穀事件

(甲) 梶山新介外四十餘名ヨリ損害要償ノ件

朝鮮國督辦交涉通商事務閣種默氏ハ我明治二十二年十月十一日附書翰ヲ以テ突然咸鏡道觀察使ヨリノ申立テナリト稱シ咸鏡道ハ同年不作ナルヲ以テ十一月二十三日以降一ケ年間米穀ノ輸出ヲ禁止スヘキ旨在京城近藤代理公使ニ照會セリ(第二號二十二年十月十一日附書)近藤公使ハ同月十三日附ヲ以テ先ツ咸鏡道地方ノ實況如何ニ付在元山帝國領事ヘ問合セ中ニ付領事ヨリノ報告ニ接シタル上何分ノ回答ヲ爲スヘキ旨ヲ答ヘ置キ(第三號廿二年十月十三日附書)其後在元山領事ヨリハ

該道ハ何等ノ天災ナク又五穀不作ノ報ヲ聞カサルノミナラズ大豆ノ如キハ最モ多額ノ收穫アリシトノ報告アリタルヲ以テ近藤公使ハ更ラニ十一月六日附ヲ以テ凶歉ノ實迹ナキニ於テハ防穀ハ條約ノ斷シテ容サマル所ナルヲ以テ防穀ノ禁制ニ同意シ難キ旨ヲ督辦ニ確答シタリ其文ニ曰ク(前略)日韓條約ニハ旱澇兵戎等ノ文字ヲ載セ以テ禁阻ニ制限スル所アルヲ昭ニシ各國ノ條約モ亦特ニ大君主降旨等ノ文字ヲ載セタルハ皆輕舉妄爲累ヲ商民ニ貽スノ弊ヲ慎戒セシニ外ナラス然ルニ今般該監司ノ申立タル事情ニハ歲歉ノ因由詳カナラサルノミナラス事實モ亦十目ノ視ル所ト異ナリ無乃輕舉ナラシカト被存候況ヤ貴國既ニ開港互市ヲ許サレ候以上ハ其要有無相濟クルニ可有之候間果シテ該監司報告ニ無相違ニ於テハ貴政府ニ於テ三南旱荒ノ前例ニ照シ先ツ進口ノ穀稅ヲ免シ災民ノ賑卹ヲ圖ジルヘキハ當務ノ急ナル者ト存候試ニ思ヘ河東ノ粟ヲ移サスシテ尙河南ノ民ヲ養フニ足ラハ豈之ヲ凶歉ナリト申サルヘキヤ既ニ凶歉ノ實迹無之テハ條約ノ斷

シテ容サ^ハル所ニ有之候間本使ニ於テ實ニ此度防穀ノ禁制ニ御同意
致シ難キヲ相憾ミ候云々ト(第四號明治廿二年十月十六日附明近藤公使往翰)

如此ク近藤公使ト朝鮮政府トノ間ニハ協議未タ整ハサルニモ拘ハラ
ス咸道鏡監司ハ既ニ同年九月中旬ヨリ米穀濫賣ノ禁令ヲ發シ而シテ
其禁令ヲ嚴密ニ施行セシメンカ爲メ巡捕ヲ各邑ノ要路ニ配置シ豆穀
ノ運搬ヲ差押ヘシムル等ノ處爲ヲ行ヒ名ハ米穀ノ濫賣ヲ禁スルト雖
モ其實穀類ノ賣買ヲ禁止スルニ至レリ是ニ於テカ我公使ハ明治二十
二年十一月七日附ヲ以テ第一朝鮮政府ガ公使ノ抗議^{プロテスト}アルニモ拘ハラ
ス防穀ノ禁令ヲ發セシメ加之豫告期月内ニ之ヲ實施セシメタルノ罪
ヲ責メ以テ該禁令ノ撤銷ヲ請求シ第二ニハ此禁令ニ依リ我商民ノ被
ルヘキ損害ハ朝鮮政府ニ於テ悉ク之ヲ賠償セサル可カラサル義務ア
ル旨ヲ照會セリ其文ニ曰ク(前略)本使ハ先般貴督辦之公文ニ接シ候節
在元山我領事ヨリ實況取調ノ報告ニ接シタル上ニテ何分ノ御回答ニ
可及旨照復致居候ニ豈料今般在元山我領事ヨリ報告ノ模様ニ依レハ

全ク貴衙門ハ更ラニ本使ノ承諾ヲモ待タズ直チニ禁止ノ布達ヲ許サ
レタル哉ニ被存加之豫告期月中ニ於テ該道監司ハ既ニ其禁令ヲ實行
セラレ候趣甚以テ奇怪千萬ノ義ニ有之候夫レ按ズルニ兩國ノ互市ニ
關スル者ハ損益共ニ一應協議ヲ遂ケタル上實施可致斷シテ一國ノ專
擅ナルヲ容サハル義ニシテ萬一甲國ヨリ乙國ノ承諾ヲ經ズ妄リニ禁
令ヲ布達シ爲メニ乙國商民ノ損害ヲ來タシタランニハ甲國ヨリ悉皆
賠償スヘキハ是即チ通法ナリ然ルニ今嚴貴衙門ハ更ラニ本使ノ承諾
ヲモ俟タズ直ニ禁令ヲ實施セラレ爲メニ我商ノ損耗ヲ來シタルモノ
ナレバ固ヨリ貴政府ニ於テ其賠償ハ責ニ任シテ專擅ノ咎ヲ謝セラル
ベキハ勿論ノ義ト存候云々(第五號明治廿二年十一月七日附近藤公使往輪)朝鮮政府ニ於テハ
我公使ヨリ右ノ如キ嚴重ノ照會ニ接シタルヲ以テ急ニ咸鏡道監司ニ
對シ日本公使ヨリ云々ノ照會アリタリトテ防毅令撤銷ノ命ヲ下シ其
條約違犯タルヲ自認セリ其文ニ曰ク(前略)查年形豐歉十目所視兩報如
是相左殊庸詭異設欲禁止既訂實施日期先期一個月聲明則理應赴限禁

然ルニ監司ハ其命ヲ道内ニ布達セザリシカ爲メ元山監理ハ十一月十八日附ヲ以テ獲キニ咸鏡道監司ヨリ下シタル命ヲ奉シ十一月廿二日限リ一般ニ穀類ノ輸出ヲ禁止スルノ令ヲ發シタリ（第十七號明治廿二年十一月二十三日附）
在元山久水領事代理ヨリ青木外務次官ヘノ上申井ニ元山海關告文
右ノ報知近藤公使ハ許ニ達スルヤ公使ハ直ニ統署ニ至リ穀類輸出禁止ノ條約違背タルヲ詰責シ朝鮮政府ニ對シ速カニ解禁ヲラソゴトヲ請求シタリ依テ朝鮮政府ハ更ラニ咸鏡道監司ニ對シ左ノ關文ヲ發シ

關飭事案照該道黃豆禁出一事。曩因江本公使近據屬回報。照得當即關飭將該黃豆禁出之令。立行撤銷在案。現經數旬。尙不弛禁。致令滋案。又復成三何事體。再准江使。而稱該監司如此違章。畢竟有何所恃。上達政府。訂約之

義^ニ下^ル截^{ダツ}商^ニ民^ニ貿易^ノ之路^ニ違^フ背^キ約^ノ旨^ニ合^フ有^リ請^ム罪^ニ云^フ々等^ノ因^ニ准^ス此^ニ再^ニ行^フ關^ノ催^ニ到^リ即^チ將^ニ該^ノ禁^ノ令^ニ刻^ニ即^チ違^フ收^メ再^ニ勿^ク致^ス累^ニ改^メ府^ニ啓^ス覺^ス隣^ノ邦^ニ宜^ニ當^ル者^ニ

又元山監理^ニ對^シテモ解^ス禁^ノ命^ヲ下^シタルヲ以^テ該^ノ港^ニ於^テ右^ノ禁^ノ令^ニ行^ハレタルハ僅^ク數^ニ日^ニ出^テサリシト雖^モ内地^ニ於^テハ防^ノ穀^ノ令^ニ撤^ス銷^ノ命^ヲ行^ハレズ監^ノ司^ハ右^ノ如^ク再^ニ度^ニ迄^ニ關^ノ文^ヲ受^領シタルニモ拘^ハラズ毫^モ統^ノ署^ノ解^ス禁^ノ違^フ令^ヲ各^ノ地^ノ方^ノ官^ニ頒^布セサルノミナラズ尙^モ穀^ノ類^ノ販^賣買^ヲ一^層嚴^シ禁^シ而^シテ犯^ス禁^者ハ之^ヲ拘^引入^半セシムル等^ノ處^分ヲ施^スズニ至^リタルヲ以^テ到^ル處^ノ人^民皆^モ畏^懼ノ念^ヲ懷^キ日本^人ト取^引スルヲ好^マス甚^シキニ至^リテハ條^ノ約^ニ據^リ内地^ニ行^ハ商^{スル}我^ノ商^人ハ殆^ト其^ノ止^宿ニ差^支ヲ生^{スル}ニ至^レリ(由^ハ八^ノ號^ノ明^ノ治^ニ廿^ニ年^ノ十二月^ノ八^ノ日^ノ近^ニ關^ニスル上^ニ申^ノ外^ニ文^ニ寫^ス故^ニ元^ノ山^ニ於^テケル輸^出ノ禁^止ハ之^ヲ解^クイ^テ得^ル)タリト雖^モ内地^ニ於^テケル發^賣者^ナク又^モ既^ニ買^入レタル穀^ノ類^ト雖^モ之^ヲ運^搬スル^ノ能^ハサルガ爲^メ其實^ニ毫^モ輸^出禁^止ト其^ノ結^ノ果^ヲ異^ニセサルニ至^レリ(第^ニ九^ノ號^ノ明^ノ治^ニ二十^ニ年^ノ十二月^ノ八^ノ日^ノ在^リ元^ノ山^ニ是^ニ於^テ我^ノ公^ノ使^ニ水^ノ領^ノ事^ノ代^ノ理^ニヨリ青^ノ木^ノ外^ニ官^ニへノ上^ニ申^ス)

ハ再三再四朝鮮政府ニ對シ防殺令撤銷ノ談判ヲ爲シタリト雖モ朝鮮
政府ハ全然解禁ノ實ヲ擧クルコト能ハサリシヲ以テ（第十二年明治廿三年四月十八日）
近藤公使往來我公使ハ咸鏡道監司ヲ免職セシムルニアラサレハ到底
我目的ヲ達スルヲ能ハサルヲ悟リ遂ニ其免職ヲ請求セリ而シテ右ニ
關シ朝鮮政府ト談判數次漸ク明治二十三年四月十八日乃至リ趙咸鏡
道監司ハ江原道監司ニ轉任ヲ命セラレ市テ防殺令解禁ノ實ヲ見ル
至レリ

以上列舉シタル所ノ事實ニ因テ明カナルカ如ク咸鏡道南部ニ於ケル
防殺令ハ明治廿二年九月ヨリ同廿三年四月迄凡ソ八ヶ月間嚴密ニ施
行セラレタルヲ以テ在元山我商民等ハ是レカ爲メ直接間接ニ莫大ノ
損害ヲ蒙リタリ依テ被害者タル梶山新介外四十餘名ハ朝鮮政府ニ對
シ防殺令發布ノ爲メ直接ニ蒙リタル損害ノ賠償ヲ請求センガ爲メ明
治二十三年十二月ニ至リ損害要償ノ訴願書ヲ在元山領事ニ提出シ領
事ハ之ヲ在京城公使ニ轉送シ而シテ我公使ハ其請求ノ正當ナルヲ認

意見ヲ附シ同年十二月十七日附ヲ以テ之ヲ外務大臣ニ具申セリ
（第一號明治廿三年十二月十七日）在元山我商民ノ蒙リタル損害ハ咸鏡
 道監司ガ條約ニ違犯シ不法ノ防殺令ヲ發布シタルニ基因スルモノナ
 ルガ故ニ朝鮮政府ニ於テ辨償ノ責ニ任セサル可カラサルノ一點ニ付
 テハ帝國政府ノ當初ヨリ確信スル所ナリシト雖モ被害者ヨリ申出テ
 タル損害額ノ果シテ事實ニ相違ナキヤ否ニ付テハ多少疑ナキニアラ
 ス且ッ本件タル素ト旧韓兩國ノ交際上重大ノ事件ナルヲ以テ帝國政
 府ハ充分ノ注意ヲ加ヘ以テ本件ヲ處分セント欲シ外務省ニ於テ精密
 ノ調査ヲ爲サシメタリト雖モ尙之ヲ以テ足レリトセズ廿四年二月ニ
 至リ特ニ吏員ヲ元山ニ派出シ被害者ノ實況ヲ調査セシメ而シテ同年
 十二月ニ至リ在京城我公使ヲシテ帝國政府ニ於テ眞ニ正確ナリト認
 メタル損害ノ賠償ヲ朝鮮政府ニ請求セシメタリ其請求額元利合計十
 四万千四百四十二圓二十四錢七厘ナリ（第十號明治廿四年十二月七
 日附）
（日本）往來輪船代理ニ明治廿四年四月廿五日附公船第三十二號
 水領事代理ニ明治廿四年四月廿五日附公船第三十二號

(乙) 大塚榮四郎ヨリ損害要償ノ件

前段ニ於テ敘述シタル事件ト相同時ニ起リタルモノ尙一事件アリ即チ咸鏡道北部ニ於ケル防穀事件即チ是ナリ元山在留大塚榮四郎ナル者明治廿二年八月成規ノ手續ヲ了シ咸鏡道吉州明川地方ヘ行商シ大豆ノ買入ニ從事セ既ニ取引ノ約束モ整ヒタルニ當リ該道按撫使ハ突然同地方官ニ命シ防穀下稱シ其買込及ヒ積出シヲ禁止セシメタルノミナラズ尙之ヲ密商ナリトシテ遂ニ其退去ヲ命シタリ依テ大塚ハ地方官ニ對シ百方辯明シタリト雖モ其目的ヲ達スル能ハズ止ムヲ得ズ元山ニ歸リ之ヲ我領事ニ訴ヘタリ領事ハ直ニ之ヲ監理ニ照會シタルニ監理ハ地方官ニ對スル公文ヲ交付シタルヲ以テ大塚ハ同年十二月其代理ハヲ再ヒ前示シ地方ヘ赴カシメタリ然ルニ途中北青府下新浦ニ於テ同地方官ハ其通行ヲ差止メタルヲ以テ遂ニ其目的地ニ達スルコト能ハズシテ歸元シタリ猶大塚ハ其後更ニ(二十三年)代人ヲ該地方ヘ派出シタリト雖モ當時恰モ旱魃ノ兆候アリシヲ以テ穀類ノ發

賣ヲ欲セサリシカ爲メ其目的ヲ達スルヲ能ハズシテ歸元シタリ
以上ノ事實ニ依リ大塚榮四郎ハ約定濟大豆ノ授受ノ期ヲ失スルノミ
ナラス尙受取殘ヲ生スルニ至リ大ナル損害ヲ蒙リタリ而シテ其茲ニ
至リタル所以ノモノハ全ク朝鮮地方官カ條約ニ違犯ノ行爲ヲ以テ穀
類ノ買入ヲ妨害シタルニ原因スルカ故ニ被害者ハ朝鮮政府ヲシテ其
損害ヲ賠償セシメンヨウ我政府ニ出願セリ依テ帝國政府ニ於テハ其
出願ノ果シテ正當ナルヤ否ヤヲ精査シタルニ朝鮮政府ニ於テ其損害
ヲ賠償スベキ充分ノ理由アルモノト認メタルヲ以テ在京城我公使ヲ
シテ前顯威鏡道南部防穀事件ニ關スル損害賠償ノ要求ヲ提出シタル
ト同時ニ本件ニ關スル損害額五千七百二十六圓〇七錢五厘ヲ朝鮮政
府ニ請求セシメダリ（第十三號明治十四年七月四日楊山公使ヨリ據
本外務大臣ヘノ上申并ニ前顯第十二號參着）

○第二黃海道防穀事件

（甲） 庄野古妻及ヒ河内ノ三名ヨリ損害要償ノ件

庄野嘉久藏古妻保藏及河内直一ノ屬人磯部六藏石井芳次郎ノ二名ハ

明治廿二年一月中ヨリ黃海道金川助浦地方ニ於テ穀類ヲ買ヒ入レ同年五月下旬ニ之ヲ仁川ニ輸送セントスルニ當リ金川府使ハ黃海道監司ノ命ナリト稱シ其運搬ヲ禁止シタリ依テ右二名仁川ニ歸リ監理ニ請フテ關文ヲ領收シ之ヲ所持シ再ヒ助浦ニ至リ其買入レタル穀類ヲ運搬スルノ許可ヲ請ヒタレバ監司之ヲ肯セス故ニ止ヲ得ス再ヒ仁川ニ歸リ之ヲ我領事ニ訴ヘタルヲ以テ領事ハ之ヲ在京城公使ニ具申シタリ依テ公使ハ同年六月二十九日附ヲ以テ之ヲ朝鮮政府ニ照會シタルニ朝鮮政府ハ其條約違犯タルヲ認メ直ニ黃海道監司ニ對シ關文ヲ發シ解禁セシメタリ其文ニ曰ク

(前略)查該觀察使モ不顧各國條約任意妄爲請立刻行飭以開防穀之禁並將所押穀糧還給我商人以免滋擾等因前來准此查欲禁米糧出口先期一月知照轉示商民一律遵照等語載在約章如貴營有意外防穀先期報明本署知會各公使轉輸該商民方可遵行倘不早爲報明遽行禁止以致該公使使爾結殊屬詫異茲特關飭到即將該日商所購米穀暫准運出(第十

明治廿二年六月十九日附近藤代理公使
ヨリ趙署理官辦へ往輪井ニ同附屬書類

斯ノ如ク穀類運搬ノ禁ハ之ヲ解カセヨタリト雖モ輸出禁止ノ日ヨリ
解禁ノ日迄ハ殆ト一ヶ月餘ナリシヲ以テ其間ニ或ハ穀類ハ相場下落
シ或ハ賣買ノ契約無効トナリ庄野嘉久蔵外三名ノ者ハ勘オカズヤ
損害ヲ蒙リタリ而シテ其損害ハ黃海道監司ノ條約違犯ノ行爲ヨリ生
シタル者ナルカ故ニ被害者ハ其損害額千四百十七圓餘ヲ朝鮮政府ニ
請求セシメテ出願シタリ依テ公使ハ其請求書類ヲ考覈スタルニ右要
求額中八百七十七圓四十五錢七厘ハ之ヲ正碯ノ請求ナリト認メタル
ヲ以テ同年十二月十九日附ヲ以テ之ヲ朝鮮政府ニ請求シタリ(第十五
號明治
廿二年
十二月
十九日
附近藤
代理公
使ヨリ
趙署理
官辦へ
往輪井
ニ同附
屬書類)

(乙) 佐竹土井ノ二名ヨリ損害要償ノ件

明治二十二年九月中仁川在留本邦商人佐竹甚三土井龜太郎ノ兩人黃
海平安兩道ニ於テ穀物ヲ買集メ之ヲ本邦ニ輸出スルノ目的ヲ以テ該
兩道ニ至リ翌二十三年三月解氷ノ期ヲ俟テ之ヲ輸送セシメ爲メ追々

米穀ノ買集ニ從事シ居リタル處三月初旬黃海道監司ハ(三月十日頃)突然防穀令ヲ發シ前二十二年ハ朝鮮國一般豐年ノ開アリシニモ拘ハラヌ同地方ヨリ穀類ノ輸出ヲ禁遏シタルカ爲メ開江ノ期ニ至ル地土井等ハ既ニ買收ノ穀物ヲ輸出スルヲ能ハサルニ由リ之ヲ在仁川我領事ヘ訴出領事ハ同年三月十五日附ヲ以テ之ヲ在京城近藤代理公使ニ具申シタルヲ以テ同公使ハ同十六日附ヲ以テ統理衙門ニ照會シ「昨年咸鏡道防穀釀成兩國交渉ノ重案今復黃海道監司擅斷設禁貴國監司ノ約旨ニ違背シ貴政府ノ累ヲ滋スノ多キ一ニ此ニ至ル實ニ痛息スヘシ要之其禁阻限制ノ妄施ス可カラサル條約第九款詳之其内地稅ノ一切徵收ス可カラサル貿易章程第十八款載之内地行商ノ拒止スヘカラサル英約第五款ニアリ其禁穀ノ一段ニ至リテハ通商章程第三十七款ノ手續キニ據ラサルヲ得サル其明如敝日ニ有之貴地方官毫モ此等ノ明文ヲ顧慮セズ漫施妄設至ラサルナキハ貴政府ニ於テ決シテ等閑視セラルヘキ場合ニ無之ト存候」云々ト陳ヘ以テ該防穀令ノ撤銷ヲ請求シタ

朝鮮政府ハ其請求ヲ容レ直ニ黃海道監司ニ關文ヲ發シ同防毅
令ヲ撤銷スヘキヲ命シタリ其文ニ曰ク

相考事。即准日本公使近藤照會。內開云々。等因准此。查朝日通商章程第
三十七款。內載。因有旱潦兵戎等事。恐國內缺食。欲暫禁米糧出口。預先期
一個月。由地方官知照日本領事官。以便預將其期轉示日本商民。一律遵
照等語。該道內未聞有旱潦缺食之虞。遽布米穀禁出之令。致令商路阻滯。
至有該使照駁之境。如果屬實。殊爲不合。茲特關飭。到即將該米穀禁出之
令立即撤銷。出示各邑曉諭。無違。并將該日商所購穀物。時准僱兌車船人
夫運往仁港。使之完納正稅。以安商情。而免滋案。亦即迅報形止。宜當者。
(第十六號明治廿三年三月廿五日附近藤代理公使ヨリ青木外務大臣
へ上申附明治廿三年三月十六日附近藤代理公使ヨリ函督辦へノ照會
井ニ防毅令ニ關文)

右ノ關文ニ依リ該防毅令ハ同月十九日頃撤銷サレタルヲ以テ黃海道
防毅令ノ公然施行セラレタルハ甚少値々ノ日數ニ過キスト雖元一方
ニ於テハ地方官等カ陰ニ種々ノ方略ヲ以テ穀類ヲ運搬ヲ妨害シタル

ト又一方ニ於テハ其取引高ノ甚々巨額ナリシトヲ以テ右兩人カ策リタル所ノ損害モ亦隨テ甚々多額ニ上リタリ依テ右兩人ハ明治二十四年二三月頃ニ至リ朝鮮政府ニ對シ該損害ノ賠償ヲ請求スルノ意アル旨ヲ在仁川我領事ニ通シ其頃ヨリ仁川又ハ大坂ニ散布セル證憑書類取纏ニ着手シ明治廿五年一月ニ至リ其調査ヲ了シ遂ニ其損害額八万一千三百三十四圓三十六錢三厘并ニ本件提出ノ日ヨリ要求金交付ニ至ル迄ノ該金額ニ對スル相當ノ利子ヲ朝鮮政府ニ對シ請求アラシムヲ在仁川林領事ニ出願シタリ是ニ於テ林領事ハ右請求書ニ付キ精密ノ調査ヲ爲シ同年四月十五日附ヲ以テ一面之ヲ在京城槐山辦理公使ニ轉送シ一面之ヲ榎本外務大臣ニ具申セリ(第十七號明治廿五年四月十五日附林領事書)

榎本外務大臣ヘノ上申同年同月同日附同領事ヨリ槐山辦理公使ヘノ上申附同領事ニ係ル該損害賠償取纏書

依テ帝國政府ニ於テハ更ラニ被害者并ニ林領事ヨリ提出シタル書類ニ付キ要領ノ理由及其金額ヲ精査シタルニ該被害者カ策リタル損害ハ全ク黃海道監司ガ條約ニ違犯シ不法ノ防毅令ヲ發シタルニ基因ス

ルモノニシテ朝鮮政府ニ於テモ該監司ニ對シ發シタル關文中ニ於テ
 該防毅令ノ條約違犯タルコトハ明白ニ之ヲ自認シタルヲ以テ朝鮮政
 府ニ於テ賠償ノ責ニ任スヘキハ固ヨリ論ヲ俟タサルモノト認定シタ
 リ又其要求金額ニ至リテモ法理上ヨリ之ヲ觀察スルトキハ決シテ不
 當ノ要求ニアラスト雖モ帝國政府ハ今日朝鮮政府財政困難ノ狀態ヲ
 察シ成ル可ク其責ヲ輕減セント欲シ被害者ニ於テ正當ニ收メ得ヘカ
 リシ利益ニシテ防毅令ノ爲メニ其利益ヲ收ムルヲ能ハサリシヨリ生
 シタル損害ノ如キハ之ヲ朝鮮政府ニ對シ要求セサルヲ可トセリ（其方額
二千六百五十二圓廿八錢八厘ヲ刪減
圖廿八錢八厘）依テ明治廿五年六月ニ至リ同月六日附ヲ以テ被害者
 ヨリモ要求總額ノ中ヨリ右三萬二千六百五十二圓廿八錢八厘ヲ刪減
 シ時機ヲ見計ヒ之ヲ朝鮮政府ヘ提出スヘキ旨訓令シタルヲ以テ掘山
 公使ハ同年十一月十七日附ヲ以テ損害原額四萬八千六百八十二圓七
 錢五厘及ヒ之ニ對スル利子二萬七百八十七圓二十一錢四厘合計六萬
 九千四百六十九圓廿八錢九厘ヲ朝鮮政府ニ請求シタリ（第五十八號明治
廿五年十一月

同年十一月十七日
山辨理公使ヨリ陸奥外務省大臣ヘノ照會申附

帝國政府ヲシテ朝鮮政府ニ對シ損害賠償ヲ要求スルノ止ムヲ得ザル
 ニ至ラシメタル事實ハ以上叙述シタル所ノ如シ而シテ其事實ノ條約
 違犯タルハ固ヨリ論ヲ俟タザル所ニシテ朝鮮政府ニ於テモ亦之ヲ自
 認シタルハ同政府ガ咸鏡黃海兩道ノ監司ニ對シ發シタル關文ニ就
 テ之ヲ觀ルモ亦甚ダ明カナリ(咸鏡道監司ニ對シ發シタル關文別紙第
 同部十五號ニ)又朝鮮政府ノ條約違犯ノ行爲ニ由リ我商民ガ巨万ノ損
 害ヲ蒙リタルハ以上叙述シタル事實ニ依テ甚ダ明瞭ナリ依テ帝國
 政府ハ前段ニ陳ヘタル如ク各事件ニ付在京城我公使ヲシテ朝鮮政府
 ニ對シ公文ヲ以テ損害賠償ヲ請求セシメ而シテ先ヅ第一着ニ損害ノ
 最モ巨額ナル咸鏡道防穀事件ニ付在京城我公使ヲシテ朝鮮政府ニ對
 シ談判ヲ開カシメタリ(明治廿四年十二月十二日)然ルニ朝鮮外務督辦ニ於テハ最
 初ヨリ該防穀ノ條約ニ違犯シタルコト及我商民ガ多少ノ損害ヲ蒙リ
 タルハ之ヲ認メタリト雖モ近藤公使ヨリノ請求ニ依リ既ニ防穀令

ヲ撤銷セシメ以テ日本政府ニ其罪ヲ謝セタルコトナルガ故ニ今更損害要償ノ申込ヲ受クル等ナシトテ損害賠償要求ノ撤回ヲ主張シタルヲ以テ我公使ハ前顯明治廿二年十一月七日附近藤公使ノ照會中ニモ載セタル如ク防穀令ノ撤銷ト損害ノ賠償トハ全ク別事ナルコトヲ辯シ(第十九號元山防穀令)其後數回ノ談判ヲ重キタルニ外務督辦ヨリ右損害中朝鮮官吏ノ強奪抑留等ニ係ル損害ノ實額四万八千餘圓ノミヲ請求アリテハ如何トノ議ヲ提出シタリト雖モ固ヨリ我政府ノ同意シ得ヘキコトニアラザルヲ以テ我公使ハ斷然之ヲ拒絕シタリ(第二十號明治廿五年三月三十一日附樞山辦理上公使)

然ルニ其後尙數回ノ談判ヲ重キタル末遂ニ廿五年八月ニ至リ廿四年十二月七日附樞山公使ヨリノ照會ニ對シ韓曆壬辰閏六月十二日附(我十五年八月附)ヲ以テ公然回答ヲ爲シ彼レニ損害ヲ賠償スルノ實アルコトヲ認ムルト同時ニ我ヨリ請求シタル金額ニ付異議ヲ唱ヘ請求額十四万餘圓ヲ六万〇七百七十四圓九十錢〇六厘ニ減少センコトヲ照會シ

來レリ其文ニ曰ク

(前略)查賠案係是難償^ニ所以^ニ以閱歲相商於貴公使迄今稽延者也。券查另開各頂抑有證易明或無據可詳該商等之致損巨款原非故尋亦屬久案實難剖析已於本月初九日奉邀貴公使會臨^{セントキ}將梶山新介等四拾名暨大塚榮四郎被損金額共銀貨拾四万七千七百六十八元三十二錢二厘酌量點減。但將該名等被損金額共計六万零七百七十四元九十錢零六厘以充賠款。務圖公允妥辦。理應備文照復除請煩貴公使查照外轉詳貴政府酌核善妥賠款益敦友誼。切禱切。云々

ト梶山公使ハ之レニ對シ我政府ヘ上申シ訓令ヲ仰ダベキ旨回答セリ
(第廿一號王辰閏六月十二日閣督辦ヨリ梶山公使ヘノ回答會第廿二號王辰閏八月十五日閣督辦ヨリ梶山公使ヘノ回答會)

帝國政府ニ於テハ梶山公使ヨリノ請訓ニ接シタルヲ以テ本件ノ談判ヲ成ル可ク速カニ終局セシメント欲シ同年九月ニ至リ特ニ原通商局長ヲ彼地ニ派遣シ公使ニ參贊シテ本件ノ商議ニ與カラシメタリト雖モ朝鮮外務督辦ニ於テハ同國政府ノ事情并ニ同國財政ノ困難ヲ舉テ

來リ我請求ニ應セサルヲ以テ原局長ハ空シク同年十一月初旬ニ歸朝シタリ

其後間モナク閱督辦其職ヲ辭シタルヲ以テ談判一時中止シタリシカ數日ノ後趙秉稷氏其後ヲ襲キ外務督辦ニ任セラレタルヲ以テ我公使ハ引續キ談判ヲ試タレトモ或ハ書類ノ披閱ヲ口實トシ或ハ實地調査ノ未タ結了セサルヲ理由トシテ確答ヲ爲サマリキ

廿五年十二月中ニ梶山公使歸朝ヲ命セラレ廿六年一月ニ至リ大石辦理公使京城ニ赴任スルヤ直ニ本件ノ談判ニ取掛リタルニ督辦ニ於テハ朝鮮政府ニ賠償ノ責アルロトハ之ヲ認メタリト雖モ尙前議ヲ執リ取調委員ハ二三月頃歸京スヘキ等ニ付其復命マテ談判ヲ猶豫セフレタキ旨申出デタリ然レモ大石公使ハ其徒ラニ談判ノ期限ヲ延長セント欲スルノ意アルヲ察シ談判遲延ノ利害得失ヲ説キ此議ヲ拒絕シタリ

（第廿三號明治廿六年二月二日附大石公使ヨリ陸奧外務大臣ヘノ上申）

其後尙一二回談判ヲ重キタリト雖モ趙督辦ハ取調委員復命説ヲ固持

シ本件ニ對シテ確答ヲ爲サセリシガ遂ニ二月廿八日ニ至リ從來主張
 シタル取調委員復命說ヲ捨テ何處迄モ結局ヲ速カニスベキ旨申出デ
 十日間人猶豫ヲ乞ヒタルヲ以テ賠償額ニ付三月八日ニ確答スベキ旨
 ヲ約シ相別レタリ(事大石公使明給廿六年二月二十八日附)
 然ルニ當日ニ至リ趙督辦ハ我要求額ニ付種々ノ異議ヲ唱ヘ遂ニ翌九
 日ニ至リ曩キニ前任閔督辦ヨリ朝鮮政府ニ賠償ノ責アル旨ヲ認メ
 ル公文ヲ遣シ又趙督辦自分ヨリモ賠償ノ責アルハ固ヨリ論ナシト迄
 明言セタルニモ拘ハタズ全ニ至リ朝鮮政府ノ行爲ハ條約違反ニテ
 ズ然レドモ事ノ妥當ニ終了スルニトテ望ムカ爲メ四万七千餘圓ハ之
 ヲ辨償スヘキ旨ヲ照會セ來レリ(第廿五號明給廿六年三月十日附大石公使明給廿六年三月十日附大)
 依テ大石公使ハ直ニ統署ニ至リ右照會書ノ不當ヲ詰責論駁シタル上
 該照會ハ一度ハ之ヲ取戻サシメタリト雖モ其後再三之ヲ送附シ來リ
 今日モ至ル迄未ダ其結局ヲ見ルニ至ラズ

明治二十二年ニ帝國政府ト朝鮮政府トノ間ニ生シ今日ニ至ルマデ尙

未タ其結局ヲ見ルコト能ハサル防穀事件ノ顛末ハ以上陳ヘタル所ノ如シ而シテ上來叙述シタル事實ニ因テ之ヲ見レバ

第一 朝鮮政府カ條約違犯ノ行爲ヲ行ヒタルコト

第二 朝鮮政府カ其行爲ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責アルコト

第三 朝鮮政府カ其賠償ノ責アルコトヲ自認シタルコト

第四 損害賠償ノ責アルニモ拘ハラズ今日ニ至リ其責ヲ避ケントスルノ意アルコト

ハ甚ダ明瞭ナルガ如シ

名 称	井上 馨 文書
標 題	朝鮮施政改革要領 朝鮮内政改革の事

分 類 番 号	673
	2
	13

15

国立国会図書館

登録 番号	264023
----------	--------

斷以隸屬清國之念以圖鞏固朝鮮國獨立
 立丕基其應行緊要事務各條臚列其概
 于左

一政權須出自一途事

凡國政大權係

大君主綜攬凡百政令理宜出自

聖裁也倘或

大君主之外有或陰或陽掌握典

君主同等之權則有不免命令歧出而廷臣莫
 知適從即欲各盡忠良報國不亦難乎而



百弊因之叢生因其所也稽之此國情形
誠有此慨不可不從速矯而正之若夫
國太公既非 君上亦非臣僚故大有政
務時繁小至廷臣點涉概不可容喙在其
間也明矣

二大君王既綜攬大權親裁萬機則義宜恪遵
以率百官使之同守法例勿敢踰越事
(可謂法例者指編照另定法律隨時制定
頒布之法令而言)

凡百政務由

大臣主直然之大臣虛心以聽其所奏陳方可
裁處雖至工進退黜陟之末亦不得任情
專擅又大臣者宜常存專奉

王室之心開誠布公仰對

君主垂詢勿或稍逸法規之外以盡翼贊大業
之責尤如法令一出除因時酌宜剛定更
頒外上自人君下至臣庶一體嚴密奉行
不可稍涉干違以昭信守

三王室廢務須典治國百政劃然區別等

民庶之性命財產王室一命之下其生殺

與奪無不隨心若夫臣民之尊奉

王室盡忠致義迭次顛沛莫敢或違者固爲
千古不易之大義雖然今日之勢上自人
君下至庶民只知有王室而不知有國家
其所稱孝事

王室者唯逢迎是務與夫盡忠致義之道端
相乖戾因襲之久已成痼習又如承候內
宦輩干預國政或左右官職等弊無非均
由王室私務與治國政令混雜相生
亟宜痛加剔除以絕痼源也從此以後所

有王室廢統歸之宮內府掌管而至一
國政務統歸總理大臣以及各衙門大臣
責成掌理宮內府官員功不得與聞國政
為要卽在

大臣至陳國務大臣或參政重臣外勿得籌謀
政道不可逸出定法以外行政

四制定王室典謨事

王室之鞏固典國基之鞏固相須而不可
離也亟宜制定王室一概典謨為要
五劃定議政府以及各衙門職務權限等

爲劃定議政府以及各衙門之官制以及
職權權限須宜另定法令規則

六租稅統歸度支部掌管其課賦征稅均由
定率其外立何名目辦法概不得徵於廣
民事

此國向有徵稅衙署宮內府以外共爲七
八處而其出納各不相涉併有春坊明禮
官特發文憑各別徵稅歷年之久成習不
恆然收稅之門似此之多各掌出納一則
王宮庶務與治國政務之經費兩相混雜

莫從區別一則於綜覈財政之道甚欠清
楚故將進支國帑之權統歸度支衙門專
掌若夫國家正稅外官吏私自聚歛甚至
如有不聽從者肆行監禁拷打終令黎庶
不能安分樂業難享力作之福如此尚生
設國家手屬道豈可得乎若欲使人民各
安其業領區嚴定賦稅之額使民樂于輸
將而後歸國之本可立矣

七國家財賦量入計出以固財政之基並嚴行
酌定五室用款以及各衙門經費事

量入而制出國計要道也故須協定每年
歲入以立國家財政之基因之以一定王
室用款以及各衙門經年常費為要惟此
國王室以及政府官員人浮于事此宜首
先酌定人員編要裁冗以節糜費

八酌定軍制事

凡兵馬大權自屬

大君主必須令出一途不可分委之數多時將
帥也且武備之設係奠定國基捍禦不虞
患之要政故須先養兵力雖難責備于始

亦必是以鎮撫內亂為要故豫行核明歲
入歲出帑項但可節省者極力裁減於其
所羨餘庫帑內籌撥幾成以充餉械之費
若夫立軍費之基則先開養成士官之道
又宜擇用練達兵學知識閱歷兼深之士
為將校以漸開推廣兵備之端可就其緒
備或不先籌劃歲入之額徒欲廣置兵備
則適足以紊亂財政而已可不鑑哉矧以
陸軍制度尚未完備之日何暇顧及海軍
耶容俟陸軍全備後計其歲入有餘方可

報設

九舉九礼俗務去虛華以除浮誇之弊事

自王宣迄至各衙署舉凡礼俗以養尊處
優為得意者已成習風此所以王室庶務
以及治國政務所需冗費浩繁此項弊端
不可不及早矯正也且購備無益實際之
物或不先講究維持永行之法報與不急
之事均為不可方此之時由王室首行節
省以示標榜俾臣民知所率由

十制定刑律事

刑法民法酌宜制定亦屬緊要但欲制定
民法事既浩繁成效不易誠不可一旦而
成其首行釐革舊律宜參酌別國刑律以
定通令國情之刑法殊為目前急務而處
罰罪犯務必遵此刑法而行除此以外即
在

大君主切法外置罰而由來上自權門豪閥下
至吏胥末職擅將庶民行監禁拷打之弊
宜一概禁罷如此而民各安業勤事經國
之本於是乎可立定矣抑里裁判官獨立

執法本於保持司法之平允殊屬切要者
也故宜隨辦明于執法人員以漸易設衙
署由行政官內分出司法之官歸其專獨
掌理

十一警察之權須出自一途事

抑警察者控行政司法兩務為緊要關鍵
而治理國政誠不可少之要政也而論其
尤屬緊要者則在保護萬民之性命財產
剔奸捉犯其權固不可分岐故除其帶有
通官職權者外不許或陽或陰使用警察

之官即在任其職者亦不許聽命於其等
之人按現在制度而論則有警務廳轄於
法務衙門掌管警察而另有巡捕又稱別
巡檢者亦係掌管警察一類此乃柔札事權
之本不可不立行廢撤也而至警察之職
司權限以及採用警察官之一切章程須
另行制定

十二 制定官吏服務規律嚴密舉行事

在官司職者各宜盡力於職務且廉潔自
守而賄賂苞苴公行不諱乃為柔政之本

是不可不繼也故欲官吏廉潔由守則須
按品酌獎相宜薪俸足額支其應分之衣
食出入為要至如帶校外任官職或類同
包辦等陋弊皆不可不及早除絕故酌改
外任官吏之制以及釐定課稅賦法二事
辦為必要

十三限制地方官之權由中央政府收攬事
向例地方官於其治境內兼司司法之
兩權且應納中央政府之額稅以外復征
苛稅於民亦所不禁此等征稅陋弊非

皆由鬻官而生蓋因出任地方之官者均
先捧紳巨款故於到任後復取之於民致
生此弊也聞鬻官之弊嚮於釐政之日業
經嚴禁而仍須嚴定章程以防日後復萌
故態為要總之地方官之事權過重徒又
藉之病民甚可嘆也必須酌度限制由中
央政府收攬之並嚴定章可由內務衙門
度支衙門常行監督

十四款定官吏登用以及黜陟條例不得徇情
進退事

賄賂苞苴國不可不禁絕並須設定登用
黜陟條例官吏進退黜陟務昭公允無私
也倘或於官吏進退黜陟徇私任情則只
顧一己之私榮志忘國家之體統其獎獎
甚焉然則大君主之進退大臣大臣之
黜陟屬僚國不得出自信私恩報私怨也
明矣要在考校進任與否按照定章一秉
至公不可稍徇私意于其間也

十五務去勢力爭衡或猜疑離間之誣習其於
奉公司職勿得稍懷怨怒相報之念事

凡百政令須以公明正大之心裁處不可
挾一黷私情于其間而勢力爭衡或以公
懷恨各相齟齬之念皆由自家私慾私怨
而生國家墜頓之病實基於此故今後不
可不斷絕其念也

十六工務衙門現無設置之要事

此國工務按目下情形而言則無特設衙
署之要似可併之于農商衙門若或其餘
衙門

十七酌改軍國機務處之制以及權限事

軍國機務處權限似稍過大故於今酌改
其制而所有該處先於各衙門擬定議
于軍國機務處然後奏候 大君主裁可
施行為要而軍國機務處不得自草法令
之案

十八酌度緊要各事各衙門宜聘用精明練達
之顧問官事

十九選取留學生欲往日本肄業事

選取留學生到日本國分別應學各科目考
究肄業以養人才為要

為要事

有礙

就明子大隈

國則陸軍事務建明于大院長前裁決

名 称	井上 馨 文 書
標 題	日本国内商慣例

分 類 番 号	673
	3

14

国立国会図書館

登録 番号	264023
----------	--------

日本國內閣慣例

一 閣內閣會議所議事項務繁閑由
總理大臣豫請

聖旨定於一週日間議事一次或二次

（近者以一週日間開一次為率）但遇有臨時緊要事務則無庸定期以外之日隨時可由總理大臣招集各大臣若或各大臣因其事務欲開閣議則亦得請之總理大臣招集各大臣會議其開議時刻以其日午前



十點鐘或十一點鐘為準

一閱議期日以及臨時會

上每親臨之為常例但有時未必然

其於

上親臨之日閱臣就議案討論之間

上時有這話

聖懷閱臣乃就而論究其與事句

所繫利害得失遵照

聖旨議結定奪倘或議為與已行

法律有所抵觸若於事無所裨

益則陳明事由懇請准

採納他議亦所恆見然後按照應
行次序議結另再奏請

裁可者例

一上親臨閣議時雖有室內大臣若侍從
長及侍從扈隨即在外間相候例
不入侍閣議之席

一上時在便殿召接各大臣若或由總理
大臣請在便殿討論機密亦所恆
見

上又在便殿以事特召總理大臣或各
專司大臣垂詢意見

一 雖係應行會議之事 其有成案
前例可循者內閣書記官長通
理大臣命備議案分呈各大臣求
其承認又一省大臣因閣事政府
全向之事有所見及則備建議
案呈呈總理大臣或以專司事
內應新定法律或應行釐正者
而其有與別省相涉之處則先

典議省大臣商議或者擬案推敲

然後呈之內閣開議有例

一閣議決定後循照成式繕之奏本由統

理大臣奏請

裁可乃為常例但其成案前例可循者

總理大臣飭內閣書記官是轉奉一之

侍從長呈請

裁可雖

上親臨會議時其議決後仍循照成式

繕之奏本奏請

裁可

少其事

上以為不可平其裁可則不從其大臣以及
專司大臣臨時事由令其兩行政
議或只令總理大臣以及專司大臣
就事陳奏明白旋即與

裁可

一無論何項事宜出自

上意指示總理大臣或專司大臣則由各該
大臣備作議案會議照常行辦法

奏法

裁可但其事宜縱雖出自

上意尤關議封議其利官得失尤礙難

實施者則其事由奏議

收回

一凡選用奏任官其屬內閣之員委之
總匯大臣其屬各省之員委之各該
省大臣並照任用令選擢其選一定
後具之內閣表於閣僚之中
有
為不可者則另行選擇或時有別

有大臣等共薦然後奏明任用為例
至選用新任官或由總領大臣推薦
若由內閣大臣共薦之總領大臣定其
撥至如須要慎重選一擇者則在
內閣各相會議後奏候

上旨即又奏請

裁可若在内閣以否不可則由選薦
等處法任命為例如其選擇為
不甚緊要者不必預行候

旨在内閣會議後即可奏請

叙可

但至陸海軍武官另有武官任用令進
級條例等由陸海各大臣直行奏決候
上旨任用不在內閣會議之列如其內閣
奏薦人員不稱

上意則新令另行議奏若或由

上指出相宜之員請令內閣自行議決

要之凡遇有此等情節在

上盡心以宏納納閣會議在內閣臣亦盡

誠獻替勸懲多成於轉圜和而竭之

間上下毫無壅阻也

一在者核定閩涉他省之法案若
釐正案具其要領在內閩辨明而
閱臣均認有年審則由相涉各自議
定高等官作為委員便審立案之
事但此委員須由各大臣薦舉總
理大臣奏請

上得

旨今之

名 称	井上 馨 文書
標 題	筆記 第一号

分 類 番 号	673
	184
	20

25

国立国会図書館

登録 番号	264023
----------	--------

筆記第一

井上憲文

公使曰

由是公ハ久シク我王ヲ慰セシ能ク我王

情ニ通リシハ我王カ實ニ今日一方ニ日吉同戦中

ニ下ツテ玉幸シタメテ時ナリ拙者ハ内務大玉ハシ

玉正ニ参リシハ史ニ由キ身ニシテ史ニ由キ

玉正ニ参リシハ史ニ由キ身ニシテ史ニ由キ

玉正ニ参リシハ史ニ由キ身ニシテ史ニ由キ

玉正ニ参リシハ史ニ由キ身ニシテ史ニ由キ

玉正ニ参リシハ史ニ由キ身ニシテ史ニ由キ

金ノ水龍為屋蓋ニシ

本より下ルルナリ 志ハ今日申ス玉井迄 成効ハ何

ハ大ニ我々ノ兩目ハ何レハ 賢クニ我々皇帝陛下

ハ是レバク 帝座ニ悦ニセリ 玉家多ク前ノ如クナリ

抑ハラズ 拙者ヲ 麻嶋ニハシ 是非渡針ノ上ニ書ス

大君ニ此ノ書ハ若ク 御書ニテ 何處迄書セ玉内

正ニ書ス 拙者ノ 意ヲ 表スルニ 様 然レテハリノハ思フ

拙者ノ 意ヲ 表スルニ 様 然レテハリノハ思フ

貴以所部内ノ事ハ 閑習ニ 聞キ得シ 而シテ 隨分

~~東京府知事~~ 給 札 自 今 之 改革ノ事ノ 容易ニ 接 取ルベ

キ 以 込 進 之 以 之 仕 之 改革ノ事 之 煩 之 困 甚 大

業 上 之 諸 君 同 心 協力 一 意 以 之 此 之 難 句 之 甚

ノ 決 心 之 力 有 之 者 之 甚 之 甚 之 甚 之 甚 之 甚 之 甚

之 或 之 私 利 之 甚 之 甚 之 甚 之 甚 之 甚 之 甚

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

何 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

4
17
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

德

十 處 置 せ ば 天 下 一

大君至陛下乃二

中宣部下分三处

涉
此
向
極
八

是之親密也

此山終古不絕

和風十ヶ廿八

釋然

王全以筆圓得

クハハヤス王

五ノ華園七ノ廿八

下府

所學抄者

此点之就充之

大君之

卷之五

法度井然

リ中ノ臣ニ命ジ

其日、江見せうし

此其一書也

五家盡やせし

杜若

着
御
生
二
来
々

建公之府部內之實以少盡不能

ガバ陸ヲホシ何等ノ定案ニヤハ孰止諸

君、意見コト、新見、改正、校曲、以、銭、且

白圭帝陛下
中興亂
經
毛筆
少力有欠

楊玄之寒之帶血之少也喉之外科又不可不備也

今日爲我少事宜款息比也第其以

同志整個の、内部、アツク奔走して改革を期す

ハニ 縁々、
刺^突●_七 思_二
ニ 何事_一 文中_二 全_一 ニ_二 阻_一 表

不貴用之利命重之者步之德又改百以之

精義録

スル事々々しカルニ當り若中ニモ口ハ成程開明主義

ヲ説クモ其内幕ハ入ル必ラス然ラス目トノ模様中

如クトモ然ハズ然ト

ニ以テ我輩特個人ノ力ハ絶望ノ域ニ沈ムモノナリ

然レモ幸ニ吾下ノ東洋ヲ得ル以上ハ驕尾ニ付シ五

ルモノ及ヒ去ルニ家ト在田共決スベシ

乙使曰 是子此佳ノ好相舎ハ一冊ニ来ラザルベシ徳

開田曰然ハズ

朋党ノ争ニ曰ク美リシ草ノ実ヲ見ニ能ハザラシ

カ事ト云フ所余 家ヲヤルハ松見ノ杜若モ貴

如何なるものか

五内改革ノ助援ニ由リ到底中ニナキモノト見做セハ

折角哉

天皇陛下ノ思召ニ背ケドモ改方ニ

ナシ拙者ハ断ヤ事由ヲ大詰シテ進退ヲ決スベキナリ

虞ニ今日ハ大挫ノ場合ニバ貴政府ノ前向者ニ

熱心事ヲ為シ愛國心時日移リ時移リ失フものナリ

ナリ

金田城ニ貴方ニ此ノ時機ヲ失フカハクハ再ニ我五ノ

事出シバカラス事ハ何分モ此期ハ陛下ニ頼ツラ

改革ノ実行力ヲ失フカハ再ニ陛下ニ頼ツラ

意ハ我政府部内ニ一々徹^透ニ様扱官ヲ所

リ做スヘシ終ニ此ニテ扱官モ今日ノ地位外務部系

ノ重職ナルモ其実無才無能甚々之リ愧ツ去

ルニテ閣下我々人物少キノ一事ノテ察スルニ

シ云々

右ニテ金氏ハ孰シ主成ニテ吾細事面談ニテ

云々

第ニ号

牛俤

264023
25-2
昭和27年6月3

十月廿六午後一時統制使本後候氏来訪セリ（氏ハ
大院君ノ嫡孫ナリ）

初對面ノ挨拶アリ

李氏曰

貴國政府が我主に對セ

中近モナキコトナカラ特ニ之四ノ事件ハ就テ一箇

我主方ニシテ盡力ニ及ビ猶又老練志願下ノ

才任ヲ得ルハ我主方ニ幸福ニシテ偏

ニ助力成リ仰キタシ

上使曰 少佐、就テ茲ニ拙者ニ一ト面リ貴族ノ

煩シ事ヲ度リ事ナリ其ニ日下日下立戦中ニ

アツク我邦ハ此ニ多事ノ際ナリ拙者ニ内務大

臣トシテ相稱ス事ナリ身一日ニ額下ノ誰ニ

皇ナリ地位ニ此ニ均ナリ

賢クモ我

白王ニ中陛下ハ貴王ヲ行ニ内政改革ノ事ニ用

ク西辰禁ヲ憚ニセシ拙者ニ大本營ニ召サセシ

明治九年以來、教令三四、朝野ノ事向キ貴

ク、庶シテ持ニ此ノ任ヲ付シ、拙者ハ其任ヲ承ル

貴政府ノ精神ニシテ是非共ニ改革ス、實ニ其意ヲ承ル同的ニ

進セラル様大君王陛下如ク陛下政府諸大

臣ニ勸告スベシトシ、又、實ニ其意ヲ承ル其意ハ外ナリハ改テナリ

今ヤ其意ヲ知リ、自ラ我邦ハ一方ハ精利ノ家ヲ

シ、ホシテ富強ニ流シ、又一方ハ鉅利ノ財ヲ費シ、

ハアルナリ、是ト申スニ、父兄忠告ノ使ニシテ、華國ナリ

シノ御筆東洋方面にまきしことし我玉氏一殿
東に望み出らるるもナリ然に中々人ハ是レ此レ思ハズ
テ口ニコシ御筆々々トテ聲ヲおこし其實ハ私おえ
~~樹~~樹ノミと云つたり或ハ自家ノ利欲に汲々たり
或ハ権力ノ争奪に忙しきナド夫レ此レ之ノ曠日
彌久玉氏御筆ノ事其実效ヲ尽せん能ハサレ
カ是亦一面の時様ノ業スヘキナリ貴玉ノ前途
光見に復シ收斂スヘカラザレト云フモ知んべカラズ何

事モ一度アルハ二度アリト云ノ曰法ノ平和此
一タ破綻ヲ他日等ノ重事何處ニ起ハ
キヤモ弗ルベカラズ惟ツ東洋ノ天地ハ是ニ
益クシ事ナルベシ然レモ此ノ事尙若クハ
眠リ大ニテ字内ノ形勢ヲ注目シ此ノ事際
ニ事ヲ同ハ協力速ニ玉軍ヲ授田ヲ以テ
これハ實ニ後悔莫及ノ歎アルベシ就中由下
タリ生マサレハカラサレ理由ハ由下ノ門ハ至
ル

ノ尊族ニシテ世間者ヲ重キヲ措キ前途ノ

伸士ニハシラシ辛此期ハ別ニ有る者ニ家

ノ事ヲ^{ニシテ}兼テ書セテ然ルコト

李氏曰 自分ハ而テ一步モ走ルハ殆

コトニトナケルハ固ニ誠見ノ之ニシテ東洋形勢

トテモ多ク不安ナキモノ今口閣下ノ懇望ヲ教

ワ得テ大ニ其方策ヲ開テリ我々ニ到底今口ノ

中右様ニハ實ニ前途ノ事ヲ互ニ告グベシ

早

今少し暇を削りて直歩の筆致を好みしところハ
斯う近々懐古境遇に沈み入りしところ思ふ此
處に浮歎の外も夫のこころを忠實に力給ふ一
ノ原意にても少く同下ノ有るを勸告の時
と解する

と使曰 今ハ午後三時外漸く起す金大
王ト而見ゆ了時刻に迫るに宜し世に待
つ是に暢談をせし故に李氏ハあま緩んず

ホクキ草 シシゲシシ 此クニシシ 他口ニシシ 天

ホクキ草
シシゲシシ

力三三

朱廣了



井上特令全權公使、着任松本、歩、十月廿七、
午後三時、杉村、老、迄、此、並、通、譯、ト、シ、玉、ル、生、活、ト、
帶、同、シ、外、務、部、門、ニ、赴、キ、外、務、大、臣、金、久、桂、氏、ト、
條、ノ、談、話、ヲ、為、ス、其、ノ、要、點、ヲ、左、ノ、様、録、ス、

彼、我、等、一、致、接、接、ス、

公使曰 本使、カ、此、回、全、權、公、使、ト、シ、任、命、ス、

其、後、ハ、多、ク、先、名、表、ラ、一、ト、通、リ、ヤ、オ、ハ、思、フ、ノ、要、ア、リ、ト、

弟、知、向、下、我、王、ハ、同、下、使、玉、リ、之、候、中、ハ、ア、ツ、ク、玉、

皇帝陛下ハ我玉家多事ナリト雖ハ朝鮮ノ事
亦之ヲ黙ニ止ムベカラズトノ聖意ニ出テ特ニ本使ヲ
廣昭大輔余トシ召シ本使が去ル明治九年江
華島ニ於テ和議ヲ成スル事ト朝鮮ノ事ト折衝
シテ廣昭大輔トシテ全句ノ助理ヲヤモ他おふ
次等ノ人ヲ我

陛下が貴族ノ玉事ハ敬重シ悦マサレハエト
且シ中政府ニテハ協和ニ終ルベシカ
事

精義集

盡に其私売ヲ樹

ル

猜嫌ノ名お友由

多不家ノ大業ヲ誤るハナストアルベカラガハナリ又

本使ニ我

望帝陛下ノ厚キ少忠臣ニ因リ此ノ任ニ膺ルニ以テ

ハ貴也ノ為リ先々書置カスヘキハ勿論也又府ト雖大

一般吾道ノ公使ト見做サズシテ何事モ傳ヒナク

其胸襟ヲ開キ相談欲シ度シ之ヲ要スル由也

大君望帝陛下

府ハ本使ヲ信用セリ本使亦リ中元ニ府ヲ信ス

エテラサレバ到底効果ヲ收ムベキニテラサレナリ

金比務尤モ四

由云使ハ貴王ニ托付テ参セリ須

史モ難ニヘナカレシヲ此田我王ハ駐劄シ使トシテ

茂ニト聞クヤ我王貴王ニ極メテ由云

貴王帝陛下ノ厚キ御恩ニ接ハセテ今一國感

佩比ハク特我

大君主陛下ニ切ニ御下ノ素着ヲ待設ケルナリ

今ヤ我王下等ノ由ニ由云使ハ唐セリ何卒此ニハ

は家ヲ

使司 尚書院ノ事務ヲ之ニ任スルヲ本使力ナラズ

創ニシテ之ヲハシテ之ニ任スルヲ格別ノ注意ナシバ儀

式ノ謁見ニ限ルニ何時モ必要アラバ特ニ内謁見

賜ハシテ之ヲ格別ノ注意ナシバ儀

大君ニ陛下ニ奏シテ之ヲ電カレタシ

金大五郎 查細承知ヤ前但大島ニ使ノ時ニ於テ

謁見ノ旨ハ已ニ允准シ經テ其一二ハ実行セタリ

ニテ貴ニ使ハ格別ニ我大君ニ之ニ對シテ賜ハシ

ナハ何時モ内湯見ヲ允サレハ勿得ノ事ノ當ホ本大也

リ豫メテ決意シ四王ヲモテリ独リ内湯見ノシナス

此ニ使ハレタメ我内國大也、舍念ラリセリ我王政

ニ國有利益ノ助メツラヘラレタシ

ニ使曰 本使ハ去歲ニテ其帝ニ到シ冬大役ノ意

見能向シテ亦ノ都見ヲモ暢ブハシ

金大玉曰 此ニ使ノ決意近ヤホ一ニハタシ我

王ニ二派ノ独ニ主義我ニヨリ是ナリ其一ハ玉歩ノ

ヲ進捗シ玆華國を独をり作り敢テ自由權利ヲ
他ニ侵奪せしガルトク月セトスルナリ其ハ自由ナル信
スノ厚キ旧親ヲ株守シ之ニ因テ独をり求メトス
アリ按テ此ハ一ノ開明主義ニシテ他ハ守舊主義ナ
リ

云使曰 本使ハ貴政府ヲシテ何事ヲ抑ハラス悉ク政

未^ニ到義ヲ移シ来シト云ハス凡ソ洋ノ東西ニアツク風俗習
慣ノ異なる自カラ其高下を定メ難セザルハ然レドモ

苟も玉
 利アリトセバ之
 取ラニトモ望ビナリ
 今ヤ數十年

素因執事より
制度及び習慣ハ即今日中央政治の腐敗

改々来しんこアッズヤ其し之しウ思ッズしウ尚おハ規規松泥

シラ 五 改リ 海 得ル、スノ、如ク 思 海

新久保史玉ノ前年知ツキ今更何

ト由緒をカ
頼敗セシカ
ヲ見日纔ニ
一旬都興ル
ニ東序

匪徒、紛擾、
乃、自玉、
力、能、之、
劉、陳、
能、ハ

スレク他王ノ援兵ヲ請ヒ乞フヤウシテ實ニ申上ルナリ
有様ノ親

家系をこ
かえ
す
た
り
と
病者ト一
時
こ
ノ
内
也
こ
重

こ
亦
外
志
り
か
る
ノ
田
ナ
キ
保
セ
ス
又
ク
家
火
ヲ
失
シ
後

盗
外
ヲ
自
こ
ト
え
タ
ル
ハ
何
タ
ル
外
盗
盗
衛
リ
内

火
ヲ
救
ヒ
ト
ス
ル
方
宜
シ
ク
速
ニ
病
者
ヲ
治
シ
本
復
リ
計
シ

サ
レ
バ
世
ノ
大
勢
カ
止
ミ
タ
ル
日
月
ヲ
失
サ
ル
ナ
リ
出
而

向
若
ク
ス
ル
此
後
大
本
由
此
事
一
意
不
以
之
為

執
中
セ
ザ
ル
ハ
カ
ラ
ナ
リ

軍
士
様
訪
愛
、
於
今
誠
事
、
且
少
バ
尤
モ
速
ニ
ヤ
ム

中々し

金大士曰：城、堽、土、
堽、土、有

根ハ丁度月重病人ニシテ
 此病根ヲ治セシム
 欲セハ

充分主治證ニ主キヲ置テ充分ノ信用ヲおザニア

うざい。到底回復期十九日。突、戦政府ハ一息

正業正業ヲ決行シタラハ思ヘ凡ソ何モ財力ノ窮

三、三寸各般事、欠南阻表ヒサハヤハス

隨分是近，誠實中是民生，有益於事柄。

くまざしん何せ日下三南（慶お全羅）末学後

ノ授乱ニ西首ハ（平安基海）日（遠）戦ニ用路ヲ訪ケル

吾ク民心ニ訴ルノ村舎ヲ訪ス（貴）我政府

カ玆華固ナラザルノ虞ニ外部ノ刺衝ニ遇ニ内部

ニ風波ヲ起シ（遠）ハセシムルハ傾（少）タル息ノ多

ナリ

ニ使ハ 財政ノ困弊ナルガ爲ノ政府（貴）カ事人ヲ求メ（貴）

運ニ悪シハ成程其しも（貴）宜行ヤルガハ一原因

ト見テナラシク然レドモ他ニ種々ノ原因アリキ事
ナリ其財力ノ窮乏云々ト就一^レ言セ何程財力ニ
シテ留^ル裕ナレモ正用金^ニ其需ヲ得ザル何ノ益ニ
ナラズ吾人等ハ却テ財^ニ需^ニシキ^ニ便^ニ於^テ害ヲ来^スヤ
モ知ルベカラス

此時杉村書記官多額同官聘用并ニ外債
ノ事ニ関シテ左ノ内見^ル事ナリ

主^ニ事^ニ由^ル

此ノ室内於テ協^ニ議^ス、左ニ見^ル事ナリ

同官職用並に外使差力集ノ二件ノ間之令

都憲ハ委他夕停止之方所聖報ヲ甚セシ

心トハ件ハ甚後更行セシヤ

金大五曰 其委他停止ノ要筋ヲ示シヤリ

乙使曰 本使ハ願同官長其他一切ノ事概ニ閑シ

我

帝陛下ノ使在任ニ受テ居ル者第ナレバ退ニ決

柳談ニタリシ 柳船同官ハ尤モ此際退ニ決

要るべきモノと云ふ或ハ久シク要るモノと云ふ日本^{或ハ我}人
と云ふ留るモノと云ふ人^中孰レモ此任ヲ希フモノモアラシ
且ク我モニテモ民間ノ人ニシテ渴望スモノ頗ル多シト
聞ク亦志此欲同官ノ撰擇ハ尤モ鄭重ノ密
ニシテガハヤカラサレバ何人ニ雖モ貴^貴江府^{江府}之欲同官ス
其他ノ名義ヲ以テスルモノモ是レ一クモ本使ノ手ヲ
經ハシ要ス然ラザレバ何等ノ手ヲスルモ我政府ハ之
底ヤカレト^ト條件ヲ付シ本使ハ應^應答シ出ス

とリ決計ナシハ由金アリタシ又外債ノ事ノ以テ充分
將來ノ見込アリ付クヤトシ之ニ着手スル要スルナレバ
此ノ算トモ協誠ス所アリトス

金大五回

我ニカ政事上顧問官ニシテ外人ヲ聘

用スル此ノ十余年ノ及ヘテ此等顧問官ニシテ外

白人ハ何等利益ヲ我ニ与ヘシヤ^{ナレバ}其成績

唯ニ彼我風俗習慣ノ異ナル思フヲ慕西

人ノ力能ク我ニ授ケル能ハル結果ナレバ故ニ本

大臣ハ外人ヲ聘用スルトノ甚ク何迄ハ美事アルヤ
知ラズ之ニ及ビ今ヤ各街ノ創業ノ時ニ當リ貴王人
中通事ニ顧問を僱聘スルヲ得ハ必ズ我王人
メ大ニ利益ヲ得ンコトナリ而シテ顧問ノ任入ノ事
ハ報聘大使一行の都憲ニ委任シ貴政府ニ就
キ協議ヲおサシメ^{ナリ}ハ我政府^ハ貴王人^ニ閣下カニ使ヒシ
者^ハ其^ハ位^ハニ^ハエト^シ同^ノカザリシガ故ナリ^ハ此^ハ日^ハ貴王^ニ使^ヒ来
任ノ事ヲ仰クヤ^ハ其^ハ何^レノ電^ハ信^ヲナリ^キ其^ハ在^リ任^ノ事

停止セリ止々其後談ノ上最ニ商當ニ欲同之

ノ推薦ニ与ヤニヨリハハお玉家幸福ナリ

乙使日 人々各其器能ニ應シ其相應ノ

職ヲ授ケ其給料ニお當ニス職務ノ實ニ實教ノ事ナリニヤンバ

カス由貴玉ノ如ク已往十金通多額ノ給料ヲ得ニガク

何等ノ効果ヲ見レ然ハザル所以ニ其ノ人ヲシテ器ニ充

シテは事ナクおサレザルノ致ス所ナリ是レ其ニ付ルルニ

ハ罪ニアラフミナシ付ノ者ノ罰ナリ終ハハ外ニ人ヲ

唯多シ人ヲ集メテ其ノ
成業スル方便ヲ示サル
カ故ニ只此等拱手スル
道ヲサルヘシ

用セハ彼レ必ク我レノ方有量ナル御ヲカシスベ

シトハ^{要ラセタメ}石ツナリオ一人ヲ用スル各其長技ヲ

擧ハザルベカラズ或ハ庭掃除或ハ秋事或ハ

ハ裁縫ト云々^{如ク各其職務精熟ラザルニシテ従テセシムルミヤラサハ}建只^{其ノ様ニハ}政府^{其ノ様ニハ}ノ意向官ノ職用

ハ最モ急務ナラシ然レモ其傾向官ニシテ^{其ノ様ニハ}商部^{其ノ様ニハ}

採用ヤラシカ^{其ノ様ニハ}矢張り此等^{其ノ様ニハ}在外^{其ノ様ニハ}人等^{其ノ様ニハ}無用長物

又セシムル一助ナラシ^{其ノ様ニハ}或ハ必要ト見セリ^{其ノ様ニハ}物ヲ

アリト假定セヨサテ之レヲ購ヒ来ツテ己ノ所有スル

日ハ果シテ最初考ヘタ程ノ必要ナル價值ナキコトハ

ハコシクモアリ^{あるハ}貴政府顧問官ノ内訳ノ中ニ是を思

慮シ續クシテ^ナ三^ニ四^ニシテ實際上ノ働キヲおせしむ

コト極メテ町要ナリ

右ニ該端ヲ收メ帰信ス

ノ四〇

十月廿六日 朝鮮米主事ワルド新アリ着クリールマンギハ井上侯シ仁川
領事官より訪ヤ折内兵主事ハ智田を去キ朝鮮改定改定ハ聞シ慢外

内請 奉り 十月廿六日 奉 貴 府 米 國 公

使館書記官トクトルアルレンスヲ訪ヒ

接如左但シ米國辦理後ニル代

同列對治セリ

順部アルレンスハ同列對治目下勢力ノ各

似テ代表スルモノハ應シト應レサルヤ否

得来ノ東南ノ中ノ要ノ如キハ富子鐵力カ

代表ス（リ）スノエラサル（レ）必ズ他ノレアリテ

正明洋國不戒日人吏官

此書五年ノリノ性体ヲ有スラン

アルレス美曰然ラ東也而西也蓋ノ如月ハ乃タラ

最子孫此身ノ感念ヲ以テ之レシ者ハ多ク

ナシ思乃知カ力外流ヲ代表スルト

ハ則テ國己ニ此方後思ハ朴派者

著ノ如キ若輩ナリト四者スルレハ併

朴著ノ一派ハ別ニ此方主モナケレバ

定ムク、一名ノ謀者ニ想スヘク又國王

ト王妃ト四所ニシテ王妃ノ方即チ強首
 優給スルヲ以テ王妃トハ院君名ニシテ
 田忌ヲ^推志^抑シ四公力ニシテ國政ノ
 謀ヲおスコトヲ得ヤレシニテ魯執卿ニ性
 以テ^時一^時者^時系^時列^時ハ^時おスコトヲ得ヘシ要^時之
 國王王妃ハ十年ハ熱心結ケ候え候
 名^時ヲ得えり^時以テ^時名^時ヲ^時極^時厚^時カ^時あ^時レ^時候
 然^時ハ^時列^時達^時え^時り^時以^時テ^時名^時ヲ^時極^時厚^時カ^時あ^時レ^時候
 然^時ハ^時列^時達^時え^時り^時以^時テ^時名^時ヲ^時極^時厚^時カ^時あ^時レ^時候

將ザリシニ
 相子乃日其
 爲能性
 也
 也

歸部曰前年茲瑞豐丁巳年

即乃二者、
欽慈シ
解ク義
給ナリ

一、外、熱、感、
二、解、
三、功、
四、解、
五、熱、

惠之解之了若未王留上慶吉

問、下駄、悪、
カシ、
印、
印

ノ姓ヲシテ完リテ、
於今一大緒ヲ得
見ル

ト云ハミハ所回感^ル而^レ後証^ス乃^ク
モ^テ其^ノ二個^ノ燈明^ヲ恒和^シ天
明^カトカ^ニ行^キ樹^リモ^テ其^ノ後^ハ其^ノ押
立^テ王^妃シ^テ法^ヲ以^テ其^ノ夫人^ノ袖^ニス^ガ
ラ^シラ^ヘシ^ト其^ノ又^ハ証^ス乃^ク王^妃ハ
王^妃ナ^リ是^レヲ^レ保^護シ^テ其^ノ力^ヲ以^テ
其^ノ夫人^ヲシ^テ其^ノ屈^服ヤ^シク^シ乃^ク其^ノ
得^ル先^ニ其^ノ二^ノ証^ヲ先^ニ據^ツカ^ラん^ト在^リ

アルがぬし本教果しん

アルレス曰大院有前と主の人生係野旅

ラ毛と前途限りりか之其志人信ス方

ラかん天性有極なりを信めり既果し方

日将に昇りて玩弄しんたり女之王妃ハ

先未^猶隆しと自ツ王妃ドコでテ王妃ニシテ

撫育スルバ国王より蓋^{名方上ニシテ}大院^{ニ頭防セラルモノナリ}ハノ外ナシ

ライツカツノモナキヤ

所為曰半返り了明不取之勢是謂之此
ヲ加スル所ナリ

先刻半返りは川上國王王此其ナリ
百難ニ待テ度見極處ヲ得たりト
ハノ意ナリヤ

アルニス曰余が先年米國へ歸者ニ由ラセト
ヤシ降ル國也此地ヨリ出テ新海セリ先
知事致到百難後コトシ西陸下

信乃曰主使以情情多然亦効也新

兵祇中升為三多若し國を利王所

し多日奉野心ナキト、以奉新々へ

コト乃王位ノ安然ハトトク宗に傳セシム

事也也乃乃多ヲ難要ヨ得テ眞正ノ王

權ヲ絶ニスルに於テ力大候也、是神

神大旗ノ下、並立不立也陰

外、也白馬乃疑テテ消滅シ候也

一、致ノ実ヲ望ムルニシテ

全ク一ノ上ニシテ陸ノ為メノ計

術ヲ為スル要ヤテ一ト云フヤ

アルニシテ一ノ解ニ依ル余ヲ肺肝

シテカキ

下ノ目録ガ初編ニ對スル十年集

ノ中知主ニ對スル知ル所ニシテ凡そ

全ク一ノ上ニシテ陸ノ為メノ計

著者ノ意ヲ知ル者限スルヲ初編

ラニテ宿ヤカル他ニノ甘在碑人ラニテシムルヲ

わが國土の極能備く十地之産

平素の物外也半ナキヲ院久ク

ヤ我が皇上井上御ラハ向ハ心明正大

國王ト名を輝ル所ナク先ハ皇ト本志

と悪ハ善トハ言ハシク*入効々義ラ然リ

ヤレト先ノ効ナク中ツ今王地ノ大能カ力

ヲ知リ~~○~~紀~~○~~為~~○~~物~~○~~極~~○~~度~~○~~ヲ知~~○~~ク

正上ノ井上御~~○~~久~~○~~事~~○~~何~~○~~カ~~○~~リ~~○~~ノ~~○~~事~~○~~ト~~○~~為~~○~~ス

シ我ハ注意ナルヤ

コトヲ知ハバ上ノコトナカルヘシ

明肝ハ是

時

時^時の^せ河^せに^に國^にの^にあ^にる^に之^にの^に阻^に止^にし^に交^にま^にる^に

志^にの^に所^にの^にあ^にる^に道^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に神^にの^にあ^にる^に

五ニ 膝ニ文ハ

スレモ七世ナリ内ニ於テ對談スヤ知

リ押シテ人ノ臨肝ニ被デメ^特ノ性質ナリ

アレシヨ目ノ年宜止^帝如斯ノ人ナリ其國ニ所

カウシ先ニ要ス其^帝大幸ナリト云々^二更

ラ其^帝後ノ許リ情々^二其^帝後ニ

ル^帝其^帝就テ全力ニ奉テ^二其^帝後

リ其^帝後^二其^帝人^一が自ラ其國ノ^二其^帝後

其^帝後^二其^帝人^一が自ラ其國ノ^二其^帝後

井原屋

判事ノ指圖ナリ得ニ云々夫等ノリトキ

が評セラルル如キ人物ナリ王位ノ對座セラル

ノ御座リ得ニ重々七ノ終身大ナリ

トナレ王位ノ如キ人物ヲ得

智能ヲ得ヘバ

形事米名海ノリ

セシルコト出来ザンヤト云々

It is not probable but possible.

think over the matter 之義大に勤

おやう

時節、形を、向、對して、ア、レ、レ、ス、大、ノ、如、ク、若

り、曰

王 妃 近、奉、る、先、子、奉、り、方、ト、ナ、ハ、簾

内、有、り、由、し、折、奉、る、如、ク、ハ、別、在、ウ、ン、先

シ、カ、レ、ズ、王、妃、ト、對、顔、ス、時、ラ、王、妃、ハ、第、一、

簾、中、ニ、リ、只、兩、目、ハ、時、刻、也、讀、し

ナリ

辭に之師ラト云ヤ、故系云に之共ハ口ヲ

指ヒテ曰、昔、西府、移、神、果、之、乃、リ、本、乃、カ

際、年、ヤ、ラ、ン、如、カ、一、神、變、ラ、ン、ニ、於、テ、ハ、井、上、好、伊、作

シ、笑、座、ハ、ハ、シ、メ、以、岸、如、經、乃、大、局、光、宗、

ヲ、昔、陽、ス、ニ、能、ク、其、ハ、向、ハ、海、人、全、力、以、奉、今

神、助、ス、ツ、シ、云、

明治廿七年四月廿五日、東京、神、戶、本、部、

不草魚圖天出日本公作舎

高瀬

夢平真_{マコト}ヲ曲_{カガム}クハ己_{ミナモト}柳_{ヤナギ}之_ノ我_{ワレ}日_ヒ奉_{ホウ}

高祖御書 對之南宮公 謝

敢テ撫ミ下サシ
子ハ生ケル

中央及地方自治之實施

立タテ年トシトトカカ者モノ外ソト要ヨウ

他意中事あり而主辭ニシテ解送

七
明
九
年
萬
安
年
仲
之
歲
生

美

利^リ益^イ及^カ我^ガ所^ノ民^ノ貿易^ノ上^ニ利^リ益^イ

上^ニ利^リ益^イ及^カ我^ガ所^ノ民^ノ貿易^ノ上^ニ利^リ益^イ

困^ク難^ニ下^ニ於^テ我^ガ所^ノ民^ノ貿易^ノ上^ニ利^リ益^イ

如^ニき大^ニの難^ニ生^シ其^ノ極^ニ至^ル我^ガ所^ノ民^ノ貿易^ノ上^ニ利^リ益^イ

即^チ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。即^チ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。

其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。

其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。

其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。

リ因^リ大^ニ原^ニル^ニ由^リ也^{ナリ}。其^ノ利^リ益^イを厚^ク獲^テる^ノ也^{ナリ}。

し我が政府の朝鮮政策は、
朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

この政策は、朝鮮の独立を主張するものである。

百に極端力り多に勝後甲に勝日

シ要し才最と重要と政色し中

業に利うい百来致因月とと内書

ノ成然うこの刻とハ乃收不困備

此り主し^毎群^中外^中故と年^中かゆ中と東

師屋局ノ年あり実を種子と種々

と能え目的ハ水泡と虚をノとと不

即今物に安ノ年あり^和実をノ一大種

子ヲ捕ハスルナレトモ弱クハ

辭一大部

於焉之病木癰述之所參歎參矣述

高良料り味く煙け左さ身み休し度ど也

レゾレ自身自カウ厚床体復々

遂に中へからんう而して医者業粒

[illegible]

然レコトニシテ之レガ爲_ル如_ク鉅_ノ身_ヲ

應有

亦他外ありて地りなるもの候

より保し難しと有見要えとせし

一に所、後全体に復せしことり初め

食との取巻に付たり

右、以て力より以て、極者の症に事候

用するに、一に和鮮り相違し相違

え、然るに、わがら、し、東洋全る、平安

氷、然、然、と、然、外、他、外、と、

吾人其意如何

并純十

東坡先生詩集卷之四

乃教一二三四五六七八九十

下月今秋為最良矣

財海ナキ喰角夢ノ身夢ハ死如シ

得天下者
同古之
道也

於焉せらるゝなり
何れと云ふ
越サレ

ト粉やうんや

此五者皆粉屋存るに上い

井上と名曰る形多し匠金何れ

材取下りたえはまう不差ノコト要

ナレコトナリやう無差ノ金取

ミまし粉と先ら有中奥有

糸地 刀ノ粉取の形多し 裁計 糸取の形多し

其取の形多し 糸取の形多し

其方保し保し研密し保し保し

申分ク所ヨリトセバ幼ナク固修ユトモ
嘉志セト修スミ

ヒリヤア回因らる無因の夢ヲリ修志

せらるゝまなり世も修志ハ修志

夫々申リ修志ハ修志ハ修志

リ修志ハ修志ハ修志ハ修志

リ修志ハ修志ハ修志ハ修志

せんハ修志ハ修志

井上名曰杓者目也歛象二船之巨矢

决意

局コト上ウヘ一ヒト人ヒト熟ジュリリ終シュウ不フ要ヤウ也ヤ

五

行政及土地、財政、新産業

世又以其故相友善之云々

今乃重りぬと能くはぬ、乃日香

能同なり其の如く是處に

14

ヒリヤアモ一回下と柳名と對し
 年宛
 米作

於開成

司馬相之

乙卯年冬月廿八日

り
はち
七
水
う
は
さ
あ
の
め
を
に
申
は
り
し

トウ者陽明の色を缺、一部は陰の多也

梁乃統
乙亥（五月）
明
亥
亥

以今之者中輕刑重功也

乙卯年正月八日

ういふ事あるべき事能は

高砂府ト英オノ一シレダケート向

一、難道ヲ布祀セ^スコト、鑛山ヲ示據^ス

コト及ビ妙供^リ興^スルコト^ヲ知^スル^ヲ以^テ知^ス

野人^ニ社者^ヲ師^ト仕^テゆ^ヒを^シす^ルを^シ如^ク限^ス

ハ^テ区^ニより^テ以^テ之^ヲ檢^査シ^テ知^ス者

ハ^テコト^ヲ金^ヲ取^リ棄^テす^ル社^者自^身

カ^テ事^者者^ト其^ノ國^ノ系^ノの^ニ事^ヲ

知^ル者^ヲ知^ル者^ハ他^ノ事^ヲ知^ル者^ハ

スハ利屋、アウサリ候えり、中其の所長

事業と一門、其の事者、

能く、其の事日々ある、其の事面、利

是より均か、其の事トハ、其の事即ち所、

名、其の事ハ、其の事ハ、其の事ハ、其の事ハ、

其の事、其の事ハ、其の事ハ、其の事ハ、

其の事、其の事ハ、其の事ハ、其の事ハ、

其の事、其の事ハ、其の事ハ、其の事ハ、

264023
25-6
昭和27年4月3日

高見玉サ奉
望光正ノ御式
仰我々ハ
惟

第六号

井上公使御見込

明治三十七年十月廿一日即本使着任ノ翌々日午後
三時大正陛下ハ本使ヲ見セラルル事
其時大正陛下ハ前々内大臣李載昌氏ヨリ通知有
之タリ以テ同日本使ハ杉村書記官正廣秘書官
日下部外務省補二廣澤伯爵并ニ通譯トシテ
奉記出テ臨ヘ申玉事ヲ辨セテ進出ス実典ノ儘
先化正陛下興禮門ヲ出テ羅紅門前ニ休憩

所ニテ、集團ヲ下リ、案内ニテ吏ニ有テカシ、林繼定
ニ入ル。宮内大臣太載見、外務大臣大村、内務

大臣嘉納、若原氏、近衛等、於是杉村年記

ト云レラ、金外務大臣、向ニ今日ハ、一通リ書

據定ノ儀式ヲ、隨員ヲ引取ラシメ、上ニ徐ニ

奏上シ、年儀有之、付陛下ニ其思凡ク陛下

下ノ方、在ハ、宮内外務、西大臣ヲ御ヤ、此ノ侍臣ヲ良

ク特ニ使臣ノ奏言ニ使、思フ与ヘラ、様奏法ハ、ソ

おしめさる

先ト金糸紡大玉ハ此急ッ候ニ奏法外ニ後先

候ッハ急候ニ、新姑ノマシタ外紡ノ大玉

ハ本使ヲ謁見ニ宣ヘキ引違セリ本使ハ是等

持シテ止留スル所リ（随分一同左借ヲ昇ルニ三

樽シテ並ニ此の候ニ見出申す事ヲ奏せし又

ハ同席ニテ世子迄殿下ニ有御事ナリ

天皇陛下ノ勅法并ニ本使ノ言上

使ハ御前様来ニ上候ニ候ニ此ノ十

本
奏ス

御前様

多國下駐劄を以て
被陸昌と諡せんとす

[illegible]

粒是大鳥之便、以解佗狀中親任狀、以親是共都念三

順公

別表

大君至
陛下
聖主
皇帝陛下ノ玉皇
朕

之ヲ収復ス累々ニ卿ヲ見テ三十年成ノ用ニ卿ヲ以テ

見ルヲ名ハ朕カ大ニ喜ビ是ヲ所ナリ
郷本ニ出スル日

皇太后上皇陛下ハ健康ニ

歩行ニ御座リテ政府大臣ニ仕奉ルヤ

本使ニ御座リテ皇太后陛下ニ侍奉ス

政府大臣ニ仕奉ルヤ

右ニ下御式ヲ行ハス

皇太后陛下ノ左右ニ侍奉ス

今幸ニ生ナリ

使節長官ス

月 書上 第一 殿 廣 源 二 月 廿 四 日

（江島ニ在リ）

臣 以 上 貴 君 之 旨 聞 派 セ シ 尚 時 陛 下 ノ 金 權 木 倉 上 御 令

談 判 シ 重 々 未 陛 下 ノ 大 臣 ハ 月 十 日 中 央 中 自 在 他

三 ノ 邦 名 藩 事 業 シ 我 君 ト 對 等 ノ 權 利 シ ヲ 求 ン

好 條 規 シ 訂 結 シ 賜 我 君 我 君 我 君 我 君 我 君

今 然 先 独 之 先 謝 意 シ 下 主 事 同 一 以 上

然 二 各 ソ 帝 之 旨 五 ノ 行 方 之 及 シ 統 一 貴 君

属 邦 親 善 事 業 其 办 以 于 涉 之 意 勿 下

朝 事 未 六 日 特 而 見 ノ 御 意 亦 上 下 一 心

（新 嘉 坡 皇 宮 前 門 外 街 角 南 洋 報 社 在 此）

（下 列 諸 君 之 御 意 亦 上 下 一 心）

● 万葉集 卷之十 常世歌

不草魚目方其日本公何舎

中身も本が之来洋ノ龍常ニ眩陰常ニ

定マ

今日正漸クミテ通達ニテ来リシ有様ハ之ヲ衣

裳ニ變スハ恰モ最ニ

神祕ニミテ

其ノ一ニ定ルニ至リテ

能ハス

フヲ之ニシテ

何

●

△ノ大業國タヒ一
中身も本が之来洋ノ
廿九ノハス

●

あるは使節不意に破却を公使に命じしは、公使は其隊に率て大津に
可憐遂に...

...

...

...

...

...

...

...

...

在月洋國...

...

二枚目

日清兩國ハ兵ヲ貴必ヨリ撤固免ルハ
 然レバ日清貴必ノ内礼端チモ由清并
 貴必血^西之^戰スノ不^事幸^事ニ隔^事シ先^事是^事我^事政府^事ハ
 事^事ノ此^事ニ至^事ル^事ハ^事ソ^事ノ^事法^事五^事ニ^事計^事ル^事ハ^事同^事
 貴^事必^事ノ^事内^事政^事ヲ^事以^事テ^事國^事ヲ^事以^事テ^事後^事に^事志^事ス^事
 然^事レ^事モ^事欲^事シ^事文^事章^事ニ^事辨^事論^事ス^事且^事ニ^事勸^事告^事シ^事テ^事外^事ニ^事不^事幸^事
 ナ^事レ^事惜^事彼^事は^事我^事ノ^事見^事然^事果^事然^事改^事メ^事ス^事不^事幸^事
 毛^事今^事日^事ノ^事帖^事太^事ニ^事抵^事ジ^事移^事リ^事地^事抑^事白^事水^事罪^事ゾ^事ヤ

△
要
要
於
了

海

大、五力彼方ク強盛ナリト其地北陸ニ偏在スル
故△
門ノ要候船船ノ整正ト便ナク生中結氷
一、軍ノ不効ナキ軍隊ハ此邊自由ニ能ク
不効^ガ軍トモ英^ノ東洋、銜^ノ事ニ欲セバ力
一、良港ノ東洋^方ニ求メ^ル船船ノ海動
自^ラ在^ル山^ノヲガ^ル一ツカラク、其ハ又之ニ及^ル東
洋、已得、價格ハ或^ルヲク之^ノ永^ク欲^シ
魚^ノヲ拒^ルセ^ル者^ヲヤ^リトス^ル史^シ吾^ノ英^ノ

不
同
了
△
リ

此の概をこの所
徴を補綴
一巻を成し
此の將來
何處迄と先
中絶たうと

東洋に記載する形勢力已に此陸アルハ忽ち朱

利アルハ勢也トス山皇来魯英ノシナラ

ニヤ時モアリ独スアルハ皆自來ノ世ニ及々

此時ノ世ニ及々人ノ蒙時ニ世ノ趨勢力ヲ

自大是居リ自家ノ力ヲ計スる衆人ニ

事ヲ備ヘテ思フ福也一敗地ニ至シ今又直前

師ヲ遣来報セリ此ノ所ニ至リテ東洋向

而何日何事ヲ精奉リ生たや元年視スベカラズ

教

金足年終ヲ永久ニ維持セリト云ハ

益ヲ保護セシメハ効力大ニ主陛下ノ封じ其以政ノ

上ニテ日ヲ勸告セザルノ事ナシト得ザルニ出ニ

ナリ

王ノ室ハ革命國ナリト云フ要ス其ノ一玉ノ改革ノ要ス

フ事ナクサセシトナラバ其ノ先ヲ王ノ室ノ改革國

ナリト云フ要ス(此時陛下ハ室内大ニシテ飲ミテ休リ

々王ノ室ハ革命國ト云フことニ保正シテ其ノ體

ニ見テ云フこと)王ノ室ハ革命國ト云フことニ即上大臣

主~~様~~中~~々~~世~~々~~三人

大院~~主~~は向~~柄~~の親~~密~~少~~々~~傳~~り~~

方~~々~~際~~々~~不~~々~~は~~々~~向~~々~~彼~~々~~念~~々~~

ヲ~~抱~~也~~々~~觀~~々~~觀~~々~~松~~々~~少~~々~~有~~々~~

之~~リ~~到底~~々~~王~~々~~本~~々~~因~~々~~

こ~~々~~枝~~々~~王~~々~~親~~々~~密~~々~~

ナ~~々~~下~~々~~下~~々~~下~~々~~

精~~々~~精~~々~~精~~々~~

イ~~々~~イ~~々~~イ~~々~~

在~~明~~在~~明~~在~~明~~

中らばやうにテ玉取良ノ終に見へたらざこ

うとまへ王宮、協和ハ王宮ツシム事同ナリ

正府ノ協和ハ正府ツシム事同ナリ

ハカ我々皇帝陛下ノ事ノ中ニセリ

ナレバ大君主陛下ニ於テ必ウク事

コトヲ御カセキ已往十二年ノ前より陛下ノ大統

君ノ間柄ノ大角ハ阻害ノ勝カシ

室内大正修リ世向ニウツキ程ノ事ハアツカリシト云

説阿含
是孝ハヤ王宮ニ取ツル
痛

款ハシ
何トハハ中ノ多陛下トハ
歸ノ

備、上、於、之、最、少、親、家、々、々、へ、や、又、又、世

業に
宋、
後、
大元主
乙
日
ハ申
近
元

最

新

ナク此所極親愛ナクヤンベカラク而し朝鮮

ノ福利福共ニ多クヘキナリ

上ノ政事

正政ニ良ノ實未ク至ルモ孝ノ人

陛下ノ百僚ノ免南極紅一鼓ノ實リクヤン

亮ヲ極ニ敬フモ或ハ情嫌ノ念ヲ互目シ或ハ鉅力

権ノ争奪ヲ行フナド徒ニ時日ヲ費シ此頃ニ及

フニ改革ノ要更ニ急ムト聞ク申モ如何ニヤ

コトナレバ忠臣一人ノ義トシテ其ハ陰謀ヲ企

時ヲ以テ易ル意アリ誰々ハ意牛而シズトナシテ相起ス

極真實非スルニ至ル所也此心暗鬼ヲ去テお聞

クモ然ルニテ斯クハ陛下中興ノ大業ニ到底此ノ

位ニセリ惜ズ今ノ宜シク釋然焉シ以テ各情嫌ハ合

ク一掃シテ去ス。盡瘁シ内正ニ至ル事ハ莫ク失

ハレハ我ノ本ガ折斷事ハ宜シ流レ。傳授ノ事ハ其

事ハ皆事トシテ去ス。利ハ陛下下ハ大

元帥ノ職ニ任ズ。大志ヤト望ム。近ノ事ハ

針圖



秋々せんすきや並文

集賢堂

在ル館ニテハ

辨之端際三拾八月四日五張永年作

下ノ

漸下、ハ刻々ニ重き事ヲ示し、ハ緩急宜しく量る漸く

[illegible]

市中余敢蹴踞且歩ノ患ニ力之ヲ入レ去ハ

人

臣任獻下之以共禍主誠心忠貞一矢努力墮下中

7

興ノ大業ヲ暗ニ畫シ積セガルヲ代リテ厚内認具シテ

生機

仙臺山志卷之五 藝文志 詩

五下

三毛儘多力心へん
二毛儘多力心へん

自覺して華の行ふところを得るが如し、先づ生来の限り其度に

故
必ス
段々本偏ダス売セ
不今貴以所部ぬた
子個ノ先依中何党
助ミトカ何党ヲ排作
セトアエツヤ一偏成
重義也然ルコテ
西々云々貴政府ナリ
乙平無私同一致
以テ五坊ト事
事ナリ
ノシオモ東國秘公久
シト年而年ナレバ
信ノ多ク、極致ニ成
ソル貴玉ニシテ一期
町留暗夜旦光ノ
灼外ニテ観ルハ

葉曰此其天所利也ト云フ陛下ノ方ト云フ神益ナシト

ト云フ様ノ諒察サレシコト又シ大石至陛下ニ

相見ト云フ使ト云フ見ト云フ使ト云フ給ト云フ即我皇

帝陛下ノ内親也ト云フ信ツノ事ト云フ勿依セ

ント云フ投者ナハ之ニ信信用おるト云フ時ニおキハ

ア多ク下向ト云フ答不肖ナリト年氏赤誠ヲ注ニシ

奉養也ト云フ上陛下ニ於ク使ト云フ起者ノ信信用

如ハ大々金匱ノ影ニ寄ルト云フ才ト云フ先ト云フツ

此は

陛下は信用の事、貴政府の信用の

受ける事、斯く申せば、使臣が貴政府の内部に大に

入るやうに、^{その}野心に決して無之

其のハ毫シも念慮の及ばず、左キラハ

折角我々皇帝陛下に、 勅さうおまゐる

さうしては、趣意におこし、新しく、思ふ

バ、豫メ、一より、其の、 付

ガ、

大君主 ~~陛下~~ 勅答 貴玉多事、際末、

卿カ要職ニシテ身ヲ以テ我ニ、鉅創ナルコトヲ

知ラセ侍座、彼我ニ事ハ難局ニ折衝シ

高事ニ處年ニシテ結果ニシテ貴玉皇帝陛

下ガ我ニ對セシ、厚キ聖意ノ推シ測ラ

レテ感佩ニ比ハズ、要ニ斯クニテハ思ハサリシ

卿ノ奏言ニ據リ殊致之ニテ深ニシ侍リ聞ク

卿ハ忠ニ維新ニ志シカシ、事ニ致シ

家元勲トシテ其名風ニ高シ今我ニ創業ノ

際ニ上リ卿ヲ此ニ見ニ惟フ卿必ク當ル共

自玉ニ試ミシ事殊ニ振ニ頼ニシ我ニ政事

ノ実ヲ奉リ独ニノ基礎ヲ固フスルヲ待バハ

力加之暇ハ卿ノ老々志ヲ前伸シ今後屢々

卿ヲ見スル日多クハシ卿又亦ク朕カ

政府大ニト立派ニ仰志ナク

トハニストク生リ

陛下ハ此時室内大臣に命じ特ニ椅子ヲ賜リタル本本使

使ニ陛下ニ中椅子ニ倚らせむ様奏請あり

本使

使臣等奏ス

聰明な陛下ハ此言棄ハ一々

感銘堪々又ハ我々皇帝陛下ノ至意ニ使臣ノ

奏言ニ因テ多量ニ諒察ヲ垂シタマヘリトテ事ヲ稽考ノ

先栄ニシテ迄テ其由ヲ具シテ我々皇帝陛下ニ

報告スルニ而シテ尚ホ一言奏上欲シタルハ我々

政府ハ此頃迄九年以來未ダ此ニ對テ主義ヲ修

始一貫ミシテ夫シク変之形アリク、即チ今ハトモ矢

張初歩ノ目的ヲ以テ終ク、アルトモ是ナリ、約言ニハ

我政府ハ貴國ニ對シテ無限ノ好意ヲ表スルナリトモ

バ何事ヲ欲バズ貴國ノ利益ヲ以テ思フ事極ム

飽止ミシヲ矯メテ、好意ノ表スル、事ハ融カト思惟セ

ス、事ハ極ム、是レハ新メセザルナリトモ、然レハ此レニ

ス、以テ己ハ目的ヲ達セシカ、力ヲ以テ、事ハ融カト

事ハ決シテ、其ノ又、教養ノ安セ

ハトモ
ハカス

うしつり之く同く先次
朴泳孝我兵カサモリ

王宮之白しとるノ見況
断りし世を

より大に主中ノ悲怖
カ来しはリカ是
何持在

困
惟之
一時ノ流言
とさす

し
使
下ノ
と

パイサ知る
兵と
一箇人
間
兵カサ
使を以

ヲ其ノ者ノ欲
し
せし
と
ん
め
キ
エ
ト
ハ
夫
シ
ラ
有

之
告
し
是
し
中
大
凡
如
降
を
姫
ノ
降
下
政府
人

今我五之對シテ物慾ヲ釋シテクランヤンモイハルニ

目下ニシテ終見ノ事ナリ升ニ長長子健健是也

因事ヨリテ解亦兼奉我ニハ此ノ先ヤ決シテ

此等ノ風説ニ惑ハセシテ欲知アラガハ聞者極

尚又風説ノ誤ニキルモアラバ亦ハ傳聲者ヤ

石ニシテ山頂にお立ちおらるハ必ス誠實ヲ以テ奉るべし

之ニシテ要スル者ハ陛下ニシテ不安ナリトモ

陰謀的人物ニアラハ元分は信用アズ

我望下至以所

我

兼

兼

兼

兼

L

然^下然^下之世間不名何事ノ出来^保キ^保セ^保ス^保西^保

徒外^保之點ハ^保カ内証^保也^保起^保ル^保若^保ク^保王^保宮^保ノ^保安^保危^保ニ

関^保シ^保教^保慮^保ヲ^保慙^保ス^保ル^保種^保ノ^保事^保アリ^保テ^保詮^保者^保ニ^保其^保保^保護^保

ヲ^保持^保シ^保相^保成^保ニ^保目^保ス^保ル^保不^保肖^保詮^保者^保必^保ラ^保ズ^保在^保分^保

ノ^保力^保ヲ^保欲^保シ^保陞^保下^保ノ^保事^保ヲ^保教^保慮^保ヲ^保安^保ニ^保目^保ス^保ル^保若^保ク^保

大^保表^保主^保陳^保新^保義^保卿^保奏^保言^保一^保ハ^保妙^保予^保ヲ^保曉^保ス^保

卿^保ノ^保能^保力^保ヲ^保起^保ル^保此^保ノ^保ハ^保大^保ニ^保止^保堵^保ノ^保念^保ヲ^保お^保ス^保ナ^保

リ

本史

使員登の参々聖體の幸
こらんや名ヤリ知らせ凡

我北征軍ハ已ニ貴玉ノ玉境ヲ踰ヘ申山ノ戦

日九車城ヲに願ハル上進改シツヘリ軍銭

車ハ此着々歩リ直ニ願ハル貴政府改

車ハ此着々歩リ直ニ願ハル貴政府改

一優柔不斷此の難月建之レ一幸ノ実行

難ルモ之レナリ如何被成~~成~~聖意ナルヤ将又

陛下ノ政府大正ハ何事ヲ為シツヘリヤ軍兵指

移處カキ米多カキ注案裁ラシ經カキえカキ手カキ案カキ

~~也~~其注案ハ然ト文是リニ大ナル力

一々其根源ヲ推シテ事ハ多岐ニ渉ル悲シアリ

又此ニ至ルニ神カキ就テハ確々明カニナリ

レに今殊更ニ案上ニテ要ナシ

大表主カキ朕カキ此等々愛シテ政府

大五リ皆責メ已カキ注案中民衆ノ商

我々案ニ緩急ニ應ジテ速ニ其効ヲ得ヤレトシ

以テ今

大君主陛下御教奉 吏子匪類 室教之

ハミアルモ中ニ郷ノ言ノ以テ地方官ノ失政ニ赴目

元ヲ知テアリ 是ニ朕ハ不明ニ出テ必克信仁ノ

敬肅ナラザルノ致ス所ニ慙愧ノ事共ナリ

使臣蕭奏ス 而ウズ微衷ヲ披瀝シテ長時

向ニ歩リシテ聖體ヲ冒瀆ス惶悚ニ比ス

大君至~~テ~~ 吾々朕ハ 却テ郷ニ相見テ

其夫妻言ヲ聞カザルカス

第七号

昭和廿五年十月廿九日 公休故存井上公休

大法院、左様筆記

杉村吉次官、大法院、左様筆記

通海、左様筆記

大法院、左様筆記

大法院、左様筆記

大法院、左様筆記

大法院、左様筆記

大法院、左様筆記

大法院、左様筆記

三 家、氏心ヲ辨騰セズ、
等シニ思ヘズ、
モ我念ニ存ス

方閣下、御高不^オ儀^イヲ、兼^{カミ}知^チ方^ハ以後^{イコ}ニ閣下^{カノタ}御^ミ片^{カタ}ニ依^ヨ

信事、或ち望み、意見、多弁、次、に、

下ニ申上ル事ヲ待

此時夫溪長
村名必夜
下必筆
下必求
下必村
下必名
下必必
下必之
下必之

進大陵爲華之執子漢高帝之得天下心也先心約

法之卑也。執應可知也。此之公使、而美志。

大快也
是即
余意
先十

後
今四我

皇帝陛下、特、重要な回務、任に當り、虎、余、貴、回

御、派、遣、下、さ、し、タ、ル、付、下、ハ、軍、中、又、慮、ノ、ア、ラ、セ、ラ、ル、以、テ、第、一

ル、事、ソ、閣、下、ノ、任、タ、ス、島、ト、御、系、知、ノ、事、ト、存、セ、ラ、ル、故、ニ、余、ハ

是、ヲ、我

皇帝陛下、下、ノ、敬、慮、ノ、ア、ラ、セ、ラ、ル、所、以、ニ、我、政、府、ノ、意、向、リ

閣、下、ノ、申、上、リ、ニ、御、下、ノ、任、タ、ス、御、係、知、ナ、ク、意、見

此、四、以、ハ、余、カ、御、系、知、ノ、事、ト、存、セ、ラ、ル、所、以、ニ、我、政、府、ノ、意、向、リ

シ、ホ、一、ラ、レ、タ、シ、
其、貴、回、ノ、獨、立、リ、軍、団、ニ、シ

△億ヲ以テ數

皇帝ノ御覽目ニ恐多シニ成ニ恐怖ノ念ヲ生スル

ト思ヘラルハ是レ即チ余ノ説ヲ防阻セラルハ無ナラス閣下ニ

於テ斯ク城壁ヲ設ケラルハ限リハ余ノ閣下ニ俱ニ事ヲ成ニス

我ニ對シテ其ノ財ヲ悉クスルヲ以テ諸君ニ對シテ其ノ財ヲ悉クスルヲ以テ

余ニ對シテ閣下ト余トノ意見ノ相合ヲ期シテ是ヲ

大體ニ名付シテ然ラス只余ノ規模ノ狭小ナルヲ余ノ

意見ニ於テ此ノ記シタル漢高祖ノ年ノ例ニ於テ外ナラス

識ス閣下ノ御覽見ハ

公使 今ノ天下ニ往時ノ無リ此ノ事ナリ時々中々ニ千載

△億ヲ以テ數フ

△多
法
之
行
之
事
也

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

△
今
世
也
政
事
之
行
也
不
能
不
減
其
意
之
行
也
閣
下
斯
ル
コ
ト
ナ
リ

虎心 余言の所法を奉りて法に三個奉りて奉る

此より心より攪せんといふに外に奉る泰の世に心攪れ

皇紀の先ツ法を奉りて心より攪せんといふ

余之、則先ツ心より攪せんといふ

公使 今、時、往情、異なり、試みる、向、往情、外、回、好

余、指利、お、奉、り、て、や

通高書、事ありしや、十年、モ、ス、万、年、と、書、人

う、た、り、此、國、家、事、情、事、年、有、餘、年、前、昔、り

法、え、り、り、則、然、中、外、事、也

左院君 余頃因て世人余を見り頃因て張本人に追付り

然しと聞け、必辱た事、爲る之に知悉なり、假令に鉄

然し通じ、鑑山に仰り、考へしに余、願ふ所に非ハナシ、故に

余既に之に斗割りナヤリ然し一此事に急来、大にカラス急来ハ

カラス心より授けしヤ斗り、雖に故に漸次之に及せし望

ム此に事、^{ナカ}多し、然し一月廿日、^{我七月廿日}以来、

事々此に、概務所、故に討者、カラス事ハ日本カニ、三十四年

向に、カラス事、直々、取ル此、回、行に、カラス者、カラス文に

日本カニ、三十四年

今日、美上、~~元~~、百日、修ん、モ、為、所、ナ、ク、ハ、新、服、ノ

秋、袖、ト、ナ、リ、シ、ト、經、務、碁、ノ、込、リ、シ、ト、知、レ、ト、モ、此、拾、ノ、服、制、ト、変

更、セ、シ、カ、サ、ハ、事、ハ、好、シ、ト、名、モ、病、ク、臥、日、ノ、整、シ、以、心、リ、知、セ、リ

此、ト、モ、拾、服、制、ノ、サ、サ、モ、斯、以、ト、受、テ、シ、往、カ、ハ、大、ト、都、合、ナ、リ

シト思ハ

後、余、今日、區、ハ、サ、レ、ハ、~~正~~、~~正~~、~~正~~、細、事、ヲ、決、ス、者、ト、非、ス、

貴、回、主、室、ハ、華、園、ヨ、リ、貴、回、主、ハ、離、テ、人、論、モ、リ、ス、

モ、ナ、リ、~~後~~、下、ノ、抄、説、ハ、サ、リ、百、日、間、為、ス、是、果、シ、テ、何、事

ヤ其間種々凡説モリ成徒ウ權カッ事或ハ
違ハ狐疑ヲ擡ニス事ノ此ヤミテ終ッレノ四
本ノ權立ヲ至ハ事因リ劃スッ付レヤ

大改点 余、齡既々幸と達シ老邁キ回政ハ一切中政府及
ニ機務所々事ニリ終余ハ回政、千興ヤリ

後 然、閣下ハ亦ハ御考ミ却リ出リ、彼ノ人ニシヤ閣

下カ即チ出テラレシハ即チ閣下ノ意思回政ハ當ラハリ御

決心ナルハ寧ろ一カヲサレ昨々然レハ閣下ハ回政ニ干

折又

興セト述ハラシハカクハ御考たヤ四ツ減スニ何ノ數ノ
高下ヲ添セシヤ、

大院君 然レモ機務ト云フ減付アリ、申シ處レ度、係ソ

レテ四政ハ亦シメス減付機務仙リ御シテ故スル者ハ直

クニ裁クニ申シテ此レ然レ此間余カナセレ一個ノ事

アリ即チ報聘使派キ、一事チ知ルル生陽ト述テレモ

斯クテ中國者位ノ地位何ハシキヨリ更ニ余ノ孫

(李煥然)ト差出ニエ事トナリシト聊カ知合アリト云ヒ王

子義和實リ特派セラル事トナレリ是レ余リ日來對
スル如キヲ願フニ城下ニテ余ノ意ヲ示セラル
使閣下カ免ク城壁リ染ル余ノ言ヲ信カレバ閣下
余ト對談スル好マセラルヤ

去院見 決シテ然ラス余ハ閣下ノ御意ニ從フニ
此見閣下カ畢維新ニハ政務ニ兼テ事セシ地ノ向ヒ

所ヲ御座ル事ト存シ然カ故閣下ニ來シニ上將

事我回ノ事極メ如キ結果ヲ得ヘト心算ニ如シタリシ程ナ

7

公使然之是より御~~出~~出^せて村世四ノ事ノ起^りハ決^して一^日

夕事^に非^ず先^に其^事結^り説^くて我^國貴^國に^向

修^けり法^にに^て宮^に以^て乃^に年^にに^て法^に法^にに^て決^して事^にナ^キ

に或^に主^にを^し者^に非^ずス即^ち貴^國陛下^にカ表^はる^に所^に

貴^國兵^士カ如^くナ^ク我^國軍^艦に^向て開^放せ^しに

依^り此^岸に^付り貴^國に^對し^て若^しに伯^爵に^カハ

云^ふ迄^にナ^キ事^にナ^リ然^しに^は此^時我^國府^にハ^而回^向年^にナ^リ

保ツト專意ナリシカニ余ハ其國用ニ依リ世々多

情ヲ決シテ集ル事ハ信ス

大院天ノ兵當時地方ニ居住セカハ親ク承知セヤリシモ

後ニ勿論承知セリ

公使 當時貴國ノ陳ノ令傳余ノ聞取セシ貴國

專制シ余貴國ノ果ニ清國ノ屬邦ナヤ將タ獨ニ回ル

ヤリ向ヘリ

和米之車止る者し當時^{豊國}官集^為清回ノ底印たり

冬へラタラシハ^カ何^カ中ヲ急^カ起セシヤ、^カ実^カん^カ（^カカニヤリ

物^カニ中^カ於^カ、^カチ^カサ^カシ^カ、^カ幸^カ伯^カニ^カ云^カ、外^カナレ^カ尔^カ来^カ面^カ高^カを

南^カ始^カし西^カ回^カ間^カ、^カ無^カ際^カ此^カに其^カ諸^カ、^カ我^カリ^カ物^カ、^カ明^カ以^カ十^カ五^カ年

等^カ又^カ貴^カ回^カ、^カ陛下^カノ^カ處^カに^カ、^カ皇^カ主^カニ^カ西^カ回^カ又^カ上^カノ

為^カ我^カ回^カ、^カ流^カ臺^カニ^カ、^カ亦^カ他^カニ^カ駐^カ別^カシ^カ、^カ我^カ使^カ臣^カシ^カ襲

へ^カ此^カ事^カカ^カ存^カ、^カ非^カ礼^カ、^カ為^カ我^カ回^カ、^カ侮^カ辱^カセ^カシ^カ、^カ六^カ防

下^カニ^カ於^カ、^カ之^カ勿^カ福^カ初^カ知^カ得^カ、^カ事^カナ^カル^カニ^カ是^カレ^カカ^カ、^カ乃^カ我^カ回^カ、^カ乃

源

修らざるが法とあるが修めたる人民保護ノ方ノ長所ノ所在

大
兵由ツハ進シ
~~難在~~
第ニ一清國ニ示ス

ヨリ多ク貴國ハ進駐社セシム事ナレリ

大
阪
点
當時
四ノホ
何レ
何者
モ
知ラ
ス
ニ
テ
該
事

件
リ
多
起
セ
ハ
該
事
道
徳
ト
ス
ル
所
余
ノ
ナ
ラ
ス
該
事

件
リ
減
少
申
言
ナ
リ
成
ル
ハ
必
然
ノ
國
民
一
般
ノ

以
テ
論
ス
ル
所
ナ
リ

後
然
リ
該
事
件
ナ
リ
而
シ
テ
該
事
件
カ
金
ノ

貴
國
軍
事
教
授
ノ
方
ハ
事
實
ナ
リ

止
マ
シ
テ
出
テ
△

大蔵 事ノ既往ノ組ハハミ益ナリ願フハ現今各所

事ノ事ヲ付御カラン中ヲ望ム

公使 然ラス折々聞ノ事ヲ付事ノ全分ヲ論セシ然ル

以テ既往ノ時中ノ論及セ尤ヘカラス仍セハ事ノ原因

ヲ極メセシメハ如何ニシテ事ノ最モ著クシヤト付真相ツルニ

ト望ムナリ

大蔵 在朝魚目混珠日本書ノ上ニテ少ル身体ノ工后

宜シカラシカカ為メ御注意ニ付ヨリ譲ラレシ

公使 昨。沙面會リ約セシカ故本。ハ優リト云胸中ノ感

あり南。沙對。改セトセシテ。未シ本。日。切。國。德。ト。ア。ハ

御老件ノ事ニ。ツリ。強。ク。昨日。御。治。セ。ハ。ナ。ク。又。ト。云。フ。ニ。非。ウ

又。然。ラ。後。日。再。會。ノ。期。日。リ。御。約。來。改。シ。置。ウ。ヘ。シ

本院。本。日。ハ。昨。日。ノ。御。告。シ。ト。ニ。上。致。セ。シ。海。中。實。外。街。所

ニ。於。テ。席。リ。清。テ。御。招。待。致。シ。尚。ホ。宜。由。付。テ。モ。御。招。待。致。シ

然。レ。後。優。々。御。話。シ。第。ハ。陰。サ。レ。存。シ。古。リ。シ。ナリ

公使 大。考。ニ。意。ヲ。儀。式。ナリ。今。ハ。此。際。儀。式。著。ク。難。難。ス。ル。ヲ。感

シテハシロキ余ハ車坐アリテ樞要ヲ因務ノ任ニ當リ
リシニ

陛下ヨリ至シ奉ルヘキハ城郭命ヲ受ケ奉リシニ

陛下ノ命ヲ仰ギ奉リシニ城郭命ヲ受ケ奉リシニ
城郭命ヲ受ケ奉リシニ

城郭命ヲ受ケ奉リシニ城郭命ヲ受ケ奉リシニ

城郭命ヲ受ケ奉リシニ城郭命ヲ受ケ奉リシニ

城郭命ヲ受ケ奉リシニ城郭命ヲ受ケ奉リシニ

城郭命ヲ受ケ奉リシニ城郭命ヲ受ケ奉リシニ

悲願也位をいふなり （右の如く） 山崎 （左の如く） 東事 （右の如く） 木 （左の如く）

お地着及び往うの儀式等ノ多キ事ノ邊に在ハ

余大ニ不快リテ所ナリ九連成ハ已ニ臨リ既ニ我ノ

有ニナレリ然レ直ニ曰ハ既既ヲ觀ニ果一ニ變所

ナリ ~~（消去）~~ 閣下ハ今日ノ境合リタリト場合ト云

ナリヤ國家ノ存スル最モ危急ノ境合ナリ昨ノヤ感

ナリオリ授シ （生靈） 賭シテ我ニ回カ此等ノ由ニ云

ハ何ナリ理由ト閣下ハ認メラルヤ余ハ此ノ一カニ

昔年^{（一）}（二）者ナラスト返メ斯々本日の談
乃^{（三）}（四）

大流長 場合、老をた事ハ年々亦此此

心用復^{（一）}（二）目下、急務ナリ

後此危急、情^{（一）}（二）何^{（三）}（四）式^{（五）}（六）

抑余意見^{（一）}（二）閣下^{（三）}（四）

今^{（一）}（二）胸^{（三）}（四）

若^{（一）}（二）相^{（三）}（四）

ニ夫レ事、何ニ成リ候ヘヤ候シメ斗リ候

余、信ス貴國ノ家貴國主ノ何ニ成リ候ク可

キ一ト聞下ト余、和衷協同ニリト故ニ余ニテ

下ト和衷協同ニ本ト申ラレ申シ候事成

付テ余一國トシテ或ニ多ク名貴ニテ夫レ

格別ノ利害ノ有キ其成否一ト貴國ノ家貴

國主ニテ事ノ聞下ニテ其ノ如キ事

相成

大法院 少海金と云 州下、意見、相合、し、り、熱望

元亨

石使 然、**関**下、カ、免、印、金、に、封、立、ス、ン、ル、ヲ、セ、ウ、シ、セ、カ

幸、竹、見、ハ、金、**関**下、に、果、シ、テ、和、衷、恨、同、ノ、涼、ニ、寄、ル

ヲ、**関**下、カ、セ、ヤ、ン、付、キ、釋、セ、ル、申、故、ス、本、日、**関**下

總、リ、申、下、他、ノ、五、年、期、シ、テ、最、ニ、速、ニ、御、決、米

取、**関**下、に、**関**下、ノ、後、直、回、各、所、に、上、臣、者、に、大

臣、**関**下、に、在、リ、テ、代、理、知、并、ト、一、生、に、存、シ、テ、金、の、意

見、出へ改て付甚なり、閣下、御座る所、見事

致し

大流、其、相、難、何、と、余、相、上、り、

、余、改、て、出、へ、大、臣、ト、事、ハ、お、お、事、終、る、是、レ

余、回、法、ナリ、又、閣、下、ノ、名、大、臣、ト、改、て、事、ハ、改、て、

余、改、て、改、て、ナリ

、使、然、ハ、閣、下、ノ、大、臣、ト、改、て、改、て、改、て、又、個、別、ハ、改、

ス、事、ハ、改、て、改、て、改、て、改、て、改、て、改、て、改、て、改、

況ん事に或は疑心する●ノ掛念す中終る

一處に居る●必●要國の心也

大流島を勿論大臣に以て其を代へ大臣余は海を

事し東をす例とス又余が大臣に一書に居る事ハ

地位甚々違ひ且大臣に在り而も其の心は

昔ハ玉都に在りし如きは難し

倭 曰はし其れに何れ地位を論せしんや乃に其

良時たすや其れ余が貴國 陛下に謁見の時

此より外に列邦よりしるし事ノ目録
肉を力ぬき

大坂 湯見に自ら黒い文と印を力ぬき
此に法にたつ事なり

公使 然るに閣下は余に恨めさるる好まざりしを以てかた

余は毎に閣下へ余は是る要々余に閣下は我れ

ソウ貴国へ家へ貴国へ是れ運作の閣下は

事なり然るに閣下は余に恨めさるる好まざりしを以てかた

連

余、感、た、所、ち、所、下、又、法、た、り、と、ん、に、し、か、
匠、生、た、ん、小、坂、式、的

東、馬、の、え、流、ま、り、の、北、大、全、日、年、三、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

年、事、回、の、く、し、あ、ふ、の、事、諸、回、り、に、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

の、陽、事、面、り、回、ま、り、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

の、事、之、り、冷、ま、り、目、下、車、等、先、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

の、事、貴、回、の、方、自、回、ノ、カ、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

の、事、日、本、兵、之、請、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

大、院、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

法、
ハ

、先ち大臣より申上り先かぬ余の單に首肯せしむ
、事

後肉下ノ首肯に印ケ閣下（若他ノ以テ年可ニシ）令に服スヤ閣下ニ之ヲ
スル云々ヤ

大坂閣下ノ所シ預に置ク二個ノ條件より一は必上ノ付

新激也此年ヲサヤレ一は朴永老若、事ナリ也著

事ハ余既に先方ニカ斗割リナレ置キ、如し閣下ニ之ヲ著、付テ

、心猶豫セラル

此後、閣下ノ所シ、余ノ所シ、

自下ノ文ミテ係リ如シキ事リ此ト置キ事ハ利

キ事キ事ハカラス凡ソ事ハ此多リ事大ヘテハ信

テハ信爲ハ利信爲ハカラス此ノ事ハ余カ意リ

述ヘ閣下ノ意ハ此中シハ此ト信ト法ス中此ハ

此ト此系ガ此ハ閣下カ大臣ト曰テ此ト曰テ此

此ト此ハ云ハ此其理由ハ先ハ閣下カ何ト云セ

此ハ此ハ此ト此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ

此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ

大演説 吾余の閣下と相識と一ノ相ッが余の

好ミスロ云々、此之を余の集金元植金常陸

余者諸君の何れも余の志ヲ達ス、後者たハ、

河津、中ハ、論余と云々、衆知し、人々生キ

公使 吾個に付、御治ス、無量た、し、た、

余ハ、閣下カ、余、臣、一、等、余、余、拒、ハ、

此、閣下ト申、申、申、申、申、申、

大演説 然、ハ、申、ハ、申、ハ、申、ハ、

明治三十四年八月

に申す即ち金に該せざる事七は格別何事先ノ要
ナレハト思フ

何事甚う道へり閣下と説く所は多矣臣と説く所

は自う憂ひ無見し知れ又と申閣下は斯れ之

拒るや然し場所在り閣下見所而も多た臣

力起立する所なるも金に格別より内ニ申す欲

大抵此れは金と金と通るは格別何事先ノ要

なり閣下金に申すは内政申すは金と金と通る

[illegible]

後先皇太子書。此下。五。卷。五。卷。

[illegible]

再々會同を申上りぬ。也日再會、上令意見を述

閣下、少頃之ヲ聴クニ、後ナラハ大考ノ中ニ在リ、

此の本ヲナメテ内ニ是レ為亮六侍ノ上ニ見シ

先づお葉の定まレに云うと無ナク事ノ枝葉の治に

者いふ日と作之の妙なりと云う終る又南のり

及心なりと云ふせうりて結ノ車往ノ由に略起る

〇看日ハ光や力安んじ多事味ホヲ権

のし得るんを好むせし者なり心ハ穏ナク云ハまある

其所ナリ故先ノ申奉人唯之ヲ計ラ云ハカク又四

雅之也心ハ和就鍾也ノ居るハなり親客

也

大快也

余の心、謀定る夫と云ふは、下之

の後と云ふは、

後、夕論、中より諸ひく、華聖也、以心自比、録之

スヘシキナリ

大快也、免る、市は、為余、時要細、即意、り、同、

事、に、実、を、し、し、上、せ、し、断、り、即、時、論、

素、り、世、か、ん、い、成、り、而、わ、か、う、

後、余、を、其、多、不、快、ち、何、と、も、下、に、見、る、余、

言好くおうしむらんといひて今時下才令

と仰ふ末おもしろいなりと申すは是れ其の

意を承けしめんとすは是れ其の意を承けしめんとす

改せしむらん言はるるに是れ其の意を承けしめんとす

はるるに是れ其の意を承けしめんとす

其の意を承けしめんとす

大抵其の意を承けしめんとす

期々

後

在るに事なり在るに事なり余は是れを付
自光

内下御機回せらるる事なり是れを幸とて内下

此^相に事なり是れに事なり是れに事なり是れに事なり

へや
内下御機回せらるる事なり是れを幸とて内下

右



第八号

議政府の於十月二十日午後一時使總理大臣金元

集談談年記

真暄換移ゴッ

乙使 着任忽々は而金成府奔走を要天

五ハ新秋上疏等年ラ一時的^{詳表}的ノ排^ハ是

セラレタルヤエテハ新秋ヲ視^シズトノコトニ有今日迄ハ

ヤ

金成府 然リ新秋上疏、通^シて先^ニ此節ハ

未^レも^レと^レ上^レハ^レス[●]所^レ方^レア^レク一口同出動セザリシ

公使 其^レ或^レハ^レホ^レウ^レカホ^レ凡^レ杜若ハ金外節大和

リ確^レ此^レ事^レ聞^レキ^レバ^レ日^レモ^レ同^レ速^レハ^レアル[●]ジウハトモ^レン

此^レお家^レ多^レ事^レ際^レニ^レホリ一^レ個人^レ強^レ候^レ或^レハ^レ此^レは

え^レ可^レト^レナ^レク大^レ主^レん^レモ^レカ^レ強^レ候^レ長^レク^レも^レえ^レ様^レハ^レ忠^レ實^レホ^レノ

コ^レク^レ息^レス^レヘシ

金^レ總^レ理 此^レ後^レハ^レ左^レ様^レノ^レ事^レモ^レシタ^レク^レア^レラ^レサル^レヘシ

公使 拙^レ者^レモ^レ明^レ証^レハ^レ有^レリ[●]来^レノ^レ懸^レ事^レハ^レ就^レキ^レ一^レ用^レノ

貴と非貴の別は自ら辨るるに在り我亦之貴必しあり

彼主の所望するに際して彼我情誼を投合せしむる

此の修好策を執りて定結するは是より我主人の

高順易の口は其は来りて歟然るに其の取へり而して

十五年の憂怵然と起り此の断を亦く忠告するは

我の使館に於て我の使の侮辱を蒙りて時を待た

職外訪に長らひしかば危殆に川合よりへ兵を寄せし

京に來り談判をせしめ斷乎平和に向ふべきこと

ワ得ノ修信便和承老副使今晚柱ト共ニ降桐ノ余ニ

信毛多

信京ノ通次

秋ノ時・杜首・秋江アリテ一行ト横濱止同能

市也・船中ニ於テ書キテ信使ハ内ニ懐紙藏セリト

ノ事ナリシニ松方ハ賤物ノ間ニ書キ納メテ事至着上ニ

シテトヒモモ 漢ノ向ナシト云ベシト

[REDACTED] 其办出ノ要領ハ

才一此四書政府ニ送付スベキ五拾葉四ノ信續 補

入金目下我々財政ノ窮乏ニ立シ信還ト因世

（念）

米一に對しラ枋者ハ賸餘金ノ半ノ費ニシテ内使ス

し或ハ米ラシ米凡和約後黒土踰来ノ乾カザン短口

尚早クヒコ之ヲ空敷ニシラセト（此ニ米枋ヘカ
計ハ春サテノ所）

ラズ我下之付ニ費セテ政ヲ曉ラセルコアラザンハ且

時ナリ見計ニ費スルニ必要ナリテ鉄道ヲ設スル所

係ク架スル折リニアヘン此等ノ時ニ於テハ

九ノ便宜ヲ考ヘテ其先ヲ始メテ定約ノ後履行

ス
ヘン


芥二借兵ノ事ハ於此大問題ナリハ格者ハ其意

趣ヲ明ニセザルヲ以テ

備兵トハ單ニ兵力ヲ借ルトシテコソツク貴政府内

部ノ改良ハ貴政府自ラ之ニ使スルコトヲ以テ力

又其兵力ヲ借り兼ニ日本ノ力ヲ借り内部ノ改良ヲモウ

サレトモ此ナルカ^{義に}貴政府ノ方よりトセバ日本ハ貴主ノ租税

ヲ用テ^{ニシテ}兵隊ヲ^{用ひ}其^ニ費スルニ^ハ容易ニ借

シ得タルヤ否ナク後援ノありセハ其意を中絶ニ改良ノ意

ヲ認むにハ日本に於テ干渉セザルベカラズ果シテモ我

兵カノ劣リは古ノ干渉ハ免じ得べし

ノ干渉ハ^{當時ハ又}應地^又却^又然^又後^又力^又キ^又ト^又ナ^又キ^又ヤ^又何ハ免

カモ^又ト^又為^又テ^又此^又事^又ハ^又南^又シ^又テ^又其^又事^又ヲ^又堪^又ヘ^又ト^又シ^又バ^又杜

若一ヲ見^又ス^又之^又カ^又差^又而^又ハ^又出^又来^又東^又ニ^又次^又ナ^又ル^又ハ^又止

テ^又東^又亞^又細^又ノ^又上^又岸^又ニ^又キ^又ノ^又手^又續^又キ^又ト^又カ^又ハ^又シ^又其^又上

々^又干^又渉^又下^又ノ^又事^又ハ^又何^又ニ^又行^又キ^又ハ^又由^又國^又久^又シ^又干^又渉

ハ^又是^又ノ^又事^又ハ^又シ^又ト^又考^又ヘ^又ル^又事^又ナ^又リ

上使伯之此一臨之未之外務大也方經之天賦

こし
る
ヤ
ヤ
バ
其
休
も
う
は
能
お
ふ
と
し

右身九程十王十一湯十二次十三奉十四益十五己十六果十七之十八我十九是二十

序下。圖誠。其要。八使。王。言。同。

[illegible]

保子やうに
園遊ハ
金之
障
少
天
エ
ア
サ
イ
シ

事際いふ多き也り又此等之文字不_レ宜_レ由_レ成_レじ此處より天
 下當時仕者所_レ去_レり朝_レは信_レ之_レ事_レ先_レ我_レ日本_レ

之ヲ思ふに
未だ他處ノ
國意ヲ審ミ
吾人ニ對シテ
世間ノ味

徳天ニリト因之米主人ノリ奉ニルハ此節前ニ使用シ

能ク拙者ノ意趣ニ合ソ嗣後米代使儀ニ轉進新聞

言端ニ初解ノミルヲ首唱セシメ彼米政府ソシク忠告

定例所依ノ體ニシテ米心政府ハ十六年中ニ使フ

トナ依シ米心ノ定例ヲ依テ全ク十七年々々十

五年毎ニ後ノ結果ニシテ即チ米心ノ米ノ使ハ全カ

ミ所アリタルニ米主人ノ不任義カハ陽ニ我ニ依テ既

ニ法ト決リ給ニ日法而も各ノ米心ニ平々々々米心

ハ米心改メノミテ米心ノ米心ニナリ相ニ十七年々々

主明洋園ニ成ヨクハ吏官

此米心ノ米心ニナリ相ニ十七年々々
主明洋園ニ成ヨクハ吏官
此米心ノ米心ニナリ相ニ十七年々々

多う出時我々所、感懐ハ為ナリレカ宗と貴人

陰謀平良・多もハ大不快、感也

ハ大兵ツキテ貴王、即チ今日、此席ラ同

下ト談判、及テ人ノ暴状也

是大徴ハオヤ口、来りて其無

禮ツキテ、下記憶云々

ナラシメ、今迄留テ、記憶云々ト答テ、貴王ハ談判モ

漸クシテ和ラシク、故ニ拙考本意ニ復命ノ後、我々

其結果にして

府ハ近ニ亦天津談判ノ用貴玉ニ下所至ノ兵

兵ヲ同討ニ致四ニ下ニ至ル
（五條公使ハ其處スル人々モ其方セリ）
亦ハ凡テ其ノ干渉力ハ此ノ時

（第一條）

貴玉ニカバリニシテ口胡向瑣細ノ出来アル毎

（第二條）
（貴玉ハ三ツノ時ニ其意ヲ勸誘シ）

衝突ヲ起サレシモノクシヤリシ
防務談判ニカ二今年

（第三條）
（貴玉ハ其意ヲ其方ニ示シ）
及シテバシテナク是ノ内ハ
（其方ハ其意ヲ其方ニ示シ）
其方ハ其意ヲ其方ニ示シ

其方ハ其意ヲ其方ニ示シ
干戈ヲ以テお見え

不孝ナリ
先是ニ我政府ハ其ノ此ノ及ナルは


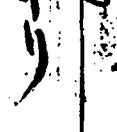
シ能アリ
此ヲヤシト欲シ彼ノ其方ニ勸告協同也

計し之を詢



五、内政ヲ改良スルニ
 修


六、外交ヲ堅ク貴忠、屬邦諸ヲ統ツテ


七、財政行政掛上自他
 財政


八、良ノ事ニあつた心やうに決心
 決心


九、徳化、所々和滿、美貴我ニ涉、


十、知悉ヤサレ、アウズに
 知悉


十一、田典ありはるし
 田典


十二、やうにト
 やうに


松岡
小島
ル
ハ

承知候事、閣下ノ洋性候リ共ニモテ悉ク御事

公使新是甘ノ事ニ往テ居スレバ今事新大

局多ク申付共、白ツテ御旨云々、要ヤシト云

フニ仕考ハ深ク此事ヲ表明ス、用ナシト云

貴玉人ノ不徳義ト云ハ事時候ニ大不快ヲ

覺ヘシ故ニ一紙閣下ノ差込込ニヤホニ込付ナリ

金銀置 差込込大差込ニ閣下ニ差込込ニ

ハ此ト云フハ定ナシ銀付申付、此思ハナシト云

斯多我日本ノ事多ク人命ヲ犠牲ニ供シテ其業ヲ成ス

巨徳

擲ラテ事ニ従事シ之目所ニ大ニ及スナリ夫レ貴王ハ内政ニ

テ改良ヲ見サシカキ一東洋ノ方面ニテ亦不羣ナ兒ハヤモ

知ヘテ其凡ソガニ我輩民ノ利益ニ主ク向テ、實セテ

ハコト是ヨリ今東洋ノ形勢ハ日ニ多事ヲ告テ信

仰時凶悍ノ浪濤ニモ知ヘテス、此時ニモツテ貴王

ハ東洋ノ舟ニ同シテ此危難ヲ東渡ルニ言及ス、東アヲナ

キヤ多ク、世ニ貴王ノ事ニ彼白耳我輩西等衆

玉の歌が注玉向、付主の善く伴伴者、免れんとす

ソ矣、えす、何れ、彼、二、内、政、入、頼、他、

侵里、と、運、其、邦、世、世、た、入、頼、と、号、

五、有、様、視、外、志、自、内、江、

歩、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、

ガ、ル、ハ、ヤ

世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、

世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、

世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、

外、世、世、世、世、世、世、世、世、世、世、

此ノ所由ニ就して事ヲ由以良ノ事久所ノ事
厚固ナリ

金徳運 國下ノ言一々有テ多ク事也カ我ニ好
々々ノ厚也此以テ朝臣ノ臣氏ニ文ノ誅

虎背一背以テ事家ノ事ニサシタラシム
玉人無教育ナキ事ニ終ル

局ニ終ルニ終ルニ終ル
不明ノ事ニ終ルニ終ル

二使 中一貴人ノ大業也
政ノカ多

（四）
三
二
一

門に出入り此ノ藥先以テ防止セザンハト云、此ノ藥ノ華

にハ至リシテ大限迄ノ地位ヲ明ニシテトシ要ス其例

題ニ大限迄モスヤ根正ヤ水ヲ玉至ノ輔

佐ナリヤト云フ一ツ義ニ根正ナリトセバ表面君主代

リ玉改メ的ヤスルハト云々味ヲ生スナリ又輔佐ナ

リセバ表面君主ヲ輔正スルニシテ玉改メ的

カラスルト云フナリヤンナリ此兵ニ向スハ是を見

ウ

金從順

勿得損之ナドクベキとアラズ即ち

市南坂ノ以テ屋全ヲ輔佐セラルルコトアリバ木而上

是也

王政開係スルナシ

乙使

拙者モ大程思ハルナリト云ハ流石ハ西

國要事ニ決シテ試シムコト隨分強國ニ老人ニ

世ノ趨勢ヲ察スル一意口契ヲ持込セトスルカ

手書ヲ執ル

・似テ拙者ニ面會スル漢官帝之弟天下心也

先以約法三年云々ト云ヒ是レハ朝政

限とし、^ハハ^ル中^ノ有^言部^ヲ爲^シ又^ハ杜^者政^府大^王ト

一席舎に決てふべき。付其座に收めしむるにハ

玉花^{カキ}サ^ズ拒^マて抄^{セウ}久^ク痛^ツッ此^{コノ}説^{セツ}細^コ介^ケ此^{コノ}

王蒙公名，秋之夢，玉花，船中，江上，長安，已。

玉王已拉去錫人所共知上元二宮內外諸大

王侯天下又若此耶徒足流之也

佐カにカ
 不
 法
 甫
 母
 ヤ
 土
 田
 子
 五
 子
 ノ
 境

しハ光林ネヲハツトノ句ヲ引爰ニオトギルトニ依

△内政改革、定其意
 平年、改しハ漸以歩
 フ進ムハシムルヲ務メハ
 此方ハ歩ム進ムハ
 方より改シテ先ツ歩
 フ後スルヲ務メハ
 方難シキヲ改シテ進歩
 トシテハハラスト反觀
 し主として抗

此ノ水言ハ改改ヲ用ヒ人ノ統御セシムルハ

此ノ民大止リ所、暢談ハ事ハ不平ナカラズ杜若ノ生、

此ノ心ト事ナリシ。此國西ノ者ヲ用ヒテ勝事集

此ノ佛トハ、此國大止リ定メテ國計ナリト

此ノ中スナリ、此國大止リ定メテ國計ナリト

此ノ其國執リ、此國大止リ定メテ國計ナリト

此ノ其國執リ、此國大止リ定メテ國計ナリト

此ノ其國執リ、此國大止リ定メテ國計ナリト

トハ人心ヲ畏怖せしメテ無懼ニ傾同せしむるに

テ其意をえテ獄に投じ其罪ヲ昭々として殺

す所が如キ比々此文明ノ世に通ズルノ陋習ナシ

悪手敗るなり

金徳理

外々然るに

一層修羅ノ大蛇

人望アリハ其實ハ我ガ力ナシ

者ニ依リテ綱を乱政令正シカラス

此ヤ實ニユートリヤリシカハ





如ヤストノ金ヲ起サシムニ至ルニシテ同ク軌正ナ
時ニ針ハ時ニ移リテナリシニ一ノ般ナリ
シテ今ヨリ心授的ニ傳ヒテノ意味ニ正
見ラヤナリ

希クハ國下度大隈氏ト會見シテ之ヲ同君推
高シテ職務ニシテ極力ニ到ルニ力ナハ
君臣同ノ國情ヲ以テ之ヲ傳ヒテ之ヲ知シ
之ヲ能ハシメテ之ヲ知シテ之ヲ知シテ之ヲ知シ

いれとまうハ馬家ノ秀^ノ  幸福トハハサルハズ要セン

いふ底ノ向背ハ少ハ玉家同敷、大志因係る玉七ハ



同君^ツ、勝年素依^ノ、拳勢^ツ、城^ノ、 明主^ノ、我^ノ、今口

いふ物^ツ、知^ル、し、ハ、年^ノ、百^ノ、開^ル、化^ル、光^ル、、^チ、、^ニ、、^ニ、、^ニ、

いふし此物^ツ、ハ、是^ノ、非^ノ、因^ノ、下^ノ、、、、、

いふ氏^ノ、素^ク、、、、、、、、、、、、、、

いふ徒^ノ、、、、、、、、、、、、、、

いふ其^ノ、、、、、、、、、、、、、、

主明羊國不我日之吏官

△ 女に
暗に中書院に上
事上、容喙ヲ防
ハ大院を
要する

サレタルニ於テハ國君トモ必克ハ悔悵ス時斷到來
るべし故ハ同君ノヤク或トキハ毒ニ成邊又々藥ニ成
コトナレハ笑張合テ援ケガハ方且シヤコヘシト思惟ム
乙使 拙者ハ先ハ大臣を陛下ニ謁見ノ節至宣旨ハ和
令協同ニ付テ條々陳奏シテ其ノ大體君トハ宣旨
ニアツハ應ヤル目論見アリシカ又矯矯來後續ハ世
子多シ應ヤル代ニシテ力種々不祥ハ見スアリシカ
ハ五妃ノ位多シ今ハ國氏威權ト迄ニ至時代ハ至矣ナシ

頼るも親戚もなれば境邊に生し其心情ハ如何に

ハヤ定ん心細く不安に思はるる之に随うて内折合せ

宜しかるは其間、新外々なる事ナキヤト云々

ハレハ先づ其上の一法ハ極和より生れしキニナリ

上より湧出する和柔澤々たるは政府大正を安んず

意其時務を行ふ便宜あるナリ

又此際閣下ト拙考ハ如何が密着たるに於ては

トおもはるは其の如くニ云々

杜若ハ玉王ニ向ツテモ信ヲ用ルニ堪ヘ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

杜若ハ玉王ノ御下ノ御所ニ在リ

金銀

少厚立世多持者新へ文法に公使

ハノ見做ガ我願同好ハシメ美ハ悦ハスヘシ

ねい

今門ハ使用スルハ飲同好ハ悦ハスヘシ

セコハ本報ハ大使ハ中令都定ハ訓令ヲ授

ク貴政府ハ我ハ通事ハ人物ハ世世ハ修ムルハ

シヨクハ抄振同下金銀ハ南ハ日山ノ中セ

シヨクハ抄振同下金銀ハ南ハ日山ノ中セ

スヘケルハ時移ノ見ハト人人物世世ハ修ムルハ

タシヨシ知通ハヤト創業ノ際ナハ我々不
経候ニ到底各洞ノ事ハ力ノ及バサレ所ナハ
向官ノ手腕ニ據ラザレバ其ノ欲向官ノ通
之ニ因テ終定メハ一任タス外ナシ

公使 欲向官ノ事國ヲ是國ニ付スルガハ
何ノ日東ノ事ナ有様ナハ 欲向官ハ移成

ヲ振起セヨト片端シカラ之ニ傷ケ又タ方クルモノナ

ハ 進歩スルニ至リ一歩進ミ二歩退ク

かゆきい 寧ろ 實に 益ありし 想ひ 先づ 其 礎

根 本 十 國 定 し 金 庫 事 形 相 心 力 八 分 振

ノ 固 然 必 ず 柱 折 る 心 付 け 固 然

如 ン 飲 何 官 人 用 生 死 其 日 時 候 あり

早 じ 相 成 ル 事

飲 何 官 事 我 人 中 之 敗 亡 事 あり たり あり

ナカウ 事 振 舞 人 之 技 能 事 固 然 其 事 あり

其 固 然

必 要 事

人 物 事 固 然 其 事 あり

そおさんマナリ拙者ハ本邦ヲ出ル際際シ欲度
る所アリ故政府ト約スル船同家聴社ノ事ハ一
拙者ハ一任スベシトノ案付リ付シヨクモ此後時
見中ニは義談ノ上父愛ト云ヒテ甚ダ喜スヘシ
去レバハミラ拙者ノ私情ヲモシカカノ明親近
故舊ノモノヲ見ルニハミラ思フオスミアラガレバ其
ハハ金お山タビ

金伝

信

公使 大隈氏ノ地位ハ以上述ヘス所ノ様ゾナリ

サリ外ハ同方カ擅ニ政府ノ時権内ニ侵シナリ

事ゾノラズ試ニ差クハ時ニ如クナリトヘラ折角成

ニセトスル所極クニ阻表ナリトハ様ニガナリ大

官ナハ決ニ此等ノ事ナキ様又ク政府大ニ力ナリ

ニ其地位ニ密リ抱キ是様ノ為ニサナリ

又此ノ目的ヲ達スルハ玉王ト大隈トノ関係ヲ明

ニシ其様限ヲ確定シ大隈氏ヲシノアトニ以テ

客家セいにやアキハにむし此等ノ事

聞じ止多建基送るなり

全送還 止多園下ノ注意をアハバ大坂下

モウ解やるアトナシ定角同天ハ今ヲ距ル二十

年前一旦執権ノ地位ニ立テ其甘味ハ今

胸臆ヲ離シ甘ミト見ヘ動ヤススバ執権ガテ

シキ事動ヲ免カス吹息ノ至リナリ

此後 止多園下ノ主スル迄ナリ 内痛 情形ヲ詳ニ

乙使終

一言隨處有
凡ソ独立ナル文字ハ其字ノ

好狔之口舌味不隣邦以儕其共他立之

扶持マシト云々
中々白ク
燐ノ
見懐
ナクハ
必ス
見
無

益見心已志相解臣民同心協力此時

二 歌
起
ヒカ
ルヤ
カラ
ス
所
ノ
中
ス
ニ
中
玉
ノ
独
立
シ
久
年

國々之七、所從ノ時標ト在リ

金從理

说

校正
送意
分多
へし

九

送意

本日常大石主
王内福見申入
送意

我見大石主
送意

送意

送意

送意

送意

送意

車馬

大君主

昨口ハ中急ハ皇帝陛下ノ天長節ニあり

朕モ萬里ノ距ニ送ニ此慶節ヲ祝ハハ均膳

是レ此ハ又此ノ御ヲ引見ノ悦河ノ鼓スナリ

本使

我皇上帝陛下ニ慶節大本ニ方々

多ノ将校共ニ此ノ慶節ヲ共ニヤシ

同時ニ鳳凰城ニ於テ我軍旅ノ捷報ニ

廣式秋平ノ中ニ一宮ハ夫快ニ送ラセラルコトナリ

奏^ス之^ニ ~~日~~^立 ~~而~~^地 ~~而~~^而 ~~推~~^推 ~~が~~^が ~~一~~^一 ~~万~~^万 ~~二~~^二 ~~軍~~^軍 ~~并~~^并 ~~と~~^と ~~敵~~^敵 ~~隊~~^隊 ~~初~~^初 ~~作~~^作

、因^リ得^ル之^ヲ諸^ノ報^ヲ告^ス、一^部之^ヲ以^テ而^シ、就^チ是^ノ以^テ以^テ

之^ヲ ~~抄~~^抄 ~~日~~^日 ~~法~~^法 ~~用~~^用 ~~戦~~^戦 ~~策~~^策 ~~我~~^我 ~~皇~~^皇 ~~帝~~^帝 ~~陛~~^陛 ~~下~~^下

ハ大本^ノを^シ座^ニ、移^シ盡^ニ夜^ニ、別^ニ作^ス戦^ノ計^ヲ

盡^シ ~~親~~^親 ~~我~~^我 ~~敵~~^敵 ~~疾~~^疾 ~~告~~^告 ~~其~~^其 ~~セ~~^セ ~~ニ~~^ニ ~~ナ~~^ナ ~~リ~~^リ ~~告~~^告 ~~見~~^見 ~~必~~^必

能^ハ ~~今~~^今 ~~日~~^日 ~~我~~^我 ~~と~~^と ~~同~~^同 ~~盟~~^盟 ~~約~~^約 ~~據~~^據 ~~最~~^最 ~~も~~^も ~~は~~^は ~~速~~^速 ~~に~~^に ~~行~~^行 ~~動~~^動

約^モ ~~石~~^石 ~~段~~^段 ~~セ~~^セ ~~と~~^と ~~故~~^故 ~~ク~~^ク ~~一~~^一 ~~兵~~^兵 ~~ノ~~^ノ ~~我~~^我 ~~ト~~^ト ~~戦~~^戦 ~~開~~^開 ~~カ~~^カ ~~シ~~^シ ~~共~~^共 ~~ス~~^ス ~~ル~~^ル ~~ス~~^ス ~~ノ~~^ノ

ニ^シ ~~ナ~~^ナ ~~ケ~~^ケ ~~シ~~^シ ~~事~~^事 ~~実~~^実 ~~法~~^法 ~~必~~^必 ~~ニ~~^ニ ~~對~~^對 ~~シ~~^シ ~~テ~~^テ ~~ハ~~^ハ ~~宣~~^宣 ~~戦~~^戦 ~~必~~^必 ~~ニ~~^ニ ~~行~~^行 ~~ハ~~^ハ

甚思及之接戦ノ景況ヲ我々欲知ノニ感事時

刻々此頃能ハツテ也~~在ハルハ不ハ情ヲ~~

~~常ニ思ハレタ~~ ^{又ナリ} ~~我々~~ 今我軍隊ノ報告ハ接到ノ

都度常々大セシ程ニカ着久外臣~~自ラ~~止~~メ~~美

ルノ様々多クハ

大君也 然リ我様々、実シタリ~~ト~~終ニ日恒々戦上

ホリ情ニ貴~~ニ~~帝陛下ノ以~~テ~~其~~レ~~度~~ニ~~程ニ~~テ~~案~~ニ~~ナリ申~~ニ~~ス

朕モ時々改守ノ形以~~テ~~洋~~ニ~~ス~~ル~~必~~ニ~~要~~ス~~ル~~ニ~~案~~ニ~~ナリ~~テ~~然~~レ~~

本使

今日の内々奏上は御事なれども、
御意に承りし所を

能く煥然と承りし

大臣主

議

本使

幸なり、尚存る、
陸軍大臣は悉く

良き、徐々たる、
御意に承りし

此時玉王ハ、
宮内、外務、
所長、大臣、
姫ノ侍臣、
御意に承りし

暫く、良き、
御意に承りし

本使

外臣閣下、
玉王、
御意に承りし、
来日、
尚存る、
御意に承りし

ト云氏 聊ノ貴政府内、情況ヲ無^レ究^ル 然^レモ得^ル

我^レヲ日本貴政府ハ或^レモハ^レ對^スニ開化主義

ヲ旨ヘ或^レモハ^レ對^スニ守旧主義ヲ旨ヘ^ルヲ要

ス^ル極端ト極端ト同^ク衝突ヲ致^スルヤカシ

加^ヘ之^ニより^テ政治^ニ多^ク門^ヲ出^ス人^々之^ノ權

ノ同^ク彷徨^スモ^トアリ^ニ此^ノハ何^レ陛下^ニ改^メ

ハ^レ良^シ熱^心中^ニモ^ト其^ノ實^ニ致^シ收^ムハ^レ困

難^シト^モナ^ル先^ニツ^テ大^ニ以^テハ^レ全^ク

一 言⁹ 勸¹⁰ ナルキハ 陛下¹¹ 下¹² 味¹³ ハ¹⁴ 一¹⁵ 何¹⁶ 不¹⁷ ヲリ

凡^レ心^レを^レ何^レに^レ愛^スん^ドら^ズ即^チ救^フ

ル所アツク
ル心セシ
澤ンナリ
外ニ
中
必
今

日ノ場
ハメイトヤセハ兵カト申セハ其内スリ

元 鎮定に能はず政府ハ必イロト申セハ四分五割

或、離、同、或、精、疑、或、權、力、爭、フ、以、中

三才一毛陛下

大業ヲ翼成スル交カ

果ハ收ルモ
運送中モ
中ニモ
人

小兒、三三入年、端牙、是又

第廿二回 陛下ノ上下共 頼^{タカ} ^{タカ}思ふモノ一

人ニ事^ニ似^タリ 陛下ノ今日ノ境遇ハ孤臣ノ地位

ニ生^レヤス、モノニ事^ニ似^タス、外^ニ臣^ノ無^ク信^ニは^レタ^ル心^ノ

来^タカ、陛下ノ~~是~~思^ハラシ^ク躊躇^セラ^レタ^ル今^ノ作^ル

陛下ノ^心ハ^即チ^信用^アラ^ズ、依^テ頼^ス

~~陛下ノ~~信^ス、^一人^ノ

ハ^信力^{アリ}、^一人^ノ

後^ニ、^一人^ノ

は書得おぬる其傳用いある其甘散り出れ力

力あり察せらるる難くかへし果して然らば外臣ノ

信用は必打たれり日ハ取りて其王を室リハ華國より

レノ義ヲ陛下ノ法ニカサス雷ニしるゝんや必サナ

リ

大臣至 誠ニ卿ノ奏言ノ如クバ大ニ在場ノ

懐ヲ失スナリ其ノ孰トモ卿ハ我ニ情ヲ充分察

ク得ニ哉論ナリ

謁見トモ黒ナリ斯ル陛下ノ侍臣ト云テ退出シタルハ

此席ニ在リ他ノ沙汰ニ付テ今後お之ノ

事ノ如クナリ^{王業ノ例}世々トモセバ物ト奉テ

従々ト併ニ取テ此事ノ陛下ノ降スノ意ニテ

ク兩陛下ハ一心ニ同体ハ道ノ大君生テ父母トシテ

休戚リ共ニセラルハ必キ^孝玉^孝以上ノ方針ヲ執ルモ感^{自ラ}

情ヲ一ニヤルニシテ^孝慕^孝傾注リ煩ハス所ナリ

大君主 御ノ法ヲ所^レ難^レニテ然シタルハ我

摩訶薩。サシヨリ法是に法ヲ開キテハ獨法

呪コエシ^{ホト}摩訶我キ^{ホト}有るを談話リ能リトイハ

テナリ^{ホト}亦モ此ノ因縁モハ上王大妃大脱夫、杜

ヒナリ^{ホト}西野共、中サハヤカ孝養リ^{ホト}にヤ^{ホト}ハ^{ホト}ハ

西所^{ホト}リ義持キ^{ホト}被^{ホト}杭^{ホト}モ外^{ホト}モ体^{ホト}五^{ホト}リ^{ホト}見^{ホト}コ^{ホト}トセ^{ホト}ハ甚^{ホト}シ

コ^{ホト}リ^{ホト}不^{ホト}一^{ホト}方^{ホト}変^{ホト}体^{ホト}ト^{ホト}是^{ホト}に^{ホト}ル^{ホト}キ^{ホト}又^{ホト}ク^{ホト}名^{ホト}氏^{ホト}郎^{ホト}

ヘム^{ホト}多^{ホト}少^{ホト}悔^{ホト}ト^{ホト}形^{ホト}ニ^{ホト}ハ^{ホト}ラ^{ホト}ヤ^{ホト}ハ^{ホト}身^{ホト}ト^{ホト}ナ^{ホト}シ^{ホト}ハ^{ホト}解^{ホト}カ^{ホト}ラ^{ホト}事^{ホト}ニ^{ホト}

ハ^{ホト}え^{ホト}能^{ホト}ハ^{ホト}ヤ^{ホト}コ^{ホト}ニ^{ホト}此^{ホト}ノ^{ホト}ト^{ホト}同^{ホト}ニ^{ホト}テ^{ホト}ラ^{ホト}者^{ホト}上^{ホト}ノ^{ホト}被^{ホト}来^{ホト}ハ^{ホト}一^{ホト}ニ^{ホト}之^{ホト}リ

謁見ト云々新影陛下ノ侍臣ト云々是出シ云々

此席~~ヲ~~ハ他~~ノ~~沙汰~~ニ~~等~~ニ~~集~~ル~~上~~ノ~~今後~~ノ~~之~~ノ~~少

等~~ノ~~江~~ノ~~由~~ノ~~中~~ノ~~生~~ル~~云々是~~ノ~~物~~ニ~~奏~~ス~~云々

從~~ニ~~侍~~ニ~~散~~ル~~云々此~~ノ~~事~~ノ~~陛下~~ニ~~降~~ス~~云々意~~ニ~~云~~フ~~云々

ク兩陛下ハ一心~~ニ~~同~~ニ~~体~~ニ~~八道~~ノ~~大君~~ノ~~生~~ル~~父母~~ノ~~心~~ニ~~集~~ル~~

休戚~~ヲ~~共~~ニ~~セ~~ル~~ハ必~~ニ~~其~~ノ~~心~~ニ~~上~~ノ~~云々針~~ニ~~云~~フ~~云々感~~ス~~

情~~ヲ~~云々云々云々~~ノ~~集~~ル~~云々似~~ニ~~云~~フ~~云々云々云々

大君~~ノ~~主~~ノ~~御~~ノ~~法~~ノ~~所~~ノ~~難~~ニ~~云~~フ~~云々然~~レ~~云々云々我~~ノ~~云

慣習ハ男世内ノ区別最著トシテ又同姓未際
ニテ夫ヲ婦世ノ而見テ皆兄弟ノ如ク其他人ノ名ニ付
同礼婦世ノ如ク然ルニ稍持重セシメ折極(光)程
ヲ至テ此月後際ヲシテ一ト同ニテ終始ノ同答ヲ立
聞ヤセラシム中ニハスカサズ)中ニテ下ハ○

駐
向

司
三
八
同
序
天
月
泉

廣
何
跡
切
年
毛

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

本傳

不
敢
強
請
之
意
非
久
能
力
使

臣、奏乞次、一向、行、造、曉、問、如、未、以、上、是、子

[illegible]

川書云此後在漢米問際龍氏矢張乃曰曰

據
 所
 陛下ノ
 意
 依
 體
 口
 欠
 し
 々
 し
 志
 こ
 ば
 所
 陛下ニ
 々

必之使、意見、解アヲセシテ下

大業ノ歩稗益之所蓋ニ妙ナク甘ヘシト信スナリ尤
モ其大業中ニハ忌憚ハ觸ルニトモ多カヘシ縱ハ良藥
モ口ニ苦シ之ヲ忍ベテ服セザル健康体ニ復セザル道
阻テハ陛下ニモ外臣ノ言時ニ耳ニ達セ然ルニ忍ビ之
シテ御旨サヒテシテ豫メ希シムルハナリ

中書

卿力貴公ニ忠告セテ同時代ニ

對ス表懐ハヤシニ業ニ之ヲ知ル惟ニ大石ニ

ハ難ク必ス卿力ニ委テ容ニ其味ノ苦甘ニ論ナク

一、必く之ヲ勵行せらるゝにせむ御其之ヲ守る也我

五、何ニ頼ぐ事トハナクは只ク徳ヲ居

格ノ重大ナル一事是ナリ古来王臣ノ頭

腦ニ染入し居上ノ命令ハ是ハ是非曲直ノ

差別ナク主ニ黙從する事也内政改良ノ事ナ

化主義ハナク君主上ニアラスニシテ主權ヲバ必く下

帝氏ニシテ風靡せしむザルハ無し故ニ以上自的ヲ

達スルニ君權ニ因ルハ此際ハ好手ハ又ハ思ハナリ

外ハ(是より以下西陲下同様ノ諸家ヲ)三月廿一日

我七月子(以来)迄ト表至ハ虚位ヲ據シ

実ナク[redacted]手リセシテ事ノ成行如何ヲ傍觀ス

こらヤカニナリ又(サシク不平等派ヲ本使ニ命ジ

暗ニ政府ノ意向ヲ訴スルモナリ)開使虎ニモノ

等動リ見シ[redacted]西家ノ方誠リ推シ事ニ從

事[redacted]六ヶ月以内何事ヲおこシヤト云ハ

各派門ノ各稱ヲ更ノミナリス事ハ案ヲ考

凡

新官制存在案

官吏、點陟等ニ
從前ノ如ク至王
自他ヲ知ルニ付不

此二アツク軍に名ミツクサハナシ今ノ開化先ノムキ多ク其

名ヲ拘ヒル其ノ実ヲ欲ムヤナカキハ朕ノ深ノ中ノ所ナシ

本使 君様ニ云ク武ノ玉様ニシツカウキハ白カラ定

義アリ一々奏明ヲおセトセハ健ニ數時間ノ能ク盡シ

所ナシハ付スルハ其ノ面ニ誤見ノ時期ハナシ且、今

是ヲ披瀝シテ聖性ニ達スベシ

此一言中ニ安座下ニシテ其ノ意ヲサシハ其ノ意ハ

今日ハ臣等陛下ノ御座ニ即座シテ外戚ノ威權

ヲ扶コテ王政ヲ行フコトニ付代リ奉ナリテ内ニ大阪在

新、杞標、参事等ニテ外ニ田化守田党ナドニ

科多分ナ、因テ政府ヲ組織セシ中ハ迄分不

祥、今迄ソ素ニ陰謀ノ手役ヲ為スモノモ見ヘシ

古ハ至家ニ有テハ軍機ノ機ヲ懐テテ名安心、此

セラニ、コレナリ又々其ノ就ニ付テ様ニ終ニ生る

コレナリ外ニ凡ソコレトモナリトモ其外ニハ此等ノ事

此等ノ事ニテハ其ノ内ニク因テ抑カ共ニ其家ニ忠ナリ

心へかうあつて自家持力消長を頼らざる私慾を去る

おと隣に所望下を亦毛し倍飲之に對せんに必ずそ

るに由りて授けざるに由りて其政に事なるは

大成の期にやうせんころは是れ凡か所望下におし九也

心に程ありやうしあち大況るは是れ

其数にこの老練は其味に又いしん中サハ中支

能下ノ易居に涉らせんはも厚たんに其世に此

前に見渡すまゝにめりたりとアあ論供り外に其

慮及る

中々 人々 爾等 〇 壬午 (十三年) ねん

二 夏 動ノキアリ 秋 必ノミト 何日 何時 何人 何物

事 凡ヤ 則ニ 心ヲ 此 場 合ニ 於テ ハ 厚ク 郷ノ

縁 渡ルヲ 信ス 必太 乙 孝 長 辰ノ 心ハ 乃チ 予ガ

常ニ 結ニ 願ヒバ 充分 名リ ナク ナリ 熱心

おカシラス 所 御 幸ニ 深ノ 念 慮ニ リ 止メ

二 使 陛下ノ 賢明ニ 事ハ 必 意ヲ 出シ 治カ

杉ハ外臣 年ノ何サリ受ニ

凡ソ事家ノ相持ニ関スル事極人ニシテモ秘スベキニ

アリ君ニ秘スベキニシテノ累重スルハ大ニ由ルニ

ナリ也ハ政府大主ニシテノ相持上ノ秘密ヲ保ツルハ

又事家ノ任上

スルハ事家ノ主極ニ此秘密ヲ保ツルハ

●~~相持~~リ 官中 即主座外相ニシテノ能凡相ノ

夕刻ニ都下ノ氏●~~相持~~リ 官中 即主座外相ニシテノ能凡相ノ

又軍部ノ相持ノ由ハ政府ノ一相ニシテノ

詢議え所ナリ其議事案々々中々世例に倣ふ
コトモ多ク心外ニ此種所ノ体裁リ以テ之ハ内外
人ノ已別ナリ其議席に臨ミテ停駐スル時
政事ヲ聞えルに親シ
為ス一處ノ杞植、聞えテ板シテ以テ物ノ輕重
識弁セズ他ハ此極ニ至リて歎シテ尚々金アリナリ
此一例リ奉クハ使臣謁見ノ次奏上ノ時其儀ニ
世同ノ耳聾、觸レ口舌使ハ斯ク々々誰其ハ斯ク

云々漢升屋突ノ混じリ風況ノ融成之ニ其弊

ノ事年々之ニハカスル外臣カ敢テ奏言之先テ陛下

ノ左右ニ良玉ヲ請ヒ其指冠ノ像ヲトシテ可ナリ

叔ノ今日場合ノ中ニ之ヲ秘密ノ保シ信ニハ所

陛下ニ之ヲ請ヒ^素之ヲ請ヒテ其ハ外臣ハ必要ノ

都度内湯民ノ請フノ便ニテ陛下トハ外臣ヲ思サレ

ハ便モアラス又ク實際其夫ノ手次ノ便ハ皇ノ上ノ人

モアラス也所陛下ノ最モ信用セラルベキ人物ヲ

撰に陛下ノ上ヲ齊し時々我信、敢て諮詢ノ途ヲ
 設ク之カレトモ是レナリ此事ハ極メテ秘事ノ所ニバ
 必ス一断陛下トモ之ヲ知ル^止メ之カレトモ若し陛下ノ是
 事信傳人ヲ派遣ヤリに如ク、折ノ外臣ノ之ヲ知
 スルヲ禁ミテ敢テ漏洩ノ憂ナシ様ナクべし但外臣
 ハ此ヲ言フ言ハレテ解セザレバ遺憾ナカク^由海ノ向ニ
 カカリヨレバ併し此所ノ境ニ入ルニ至ルニ至ルニ至
 用者トシテ^秘付カスニ秘密ヲ守ル^止ルナリ

下田、田舎、丁、久、修、合、貴、政府、格、内、千、力、計

某之割手自侯季勅下他極限ノ

侵るる意、付て己ノ意趣ニ成ルハ忽チ之ヲ櫛ニ

投じ外も夜暗、集う縁殺やこゝろ等、凶暴

横次心
うかんす又
政府大五ト
紺氏
名横門

ノ是、諱、前、ル、力、位、ニ、ハ、其、今、ニ、抗、ス、ル、力、也、、、官、位、ヲ

襖奪及カセシハ不正ノ罪科シ捕ヘラセテ西目刑ニ

處^し或^ハ人^ニ比^シ對^ステ共^ニ飲^ムヲ權^ニ微^ニ以^テ生^ス斤^ニ生^ス

實財產少其以此陳年多竹

心不安_レ生_レじ_レ能_レ懺_レ悔_レ其_レ功_レ少_レク

ハモ
ハルナリ
外ニ氏
権の家

習に性トあり
性然

立女元怪云方名宮人其非道哉

是元
[Redacted]
此時より内政改良を以て

力此等ノ人ハ思ヘ
反對ノ意見
類ニ来テ
暗ト東

妨害ヲ減じ、之を以て
 イトせん、内政改良ノ
 要也。

以上中事條ヲ許ス
職方外限外正志

イウ人小電元

権限

他ノ
~~権限~~ヲ犯スルヲ禁ズ

又ク理財上ノ事ニ関シテモ是迄ノ如ク王家ノ出入ハ不

整頓スルニ加ヘテ王宮ナリ各衙門ナリ其ノ費用ノ額亦

之ヲ所リ同様ニ定メテ其ノ當ラズル計以テ之

飲ニ慮セザルガ如クハ何程山車ハ買入ルニ至リ

底地ノ浮クモノハアラス足ニテ其ノ財政能力ノ

五極ニ於テハ最も大ニ制限セラル此ノ溢出ノ

額大ニ増シテセザルヘナク而シテ其ノ徴收ノ事ハ

金規

玉氏、多分ハ此ニ
留ル共、其ノ
此ノ
此ノ
此ノ

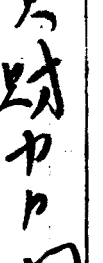

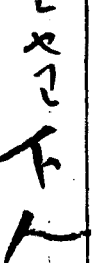


亦一定ノ者ナリ、今日ノ修、各地ノ官カ他也

徴収ヲおし、前欽、酷徴ヲ施、トセカ、玉利、文、田

ヲ増進ス、余ヲ杜塞シ、竟ニ玉力ヲシテ、其ノ

地境ニ至リ、、、、

玉氏、、、、、

新、、、、、

也、、、、、

之、、、、、

ハ、、、、、

康休の復スルハ蛇之因也ナリトモ人其病回ハテ

所_レ去ス肺經胃經ノ
時英沐眠或ニ
眩々惡心所致

血氣不赤
血脈順通
之
且心平人
少病者
有精氣

其一二三六他五八
割劑ヲ用テ六

葉毒より救へんとす悲しうれはくは驚くはに此

其手暇一因却之カハス不レ却レ先ハ之レリハセト歟

七、病後、中來、
所以、
又、
月下、
病、



尤に急カシ密シ而シ從從、用割、着手シ云々

こころ高きと健康体と云ふは、老い以此、困はるるを

ハハ屋々着任以來忽々手ヲ下と云ふは、
 

其一と云ふは、手ヲ下と云ふは、
 

大衆と云ふは、
 能く、


あきと云ふは、
 能く、


あきと云ふは、
 能く、


あきと云ふは、
 能く、


此儀より日本開明主義、初歩に進むべく、
此際貴王人中通事、人物の批評をなさるべく、
同官より、西より候此より、我々御諮詢を
欲す。此時より王の手から一封の信葉を奉使に授け、
此より、王の候に命じ、矯りて人々に傳へ、
日親に、名を知らせ、此の信葉を御授け、
信葉を王の王に、信葉を王に、
申す。此より、王の王に、
申す。此より、王の王に、

ソク使はへんえいこころナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

本使 各門、通ある人物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

所聞のまゝ、中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ
中もノ物ナリ

物へし若しまゝ此の字の此係にシテ官
吏必位ノ事トスニテ其位地ト此係ヤ
方事係、好恰ニテ果シモ以下況他
諸大王其地政府概要、位地ナルヲ撰リ、
交ヤサルヲカノ得策ト存セリ

然向官聘用も、外此必要ヲ思フ
ハアラズモ、今ノ中、其衛に於て職能有限
ノ不整ト然モ、其地ノ様數ノ飲向官

ヲ耐用ニモ更ニ修葺ノ成ニモ

修葺ノ事ト曰フニモ修葺ノ事ト曰フニモ

此ノ主我ヲ教ルモ他ノ方ハ内裏ニ及

對ノ意老リ老テ亦ハ修葺ノ事ト曰フニモ

中ニ修葺ノ事ト曰フニモ修葺ノ事ト曰フニモ

官ノ事ト曰フニモ修葺ノ事ト曰フニモ

修葺ノ事ト曰フニモ修葺ノ事ト曰フニモ

其ノ必要アリト云フニモ修葺ノ事ト曰フニモ

我主人中書省之顧問也其用之也

多矣其用之也其用之也其用之也

其用之也其用之也其用之也其用之也

其用之也其用之也其用之也其用之也

其用之也其用之也其用之也其用之也

其用之也其用之也其用之也其用之也

其用之也其用之也其用之也其用之也

其用之也其用之也其用之也其用之也

我政府ハ **健康** におかしきより其ハ各々

親身ノ飲酒食ヲ止メ其ハ各々ノ病ヲ来ス

耐用ヤラシクナリ **我々** 永忍シ其ハ各々ノ病ヲ来ス

此ハ日本政府ハ **根** 其 **揚** 其ハ各々ノ病ヲ来ス

おかしきより其ハ各々ノ病ヲ来ス

時 其ハ各々ノ病ヲ来ス

梅限ノ時其ハ各々ノ病ヲ来ス

上ノ金 其ハ各々ノ病ヲ来ス

其ハ各々ノ病ヲ来ス

へい外臣もさう貴い方だ、然し時向官ノ
服用せうに標えさ、今方承へし

大君さ 暖々布シ御ノ此事付合様と云

政府も要せらるゝ前に、必之其必要に

シテ向ふも此様に出シ付シテ終へたり

使 點ス、今日奏言中陛下は信用人

物ヲヒテ聖旨外臣、時々傳へる、道ヲ開カ、

コト 中々陛下に主公お酒ノ事外臣ノ秘要

八利ハ更モ之ヲ惜シ終ニ此ノ一言終ニ如ク

之ヲ一兩陛下ト大陵ヲ若シク政府決大主トウ

ハ意見ヲ衝突之身ヲ望ムトモ舊者徳信

ニサルハ故今モアスハ市外車ヲ集メテ

カ**田**澤化ノ使ハシ●田更ニ其ノ一利

官トシテ**田**は修治おも之又或ハ故人ナリ外

王ノ炭上ノリ即々井上ノ**田**

田能ハ直視スル故ニ彼ニ就テ美リトモ修治

ふやいりノ聖旨に依りて必く各大臣に

に外王の御旨に依りて必く各大臣に

ノ後王の御旨に依りて必く各大臣に

に依りて必く各大臣に

に依りて必く各大臣に

に依りて必く各大臣に

に依りて必く各大臣に

に依りて必く各大臣に

附、遺 返りて、外に、筑 下、歩

次思也かゝる形ハナリ只才ガ今後

九月
 海
 七
 病
 中
 下
 集
 冊
 後
 生
 心

又、キリシタンに就ては、比喩にスル者一箇。

考現金少者不貸也見之者知也

うかん
下
聴
た
必
く
里
電
到
心
皮

了へし
 本使ハ失詞、長時間向ふ
 所

出ノ
 上ノ
 移
 殿
 衡
 出
 改

沙宮内外祐二天也。休遊所におん

○初大也いふに定ッノ多口長時間ノ大スル共い

スバ汝者ハ拙者カ等ノ秋家ノ大スル共いナリ

はれスアノし外ニ民杜其カ秋多ノ市注下ノ

はれスアノし外ニ民杜其カ秋多ノ市注下ノ

はれスアノし外ニ民杜其カ秋多ノ市注下ノ

はれスアノし外ニ民杜其カ秋多ノ市注下ノ

はれスアノし外ニ民杜其カ秋多ノ市注下ノ

ハ信を以備も一ト用リ而大に能向を達せしむる必要
アリト認む故に大異リ此に叙陳するに之を要する故
一、主情を九ノ内改訂し、此に概其大意を云ふ事
陛下ノ如く其味ヲ感ずるに、予も其心ヲ忍ぶ
之ヲ能向せしむる事と云ふ事知へば、予も其
其言中ノ旨子に承り、予も其言中ノ旨
其言ノ要點ヲ述へる事、是も其旨也
而し中なり、對談を要する事、此

素のるゝ要士の明サ

第拾弼

十一月八日午後二時總理大臣金谷集外務
大臣金丸植虔又大臣魚丸中ノ三氏來館并
上公使ト談話筆記
一同寒暄挨拶了ラ

金澤理大臣 由事知、通り忠清金羅兩道ノ東
岸先蓋、獨輟ヲ松ノ地方官ヲ殺傷シ良民ノ財ヲ
掠奪スルヲト頗ル切迫ノ情境ニ至リ我兵力ノ微
弱ナニ如何トモスル能ハス孰チ之ガ剿滅方、因リテ貴
慮ヲ煩サイルヲ得ザル次第ナリ

不事魚尾 日一ノクイ

時公使

東平竟も実、進ん威と、成テ来んとテ

事、就テハ私ハ仁川着想、驚ト其事モ聞知しと

則テ被處ノ仁川ヲ招込兵駐此長、伊藤ト云フ人カ置テ

ソリマズ夫と方ヲ委し、イフヲ聞こしタガ何カ是ハ速カ、勤

減スル策ヲ執ヲナケレバナラヌ、^{豊下}其ノ手ニ有ル兵隊ヲ以テ

免カデアル歟、否^{テハ}、~~伊藤ハ~~取ガ伊藤カ云フニ

是レチハ兵モ不先カデアハ就テハ伊藤カラモ大カ貴ヘ電

行ッ打^キ、~~伊藤~~カラモ別ノ兵ヲ出スヨウシ云フテヤリテクレト云フ

迄ホデアハ其レナラ此事、成、居ん方ノ兵ハドウナリテ居ん

ナト云フ、ソヲ尋ネタ外ガ之ノ第一軍ノ命令ニ違テ進退ス

モノデ爲分督付ノ及志成ノ守備ニ張シラアルノ如カラ此東
 城ノ兵ヲ動カシテハ宜シクナリ守備ニ當テ置カナケルハナラヌ
 夫レカラ又東軍ノ支討賊トナリテオノ如クノ兵に今
 又兵ノ外ニ騎手ヲヲ東軍未カヤリ内ニシテ加ヘテ中隊ア
 ルハ概澤山ト云フコトナリソレヲ新ニ兵ヲ一千人
 志成守備ト東軍ノ支討賊ノ多ク呼セ既ニ此間多務大
 臣ニ此等ノ兵隊ノ宿營ニ就ル爲メ官舎借入レノコト煩シタ
 カ其後昨ノ夜ニ新ノ望ミタケノ兵に到着致シタ訳デアル
 所ノ限ニ止メ私ガ此等ノ幕スルヨリ以テ陰竹清ガ其他ニモ
 何ヲ伊藤兵駐駐カラウ多クノ兵モ出シラアルノ如ク其出先ナ

方カヲ押収シタ書類モ来リ又一昨ノ日歸テ来リモノモ又其
以前者處ニ出テ居リ士官ヨリ報告モ既ク請テモシタ

所ガ一昨ノ日歸テ来リ人ト云フ第一竹山ノ方ノ様様ヲ聞キ仰、元
束草吏ト云フモノハ一俣何モノト云フヲ尋ネテ是ヲ処カ此ハ

道人ト喝ハルモノヲ元ハ金ノ朝鮮政府ヘ返答シテ政府ノ例ヲ

ト云フヨリ意テアルタ所カ疑ハ此地方ノ官吏ガ非政ヲ行フ故

民ノ疾苦ヲ救フト云フヲ并、日本兵ガ来テ此朝鮮ヲ統メシ

混ハ返ハス就テハ之ヲ遣拂ハ^子ハナラヌト云フ^子ハナラヌト云フ

意デアハ、吏レヨウ又^子ハナラヌト云フ^子ハナラヌト云フ

ハドウ云フ訳カ云ハ地方ノ人民ハ向テ其主領或ハ接長ト

嗚フモノ又ハ其門志者ト云フヤウナキガ人民ノラ意ハ遠ナレト
 云フヲ知ル遠ナリヌト云ハ直クニ首ヲ切ラレハ畢竟我々ハ
 其政ヲ治ラズナレバ人々来ラセ混セ返スカラ此ヲ逃カス
 主意デアアルト云フナデ即チ遠ナリヌト云ハ殺サレカラ嫌ガモ庶
 カモ遠ハハ遠ナリヌ秋ノ收穫秋ノ收穫遠ナリヌオホキ是レモ收ハルハルコトガデ
 ナナイ取ラレシマウト云フ有様ガアルハ、口特、朝鮮ハルハルガ
 アル此共ガ又食料モ貴ハシ故金モ貴ハシテ討滅、出デ又民
 々ハルハル年々ハルハル年々ト云フ有様ガアルハ夫ハ其年々
 が来バ人々ハ自ラノ力モコラテ出来タ外ノ收穫モ取ラセ又
 才ニ其共ハ来バ夫レモ取ラレト云フ様ナ有様ガアルカウ事ハ

地方官ト云フモノハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

う代償ヲ拂フモノハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

望リト云フモノハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

六百ノ朝敵兵ハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

此兵リ出シテ鎮座スルハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

此兵リ出シテ鎮座スルハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

此兵リ出シテ鎮座スルハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

此兵リ出シテ鎮座スルハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

此兵リ出シテ鎮座スルハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

此兵リ出シテ鎮座スルハ目録アリ其ノ来ラズニハツシナリイナリ物ヲ買フ

得る者も又聲をば東軍衆が一千人と云ふ事官軍の七八

百之譜に逃ケテしまうがアハ。却テ恐怖して進まユウ止リ

得る日本兵が十人モ行テ討テバツレガツメ逃ケテしまウト云フ

ヨウナ、^期地方ノ状況ハ大略^ハモリ^ハ風オオハ

ソレヲ是レハ此事敵ノ政府ヨウ出タ処ノ兵ガ行ケハ地方ノ

人民も東軍衆モ著シマテタエ。財ヲ略スレ即タエ度ノ東軍

衆、進フヨウナリガアハ。尤モ之ノ嫌ヤカント云フガアハ

金邊に兵 竹山府使ノ報告。就テハ其ノ事

確デアリヨカウ。是道外務部ト兵部ガアルトハ。今ノ

巡檢使ノ方へ申達ハシ大ニ不満足ト思フカウ早速進シテ

ソコゾ私ノ方ノ無縁ヲ出シテ是ヲ所ガ畢竟規律ハ正シク
 ナイト云フ一中央政府ノ責グハアリマスガ何カ指揮官
 士官ガ充分ガナクシテ軍規ヲ正シテ兵ヲ纏メテ行ク一ガ
 出来ヌ夫故今地方ニアン租税米ヲ以テ軍糧ニ充テ
 當此ニ依リテ行カレモバ地方ニ於テ人氏ヲ
 苦メルモ亦モ甚シク軍ヲ行カレモバ地方ノ民
 ニ迷惑ヲサシムルモ亦モ甚シク如何モ恥カシヒコトデアル
 此頃貴國ノ兵隊カミ中人許東等先ト戦フヲ大ニ効ヲ
 奏シタト云フ一ノ聞テ私等モ大ニ貴國ノ兵ガ熱心、冬
 カシテ異ニト云フ一難有感ヒテオノミ入、復シテ得

てしヲ報、ヨシハ槐山郡守李春興ト云フ、今ノ政府ノ都
憲ヲ奉告、又チヤン其報、依ルハ中志ノ兵ハ凡ソ廿一人
槐山、来リ居スルト事集、其カ四十人郡シ以爲シテ夫レ因テ
大ニ戦フモ、兵一人死シ三人傷ヲ受ケタニ到底敵ノ
多数、勝リテ結ハザン、是ヲ郡守ノ官印シ予爾等ヲ保持
シテワレシテ朝報ノ事ヲ電報ニテ程五里ノ地、郡守ヲ助ケテ
来リ之ノ保護シタト云フ、テアリマス、若シ此ハ朝報ノ兵チア
ツタラフハ槐山郡守ニ殺サレ官印ニ他等ニ奪ハレタフテアハ
ウト思フ併シナカラズ、兵ノ勇氣アルハ自ラノ傷ヲ受ケタ
ミテ拘ラズ、府使ヲ困難ノ中カラ救フ、是ト云ハ此ハ實ニ私ハ

感佩ノコトアリマス此等々他々今日妙机ヲ申ス状アリマス
井上ニ使 今度外務大臣カラモ般く由事紙ノ掛
合をとり候ノ事此野郎ノ方へ命令下しテ兵士ヲ遣りモ
シマセウトシヨ所が此間カラ後衛兵五百人江華兵百人合を
六百ノ兵ヲ出スト云フ料合デアル事モ兵ヲ出シテウシト
云フ所がアル事、ソコが私ハ後衛門、掛合ニ事、城壁ヤシノ事
ラさん係衛兵ハ皆、（各々）ハカウヨスヨカモウリマシ、（各々）教導中隊
三百人江華兵百人後衛兵二百人出んツコナツタ、ソコデ一昨ニ晚
此處ニ三中隊ノ守備兵が着イタカラ私ハ直ク士官ヲ招テ
又手集等々が斯クハノコトガ爲政府カラ依頼モんと付ス

日本ノ士官佐伯大尉が訓練シテオん教導兵二百カアン之ヲオ
出トヤイトモツリヲオイモ然ハ其兵ハ訓練ハシテレ
如何モシ来ヨ降頭、主テ先カ働ラキヲ為スヤ否ヤ又夫レ
附随シテオん士官ガ来ヨ見合ノ士官ノ如ク總ラノ訓練シテモ
カハナイ技術ハ覺ヘタロウガドモ指揮監督ト云フハ不充分
デアン、^{指揮監督}ト云フハ士官ノ中カラ教導中隊二百ヲ指揮
此等シテ下士官ノ兵士モ指揮監督ト思フガヲ連
行キ此兵ヲ指揮モ夫ハ為政府ヘモ必要ト云フテ
直ニ然申付タ、宜シクオヤリマシム今晚カラデモ三ツタセウト
云フテデアワタ其望モ多分教導中隊カ出ンデアワト思フ

聖。再。士。官。ヲ。招。テ。連。下。行。テ。通。赤。キ。葉。キ。葉。巡。査。セ。置。其。
又。教。導。中。隊。長。キ。振。錫。其。人。モ。招。テ。身。心。ノ。以。外。セ。タ。上。
此。由。テ。府。政。府。ノ。要。令。モ。ナ。ラ。テ。未。熟。ナ。兵。ヲ。見。カ。
テ。此。二。人。ノ。士。官。ニ。送。テ。終。運。送。シ。ナ。ケ。ル。ハ。又。道。ノ。ト。云。ハ。
ハ。道。ハ。止。マ。レ。ト。云。ハ。止。マ。ラ。ナ。ケ。ル。ハ。又。是。又。此。間。訓。練。ノ。受。テ。
ヲ。ナ。レ。ハ。此。度。実。際。ノ。執。行。シ。テ。訓。練。セ。ル。ハ。今。迄。朝。報。
ノ。兵。ト。云。ハ。敵。ノ。見。ハ。逃。カ。ル。散。乱。ス。ル。ハ。又。是。又。此。日。不。
武。官。ノ。下。訓。練。ノ。受。テ。タ。テ。デ。フ。ノ。云。フ。モ。カ。ラ。レ。バ。命。ヲ。朝。報。
ノ。兵。ハ。人。走。リ。称。南。ノ。日。林。後。ニ。立。タ。ヌ。モ。ノ。テ。人。ノ。身。ヲ。ハ。
此。名。譽。ト。云。フ。モ。ノ。カ。ラ。レ。バ。ナ。ラ。ヌ。又。周。王。ノ。忠。ナル。者。ヲ。持。タ。ナ。ケ。

ふやま又國ヲ愛さんト云フ精神も持たせしむるは又夫れ能うハ
此命金ヲ守るにせしむるは精兵なり日なり兵ノ規律節制ノ中
に若しを逃んと云フヨウナリかたしは其者ヲ直之切んカモ知レヌ
此レが兵ノ規律ヲ西スノデアん夫ヲ内務等能ク心得ナクハ
ナラヌゾト云フナリ私に言ひ日なり士官二人を振動ト云フモノ
モ置テ言聞せしナリ戦が夫れハカシコキナリ夫レに多分
私ノ政府カラモ其命令が下りコセリ又私に今日近訓書ヲ受
ケタノデアルカウ何處マデモ尽しテ一身ヲ抱ツバ當然デアん
余命ヲ受ケマスント云フナリデアタ夫レに聖朝カラ生かえ
ト云フナリ此者ノ和紙ニ教導兵二百人ヲ皆々集メテ我端

ト云フカラ ヤレバ 形方ヤリ巡撫使、遣はし維儀ヲシテ東ノ方ニ、所テ
明カウ此東景貴ニ勸賦シヤケルヲ云フ云フ云フ云フ云フ云フ云フ云フ
カ貴方ニ真ニ此東景貴ヲ聞ノ事物デアルカウ何処ニテ勸賦
セバナラヌト云フ 真誠 中流ニ決心デアルカドリーカ ネカト 間キタヒ今週ハ事
情ト述ベタル事ナリ

金湯所長

即言葉ニシテ無病此ニ付賦シヤケレバ

ナラヌヲアリマス今カウニミヤ月前ニ充テ子ヲ下シヨナラズ
リ楊柳ヲ花ハニエトイフコセシ併シ今ハ此情ハ 離 離テ公使ニシテ
必死ヲ掛クニ何トモ而ハナイ話デアル間リト云フニ依ル忠信
道ノ本川天女、妙女ニ最モ楊柳ヲ花メテアル若シ此候ニ置

ナラハ或の事候とテ押ラ来んカモ知レタ今も或の人氏ヲ頼ミ
切ラオンノハ事無ノ兵士ガ王中様オんカウ来タ御目枕ヲ高ラシ
テ病ハ一ガおまん若レワ一デナクバ人氏ハ寝ムん皆様ナラシ
ニ之ヲ以テモ我周情此程且ダ至タデハ寒ク少壯カト一デ
ア、ソエテ私カも使、わテ座敷ノ縁ト少壯ト云ハ何ノ
シラモ此期ニ平ラゲテシタムおハナラヌ

是れ忠臣大目

其、之ハ馬鹿デ一デアツタ年ハ老老

是レ養父

シタトシカ是ラレオラデアリマス夫ハ私が久シク用余

ハ行ラオント私ノ

呼ヒ来ラシマシタカラ帰ラ来ル処ガ何事カ

ト思フ忠臣道ノ方ハ東家貴が起テ大カ多イカラ貴様ガ

行ヲ復舊シテ解散セシメヨト云フゾ夫ハ昨年ノ暮ハ此時ハ
解散セセシム。所ハ今年ノ春ニ至ラテ全羅道ノ古年ニ先
亂民ハ起テ其民亂ルヤ地方官ノ苛政ニ及ヌト云フナル。
所ハ地方官ニ夫ノ以テ何ト云フカト云フニ已レノ此ノ亂ハ此ノ爲
ニ云フ構ヘコト云フ。所ハ今羅州司カ之ヲ討滅ガ掛ルカ
知ラ奏セヨソコデ主威ノ行テ政府ノ事ノ出スト云フニ云フテ此
朝鮮兵リヤテト云フガ此等ハ行テモ亦モ隨テ地方民ノ苦シム
ヨウナフヲ爲シヨシタ都テ取テ爲シ然テ實テ一ニナラテ
其法ハ通テテ其郡ノ兵ヲ傷ント云フニ云フテ其郡兵ハ其
目カ兵ニ事ント云フニ云フニ云フニ云フテ其郡兵ハ其

起ル此東學堂は一轉起ルが早ヤ流マツタ何トモナト云觸
リシテ支那兵も早ク返ヘサナクハハナラヌ目也兵も通ヘサナケレバ
ナラヌト云ウ如カウ信々元々ソ圍ウシテマツテ今日ノ場合ニナリ
タノデアル原由ヲ尋キテ是レハ丁度養ヲヨウナモラザレン
井上公使 夫レハ如何ニ事案ヲ治ト思ヒマス所デ今
總理大臣ハ熱心ニ此東學堂ヲ勸減シナケレバナラヌト云フ
コトデアルが外務大臣ハドレデアリマス歟

金外務大臣 此東學堂が起タタメ、國庫ノ租稅
ト云フモノが一ツモナリマデテ數々鐵モナイ東洋ハドレシテ政
治リヤウヲ行カカ其是レハナク地方ニ又民墾業ノ苦シ

打拂バケレバナラヌト云々又或者いひ人ト云フモノハ此國ノ害、
ナルコウ此ふノ外ハ追拂バケレバナラヌト云フモノ子バ見併レ百
人集ル者バ見ヨリ其コハ皆ナ東洋貴バ見カト云フソフシナ
イ中ニ留用シタルモノガ多ヒト云フ一ハ私モ曾テ宣撫使トド
コ行テ能ラ知ラナリマス畢竟此程ヤハ純ツト云フ一ハ必
テアリマスカウ此巨魁ヲ斃スコトハカク用ニホナリマセ又
昔々ある能ラ多リマシタセガ疑ガ一ウアハ大志ニ
之ヲ勦滅セシメバナラヌト云フモ意ナキ

金澤所出品 イヤ無極大志ニ我々をミテテ安堵
ヤセナレバナラヌト云フハ其意ナアルト云フ一ハ自今テ勸

ツ下サワタノザンヤウ早ク勅賦ニサケトハナラヌヲザン

并ニ使 其詔勅ニ其カ解モト云フノミデアル歟斯

ヲ云フ及訖ヲシタ以上ハ其リ出シテ討ツト云フノザンカ

金原理出居 大君まいいり云フゆ思召ザアリマシタ大

院君ハ私カ最初討タケレバイカヌト云フタ時ハ是モ一ツノ

朝鮮ノ人氏ぞん夫リ殺ト云フ一ハ君ビ又慘酷ヲフデンドウ

カ之ヲシテ帰順サせん方ハルサラバ其方ヲ執ル方ハ宜シト笑ツ

此場合ハ自ラ言棄リ聽テ勅諭文ノ下スカラ夫リ持テ行テ

是トト言ハレタノザン取中ノ効果カ無イ今日ハ已ニ監囚

ヲモ殺スト云フコトハナラテ最早今ヲ順送イ極明ヲカナモノデ

サレバ大に情ノ相カレテ今日一早や既計ヲナシバ多クモ云フ所
并上公使 大君主ノ下サレム証勅ノ意味如何シ

金保臣方信 其勅諭ト云フモノハ此際國王ノ証勅
デアント云フヲ或ハ日女兵ノ進解ヘトカレシカウ期心主義モ
ノヲ解ヘトカ報セトカ云フソ地方ノ官簡ラシテ歩クモノハソレヲ
早ク捕獲セヨト云フ証勅ヲヤウタノデアん

并上公使 所ガ今日大波君モ臣氏ノ苦シムモノハ平定
ソルヲ討滅スルヨウ外ハナイト云ハルノデアリマセウ歟

金保臣方信 ソーデアリマス

并上公使 所ガ私が渴息シテ望ム大波君モ此處ニ来

かへも出ラレヌ者ナリカト云ツタぬが傷是に違フト言ヒタソ
レデソレナリ其協議スに便宜ヲ附クト云フツハ申好シナサラ
ヌカソレソ問法ト謂ハレナリ一ツ問下ハ尋ネカイトカアン東
華先ト云フモカ各地に峰起シテモナリ之ノ貴公政府が鎮
壓スルヲデキヌレナリ而ハ依然ノシラ田中其ノ派違ヒ鎮
壓シテ其ト云フヲデアン之ト貴國ノ法ダリヌス飲ト問フタ
ソースルト田中其派違フツハ予ノ意ニテラズ各其意ノ意ニ出デ
シテアン此意の中ニカク故自任ハ其意ニカク云ヒタソソレナリ
ソレナリ問下ハ政治上ノ責任ヲ以テ之ヲ辭サト云フハナイカ
ソレハ問下カ之ヲ知ラヌ自分ノ意ダナイト云フハトモウ云フア

ト押詰ル是レ親置キタル二個ノ意見一ツハ内政上ノニト一ツハ
私誼孝ノニトハ能ク頼ムナドコレナラシメテ進歩ヲ示ス
(内政改良ノ事ハ漸次実行シテ私誼志ノ事ハ進テ時機
計ニ付カテ採用スベシ)

魚大花名居 刺ヘバ身体ハ腫物ハ出来ル(即チは腐爛シテ)
此ノ瘡治シテハナラズ併シテナカウ此ハ腹ノ腐敗ナリ肉
ニ生シハ其肉ヲ切り取テ新ニ肉ヲ養フ云フ手堅ク執ラ
ナケレバナラズ若シ躊躇シテ姑息セバ流毒ハ全身ニ及ビ一
命ヲ危ラスルニ至ルナリ即チ東洋ノ如キモ初メハ平定シ易
イノチアルケレバ既ニ如此ナラバ上ハドウシテモ此処デ一ツ打

禁ムトモツリヲササヘテハモシム

金銀理大臣 徳ヲノ百姓ノ為ニ大ニ民ヲ撫メン

ト云フコトハ故ニ其美ノ甚シカラサル前ニ防カシケレハナラヌ

トイシテモ今日新條シテハオケヌカラサレ使モ是ノ力ヲ盡ス

貴公方ハ能クカヲオハ所ハ大虎毒ヲ私

知ルモ新クありリト云フコトハ是ノ大虎毒ハ

カト云フ地佳ナリト云フ人ガハ大ニ國ヲ固メ

ニ随分長年アリ長イ間支那ト云フ國ノ世界最上無

此ノモノト心得ヲ支那ノ人ト云フコトハ是ノ大虎毒ハ

是ノ大虎毒ハ是ノ大虎毒ハ是ノ大虎毒ハ

さきより通つ所をせんすまふまふと東生堂を起すまふ
考へる原よりヤマト田を兵に依りしう東生堂を起す
此に不利デんと云ふ考へる持ヲオんかハヤイカ是に利ノ
難則る此デんと云ふ此難則る外にヤマト田にナイカと思フ
金邊理多長 トーモ夫に付リに何トモの考へる出来赤
ヒト云フモノに大皮系一モ二モナリ其郡ノ方デアロウと云
フモノに左林の中兼ん只今我ノ考へる此朝鮮ノシタ必
善キ方、白ハシヨウ即チ周家ノシタ旺感にシヤウト云フ
考へる持ヲオラシヤハナラ又佳地とん人デアリマス
豊年少役 妙務多長トハトモ云フ考へる持ヲオん

イ・ア・ロ・イ・ア

金外務大臣

如何も支那王義ア支那ヲ暴ス

ア人何モカモ支那國ヲニヤツテ實ニヒト云フ人カア

併シナカウ今日ソレナフヤラレバ地ヲヌ

金逓理大臣

モウ八十歳（中略）老人デアんカラ如

何モ古昔ノ義ハカ多ク併シ解カレカカフタラ支那

送ラヤルト云フアモアウカ儲ラカナイ以上ハ連モ出

来ナイノデアん

時多ク使

併シナカウ諸君が言ハレハ支那王義一

舊勢力が強ヒ今此金逓理大臣カシテ總理大臣カシ

野田少使

がーしヲモ雄政府が日本から西へ顧問ノ

フト云フ話

トモトモ見ふ私に日本に歴史ヲ説ク事情ハ

サニヤラヌ又此終ニシテ顧問官ノ在リテ改ムル事ナラ

キ多ク日本が今日進歩シ集ムル仕事ニ純粋ナル人ガ

トモトモ見ふトモトモ見ふトモトモ見ふトモトモ見ふ

サリ、コトシテ日本が日本ハ大改変ノ思ハ方デス

ノ事トモトモ見ふトモトモ見ふトモトモ見ふトモトモ見ふ

日本ハ大改変ノ思ハ方デス

日本ハ大改変ノ思ハ方デス

日本ハ大改変ノ思ハ方デス

あり後デ所迄し致ス

金澤匠大匠 其証據ノフニ就テハ公使ノ考ヘン
以テ彼ノ人ハ老耗シテオムコトデゾーシテ勢最ハ衰ラタ
コトデアリマスカラシテ餘リ深ク御察シテサラバシテ寧日
彼ノ人ハ意ノ難ヘムト云フ方ニあし下せんコトガ今日ノ
急務デアロウト思フ何トナレバ彼ノ人ハ一旦意ヲ断ヘ
セバ其ハ今日迄ノ形勢ガ分ラヌノデアリマスカラ此処デ
ドーアツテモ周ヲ開カナケレバアラヌト云フコトハ明カナツテ
来ん幸ト思フ

魚也花大匠

此ハ曾テ大匠君ニハナシ私ハ本ト勤シ

が欲シクテヤツテオムリヲハヤシ私事ハ國家ノは膚デ
國家ハ骨肉カアルト思フテヤウナケレハマヌ多勝チナ
ガカリヤツテハイケサイノチアル私ハ嫌ナラ嫌ガ退ケテモ
宜シイ國家ハ皮膚ト曰フ一思テ私共ノハ懸カナケレハナ
キヌト云ヒマシタ

野上少佐 所語ヲ伺ハハ大段是ハ古ト學問ハナリシ
ヲオツテ先施シテオムルト云フガハ先施カモ、
自政務ガ泰ル、
又私ハ^{將來}勸告シテ貴公方ガ
改^改政^改スル^改ト貴公方モ之レハ事^事倭^倭業^業ト云フ迷惑ソ
受ケルカハウ、又其外ノ人モ田政ノ革メテ中央政府ヲ

地方要案

ヨロシキ
林オホニナルコトナク来世志心

[illegible]

ナルヲ得スト云フ杯
ナリトモ、
此処ニ来リ以テ其

此間國王大度表

李載憲ノ平壤支那將官傳（支那）書ト云フテ平壤可

ニ送レシ書面ヲ示ス）之ハ平壤ヲ略セシ片濤タノデ

凡本書に東京へ送つたところを寫り山縣大將より

送_レ來_ル電報^{ケレハ}ヲ打_テ此_ニ書_キ取_リ寄_セタノ

ザア、即ち何處ぞ支那・頼ルところ之に於て

樹主ヲうしル、サー大後君ハ老死シテオワラシキ時、斯ク云フ

△寫字ハ効力が
薄故更ニ

コトがアンデハアリマセ又款

い時思ひやう様より

金銀理大臣 夫ハ彼ノ時分ハ大役看モツ云フ考
ヘダアツタカモ知ラシ併シ今日ノ処デハソ一云フ心ヲナ
イト思ヒマス、夫レ^{何事}お^{何事}少^{何事}此^{何事}下^{何事}サイマセト内一通
ノ國王ノ書面ヲ執シ

井上公使

夫ハ用ニ大なる言、^{いふ}書面デ

アル^故是^は貴方方^に見^えせん^{いふ}私^に心得^えせん^{いふ}是^はノ

オアル決シテ心配^{いふ}ハナカルナ貴方方^に信^じせん^{いふ}カラ^{いふ}若

是^はノ^{いふ}疑念^{いふ}サ^{いふ}リ^{いふ}ハ^{いふ}ソ^{いふ}レ^{いふ}私^にハ^{いふ}是

ヲ以テ日本政府が朝鮮政府ニ難問^{いふ}シレヤウト^{いふ}思

又、ケレ氏貴公方を随分困難ノ地怪デアン先刻カラ
夢圖リ又金宏集サレノ卷々通リ随分光耗シテオ
ル人ガアン本流ニヤツテ来テ果シト云直シイガ不便デナク
貴公方ノ^カ月^カコトモ姦姦妨ケラルト云フコトハ知テオムカラ
何トカ是ノ助クル方法ヲ取ラサケレバナラヌト思フデアン
金澤理方氏 猶又少使モ大流表ニ水逢ニヤリマ
シタラ官杯ニ設テ水浴ヲ願フ所頃私共ガ何事ソ
シヤモヤモせん、カフット^カカ^カン^カデモ^カカ^カカ^カ今日ハ大ニ彼ノ
ノ意ニ悖テ仕事ヲヤツテ行クデアルカラ進ム後ノ所
尽力ニ依テ悖リヲ開クヨクせん如キト思フ

朝鮮公使

モ一ツアム事按察シハ随分悪才子じゃ殿

色々話リ初シタガ其中心ハイヤ支那ノ兵ハ私ハ一家カラ通信

ヲ又何モ東洋受ニ通信シテオルトナド言觸シ離間策

ヲ為スモノ多シ只此處デハ一數協和シテ周ノ安寧ヲ計ラ

ナケレバナラヌと云フナリ余ハ事ヲ按察シハトナリ

シテオルト思フ殿ハ調ヘテ見シハ此ノ直捷ノ余デアルカ

石マシヨ分ラヌガ事按察シハ此東洋受ヲ教唆シテオルト

云フハ信シテ疑ハズ丁度魚允申サレガ言フ如キ煽動ガマ

シキヲワシタ人デアム私ハモ一ツレモ是按ヲオルカラ事按察

シテ管轄シテオムル兵ヲ出シテモ役ニ主ト云フハ即チソ

意ヲアル

金澤陸大長 ソレハ如何んモノデアロウカ 私共ニイナカ

ニ分り兼ね併し彼ノ人が数許ノ才子デバアリヨセウケレトモ

何分年モ若し見聞モ狭ムカラ能ク事ヲ考クナイデヤウタカ

ヲ知レ又中ニハ暗ナ一ムツリデアルト云フツに出来ナイノデアル

又書翰ノ如キモノガアルトシテモ随分人ヲ傷ケント云フ考ヘ人

ガアレバ偽書ナドモ行ハル場合モアルカラ是ヲ於テサヨウデゴ

ザリヨセウト云フツに云ハシヌ

許江公使

ソレモ^{いふ}方^はおかし^いカラ^に軍^はシ^て併^しヤ^をウ^る勢^は山東

其ノ先^はナ^んモ^もい^ふ為^は支^那ト目^はカ^い我^等ヲ始^はメタ^ラデ^アツテ

三才圖會

新編

第

利

卷之六

政府力

變

五

金

通

ソレが知れんと大受がカヲ決シテ云フナ云フト余ノ取ん言ハナシ

ハ罪ヲ免シテヤン戦役人ニシテヤルトモ是ヨリトモナシ

有補大漢君初日ハ政府ヲ非常ニ嫌ガツテ居ルトモ

許スルカモトモ如何ニシテ政府カ勸告ニ従フ朝鮮政府ヲ治

療ハ出来トモトモ又私モ從テ此処ニ居ル必要ナシトモ

駄目ダトモ思フ、一方カラハ陰謀ニ出テ来テ仕方がナイア

トモハ此処ニ於ル必要モヤルコトモナシトモ考メ起ン

金端胤大臣 李坡鎔ト云フ人ハ前々カラウ語シスニ

是間モ狭ク年モ若シ或ハ間違カラシテ東洋ニ往テ復

シタヤウナコトガアルカモ知レヌ併シナラヌ又彼ノ傷ケトシテ其

ハニノミ
有る
病止
セルト
心タリ
先ツ
部
テハ

手紙ヲ繕送シタモガアルカモ知レヌガ併シヤウ大隈君が実
ヲ知ラヤラセタト云フト、就ラハ無カロウト考ヘン大隈君自
身ガソレ云フソリ為セバ實ニ國家ノ存亡ニ関スルト云フハ
知ラオラル、シテ又國家ト存セラザルニ即方デアルカラシ
ヲドレシテモ彼ノ人ノ考ヘカラシテ東洋史ヲ引込ザヤルト云フ
ソイナイト考ヘン併シ彼ノ人ハ古ク考ヘデアウテ支那ヲ崇拜ス
ト云フソレハ蓋シアリタフト考ヘヌ此上ハ大隈君ハ充分考
ラ敵ヘシ改革シナケルバナラヌト云フソリ悟ラヌヨウニシテモライ
タイ又彼ノ人も既ソレ云フソリ悟リ望ミ敗ル進メテ行クト
云フ方ニ向ハレんカロウト思フ

大後君ハ脱々七十五年ノ高齡ニシテ古考

ヲ以テ人ヲ殺ス事ト云フヨリナコトハ怪々モ大根ヲモ切ル

ヨウニ思フヲアルノデアルソコヲ大後君ハ現ニ云フヲアル東洋

モ同じ民デアル之ヲ殺スハ容易ジヤナイト云フテ、段々原因ヲ

調ヘテ是ハ此ノ關係アル鄭允徳曰ト云フモノガアル鄭允

徳ト云フモノヲ憶シテ知シヨヤウニシテ居ルモノヤンヤ云フナ人ハ

イクラ打破シヤウトシテモ中々六テ敷ヒコトガアセウト思フ尤モ

一度ハ私ガ打破シヤウトシテモ中々六テ敷ヒコトガアセウト思フ尤モ

其景威ハ始終出ラズ、又今一ツ大後君ノ出ヌ前ハ

ドーデアウタカト云フヲ人々モ就テ聞テ見タガ丁度大後君

ト國様或ハミツト思ハカツカ知ラズ國氏ガ世道トシテ

國政ヲ執リ人ヲ殺シ金ヲ掠ルト云フヤトヤウノ事カ

ト大院君其ト伯仲ス人ヲアル事又其大院君

ヲシテ何事職多ク持タル外大法見に向キ其

政治上ト答喩セ^{フルニサレ}ヤリ^ル（獨取難シ）トヤリ^ル鬼

ヲ^ハカ^ル整^ハ改^メ良^ハ言^ハ用^ハノ^リナリ

カ^ハト^ハ敵^ト大君主^ニ謁見シタ^ル外ノ模様ヲ見ルト王妃

カ障子ノ隔テ影^カヲ披^キ此ト國王^ニ言葉ヲ添^ヘル^ルヤ

聲^カ皆聽^レル孰^テ考^フハ王妃^ニ中^ニヤ^リ所^ナク

終^ニ今日^ハ大院君^カヤリ^キ事^ハ果^シ國^ヲ振^リ元^ハト國氏

一勢力豊妃ト云々もく執力カ依テ強カツクノデアに於テ

此権力ノ何ヲ押ヘテ見ヤト云々大隈君ト云フ毒ヲ以前

一毒ヲ押ヘテ見ト云フ云々

又孫ノ李峻銘ト云フ人ト其日其日ト云フ許リ考テ告

一先キ考テ其ト云フ人ト云フ

一其子マ何カテアロウキヤモ善惡差別ノ付リ

一ト云フ人ト云フ其ト云フ無思未實公方カ臣下

一身トシテ除程困難ノ場合ニアロウト鬼ヲ知リ

一此居ツテ仕方無イ事貴公方ヲ責メナケレハナラヌ

一貴公方ヲ責メナケレハナラヌ言フテ見レバ此間表面

三金嘉祿安順事ト云フヤウナ人ノ京城ニ置クナ宜
イト言テオヒテ^{ホント}真寶^{ホント}シヤウテナイ大方貴様等此
処ニ居ルト危ナイゾヨト云フヤウナ事動ナルサレ物
モ知テオル人^ハ庭ニ外致^ハ方カナイ大院君ノ最も嫌イナ
人ノミテ^ハ私カ一方ニ公使一方ニ領問ト云フヨト^ハア
ツア大院君ニ始終苦イコトヲ言ヒ大君主ニモ王妃ニ
モ苦イコトヲ言ハミヤナラヌ

一方ニ井上カ来テカラハ全數コト許リ言ハシテ困ル
ト云フ考^トモ^ハ思^ハル^ハ夕口ウト思フ實ニ私ス甚シク困強ニア
ル^ハ也^ハ秋^ハ六ヶ月或^ハ一年^ハ集^ハ告^ハル^ハ外^ハ此始末^ハ

着々と思ふ

實に世にカ政治、關係セヌヤウチコトカ出来ルヤ

否ヤあ来ヌト云フナニ日本ニ最早打撃ヲ感ハ悟モ

他人ノ如ク支那ニ向フヤウナコトヲモ行ハナクモ

又カトモ思フ私モ来今ニ迷フテアル亦日本政府ノ

於テモ必ダ見テ私ニ使ハレタリハ権度私ニ送

者ニ来タノテアニ健康侍ニナラレルヤラナラレキヤ

シテ見テ是ニ

天皇陛下ノ御意又一般人民ノ望ミテ来テ

深キ中思召、憐リ人民ノ意、背キ國辱シテ何ニ

ナリ
ル
シ
ス

モ得ん人ハ其嫌ハナラヌカト思フ中々七十
乃至八十ニ至リ年ニナリテ頑固ナル太院君ヲ見カウ貴公
方カ他國人ナシ私ニ云フ事ヲ聽テ行フヲ見テ是ハ
憂心ナシキヤト云フコトハナカニウシテ見レハ此打破
カニ敷キナリト斯リ思フナリ

總理大臣金宏集 一々此尤テアリマス私カ臣下ノ分トシテ
得ルコトモ下リマスカ外ノ國カラ我國ニ斯ク迫ル書シ下サニ
此國ノ爲ニ元カ此ノサヌケシナラヌノ事然ラアル今迄トラモ
十カ力ヲ入レタナラバ今サレテ復達シテ行クノチアリマセウカ如
何セシヌミ吾々が元カ力ヲ伸ヌコトナキ東ナカニテ併レ是レ

リマスガニ大、諸事、整頓シ其本カ建ツナラハ維持
カ出来ルテアリマセウ其レモ此基礎カミマセヌツ上ニ先ツ其基
礎ヲミテ信々葺造セシメテ此園ヲ維持シテ行リコトノ出
来ルヤウヲ致シ度シ

大藏大居士允中 目下重病人同様アリマスナラシテ治
療スルノ手段方ハ貴公ノ注意蒙リテ適當ナル案ヲ
興ヘテ貰ハサケレハナラヌ

井上公使 某ヲ用ミト云フコトハ餘程困難ノ事ナラン
第一大院君成程今迄ノ大院君ノ議論ヲ打破シテナ
ラハ大丈夫トオツシヤルガ中ニハ打破カ面倒ナコトナラン

在東京國日本會舍

山

記

子餘

ソコチ

王

私

力法

德

大藏大居士元中

貴公日本ヲ維新ノ元勳ヲアリマス

貴公カ少少ハツ出ニエリ云フコトハ我ハ宜シク直シイ所

醫者サシテ得タ此所医者サシテ得ルニ於テ餘程宜

シイ療治カ出来ルモノト思ハオリマス其今藥ヲ用テ

其病入カ甚ク飲カ飲マヌカ先ツ餘リヒドイ藥

ヲ用ヒス宜シク柔ラカテ藥ヲ用ヒテ平和ナ手段ヲヤル方

カフロウト思フ則チ貴公ノ處方書ヲ出シテカサ

ルト私ハ何モ身体ニ師レモシナイ惜シモシナイ故ニ

貴公ノ藥ノ處方書ヲ以テ大院長ト其他ニモ忠告

ト用ヒシノマス

皇氏ニテ
コナ場

世傳

・たんナリ書

事に成る

強精散

我論私走其病狀

醋シナツキ先ツ

シテモ初ノ少シテアワテモ終ニ之カラシテ

力に受り大事

三

身も金もなき者なり。其の末に力なき者なり。是れ有徳の者なり。

程強き者なり。其の末に力なき者なり。思ふ。

今金宏集サレノ本話ノヤウニ大隈君ヲ能ク政治上ニ上ルニ云フ

コトカ出来ルヤ否ヤト云フコトヲ第一ナルカ是より外ニ仕方ナ

イト思フカ事又裏面ニ何モあり。其カ起ルヲ云フコトヲ考

見レハ前キニ言フ通り大隈君ノ瀬田ノ事。頑固ナル事。

其ノ事切角ハ抱入ヲ入レテ事ヲ居ス時ニ其者

獲人ヲ殺シテ見タリ何カ妨害ヲ加ヘテ見タリ云々様

ナカウ

総理大臣金宏集 大隈君ト云フ人カ念々

統一世ヲ開キ断念ヲ付ケルサウモアズト思フノヲアリマス

大藏大臣魚元平 何モ朝鮮ト云フ國ハ大變

君權ノ隆ニ行ハレタ國デアツテ終ニ政府ハ有見無

實ノ姿ニテ政府ハ在テモ無リテモ直ニト云フ有様

デアル支那モ其通り一向政府カ何歟カ云ト云フ有様

デアルカウ自然此國威トカ何トカ云フコトモ構ハズ只タ王

室ニヨリテ政府ハ仕事ヲスル習慣ニナツテアル

ソコテ貴國ハ全ク之ト違フ則チ維新ノ時分幕

府ト云フモカ在リ爲ミ王室ノ光輝ヲ失フト云フ

コトノ爲ノ政華カ行ハレテ維新ト云フコトニナリテ其レテ
維新ノ當時皇帝陛下モ未ダ幼年ニアラセシレ
タカ市時政君ノ但織願ル完然シテ又皇室ノ威嚴
ト云フコトモ明カニナリテ松ノ國ハ是ト違テ何百年來
此様ナル風ニ慣レ来ツタノチアンカラ畢竟一朝一夕
ニ政華ニスルコトハ困難ノコトナリ

豐公使「凡ソ此勢力ト云フモノハ無形ナモノナリ其無

形ナモノヲ以テ此勢力ヲ敵ナ壞スト云フコトハ諸君無形ナ

モノニテ亦此勢力ヲ壞スニ武力ヲ以テ壞ヤハ勿ク壞

レ日本ハ薩摩長州ト来カ打カスモノナリ

ニ其兵力ハナイモルカ日幸トハ其受書^{其の}ハナリ

大藏大臣魚元中 一併我國ニ送テユトヤ文具(装飾

的)ノコトカ多イノテ元

井上公使 和^{おと}木典修例^{おと}モリモ見^みオリ又人主^{ひと}聞

テ見^みオリ何^{なん}カチ^ちトモ^もウ^う又^{また}所^{ところ}ハナリモ^もナ^な有^あり幾^{いく}國^{こく}

王^{わう}ガ真^{まこと}政治^{せいざ}家^けア^アウ^ウテ民^{たみ}ヲ愛^{あい}スル真^{まこと}ノ其^{その}係^{けい}ガ賢^{けん}

明^{めい}ナル人^{ひと}ガ出^でテ此^{こゝ}処^{ところ}ヲヤルナ^ら直^{ただ}シイ所^{ところ}ガ其^{その}明^{めい}君^{きみ}ニ何

時^{とき}出^でヤ^ヤウ^ウカ^カラ^ラ又^{また}始^{はじめ}終^{はつ}固^こ民^{たみ}トカニ^ニフ^フヤ^ヤウ^ウテ王^{わう}家^けノ外^{そと}族^{しゆ}

カ王^{わう}家^け(國王)^{こくわう}ノ權^{けん}力^{りき}ヲ礼^{れい}用^{よう}シテ自^{みづか}カ^ニニ^ニ来^きニ^ニ入^いラ^ラヌ^ヌモ^モノ^ノヲ

誣^{しり}ヒ^ヒリ^リ金^{きん}持^ぢノ財^{さい}ヲ奪^{うば}ツ^ツリ^リス^スヤ^ヤウ^ウテ^テ是^{こゝ}ニ^ニ礼^{れい}暴^{ぼう}ナ

有様ヲアル

日本書紀卷之八

ソテ國ヲ永久、維持シヤウト云フコトハ先刻言フヲ
通リ、國ノ國王が國民カラム他國カラム尊教ヲ承リ
ル様ナ明君ノ世ニ有リ限リハ何時迄モ直レイケレモ其
明君ハ百年ニ出カ五十年ニ出カカラムノテ凡其レヲ
ハカウ政治ト云フモノハ君主、制限ヲ置カサケハナラヌ國
ノ基礎ヲ云ウモノニ當リ制限ヲ設ケサケレハナラヌ君
明君ノ出ヌ時ニ暗君ノ時ニ其權力カ他ニ岐テ来
ル其時ニ王族ノ中カラ輔佐カ出ルト云フコトハ尤
ニ王族ノ君權モ極メテ置カレケレハナラヌソテ君主

カ急ニ無リナツテ或ハ切サテアツテ攝政カ出来ルカ云フ
時モ君主ノ下ニヤント制限カアツテ後令攝政ト云
フモノヲアテマ自ラ其位ニ在ルヤ行ナレヌト云フ憲
法ノ様ナキカ出来ナキハナラヌ而シテ君權・制限ヲ
付テ王族・制限ヲ設ケルコトミシテ見ルトサア此十中ノ
七八ト云フモノハ頑固ナル人物ガ今迄ノ通り君主在リ
瓦カ有レノヲ凡君主ハ其ノモノヲ奪却シテモ構ハヌ
ト云フ念ガ強ヒタリト思フ

ソテ此レヲ防クハ兵力カアハ出来ル又タ何カ茲ニ
隠匿ナクトヲ起シ又乱ヲ起リト云フモノヲ留メ防カシ

ト云フニ兵力整素ト云フモノヲ以テ押付ナケルナラ

又

ソコテ兵士ノ集メタ所カ士官ト云フモノ、訓練カアル

此兵力ハ王室ノ属ノ國家ノ爲ト云フコトヲ知タモナラ

奏成シテ行カレケルナラヌ何ウシテモ國ヲ鞏固、

シヤウト云フニ今言フ処ノ明君ハ何時ラモ出ルト

云フカニ行カナイカラ憲法ト云フ様々モノヲ失フナ

ケルナラヌ此等ノ事素々睦友關係ノユトラフコト

考ルルナラ

佐理大臣金鑑集 又り政府ノ力ナカ、云フモノハ

総理大臣金宏集 貴公に有益の御話ヲ承リマシ

タ猶又ニ三日中ニ御話ヲ承リ度ヒ

大藏大臣魚元中 病人ノコトニ就テ殿々御話モ

伺ヒマシタ要スルモ只タ此処ヲ當方書ラ出シテ下サル

コトヲ望ミマス今日ハ是レデオキマシテ何ウカ某ヲ元カニ

所研ニ下サツラ喚ヘテ貰ヒ度ヒ

井上公使 貴公方モ所療方ヲモテマセリカ要ニ意シテ

アリマスカラ食事ヲナサレテ未タ御話スルコトカ

某處ニ押シテ見シト云々方々モ云々云々云々云々云々云々

トト数々云々云々

時、休憩ス午後六時三十分ナリシ

午後七時廿分開始

廿分使 今假リ、大院君が先ツ政治上、嘴ヲ出サ

スト云フ事、約束ヲ出来テ大君主ヲ先刺中リ通スル旨

宣示面ナリ云フ方ニシテ又其裏面カラ王妃ナトカ誰ヲ持

出ス誰ヲ入ト云フコト無イヤリニシナケハナラヌ君ト之ニ

對シテ王妃ナトカ嘴ヲ入ルト云フ時、即チ大君主王ノ意思ヲ

王妃ト告ナサレシヤン云フ事ナリト云フサレシヤ其申

央政府ノ組織格限ト云フモノヲ決定スル後布トナセリ

臆ニ想像シタ知テ先刺中スル様ニ全羅忠情ト

云フヤウテ所々租税カ納ラズ政府ノ費用カ足ラズ

一方ニ東亞堂カ起テ甚ク逞シイ有様ナリ又平壤近

傍モ租税カ納ラズ只々量販道近傍ニ或ル租税カ道

外カ知ラズガ之モ餘分當テニナラヌト云フモノハ平壤ノ

方ニ支那兵カ来テ財ヲ掠メ家ヲ焼キテ様々有様ナリ

山縣大將カラ報告ニモ平壤以北義州迄何故カ

出火カ劇シイ焼ケテ仕方無イ之ヲ搜索スル暇モ

ナリ支那兵ノ残骸徒ノスルコトカ是又監司ナト

云フヲ見ルニモ何ウモ此支那ト云フコトニナト取違

ヲスルコトカ出来ヌ何トナシ様素支那人ヲ崇拝シテオ

ツリノチアルカウ元もナコトカ出来又減程日本ノ兵

タカ日本ノ兵ハ何日買モ来ヲ買テモ牛ヲ買テモ其穀

刑ハ為シテ迷思ヲ掛テテ居ラヌ併シナカウ支那兵ノ為

ミ隨分難儀ヲ受ケサルトコウコトハ之モ能ク承知

坐リマヤリシノ見テ誰ノ者ナリ彼ノ辺カラハ租税

入ラヌト本年ノ收獲トありモ其ノ收入無トナリ

ナ行カサテハハサマモノハ想像スル

預メ收入ナリシテ出シテ行タ其出カモリハ本年ノ

米とある所ハ本年ノ所トナリ東シ子出シ

討滅モナリコトトナリ兵ヲ出ス又此兵モ給

給ふや子ハ
やうやう

陪

ナニカ

吳

トクモ

通

今

十

五

金

左様ヲ無イ創ンヤ今度臨々仕事ニ掛ラナケレハナラヌ場
合ヲアツテ見ル其不足ヲ感スルコト也

シテ事^{先ッ}當リ為案ノ費用ヲ補フ為ノ紙幣ヲ發行

シヤリトスル其テ紅糸アリ則テ(人參)是ハ亦予知

通り此收入ハ王室ノ歳入トナツラオツタノヲアリコス支

那~~ハ~~持テ行テ其金ヲ王室ノ費用ニ當テアツタノ

テ所^{以テ}テ今度之レ等モ^{以テ}郡^{以テ}村^{以テ}ノ官^{以テ}轄^{以テ}ミシテヤルト云フ

コトヲアルカウ此人參ヲ賣テ之ヲ使フ考テ見其レハ平

常ナル凡ソコ四百萬圓ノ金が出来ルコト也併レ

今其コト賣ル場所何ウデアルカト云フト支那デ也

支那ノ感情ハ朝鮮ニ對シテ今更ニ其レデアンカラ之
ガ情事スルカ責シヌカ心配デアリマス

英公使 緬常ヲ發行ス成程日本デモ亦發行シ

リ併シナガウ紙幣ト云フモノハ何時デモ正金ト引換

スルコトが出来ナケレハナラヌ國瓦^{ハナハナ}直ニ外國人

ニ對シテ銀或ハ金ト引換ナケレハナラヌ

今日他國ト^{アリ}紙幣ヲ^{ハナハナ}外國人が紙幣ト引

換ニ來リ得^{ハナハナ}紙幣ト云フコトハ出来ヌ此ヲ以テ來タ

幅ニ正金ヲ渡サナケレハナラヌ人矣^{ハナハナ}ヲ責ルトシテモ今

支那ト^{ハナハナ}戦ヲシテアル有様ニ此戦争が來年

二月満ち三月満ち五月にたれ時機かある今夜
リ、五月満ちる多きが其カラ先デナレ金に得え
ヌノデ也

此に於テ今紙幣ヲ拾萬圓差リ三千萬圓出シ
ト所寛ナサイ日本人差リ西洋人が取換ニ来ルト云
コトニ^ル銀行^ハも亦モカキ来テモ之が紙幣ヲ發
行スルト其銀行ニ向テ外國人ナド度々正金ノ引換
ヲ行リソレテ何度行テモ彼ノ銀行ニ引換ラズと大
丈夫にヤトモフコトニナツテ初メテ世ノ中ニ其紙幣^ハ通
用スルニナレドモ政府ノモリニシテモサレド引換ル元

スガ互しイト云フコトニナツテ然レ上ニ此朝鮮政府ノ收

入が倍り、一千万圓ノ歳入がアルトシテソコデ王室モ破

府ノ方モ無用ナ費用が大変掛ル丁度一例ヲ等ナケラ

見ル私ノ聞ク所デ王室ニ女が五百人モ告ル其カラ

又役所ナドト寸出ヲ見ラモ其ノ中モ其ノ役人カ澤

山岳ルサリモ其ノ中モ其ノ役人カ澤

其費用ハ一千万圓デモ其ノ中モ其ノ役人カ澤

其ノ中モ其ノ役人カ澤

其ノ中モ其ノ役人カ澤

其ノ中モ其ノ役人カ澤

又政府ハ九十九ノ一ノ役人カ澤

其ノ中モ其ノ役人カ澤

省ニ大座モ又無用ノモ、モ安来ルノテ見サリト宣使

小虎子之職責

執心不

ちフユトニシサケレハサウヌ

其

又一方集、イナリナモ、三

食ハセズ飲マセズ給ハス

しう置きとらうユトテい實に仕方無し此兵隊型を案

いふものゝ國家、爲に妙なりと爲すを、私が持

行テ見テモ何ノ爲ヤウ又無用ノ役人カ澤山アルヤ

うゝ思ふコレナモノヲ能ク調へテ何レ丈トテ減スルコトが出来

トコト見ナケルサウ・多所テ是丈ケニナル

是、費用の上、澤山少く、たゞ、紙幣ヲ發

行ふところナワラ其金ヲ他カニ借
来

所デ之ニ利子カ付ク之ヲ金貸リニ云々
（金貸リニ云々）

コトニナリテモ此ニ由リテ財政ノ新ニシテ拂
（新ニシテ拂）

テ行ハントスル其道ハカキス以上ハ私ガ幾ラ経験
（以上ハ私ガ幾ラ経験）

カアツテモ案ハミテ又

大藏大臣自元中
（元中）

銅錢ヲ用テモ以前ハナカツト則チ物品ヲ以テ金
（物品ヲ以テ金）

ト見倣シテ来リノガアツテ人民モ之ニ信用ス書
（人民モ之ニ信用ス書）

付テ以テ政府ノ用ニ使テ来リノガ銅錢ヲ使用シテ
（銅錢ヲ使用シテ）

コトハ昔ハ無シ八道ノ税納ト云フモノモ米絹木綿
（米絹木綿）

ヲ以テ收メシム雜穀ハ餘リ取ラヌ（江原道ノ或ル部
（江原道ノ或ル部）

ノナ

（江原道ノ或ル部）
（米絹木綿）
（銅錢ヲ使用シテ）
（人民モ之ニ信用ス書）
（物品ヲ以テ金）
（元中）
（新ニシテ拂）
（以上ハ私ガ幾ラ経験）
（金貸リニ云々）

お、於テハ取ツガ）夫ガ此錢ヲ用フルヲナシテも矢張り錢
ヲ持テ来リ地方ハ少ナイ地方ニ於テ物品ヲ賣テ金ヲ持
テ来ルハ不便ナルカラ是ヲ京城ニテ持テ来テ京城
ガ賣テ納メタマフソシテ納メカタニ成テオツタ（地方ハ
物品賣買ニ不便ナレバ現品ヲ持テ来テ上納セバ物品
ノ賣買ニ遺憾カチテ便宜多シト云フアリ）

其カラ一年ノ歳入ヲ段々調テ見リカ其ノ所話スル税額ノ
收入ヲ除キ地方官ノ経費ニ充テル月給ヲ除キ京城ニ遠入ルモ
ノ歳入有ルカト云フニ五百萬圓トナリ額ガ其内ニ外ニ
出テト来リシカハ（月奉金圓銀貨ノ割ニテ）其外ノ雜税ト云

ツモノガアリマス其雜稅ト云フモノハ是迄王族ナドノ私ニ使ヒテ居
ツモノデアル其ヲ除イテ本統ニ送入ルモノハ五百萬圓以内デアルノ
ヲアリマスソコニ此京城カ即所知ノ通り一年ノ間何ウシテ支
ヘルコトが出来ルカト云フニ五百萬圓ト云フハ日本ニ見レハ殆
リ皇室費ト同様ノモノト思ヒルカ其餘ハ國庫ニ王室
ノ方ニ送^送入テ居ル其中或ル部ニハ王妃ノ為ニ遣^遣ヒテアル
サウミテ譯デアンカラ京城ノ役人ニ極ク禄カサナイノデアリ
マスカ地方ニ行テ地方官トナウラ地方ニ於テ財ヲ擄ヘテ來ル
カラ今日迄何ウカコウカヤウテ事ヲノデアルガ併シ今ノ度
規模ヲ定メ役人ヲ定メテありコトニサツテハ到底今迄

爲スコト出来ス各塔カウ上かん金モアロウガ五石

萬圓デハ六ッケ敷トリ思フ

夫ハ松共カ朝鮮人トシテヤラナハナラヌコトハ先ツ朝鮮ノ

王室ノ規模ヲ定メ各衙門ノ威儀ヲ定メ成ル可ク節約

シテ成ルリ金ノ入ラヌヤリヤウテ行カウト思フ

差公使 其ノ所尤デアル又王室ノ規模ヲ定メルト云フコト

土地ノ主權者ニテオツテ税ト云フモノハ總テ國庫ニ

通入ルヤウナカハオナケレハナラヌソコデ王室ノ定額ト云フモ

ハ其ノ所説ニ其費用ハ五拾万圓ト云フコトヲ議シタヤ

ウノ間クモト大法院ハソシナ王室ノ尊嚴ヲ缺キヤリ

ルコト
一トスル
ハリカ
家々
定額
門院
新王
松共
元ル
和歌
松共
松共
松共

ナコトヲシラハナラヌ日本が三百萬圓が朝鮮之倍

シラ六百万ナケルナラヌ日本が朝鮮之倍

其様ナコトがアツタカヤ其先主座が何ヤラ政

府ナ付ナキ此国がナ付ナケルナラヌ主座が政府ヨリ

餘計取ルヤリナラヌ日本ノ歳入ノ昨年ガナ

萬^{ナラヌ}白皇主費其中心ナラヌ三百萬圓日本

維新以來ノ改革ハ白皇主費ナドハ非常減^{ナラヌ}

来^{ナラヌ}餘程以前ト破格ナドが来ナリ

ナラヌ餘程人カウシラ減^{ナラヌ}ナラヌナラヌ

考ナアルカ何ナラヌ

大ノ老
ナラヌ
ナラヌ
ナラヌ

此間ニ謁見スル時ニ此様ナ卓子ニ此様ナ卓被ヲ掛テア

ツノ之モ餘程ノ高イ金ヲ出シテ買タモノデアロウ我々カ五円

ヲ買フモノナリ拾五円ニ新拾円ニ高ト云フ買モノナリ

ナリ者ニ誥リ無用ナ役人カ多クアリト云フ然カウ般々

金ヲ吸取テ仕舞フヤウニ是等ヲ除コトカ出来ルヤ

否ヤ総理大臣外務大臣ナドモヤリ遂ルルト云フ仰

決心テアルヤ否ヤ

私ノ言フコトハ力盡小イサイ塵ノ様ナコトヲ云フ様ニ思

フカモ知ラズ所ノ經濟ト云フモノハ無用ナ金ヲ使ハヌ有

用ナ物ニ使フト云フコトナサケレバナラヌカ今日ノ有様ハ

松ノ言フ如ク想像デアンが其想像ノ外ニ出ラヌカハウト

思フが何ウデアリマス歟

大藏大臣魚元中 其實ニヤ尤ラアル 役令國家ニ

金が多クテモ制限ヲシテ 使フベキ所ニ使ハサシバナラヌデ

アリマス

井上公使 今松ノ言ワシ大君主王妃ニ使ヒル、モカ統テ

テウ云フ凡ミウテ行クカハカト思フが何ウガカ

大藏大臣魚元中 其ニ統リテ見貫ミナリマシテ

外シマセヌヤウデアル

其公使 其ニテモ 其日本ノ行キヨリ 其行テ来ル

證

大君主に於てモ亦ハ二度モ謁見ヲ爲シ現ハ有様ナ

見ル王至ニ兵ニ據ル此兵ヲ守護ノ役ナリ

事餘の役も之々又様デェ只タソミ遊民ヲ作ル

いふ有様アル是様不経済カモリゾアル此不経

濟有京。魚允中サン又院理大臣ナドカ哉干骨ヲ

折ラモトト
経済ト云フモノハ大藏大臣
一人デスルモノ

テ、各一王、大臣、外務大臣、総理大臣

て兵を使ひ、陸軍、大屋が、何処に、たゝま。二、刈が、

しりたうばいぢやない
俗モ人間、身体、素性、清くも

不任除奉行奉令社江原左衛門尉
主明洋國日本公使官

冬板
少交
種多
ノ年
シテ
御門出
エツル
ミノ者
鼎空
述成
別送歌
ト云々
云々
アラサ
ウシヨ
如ク
○

帝減食ハクニシ之ヲ
宣ノボスルヲ也ナリ○

ヤウキトミ行カ人々守戒ラシナサイ斯リトナケレナラヌト

ありき、~~あつた~~見ホシトシ方直ノ沙常、不自由^{ツミヤス}本

又各者^{各々}不自由^{ツミヤス}起ル地方^{地方}は^は来ルヤラ^{来ル}今交

リ前キ^前界政治^{界政治}上^上業^業ヲ^ヲ入^入ル^ル事^事あり^{あり}復^復シ

一^一角^角業^業ヲ^ヲサ^サリ^リ者^者、苦^苦キ^キ業^業ヲ^ヲ段^段々^々指^指サ^サ行^行ク^クナ^ナ病^病人^人

ガ^ガ難^難飲^飲ニ^ニト^トカ^カ出^出来^来ル^ル歟^歟否^否ヤ^ヤト^ト云^云フ^フ中^中々^々飲^飲ミ^ミ難^難カ^カ

横^横明^明治^治十^十七^七年^年、東^東ヲ^ヲ時^時ニ^ニ日^日長^長程^程道^道ニ^ニ言^言ハ^ハル^ル私^私モ^モ平

和^和ヲ^ヲ結^結フ^フト^トシ^シフ^フニ^ニ趣^趣ニ^ニモ^モア^アリ^リマ^マシ^シテ^テ所^所ガ^ガ今^今度^度ニ^ニ先^先ツ^ツ二

週^週間^間ニ^ニ居^居テ^テ事^事々^々物^物々^々眼^眼々^々見^見、耳^耳々^々聞^聞ク^クト^ト總^總テ

先^先ツ^ツ何^何ウ^ウシ^シテ^テ此^此國^國ガ^ガ自^自主^主獨^獨立^立ニ^ニ考^考ス^スコ^コト^トガ^ガ出^出来^来ル^ルカ

ト云フコトヲ 名はれ 見^ル 耳^に 聞^く コトト云フ 感^ぜ 今
日ノ場合中^に 行^き ヲウ^に 車^は 破^れ 中^に 苦^し
ソコ^に 袂^は 衣^は 菜^は 青^い 佳^い 味^は 思^つ テ 食^う 人^は 一^人 人^も
無^い 矣^に 智^恵 困^る 難^し 至^る 極^に ラアル^に 何^れ シタ^ラ バ 宜^し 哉^に
ウト云フコトヲ云ヒ出^る ハ 中^に 出^る 難^し イ

大藏大臣魚乞中

良薬苦口利於病諫言逆

耳利於行ト云フコトがゆゑリマス其^の 如何^も 苦^き ヲ 忍^べ デ 薬
ヲ 飲^み マ ナ テ レ ハ ナ ヲ ヌ ソコデ 先^達 ヲ 話^し テ 聴^く コトガ ア^リ マス 公^使
が 先^達 ヲ 国^王 ノ 前^に テ 申^話 ヲ ナ サ ツ ト 云^つ コトデア^ル が 私
ハ 是^を 甘^く ヲ ト ハ 苦^く ナリテ 甘^に ニ 薬^デ ア^つ ト 思^ふ フ

井上公使、其ハ色々傍カラ妨害有ニツイ、ケヌ人ト云フ
モノ他カラ妨害物ニ壓サレ、様ナコトガアツキイケヌ夫カ
又貴公方ニ随分不安ノ地位ニエテオルト思フト云フモノ
ハ前ニハ閼瓦ト云フモノガアツテ大變、王妃ト云フモノガ強カツタ
爲、王妃ノ力、依テ閼瓦ガ強カツタ今度ハ閼瓦ガ居ナラナ
テ其妨害物ヲ去リ知カホリ妨害物ヲ去スヤウニナツテ併
シナラフ陛下ハ不安ノ地ニエテヌヤウニシテ日本ハ亦頼
ナサイ何ノ様ナコトガアツテモ少助ケ申ス亦苦ヒ葉ヌン
ト云フヤウナコトヲ申シテ未ダ君權ト云フコト國權ト
云フコトニ就テモ説キ明カサセヤイカヌ私ノ意思ハ未ダ尽

シテスラレカツタ苦ヒサ業ヲ飲マニヤイカメト云フコトハ言リガ
成程王室ニ此ノ事ガ成ラ我侯ヲ言テモ日本ガ助ケテ
呉ニ此ノ事フコトニ聞ツカモ知レシ大略言リサモヒサ業ト
云フコトヲ忘レテ日本ガ助ケテ呉ニ井上カ助ケテ呉レルト云
フコトハ所思在スカモ知レシ

ソコデ又日本ハ所頼ナサイ所頼ナサツタナラバ安全ト云フ
コト則チ妙処デ勇氣有ルガ如ク思フヲノデアルノテ
モウ一つハ私ヲ時々召テ所尋ナサイ夫ハ私ハ公使ノ次男
格ナサイ顧問ト思ヒナサイ私ノ方カラモ有ルガ出ラヌ公
使ノ格ナナリ顧問官ト思テ出ルカラ有リ時ニハ云

フコトハ王妃ノ耳ニ入ルヤウニシテ下サイト云フテオイタ

大蔵大臣魚允中

公傳ノ所諾ニ依テ十分ニ知リヨシ

井上公使

尚且國王ニ話太長ナリテ其而侍臣ヲ来テモ

ウ日ガ暮ルニハ何故早ク行キヨウニ是迄各國使臣ガ来

ル時ニソレナコトニモイト云フ様ナリ

外務大臣金允植

其ハ國王ニ所付ノ人ガ来テ言リノラ

其レテ私ガ今日本ノ天皇陛下ハ日情ノ戦争ノ爲ニ

廣嶋ト云フ処ニ出張ニウテ將士ト勞苦ヲ供ミヤン

然ルレ今我國ノ爲ニナル話ヲ所聞ニナルデアルカラ候今之

夜ニ入ル其夜ヲ徹スルトモ厭フベキアラハ一國ノ君主

タルモノ有長た言ヲ聞ク何ノ不可ナラシト語りタレ彼
レ曉ツテ再々言ハス

井上ラ使 ソコデ猶ホニミ度出テ内治ヲシナラテイケヌノデ
日本デ云ハバハ學校ノ圖書ニ政治ヲ説テ國カセルヤ
ウミヤラナケハイカヌ只タ此間君主ノ權ト云フ事
付キ話カアツテ所ガ此君主ノ權ト云フモノハ制限ガア
ル其制限ノコトナドハ未タ話サヌカウ已ノ言フコトハ皆
何デモ主ノ惡聽カナキヤナラシト云フ様ニ所考ミナワテオ
ルカヌ知シヌサウシテ此時コウシテ(椅子ニ寄り凡ソホス何
カオツシヤツタハハア是ハ王妃ト云フ方ガ大君主ヲ使フ人

デアルナト云フ考ヲ起シテ直キ、模倣デ私ノ頭へ感えん（王
此カ障子ノ影ヨリ賜言ニえん地合テ指ス）

総理大臣金宏集 私ノ國モ元トハ斯クテハナカッタノヲ

ハ彼人ヲ出スニモ名有タカウ奏上ヲシテ君主ノ許ヲ

受リノゲ知テ國王カウ直接ト云フコトガアント耻カシク

思ヒヌス相違ナカウナケレバナラヌ政府カウ抗シ取ラレ

コト又ハ小シ大廟内ノ修繕ノ如キコトモハ無暗ニセヌ勝手ニ

スル云フヤウナコトハ決シテナカッタノデアル此三十四年前迄

ハソウ云フ凡デアッタノデアル

井上公使

今オワレヤン通り閣下大臣が責任ヲ帶

不韋魚國

に國家ヲ脊ニ負フテ過失アツテ國王ニ掛ケテ其換リ

國王モ信認シテ以上ニ無情トモ人トナケレバウメノ標

事トモ責任ハナク敷

総理大臣金宏集 是ニ甘ウテ儲テ其君主が大匠

標^キフト云フコト何ノ爲ニ標フノテアルナク云フニ則ケル

標フト云フコトハ信用シテ政務ヲ委スルカウノコトデアル

外務大臣金允植 王在上安臣在下^カト云フコトモア

ル

大蔵大臣金允中 何ウモ此頃ノ様ニハ方ナシ

外國交渉ノ事ハ外務カアツテ之ヲ司ル然ルニ其^ニミテラ

ナルは内ヨリ直接ノ往來ヲ為スコトアリ 毎々ニ移爲ク可キモノ
テ也

貴公使

貴公ノ意ハ如何ナルヤイハレタリト云フコトヲ貴公

方ノ人々ヨリ知ラセテ我々責任ハ如何ナルヤ云フコトヲ我々

種トナリテ常ニ苦クハソコニ私ニ今朝鮮ノ臣民ナラバ

仕方ガナイ儀ナリト云フコトヲ我々日本ノ臣民ニアラバ

本ノ天皇陛下ガ如何カシテ此朝鮮政府ノ内政ヲ政

策ニシテ獨ニ權ヲ定ムルヤウイフコトヲ我々

如何セシスルコトヲ朝鮮ノ頑固黨大院君王

妃李氏鎔其他イキナヒト云フコトヲ我々

在朝鮮國日本公使館

面モ来タガ其ノ程私ガ責任ヲ負フテ必デヤラナレハナラヌ
カリ云フニ其ノ私ノ職務ジヤナイ職務ナラ我國ノ利益
サイハ盡スルニ足ルノテ也

大藏大臣魚允中 貴國ノ厚誼ニ終ニ日清ノ交
戦トナリ大兵ヲ動カシ来テ今日ノ有様ニナリ則チ是
レ我國ノ存ノミ箇様チホニナツタノヲアムガ則チ又日本ノ
爲メ東洋ノ爲メヤラシメテ下ルカラ此レヲ貴公カ斷
念シテ下サツテハ折角ノ所辱ミ意ニナツタガ所ホ意テモナカレ
ウドウアワアモ日本ノ義侠ニ云フユルハ世界デモ知ラオルユト
デアンカラ此際先ガ眼ヲ離サズシテ封帛助セシメ

以上、富岡屋兵衛、三浦、計三、岡田、若木、素

兼子に依りてモイケナイト云フ時ニ租

税外、
追々、
増へ、
る、
事、
務、
に、
至、
る、
事、
義、

[illegible]

政略の變ル極ニ至リテ
同本利益ヲ失フ

突込 デ 術 ナ 僅 ナ ヲ ナ ト カ カ 来 テ 来 テ 平 カ 和 ガ 破 ル 平 カ 和

破ル兵ヲ出シテ素ルサウナト此間ニ獨リ日本が主ルカ否

十戰露西亞が取んカ英吉利カ来ルカ分ラヌノデんカ

多ふノ草園ハ
 昔年ノ掃上園列リ斗
 らケルヘカラス時中
 秋何年否也者不月達
 し如き後ハアナリ
 ルナリ

卅

ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ
ハナチ

日本ノ利益ノ擲ニモ是れ猶ホ之ヲ務メナケレバナラヌト云フ

コトハアリマセヌ

大蔵大臣魚元中 今私ニ充チソコノコトハ能ク分ツテ

アリヌ成程貴公が現ニ朝鮮ニ野心がナイト云フコトハオ

ウシヤル併シナカラ朝鮮ノ愚昧ナ人民が貴國ノ石ナ情

ヲ見ルコトハ出来ズホントニ野心ナキヤト云フコトヲ疑フテ

居ンモガアルヤウ云フコトハ有ントスルニ朝鮮ヲ助メ

カウシケレバナラヌト云フコトハナラナワキ来ン仕方がナラナ

来ニ是れ此ノ野心ト云フコトハナラテ来ル其レデアカラ

國ノ病氣ノ由来ヲ知りんツ善キ者病人ヲホメテ之レ

ト其ノ内各カヲ下サルコトヲ願フ

井上公使 処デ病氣ノ有様、私ノ話ヲ直リ大抵能リ

知^リタリニナツタロウ、其ノ般々苦ヒ茶ヲ飲マセナケレバナラヌ

が、看病人モ貴公方三人許リ、^{不_レ宜_レナリ}ヤイケヌガ、ソコニ此人が何

人^カ人^ガ居ルナリ、急^ニ斯^クウスルカウ、其茶ヲ斯^クウシテ飲

マシテ、又^レト云フコトニナレバ、私モ又考ル、処モ^レんケレモ、其

害ト云フヲ直シイカ、初聲ト云フヲ直シイカ、与座禮見^タヨ

ウナコト許^リ多^クシテ、事^ニ宜^シト上^ニ就^ス、私ガ斯^クウシテオ^ハ治

スルカラ来テ、又^レト云フハ、来テ、又^レト云フハ、一方ニ又妨害物

ガ^レ又サ^リヤ^リ思^フハ、前^ニ殺^シミ^テツカト思^フハ、其^ノ人^ノ地

方々、あつて行くといふつ（安國寺金嘉鎮ノ兩人カ地方官
ヲ希望シタル如キヲ云つ）私ハ是ジャアイソガ尽ル私ハ今日ハ
決シテ公使ト云フ格ヲ有フ話ヲせんノデハ無ヒノデアリ其テ
王妃モ此頃退ツテ話シタルトシテモ障子ノ内ニ居シテまんテ
人形使ヒノ様ナ小兒ノ遊戯ノ様ナユトラシラオンノデアル
是デハ私が踏込マウトシテモ踏込マレヤウカ其デジャ私が幾
う力ヲ尽シサウトシテモサウクハ尽クサレヌ其デ大概病状ヲ
見テ取タユトハ御話シタ大陰君王妃復タ経済上ニ於
テモ地方ニ於テモ斯云フ弊カアルト云フユトハ能ク身ヲユ
テアヒウト思フ

是迄公使モ来テ告ワリユト付元が其ノ只リ脚力ヲ来テ
オツノデアンカラヤ如迄踏込テ妻シイユトハ言フマリ寇
角之レ丈デノユトラ素シ人ガアツカ不ヤモ考テ貴
うハナレバナラヌ貴公方ト共ニ力ヲ尽ミテヤルコト人ガ
今幾人アルカ所謂同志者志想ヲ同ジリシヤ此間
ヲ鞏固ニセヤナラメト云フモハ何人アリマスカ
大藏大臣魚允中同志ト云フヤウナモノモ多サ
アリマスケレモ中ニ田舎ヲ行テオルモノモアリマス人々差
當リ誰々ト云フユトハ中サレヌ併シナカラ朝鮮ニ寄
戀在風俗ガアツテ士大夫ト云フモノガアツテニハ長リ

國家ノ人民ノ上ニアツテ國ノ爲ニ尽ササケルハオラヌト云フモ
ハ此士大夫ノ中ニ多リアリキアリヌ又此士大夫以下ニ
ツテ人ガ利口デアルガ國家ト云フコトニ就キ冷淡デア
ワテ動モスル私利ヲ計ルト云フ者ヲ持テオルモノカ多イ
故ニ亭口人物ハ此士大夫ト云フモノ中ニアルノデアルガ
併シ今此京城ニ在ルモノハ少サイノデ田舎ニ引込
タルモノカ多イ

井上公使 今田舎ニ引込テオんモノ一身分ヲ違ヒテ田舎
ニ在ル安心デアルト云フ者ヲ危難ト云フヤウナコトヲ
知シテアルノデアルコトデ一考ニ私カ他國ノ人デアツテ見レバ

此ハ働カネハナラヌト云フ考ハ片々出テ来ヌ譯デア
其レハ私ハ口元テ言フハ何ウモ聞取レデアヒウガ私が来ラ
現ニ杉村ナドモ困テアル何ヤナラハ朝ハ早ク起キ知ハ違リ
近調ハ是ハ斯ウシテオウザイイカヌ斯ウシヤケバナラヌト云
フコトヲ考メテアル隨カ私此處サレトシタラ物ヲ棄テ置シモ
ノデハナイ其レ位種々ナクヤラテアル所デ先刺来ノ
様ナ有様デアツテ朝鮮ノ臣民^{在テ}其等スラ嫌ヤニナラ
私ハ嫌ヤニナラハ當然スルソユデ私モ今晚ハ結句ヲ付
セバト云ハヌ私ハ貴公方ニ對シテ隨分中ニ失禮ナ
言葉ニアヒウカ今貴公方三人が主ニナラテ是レカ何

うもう行ひしと云う事、
王の御覧ナサイ事、因
り貴公方三人、話り知
る主意カ徹ラト云フコトナ
ラ大君主、王妃、大院君、
王の御覧ナサイ事、
先づ兎、角貴公方
が相談シテ其趣ヲ私ニ知
ラセナサイサウシテ又國
君が田舎
ニアルヤバ之ニモ知ラ
ズ直ヤウト云フ相談ヲ
付テ事ナシテ御覧ナサイ
私ニサウ朝鮮ノ國王ト恩
ヲ受リ澤山モナシ是レ
一ノ事ナシテモナシナ
ラメト云フ
程ノコトモ無イカウ

後理大臣金宏集、其テ私
ナドハ極ク単純ナ事ナ
ラ、
素直ニ云フ事、
殿々御覧ナシテ誠ニ
少カク第一好

害物ヲ排除セラルバ仕事ハオニアルオノ基礎ヲ作
ラシケルナラヌコトハ大ニホリマシタ病入ル人ハ此病ガ
何デアルト云フコトハ知シマシテ今即醫者サシニ就テ其
病ヲ治ス藥ヲ用リ所デ是ニ今日ハ危ク急存亡ノ秋
デアルカウ私等ツクエハ講究致シマス

井上公使 奥環南、アンモノカヒミイト一ツ出来リガ續

カマカウ何ニモナラヌ軍國機密所、アンナ仕方デ行リモ
ノデハナイ一ツモ是レガ基礎ヲ固ル手段デアハウト云フヤウ
ナラナイ其レ故也藥ヲオ上ケナサイト云フコトハ云ハヌ
病状ハ察シテ見ル、先刻カウ云フ通りテアンカウ貴公

方々所帰リニナワテ考ミテ此ニ区々ト虚禮ニ習ヒ区々
シ情實ニ依リヤウデハ大カシイ到底今ノ快デ仕事ヲ
スハス程悪シタルノデハ私ノ外ノ東京ノ方カウモ手ハモ
来マシテ顧問官ヤ何カコトハ何ウスル大變所前ガ出
テカウ日數ヲ掛テ東ニテ亮ノコトモ何ウナリテ政勢改
良ノコトハ何ウナルノカト云フニ外務大臣カウ言テ来テ私
モサレ感癢ニ障タカウ此ノ外ノ事情ハ今斯々ノモノ
デアル東ニテ亮ヲ討滅シヤトスハ斯セデハ内部ニテウ
ウフコトヲスル奴ガアル又朝鮮ノ兵ハ斯云フモノデアル是
レハヤウヤウテ緩慢ト云フナラ外務大臣何時デモ来テ

見んナ宜し私ヲ 天皇陛下が使しラルノヨカ見見リヤ
ウミ取扱ハタカ宜シト云ツテ置タヤウナ譯ナアル

総理大臣金谷集 原カ能リ定ツテ是ナラ仕事ヤ出
来ルニ云フコトミシテ懸ウサケレハ不成就ノ思フ

井上公使 基礎カミシテ之デ仕事カ出来ルト云フコトミ
ツテ先ツ私が外務ニコンナ人 内務ニコンナ人 大蔵ニハ

コンナ人 陸軍ニハコンナ人ト云テ其人ヲ出シテ之ニヤラセ
ルサアヤラセルト大院君が何ウダ倭寇ナルモノが来テ

畢ニ政府ヲ取リ云フ、違ヒナイ其顧問官ハ金モ
拂ハサケレハナラヌノデハ 諸リ無益ナ仕事ヲ云ト云フ

様サユト、たかう今、私少し見合セテ居ルノデアル貴國
ノコトヲ眞實ニ思ハナキハ貴公方ノ嫌ナコトヲ言フデ
モナイカ、私ハ眞實此國ノ爲ヲ思ワテ言フノデアル

大藏大臣魚元中 其ハ今言葉迄モナク誠ニ一心

切有難ク存シマス是カウ大業ヲ成就スハ其一心切ニ

ルノニアリマス

井上公使 出来ハト云ツテモ出来ル迄ハ六ツ敷ノデアル

出来ハ後トハ何デモナイヤリナモノデアル

大藏大臣魚元中 其ハガカウシテ今テ有難イト云フコ

トウ所禮ヲスルヨリモ何ウゾ妙事ハ一ツ成テ所禮

ヲ爲友ヒト思フ

井上公使 一ツ言ヲテ置リテ 野心モ起ラサルヲ得ト

云フコトヲ言ヒタガ先ツ貴方方ニモ此ノ見ガん家が

ア見ガ重イカ家がニ重イカト云フニ家がニ重イニ違ヒナ

見ガ子同ヲサセ教育ヲシテニ派ナモノニシタイト思フ

モ學問甚シニ嫌ヒ夜ニ夜徹シテ道樂シル所親ノ

言フコトモ聽カヌ種々難多ノ放蕩無賴惡事

仕オリタイ哉云言テモ聽カヌト云フ時ニナララ家ヲ倒

スガ見ヲ棄ルカ見ヲ棄ルト云フコトニ互シクナイトモ家

ト比テ見ナセリナラニ他カウ表々子ヲシテモ此家ヲ起

サシケルコトヲユトニナル 諸リ野心ハ云フモノデハナイノデ其レト
同じコトデ 度々隣邦カクハ兵ヲ擣テ来テ乱ヲ起サレ
葛藤ヲ起サレ迷惑ヲ掛ケラル、ハ兵力ヲ以テ山東洋
ノ安全ヲ計ラレケハナラヌンデアカラ 恰度明治九年
かう以テ後ト云フモノハかうヌ人ハ仕方ハナイが貴公方ハ
能リカラオルカラ 眞ハイカガ 天皇陛下ハ決シテ野
心ヲ以テト云フコトハナイノデア

大藏大臣魚尾中 所請ガナリチモ寛テオリヌ候
レケオテ 依テ一服苦ヒ藥ヲ飲マシメ又苦ヒ藥
ヲ外ニモ少用ヒササルコトヲ希望致シヌ 追々飲マシメ

戴カサケルナラヌ 其テモリ朝鮮カ斯ラテ結果ニ至ルコ
トハ政府ニ在リ 權利ヤク人民ニ權利ヲ無リ只權利アルハ
君主一人デハ其レ故何ウシテモコウニ凡ニナラテ来ルノテ
アル

井上公使 大隈君ニ云ニ頑固ナ所老翁サレデハト云

フコトハ皆筆記シテオルカラ内々金考集サシニ上ケマスカラ
併シテ所ノ文、直ニト申々手廻カ掛ルカラ日本法ヲ
結ル人、就テ讀セ同リナリ又コケラカラ通弁ヲ上テ
天眞シイ一々明瞭ニナルコトモ御座リマセウ (大隈君ト談
話筆記ヲ云)

經理本堂
主客集

やまう其道、所託ヲ能ク分リマ

3

井上公使、カ所相談、就^ク私^ガ所相談、ニ與^ルカ^ニ

う度及大臣、方^ニ年^一歳入^ニ也常^ナて宮係^ニ也措

又財邸上ノコト、就ラニ事ヲ成ル

[illegible]

總理大臣宏集 和ノ方カヲ却テ内頼ニナシ

ラヌコトヲ見：貴公方カラ恐入ル

井上公使
貴公方、御決心ヲ能ク聴ク見ヲ有テラス

ル心カ尺以上ニ茲デ貴公オノナサルコトガ鏡ニ照スヤウ

映スルノチニ

總理大臣金宏集

道が崩レサイスル漸次此事モ

此ハベト存スナリ

（貴尚道ノ東字虎モ我洲遣兵

者ノ鎭定アリト）

東字ヲモス付）

夫力ヲ先刻ノ電

報ニ應ジテ

東字虎モ大分付が就キ大ニ安心致シマス

井上公使

私貴公方ノ決心次第ニ依テヤリトスナラシ

時、午後十時、早分、散會ス

十月三十日經理使安駒壽來館次テ漢城府ヨリ尹權
在衡モ來リカリ同席ニ上公使ト對話筆記

安曰 閣下ハ是近我國ニ事ニ必ス調理任應リ
而カモ議リ其難局ヲ纏メ好和ヲ維持セシムル希ム、這面モ
同様閣下ノ力ニ據テ内政改良ノ實果ヲ収メテ存スルヤリ
公使曰 去シテ貴國內政改良事モ實際ハ頗ルハ
急ナリト雖モ幾而年困襲ス久キ終ニ今日ノ難病ヲ致シ
タシトナシバ一報一夕ニシテ此重病ヲ治シ病根ヲ掃除セトスルハ
固ヨリ困難ナレバ先ツ漸次改良ニ從事セザル可ラス

信ス目下ノ問題中第一必要ナル諸衙門職務權限ヲ
明ニスル是ナリ苟モ貴政府部内ノ官吏ハ誰彼差
別ナシ他權限ニ侵入シ勝手自儘ニ他職ニ卷味シ所謂
權門家ナシカガ強ント威權君主ヲ壓倒スル如キ事動シ
為シ生殺其奪ヲ專スル如キ事アリテハ到底世安寧
ヲ保全シ秩序ヲ維持ス能ハス故ニ各衙門ノ如キモ其職
務權限ヲ明シシ其組織ヲ一定セザルハ以上ハ從今亦カ
程顧問官ヲ聘用スルモ何ノ効用アリザルヤ又顧問官
如キモ凡ソ人ハ限アル權能ヲ有スモノナラバ其能ニシテ所
謂百事多能ナル人物ノ有ベキモノニアラザル孰シモ其

長技。應^シ其職務ヲ以テ各其才能ヲ以テ働^ク。爲^スサレテ
其力ヲ盡^ス。然ラザレバ其張從前肩外國人カ貴國ノ
何用モ爲^スサレリト一般ナラシ。將又財政ノ如キモ免^ス之ナ
管理^シ其濫用ヲ豫防セザレバ其濫用ニ基^キ。亦即
夫一年度ノ歲入ヲ計^リ。因^リ以テ國家歲出ノ割合ヲ
適^シキナラシメザレバカス。然ラズシテ各衙門ハ是^レ如^ク要
用ノ都度言^ハハルカテ取^リ同様ノ傾^キアリ。ハ何程國庫カ
潤^ハ澤^シトモモ到底満足^シ結果ヲ得^ラズヤ。或モ其
ノ中^ニ財政極^メテ窮^ニ地^ニ。國柄^ニ於^テハ一層嚴格^ニ制限^ス
設^ケザレバカス。凡^ソノ國家ノ費用何程内務司亦^ハ何程ノ人々

孰ハ何程ト云々如キ其國庫ノ經濟ニ參照シ初歩ノ際中ニ
要アリ就中軍務ノ要現今朝鮮ノ獨立凡ソ程ノ常備兵ヲ
要スベキモ國庫ハ其費用ヲ支出スル能ハガトモ先ニ財力
満當ニ軍備ヲ設ケ次チ之ヲ擴張スル云フ如キ方法據
ラザレバ云々果シテ然ルニ國家經濟モ亦何日モ鞏固ナラヤ初
稅ノ國家經濟ノ基本トシテ尤モ正當ニ徵收セラルコト公平ナル
カヲ以テ相シテ貴國如キ頃ハ甚シキ弊害アリハ聞ク八道等
官最初何程ノ資金ヲ獻納シテ而シテ其官職ヲ買得ルニ任
臨ムヤ主トシテ資金ノ取還シニ忙シキ方故ニ正稅外不正稅
悉ク數ハルガ或ハ又横徵ノ稅門ヲ作ル但シハ無事ニ良民ノ故キニ

罪科、處、財、徵、ス、カ、如、キ、者、其、利、欲、ヲ、逞、シ、ト、歟、シ、種、々、有、段、
々、幾、シ、地、方、民、生、ヲ、多、ク、委、靡、セ、シ、ト、至、リ、ト、云、ハ、地、方、民、生、其、
富、ニ、不、幸、ナ、リ、ト、云、ハ、事、實、ニ、安、ス、ニ、果、ス、カ、如、此、シ、テ、止、マ、ス、ハ、國、家、
富、強、ナ、リ、ト、國、力、ヲ、増、進、セ、シ、ト、ス、ニ、モ、能、ハ、サ、ナ、リ、國、家、經、濟、
狀、々、尚、ホ、不、幸、ニ、復、令、ハ、迄、來、ハ、道、有、米、一、脱、弱、ニ、朝、
鮮、航、運、途、サ、シ、ス、ノ、其、京、城、ニ、達、ス、ニ、多、ク、日、子、ヲ、費、シ、且、又、
途、中、艱、カ、サ、シ、損、耗、ヲ、來、ス、モ、之、ヲ、蒸、汽、船、ニ、代、ス、ハ、第、此、
日、子、損、耗、ヲ、減、シ、幾、何、ノ、利、益、ア、ル、ベ、シ、又、又、鐵、道、ヲ、架、設、シ、
ニ、甲、乙、兩、地、物、貨、ヲ、運、送、ス、ニ、ハ、牛、馬、ニ、便、ニ、賴、リ、ト、ス、ハ、幾、
何、差、アリ、之、ヲ、計、算、ス、ニ、ハ、鐵、道、ヲ、架、ス、ニ、一、時、巨、額、費、用、

ヲ要スルモ何年後ハ此ヲ善ク消還シ得ルコト直接明後
ニ何程利益アリヤト云フ如キ一々之ガ是利ヲ收得ハキ目的ヲ
是ノ置カザベカラス若シ然ラズ此ノ噸船アル利益之伴ニ送
車ヤ此ノ便利生スベシト云フ如キ漠然タラズ是亦國
家經濟ヲ理スル秩序ニテラナリ

以上國家財政ニ關シテ言セシモノハ之ヲ進ニテ今日貴
國ノ如何ニ境遇ニ臨ムカヲ詳述セシム貴國於此ニ尤モ弊
害ノ大ナル即チ國政カ多岐ヲ出スルハ凡ソ一國ノ政治ハ一途
ニ出リニテラズバ人ノ疑惑間ニ初得シ人心ハ一ニ能ハカシテ
之貴耳何レヲ認シテ眞像ト見做シ何レヲ假像ト認ムベキ

ヤヲ知ラズ種々、鑿鑿と多ク之ヲノ、釀成セラルベシ之ヲ要ス
大君主陛下國政大綱ヲ執リ主權ハ政府大君主陛下
信任ノ固シク組織セラル其責任ヲ負フ萬機ヲ運轉セザ
バウタレ政府ノ事ハ規矩ヲ正シ準繩ヲ依ルニアラザル其
之ヲ國政ノ全キモノト云フベシヤ今日貴國內部ノ形勢
見ルニ開化黨一名日華愛トモ云フベキハ、絕對的守四
主義ヲ排撃シ守四愛ハ亦絕對的、開明主義ニ反
對スルモノ如キ故アリ而シテ永炭相卷シテ常ニ内訌
和衷則チ美ヲ欠ケリ予ハ此兩派中孰シモ偏頗セズ
形ハ開化主義ト雖ヒ事情適宜ガモノト云フ押ハ

然るべからず。旧主義時勢。今なきものなり。排外
得て申す。彼貴族。是近世祿を言ふものなり。一朝
内政改革。違ふが。官職を削り。俸祿を放し。忽ち
飢餓に迫る。之を如きは。賤賤をせん。から。我國王政維新
より。各藩封を奉還せし。際。如き。一面。祿券
証。公債証書。者。何。金。利息。付。した。消還法
ヲ設け。あり。貴族。如き。一。意。開化。の。機。深。善。後。策。講。や
る。旧式。古格。何。事。も。破。毀。す。べし。と。か。如き。甚。か。此
激。失。ふ。怨。ち。能。は。ず。

現今。朝鮮。ハ。恆。モ。病。ノ。ナリ。否。定。し。て。大。病。ニ。演。じ。て。

ナリ是ヲ治療スル醫アリト假定ス其病者ヲ診ス
 其病状ヲ察セタリトシテ之ニ服藥ヲスル其不可ナ
 ル何ト云ハ此病源ハ急病ニテ然レリ否幾多積弊ハ
 歲ヲ積ミ月ヲ重ムル從ツラ漸次ニ重患ニ陥リテモ之
 ニ適当ニ良藥ヲ与ヘントス宜シク由來ノ病源ヲ明シ目下
 病因何處ニ在リ重キヤ輕キヤ鑒定シ而シテ病状ハ胃部
 ハ心臟ハ肝臟カ將又臆病カラ知得タル後徐ニ之ヲ
 藥餌ヲ撰ミサヘカラス其衰弱甚シキ過激藥ヲ用シ
 セバ藥力堪ヘズ整ル患アリキ先リ血液ヲ補
 ヒ良キ血液ヲ補還血キ得ル漸次病状ニ適当

此藥之投法如何

予正西公使無病之時
醫師タリヨリ身に實快ナリ
不我皇帝陛下藥キ聖意奉
體シテ此藥以上良劑ニ用テ
健康俾ニ復シノサニ得サナリ
然レバ如何セ予カ尺方
折旋スニ到底効果ヲ收メ
能ハストセカ由テ醫者
治療ヲ清ヒナリ其字ルベキ
堪生ヲおサケ其服ス
キ藥ヲ用テ出テ不損生
シナカ
或ハ外面藥ヲ飲シガ如ク
年動シ粧ヒ實際然ルカ
マデレキハ其種醫者
此ヲ投テ斷念セサ
ラ得サニ機會
ヲ及ブ然トキハ
甚早ニ此ヲ朝鮮
將來何等傳布

事快然来ハキヤ豫ノ案スヤリ

安曰 如何 貴意如何 唯多悲ハ病者カ良醫出

逢ニ死生ハ大ニ堪ヘ重キ病体ニハ堪ヘ其

忠先ニ哀シテ其ニ不堪生ハ自カニ死ニ疎ナリ

如時ニ大段及ニ因執ニ排ニ悲境ニ而ハリナキ

ラ廣ニ堪ヘナリ

公使曰 日車カ如何 貴國ノ片カニ如何ニ思

ハルニ思フニ貴國ノ能ク自ラ傷ケ内破ラントモ其

事ナリ我ノ年ノ難ニ困カニ本ニ貴國ノ此處ニ其

ザレバカスナリ如キ者ハ有クナリ去レバ其形勢

他國の事不得止る事起るを得る憾余は作
 出せる係せり率々亦其利益を保護する手段に出
 ずるは是れ主として其義を以て果す然る
 貴國の有様は此哀類の供に之を経由し竟に達す
 べし則ち之を報し視端に化すべし

昨日大隈君來訪。此種之談話。誠多同見
思想。余程古中昔時之寫。今時勢適多其
變。今之距二千年乃達三千年前。於漢高

帝學平心也先以約法三章云々句々引據來々
我輩之志也竟一時之有用也ト云々如キ精神
未だ多ク分如し予等政事ハ如何に理極まり
其等事ハ予等并ハ成スナリ然レバ如何に如此壯
大決ハ吐キ予等新政府ニ置カレ其遇亦ハ可
美アリ建テ同君ハ充分迷タラズ建テト務
メシモ同君ハ其方決案爲メ及テハ其精神由
健ヲ顯ヘ可成議論ト避ケト務メシカバ予等
強ク之ヲおサズ且々他日ヲ待テ大ニ發破スコト致
シ置キテ大ニ發決中人今後同君姑ク各別一大臣

上同族上中一系意見述へし事用其
尤不平色アリ我同族之長ハ事ハ席ヲ同不能
ト抗拒アリ予ハ之ニ向テ此國家多事際本國
治ト稱シ大臣ト同席ヲおサト不都合ナリト排斥
統帥余職同見ニ去リ同席スベシト云フト成リ
自今予ハ同君ト處ニ面會ニ其意解キ之ヲ明テ
朕ハ自任奉親ナリ特試シ貴族ナリ不坐ハ
同君位ナリ如キ改良ノ事奉ラザルハ
又公使ハ安向ニ貴族ハ今經理殿大將
閣下ヨリ若シテ得職陽區域其確決スル

安曰 何等一定也 夫京師以八司管之 六人
將之 必有一統率 乃能軍 縣衙門 廣
之 乃能各處分司 總之 巡 職務 權限
定之 乃能此外各道中 重之 首府之 兵 實 護
之 是亦地方官之 專屬 且其 組織 等 錯 雜 之 等
規 定 正 丁 十

公使曰 是何事 乃 具 函 告 之 俟 郵 寄
之 然 之 乃 統 轄 之 明 且 君 主 之 權 限 也 乃 統 轄
之 乃 將 之 故 任 之 地方 官 之 任 之 乃 統 轄 之 乃 統 轄
之 乃 統 轄 之 乃 統 轄 之 乃 統 轄 之 乃 統 轄 之 乃 統 轄 之

又貴國兵備、二反を以て、今年無事長所
ヲ開亂の月、おきにも外寇、姑、指キ現、内都
飛、東、無、受、之、能、鎮、定、之、ヲ、得、サ、ハ、ア、ラ、ス、ヤ
之、終、之、貴、國、事、志、即、チ、サ、タ、シ、今、之、ヲ、醫、正、セ、ト、夫、一
ト、通、骨、折、リ、ニ、テ、之、和、表、同、終、如、赤、城、ヲ、注、キ、斯
次、之、方、歩、道、は、ニ、如、ク、以、何、ニ、テ、一、朝、ニ、テ、病、根
ヲ、除、却、シ、全、然、之、健、康、俾、シ、其、ム、ヘ、キ、ヲ、ア、ラ、ス、ヤ、
安、權、二、氏、月、鑑
九、一、法、法、ニ、テ、リ